

令和3年度

〔2021〕

履修の手引



滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

本手引の内容はWebポータル にも掲載されています

大学ホームページからも閲覧可能です。

(トップページから「教育プログラム」へ進んで
ください。)

各科目の講義概要(シラバス)については、
県大ポータルUSPo。(以下「USPo」
という。)で確認してください。

USPo <https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb>

この冊子は 2021 (令和3) 年度入学生用
です。2020 (令和2) 年度以前入学生は「自
分の入学した年度の履修要件(卒業要件を
含む)」を確認してください。

また、この冊子に記載された授業担当者
(索引) は、2021 (令和3) 年度の担当者
です。

目 次

第1章 総則	
1	授業科目の区分……………1
2	単位制度……………1
3	学期および授業……………2
4	履修の登録……………4
5	試験……………7
6	成績評価および単位の認定……………8
7	卒業要件……………11
8	副専攻科目について……………11
9	他学部・他学科科目の履修……………11
10	他大学の科目の履修（単位互換制度）……………11
11	編入学生の履修……………12
12	その他……………12
第2章 学部等別履修の手引	
1	全学共通科目履修の手引……………13
	I 全学共通基礎科目……………18
	II 人間学……………22
	III 地域教育プログラムー地域基礎科目……………25
	IV キャリア教育・ボランティア関連科目……………30
	V 資格関連科目……………33
	VI 日本語・文化関連科目……………34
2	近江楽土（地域学）副専攻履修の手引……………35
3	環境科学部科目履修の手引……………38
4	工学部科目履修の手引……………71
5	人間文化学部科目履修の手引……………100
6	人間看護学部科目履修の手引……………144
第3章 資格取得の手引	
1	本学における免許・資格等の取得について……………157
2	各学部・学科における教育職員免許の取得について……………158
	人間看護学部における教育職員免許の取得について……………183
	生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について……………186
3	「学芸員」の資格取得について……………188
4	「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について……………190
5	「看護師国家試験受験資格」について……………193
6	「保健師国家試験受験資格」について……………194
7	「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について……………195
8	「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について……………197
9	「インテリアプランナー登録資格」について……………198
10	「社会調査士資格」について……………199
11	「GIS 学術士」について……………199
12	「自然再生士補資格」について……………200
13	「地域調査士資格」について……………202
14	「社会福祉主事任用資格」について……………203
15	「毒物劇物取扱責任者資格」について……………203
16	「甲種危険物取扱者試験受験資格」について……………204
17	「電気通信主任技術者資格」について……………205
18	「電気主任技術者資格」について……………206
19	「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について……………207
20	「施工管理技士受験資格」について……………208
2021（令和3）年度開講科目索引	
	講義科目索引……………209

滋賀県立大学 学位授与方針（ディプロマポリシー）

滋賀県立大学では、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を以下のとおり定めます。これらの能力を獲得するとともに、各学部にて所定の年限在学し、全学ならびに各学部・学科の定める教育理念・教育目的に沿って設定された教育プログラムや授業科目を履修して、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与し、卒業を認定します。

学位：学士

- A. 「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等の「全学共通科目」の履修を通じて、基礎的な知識・技術を養うとともに、社会環境の変化に柔軟に対応できる豊かな人間性と、課題を発見、分析、解決する能力に加え、自ら探求する態度と姿勢を身につける。
- B. 各学部・学科の特性に応じて編成された体系的な教育を通じて、専門的な知識・技術を養うとともに、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身につける。

滋賀県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

滋賀県立大学は、「知と実践力をそなえた人が育つ大学」として、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成するため、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A. 全学共通科目

広い視野と実践力を養い、大学の目的である高度化・総合化および柔軟性・多様性を実現するため、「全学共通科目」として、外国語（英語、第二外国語）、健康・体力科学、情報処理の3科目群からなる「全学共通基礎科目」、「人間学」、「地域基礎科目」等を設置します。

「人間学」では、主体的に学び、考える学生を育てることを意図して、「人間」という存在について具体的、現実的な問題を通して考え、人間と社会を深く見つめながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を身につけることを目指します。

B. 専門教育科目

専門的な知識や技能を高めるとともに、主体性、創造力および課題発見・解決能力等の育成を目指し、各学部・学科に専門教育科目を設置します。

各学部・学科の専門科目の編成に関しては、専門基礎科目（学部共通科目）、複数学科共通科目、学科専門科目といった構成およびその配当年次によって、基礎的科目から発展（応用）的科目への学習の流れに沿って展開します。

C. 副専攻

主専攻の学びを更に社会で活用できる能力を養うため、学部学科を横断した教育プログラムとして、近江楽土（地域学）副専攻を設置します。

副専攻では、「地域に根ざし、地域に学び、地域を学ぶ大学」として、地域・地元志向の授業科目を配置し、コミュニケーション力・構想力・実践力の3つの要素からなる変革力を養成します。

第1章 総則

第1章は、「履修の手引」総則編です。

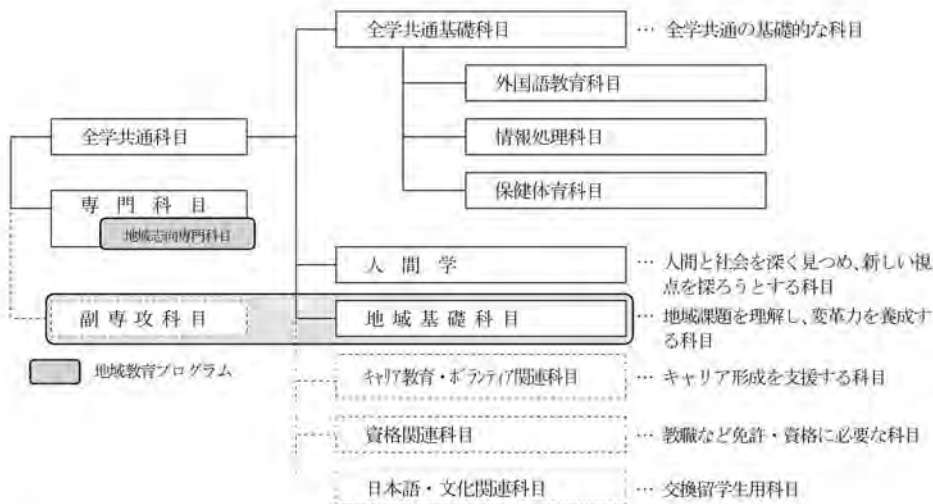
全学にわたる共通事項を中心に記載しました。

重要事項が多いので、熟読の上、誤りのないように気をつけてください。

1 授業科目の区分

本学の教育課程は、**全学共通科目**と**専門科目**に区分されています。全学共通科目は、**全学共通基礎科目**と**人間学**、**地域基礎科目**、**キャリア教育・ボランティア関連科目**、**資格関連科目**、**日本語・文化関連科目**から編成されています。なお、各学科の卒業要件は、全学部共通である全学共通基礎科目・人間学・地域基礎科目と各学科で定める専門科目で構成されています（詳細は、各学科の卒業要件を参照してください）。

また、全学部生が履修できる副専攻として、近江楽土（地域学）副専攻を設けています。地域基礎科目（全学共通科目）、地域志向専門科目（専門科目）等と合わせて地域教育プログラムを構成します。



2 単位制度

各授業科目の単位数は 45 時間の学修を必要とする内容をもって 1 単位とすることを標準としています。本学では、授業の形態による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により授業科目ごとに単位数を定めています。

- (1) 講義科目の場合
15 時間の授業をもって 1 単位とします。
(1 時限を 2 時間相当としているため、15 回の授業をもって 2 単位となる)
- (2) 演習科目の場合
30 時間の授業をもって 1 単位とします。
- (3) 実験、実習および実技科目の場合
45 時間の授業をもって 1 単位とします。

ただし、授業科目によっては、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の講義や演習の授業をもって、1 単位としている場合があります。

また、環境科学部の「環境フィールドワーク」のように、1 科目が講義、演習および実習からなっていて 20 時間の授業をもって 1 単位としている場合があります。

上述の単位制度は文部科学省令の大学設置基準に基づいています。上述の規定により、2 単位の講義科目では 90 時間（45 時間/単位×2 単位）の学修を標準とします。

講義時間は30時間（15時間/単位×2単位）ですので、残り60時間分の予習・復習を行うことが前提となります。

また、各授業科目の単位の取扱いについては、各学科で定めるカリキュラムに基づき、次のように卒業要件に算入されます。

- ◆ 必修科目：当該学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目
- ◆ 選択科目：自らの履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に参入する科目（選択必修科目を含む）
- ◆ 自由科目：自らの履修目的に応じて自由に履修できるが、卒業要件に算入しない科目

3 学期および授業

(1) 学期

本学は、1学年を前期と後期に分ける**前期・後期制**を採用しています。授業は、開講学期によって次のように区分されます。

- ◆ **前期科目**：前期のみで授業を完結する科目
- ◆ **後期科目**：後期のみで授業を完結する科目
- ◆ **通年科目**：前期と後期を通じて授業を行う科目

また、実施方法によって、次のように区分されます。

- ◆ **通常授業**：原則として毎週行われる授業
- ◆ **集中授業**：一定時期に集中的に連続して行われる授業（主に夏季・冬季休業期間中に行われる）
- ◆ **隔週授業**：隔週で行われる授業
- ◆ **クォーター型授業**：開講学期の前半または後半で行われる授業
- ◆ **変則授業**：規則性のある曜日時限ではなく、特定の日で行われる授業

(2) 授業時間

本学の授業時間帯は次のとおりです。ただし、実験、実習などでは次の時間帯とは異なる場合があります。

1 限	9時00分～10時30分
2 限	10時40分～12時10分
休 憩	
3 限	13時10分～14時40分
4 限	14時50分～16時20分
5 限	16時30分～18時00分

(3) 休講

休講の場合は、USPOで知らせますので、USPOの「休講情報」に注意してください。

(4) 補講

休講等の事情で予定どおり授業が行われなかった場合は、原則として「補講」を行います。補講の時期、場所、方法などはUSPOにより連絡しますので注意してください。

(5) 授業の欠席

病気その他やむを得ない理由により、引き続き7日以上2か月以内（7日未満の特例あり）、授業に出席することができない場合は、あらかじめ教務課に所定の欠席届を提出してください。やむを得ない事情により事前に欠席届が提出できない場合は、欠席事由が解消した後1週間以内に教務課に欠席届を提出してください。教務課では、提出された欠席届の内容を確認後、届の写しを交付しますので、それを持参の上、届出者本人が直接、当該科目の授業担当教員に対し、事情を説明してください。欠席届を受理した科目は、欠席として取り

扱いません。

ただし、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

また、緊急の事情により事前に届け出られない場合は、事前に電話等により事情を教務課に連絡してください。

※ 集中講義については、日程の確定時期が履修登録期間後になった場合、あるいは日程変更により総授業時間の1/3以上出席できなくなった場合に限り履修取消を認めますので、当該講義開始前に教務課で手続きをしてください。

欠席を届け出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の運休	事故証明書、運休・延着証明書
3親等以内の葬儀	死亡に関する公的証明書（会葬礼状等）
正課実習	実習証明書（指定様式）
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

7日未満の特例：以下の欠席理由については、7日未満であっても、欠席届を受理します。

- ① 「病気・けが」のうちインフルエンザ等の感染症（学校保健安全法施行規則第18条に記載された感染症）にかかり欠席する場合、同法19条に記載された出席停止期間の欠席を認める。

主な感染症	出席停止期間
新型インフルエンザ	治癒するまで
インフルエンザ	発症した後（発症の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ解熱した後2日
百日咳	特有の咳が消失するまでまたは5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
麻疹（はしか）	解熱後3日
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発生した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風しん	発しんが消失するまで
水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退後2日

新型コロナウイルス感染症の対応等については、県大ポータルU S P O に掲載します。

- ② 「交通機関の運休」で欠席する場合

- ③ 「3親等以内の葬儀」で欠席する場合（忌引き）

謂儀の日を含む下表の日数（土曜・日曜・祝日を含む連続した日数）を限度とする

死亡した者	欠席できる日数	
配偶者	10日	
	血族	姻族
父母	7日	3日
子	5日	1日
祖父母	3日	1日
兄弟姉妹	3日	1日
おじ・おば・曾祖父母等	1日	1日

① 次の「**その他大学が認める理由**」で欠席する場合

- ・ 課外活動において全国大会またはそれと同等以上の大会に出場する場合
- ・ 湖風祭の前日準備に参加する場合（前日準備が全学休講でない場合に限る）
- ・ 就職活動（最終選考相当）

※ 欠席した場合の授業科目の成績評価に関する取扱いは、担当教員の判断になりますが、教務課で欠席届を受理したものについては、成績評価で不利にならないよう取扱います。

(6) 気象警報の発表・公共交通機関の不通等と授業についての措置

暴風警報等が発表された場合または公共交通機関が全面運行停止（※）となった場合、授業については以下の措置をとります。

気象・交通状況	授業についての措置
彦根市域または彦根市域を含む地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報が発表されたとき	① 警報発表中は休講（授業中に警報発表の場合、その次の授業から休講） ② 午前 6 時 30 分現在、警報発表中の場合、午前中は休講 ③ 午前 10 時までに警報解除の場合、午後から授業を行う ④ 午前 10 時現在、警報発表中の場合、午後も休講
公共交通機関が全面運行停止となったとき（ストライキ、災害、台風等）	① 午前 6 時 30 分現在、運行停止の場合、午前中は休講 ② 午前 10 時までに運転再開の場合、午後から授業を行う ③ 午前 10 時現在、運行停止の場合、午後も休講
その他	不測の事態の発生を起因として、学長が授業を行うことが困難と認める場合、必要な範囲で休講等の措置を行うことがあります。

- ※ 「公共交通機関が全面運行停止」とは、原則として、JR西日本琵琶湖線（京都―米原間）の全線または一部線区が全便不通（一時的な運転見合わせは除く）の場合をさします。
- 休講情報については随時更新されますので、USPOで確認してください。
 - 学外実習に関しては、当該学部で別途定めます。

4 履修の登録

授業を履修するためには、履修登録をする必要があります。これを怠ったり、誤ったりすると単位が認定されないこととなります。また、CAP制（（3）を参照）とGPA制度（「成績評価および単位の認定」参照）とも密接に関係していますので、次の点に注意して慎重に行ってください。

(1) Web履修登録・確認

学年当初に「履修登録にあたって」と時間割をUSPOで通知します。前期初めに設定される履修登録期間中にUSPOで1年間分の履修登録をおこなってください。登録内容を確認するため履修登録確認期間を設けていますので、登録内容に間違いがないか必ず確認してください。各期の履修登録確認・追加・変更・取消期間後の履修登録・変更はできません。



(2) クラス制

第一外国語(英語)、情報処理、健康・体力科学については、受講者数が多いためクラス制を採用しています。第一外国語(英語)と情報処理は時間割の配布と同時にクラスを指定します。健康・体力科学は希望コースを調査後にクラスを指定します。いずれも指定されたクラスで受講してください。

なお履修登録は教務課で事前に行います。

また、一部の専門科目でもクラスが指定される場合がありますので、注意してください。

クラス指定がある科目を再履修する場合は、USPOからの履修登録以外に、履修登録届の提出が必要で
す。

(3) CAP制

本学では、2018(平成30)年度入学生からCAP制(履修登録単位数の上限設定)を導入しました。

CAP制とは1単位あたり45時間の学修時間(P.1「単位制度」を参照)を確保するため、学修すべき授業科目を選定し、授業内容を深く真に身につけることを目的として、履修科目として登録できる単位数の上限を定めるものです。学生にとっては、学修計画をしっかりと立てた上で履修登録することが求められます。本学では1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を49単位と設定しています。この上限を超えないようよく考えて学修計画を立ててください(3年次編入学生にはCAP制を適用しない)。

ただし、優れた成績を修めた学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認めます(一部学科のみ)。また、学外実習や夏季休業、冬季休業に実施される集中講義など一部CAP制から除外される科目があります。下記の情報および毎学期開始前の掲示・配布物やオリエンテーションなどで確認してください。

① CAP制から除外される科目

- 1) 集中講義または集中講義に相当する科目
 - 2) 各学科等が指定した科目(下記参照)
 - 3) 卒業研究、卒業論文、卒業制作
 - 4) 他学部他学科科目として履修する科目
 - 5) 教職課程、学芸員課程、副専攻等の開講科目のうち、修得しても卒業要件に算入できない科目
 - 6) 本学のカリキュラムとは別に他大学等で修得し、単位認定を受けた授業科目
- ※履修取消制度(半期2科目、(9)を参照)により取り消した科目は対象外とします。ただし、全学共通、専門科目とも卒業要件を超過して履修する単位および再履修となる科目は、すべてCAP制の対象とします。

◆学科等が指定した科目(2021(令和3)年度時点 変更があった場合は別途通知する)

〈環境科学部共通〉

環境フィールドワークⅠ・Ⅱ

〈環境政策・計画学科〉

ファシリテーション技法・演習、社会システム分析設計・演習、環境政策デザイン論・演習

〈生物資源管理学科〉

生物資源管理学実験・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ

〈機械システム工学科〉

機械システム工学セミナー、機械製作実習、機械設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、機械工学基礎実験、
機械システム創造実験

〈人間文化学部共通〉

環境琵琶湖文化論実習

〈地域文化学科〉

地域社会調査実習

＜人間関係学科＞

人間関係論基礎演習、人間関係論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、心理・発達・行動学実験演習、教育観察実習、社会学演習、行動論演習、形成論演習、地域社会調査実習

＜国際コミュニケーション学科＞

Introduction to Academic English, Intermediate Academic English, Advanced Academic EnglishⅠ・Ⅱ

② 成績優秀者への上限値引き上げについて

成績優秀者は履修単位数の上限を引き上げることができます。成績優秀者の認定は、学期のGPAにより行い、1年次後期からUSPOを通じて申請を行うことができます。GPAの基準値や対象となる学科、履修登録の上限から引き上げる単位数等は下記のとおりです。

引き上げ基準	引き上げ単位数等
直前の学期のGPA 3.00以上	<p>学期ごとに2単位引き上げ（年間で最大4単位引き上げ） ※年度が変わると通常の上限に戻ります。</p> <p>＜イメージ＞</p> <p>1年次前期終了時のGPAが3.00以上 → 1年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>1年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 2年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p> <p>さらに2年次前期終了時のGPAも3.00以上 → 2年次の上限 … 51単位 + 2単位 = 53単位</p> <p>2年次後期終了時のGPAが3.00以上 ※年度が変わるので49単位に戻る → 3年次の上限 … 49単位 + 2単位 = 51単位</p>
<p>※引き上げ制度は次の学科のみ適用されます（記載のない学科では引き上げ不可）。</p> <p style="text-align: center;">〔 環境生態学科、環境政策・計画学科、環境建築デザイン学科、生物資源管理学科 材料科学科、機械システム工学科、地域文化学科、生活デザイン学科、人間関係学科 国際コミュニケーション学科 〕</p>	

(4) 人間学・地域教育プログラムの履修登録

人間学および地域教育プログラムについては、予め履修定員を設けている科目や教室の収容人数により受講者の調整を行う科目があります（定員等については、「人間学」「地域教育プログラム」のページ参照）。

履修登録期間後、定員を超える登録があった場合は、受講者の選定を行います（一次選定）。一次選定の結果は、USPOでお知らせしますので、必ず確認してください。

受講が認められなかった方は、定員に満たなかった科目または定員が設けられていない科目を履修希望することができます。「履修登録届」（USPOキャビネットからダウンロード、もしくは窓口配布）を教務課へ提出してください。また、その結果、「履修登録届」の提出が定員を上回った場合は、受講者の選定が行われます（二次選定）。二次選定の結果もUSPOでお知らせします。

二次選定の結果、受講が認められなかった場合、定員が設けられていない科目のみ履修希望することができます。

(5) 履修できない科目

次に掲げる授業科目は履修できませんので注意してください（履修規程第3条）。

- ① 登録をしていない科目
- ② 既に単位を修得した科目
- ③ 授業時間が重複する科目

(6) 履修資格

科目によっては、既に他の科目を履修していることが履修の条件となっているものがあります。どの科目を履修しておく必要があるかはWeb版の講義概要の「履修資格」欄に記載されています。誤って履修すると、原則として単位は認定されませんので、よく読んで登録してください。

(7) 履修登録の訂正（窓口申請分）

USPO上で履修登録状況と単位修得状況を確認することができます。履修登録届の窓口申請した内容が反映されているかどうかを、履修登録確認期間中にUSPOで確認してください。万が一、自分が申請した内容と異なる場合は、確認期間中に教務課へ申し出てください。

(8) 時間割の変更

年度当初に配布する総合時間割表から、開講期や曜日・時間が変更になったり、急遽不開講になったりなど、時間割が変更となった場合は、USPOにてお知らせしますので、必ず確認の上、履修登録するようにしてください。

(9) 履修登録確認・追加・変更・取消期間（前期：4月下旬～5月上旬、後期：10月）

本学では、履修登録期間後に各自で履修登録科目を確認する期間を設けており、履修登録期間内に登録した科目の追加・修正、あるいは取消が可能です。実際に出席していても履修登録がない科目は評価の対象となりません。また登録した科目については評価の対象となりGPAにも反映されます(一部除外あり)。この期間以外での追加・修正・取消を一切認めませんので、必ず各自で確認をしてください。

①履修登録の追加・修正

履修登録期間に登録する科目を間違えた場合や、すでに登録した科目を取りやめて他の科目を履修したい場合、あるいは追加で科目を登録したい場合に、履修登録の追加・変更が可能です。科目の追加・修正を希望する場合は、指定された期間内に教務課で手続きをしてください。

②履修登録の取消

実際に授業に出席したものの、履修登録時に予想していた内容と異なっていたなどの理由により、履修登録を取り消すことも可能です。科目の取消を希望する場合はUSPOより所定の期間内に手続きをしてください。ただし、取り消すことのできる科目数は各学期で2科目までとします。また、必修科目の登録を取り消すことはできません。

(10) 履修登録に関する相談窓口教員

履修登録に関する問い合わせは、教務課で随時受け付けます。また、各学科にも履修登録に関する相談窓口となる教員がいます(「学生便覧」の「第2章 学生生活」の「3 履修(1)履修の手続、履修相談」に記載)ので、各自の履修計画を立てるにあたって積極的に相談してください。

5 試験

試験には、次の2種類があります。

- ◆ 定期試験：学期末に期間を定めて行われる試験
- ◆ 平常試験：授業の中で担当教員によって個別に随時行われる試験

(1) 定期試験の実施

定期試験は各学期末に試験期間を設定され、行われます。

試験の時間割・教室は、事前にUSPOに掲載しますので、注意してください。実施日時および実施教室の変更がある場合も、USPOに掲載します。

(2) 試験期間中における風雪時の対応について

原則として、試験日程は風雪等の天候とは関係なく、予定どおり実施します。ただし、各試験科目の担当教員が試験延期等の判断を行う場合があるので、USPOを確認してください。

また、試験当日に公共交通機関に遅れが生じた場合は、適宜、実施について判断します。

(3) 定期試験の受験上の注意

- ① 受験する学生は、特別の指示がない限り、試験開始5分前に指定された教室に入る必要があります。
- ② 受験中は必ず、**学生証を机上に置くこと**。万一学生証を忘れた場合は、教務課で仮受験票の交付を受けてください。
- ③ 答案には、学籍番号、氏名を必ず記入してください。
- ④ 受験者の試験開始後20分を経過した場合の入室は認められません。また、開始後30分までは退出できません。

(4) 不正行為

定期試験で**不正行為**があると認められた者は、学則第52条第1項の規定により懲戒処分（退学、停学または訓告）を受けるほか、不正行為をした科目だけでなく、その学期の定期試験で受験する予定の科目、またすでに受験した科目を含め、すべての科目が不可となります。

また、各授業科目内で行う中間試験、小テストなどの定期試験以外の試験において不正行為があると認められた者は、当該科目が不可となります。

(5) 追試験

病気その他やむを得ない理由により、定期試験を受けることができない者には、**事情により追試験を行うこと**があります。

追試験の受験を希望する者は、「**追試験願**」に必要な証明書（次表参照）を添付して、定期試験実施前にあらかじめ教務課まで提出してください。緊急の事情により事前に提出できない場合は、**試験開始時間までに電話等により事情を教務課に連絡してください**。

この場合は、事後提出であっても追試験願を受理することがありますが、**提出期限は原則として当該試験期間最終日の3日後まで**です。

追試験を願い出る理由	必要な証明書
病気・けが	医師の診断書
災害	被災証明書
交通事故、交通機関の延着・運休	事故証明書、延着・運休証明書
3親等以内の葬儀	死亡に関する公的証明書（会葬礼状等）
正課実習	実習証明書（指定様式）
その他大学が認める理由	理由書（本人以外の証明）

追試験願を提出した者は、教務課から書類を受け付けたことを証する追試験願受付書を受け取り、該当する授業担当の教員と追試験実施について、直接相談してください。

なお、授業担当教員が非常勤講師の場合は、教務課の指示に従ってください。

※注：追試験願受付書は、受験を認めることを意味するものではなく、窓口である教務課が追試験願を受け付けたことのみを証するものです。

(6) 不可または不合格となった科目について

定期試験等において、不可または不合格となった者に対する再試験を行いません。ただし、不可または不合格になった授業科目については、翌年度以降に改めて再履修することができます。

6 成績評価および単位の認定

(1) 成績評価

成績の評点は、定期試験、平常試験、レポート、制作物、実技などを総合して、100点満点で採点されます。成績の評価の基準は次のとおりで、成績証明書の評価欄には、秀・優・良・可・不可で記載されます。

評 点	評 価
90点以上	秀
80点以上90点未満	優
70点以上80点未満	良
60点以上70点未満	可
60点未満	不可

その他に、点数で表現できない成績として「合格」「不合格」あるいは「認定」で表示することがあります。

(2) 単位の認定

秀、優、良、可および合格ならびに認定の場合は、単位の修得が認められます。

不可および不合格の場合は、単位の修得は認められません。

追試験の対象とは認められない理由による定期試験の欠席により、成績評価資料を欠く場合には、履修を放棄したとみなしますので、単位の修得は認められません。

(3) 成績通知

成績の通知については、原則、前期科目分は後期開始前に、後期・通年科目分は翌年度の学期開始前に、教務課から本人に対しUSPOを通じて行います(授業時期等の理由により通知が遅れることがあります)。

また、入学手続等に保護者や保証人(以下「保護者等」という)から「成績通知書郵送不要確認書」の提出がない場合は、各学期終了後に保護者等あてに成績通知書を郵送します。20歳以上の学生で、「成績通知書郵送停止届」を提出した者には、保護者等あてに成績通知書を郵送しないこととします。この場合、保護者等には学生本人の意向により、成績通知書を郵送しない旨の通知を行うこととします。

(4) GPA (Grade Point Average) 制度

① GPAとは

本学では、「秀・優・良・可・不可」の成績評価に加えて、GPAによる成績評価制度を導入しています。

GPAとは、履修登録した全科目のうち、GPA算出対象となる科目(以下「算出対象科目」という)の成績を4.5から0までの数値に置き換え、これに当該科目の単位数を掛けて、その合計を算出対象科目の総単位数で割った数値です。

「秀・優・良・可・不可」が科目ごとの学業成果を表すのに対して、GPAは、「不可」となった科目も含め、学生が履修登録した算出対象科目の学業成果および学業への取り組み結果の総合的な値として表すこととなります。修学指導を受ける際や履修計画・学習計画を立てる際の参考として活用してください。

② GPAの計算方法

本学では、一般的によく用いられている計算方法(秀、優、良、可、不可をそれぞれ4、3、2、1、0のような数値に置き換えて平均を算出)ではなく、原成績(評点)による順位との相違が生じないファンクショナルGPAを採用しています。GPAは次の計算式で算出されます。

【GPAの計算式】

$$GPA = \frac{\text{(グレード・ポイント(※) × 当該科目の単位数)の総和}}{\text{算出対象科目の単位数の総和}}$$

※グレード・ポイント = (当該科目の評点 - 5.5) ÷ 1.0
(ただし、評価が不可(評点が60点未満および定期欠席)の場合、グレード・ポイントは一律に0点となります。)

【GPA計算例】

科 目 名	A	B	C	D	E	F	計
単 位 数	2	1	3	2	2	2	12
評 点	90	75	30	80	60	100	
評 価	秀	良	不可	優	可	秀	
グレード・ポイント	3.5	2.0	0	2.5	0.5	4.5	
グレード・ポイント×単位数	7	2	0	5	1	9	24

(注) 同じ評価でも、評点が異なるとグレード・ポイントが変わってきます。

$$\text{GPA} = \frac{3.5 \times 2 + 2.0 \times 1 + 0 \times 3 + 2.5 \times 2 + 0.5 \times 2 + 4.5 \times 2}{2 + 1 + 3 + 2 + 2 + 2} = \frac{24}{12} = 2.0$$

- ③ GPA計算の対象となる科目・対象とならない科目
GPA計算の対象となる科目は、以下の要件を満たすものです。
- 1) 100点満点で成績評価する科目
 - 2) 卒業要件単位に算入できる科目

したがって、成績が「合格」、「認定」と表記される科目や資格（教員免許、学芸員等）取得のために開講されている科目は、GPA計算の対象となりません。

- ④ 科目を履修するにあたって留意すべきこと
2009（平成21）年度のGPA試行導入後の検証によると、次のようなことがわかっています。
- ・ GPAが1.5以下の場合、修業年限（4年）で卒業できない可能性が高い（1年次終了時点1.5以下の場合50%が、2年次・3年次終了時点では25%が4年で卒業できていない）。
 - ・ 1、2年次では履修登録の単位数には大きな差がみられないが、3、4年次ではばらつきが出てくる。3、4年次で履修する単位数が多い学生は、GPAが低い傾向にあり、1、2年生次の間に確実に単位を修得できていない状況がうかがえる。
- こうしたことから、必要以上に多くの科目を履修して、個々の学修が疎かになることのないよう、しっかりと履修計画を立てることが重要です。

- ⑤ GPAの活用について
GPAの値は、学生表彰や各種学内選抜の際の指標などに利用されています（扱いは学科ごとに異なる）。さらに、海外への留学の際には、留学先受入校からGPA値を求められることもあります。留学や奨学金の申請などの際、必要となるGPAについては、算出方法が異なる場合がありますので、注意するとともに個別に問い合わせるようにしてください。

(5) 成績評価の疑義申し立ておよび根拠等についての開示制度について

本学では、学生は自らの成績評価に疑義のある場合、その成績の根拠等について当該科目の担当教員に対して開示を求めることができます。

① 疑義申し立てができる場合

- ・ 出席、課題提出、試験等に照らして、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・ シラバス等に記載されている到達目標、成績の評価方法及び基準等から、成績評価について疑義があると思われる場合
- ・ その他、具体的かつ明確な理由をもって成績評価に疑義があると思われる場合

② 手続き等について

まずは当該科目の担当教員に対し、直接確認を求めてください。オフィスアワー等を活用して担当教員を訪ねましょう。

担当教員から教示がない場合、あった場合でも説明が足りない、明確な根拠が示されていない等の事由により疑義が解消されない場合、または非常勤講師等により直接の確認が困難な場合に限り、「成績評価の疑義申し立ておよび根拠等にかかる開示の願出書」により、学生支援センター長（学生支援センター教務担当）を通じて成績評価の根拠等について文書により開示するようお願いすることができます。

③ 制度による願出ができる期間

担当教員への確認および願出書の提出ができる期間は、成績が通知された日から原則として3週間以内です。成績保留等により成績通知書に記載されなかった科目については、当該科目の成績の確定について掲示された日から原則として3週間以内です。期限を過ぎたものは受付できません。

願出書の様式や、その他詳細については、教務課担当までご相談ください。

7 卒業要件

本学を卒業するためには、次の条件をすべて満たさなければなりません。

- ① 4年以上在学すること（休学期間は在学期間に含まれません）。
- ② 所属学科のカリキュラムに従って、卒業要件としての必要単位を修得すること。
各学科の卒業要件については、それぞれの第2章の各学部学科の説明を熟読してください。

8 副専攻科目について

本学における副専攻とは、所属する学部学科の履修プログラム（主専攻）に加えて履修可能な学部学科間断的プログラムです。所属学科の専門性に加えて、それらを社会に還元するための基礎的・総合的能力を修得します。本学の学生であれば、どの学部学科に所属していても履修することができます。

現在開講している副専攻は、近江楽士（地域学）副専攻です。地域基礎科目を基に、更にこれを展開、応用させ、地域課題とその解決法について体系的に学び、コミュニケーション力、構想力および実践力を兼ね備えた変革力を身につけることを目指します。

近江楽士（地域学）副専攻には、コミュニティ・ネットワークとソーシャル・アントレプレナーの2つのコースがあります。

副専攻の履修は任意ですが、積極的に受講してください。履修する場合は、前期の履修登録期間中にUSPOの申請メニューから「副専攻履修申請」を行ってください。

9 他学部・他学科科目の履修

本学では、所属する学科のカリキュラムに授業科目として指定されていない他学部、他学科の科目も、履修することを認めています。

ただし、教室の収容人数制限や実験機器・設備の数、資格課程上の制約等の理由からすべての開講科目が他学部・他学科科目として履修できるわけではありません。また、履修した科目の単位を所属学科の卒業単位に算定するには限度があるなどの一定の制約がありますので注意してください。

- ① 他学部または他学科の科目の履修を希望する場合、事前に文書で承諾を得る必要はありません（工学部を除く）。
- ② 履修登録後に、受講人数の制限から、やむを得ず受講を取り消すことがあります。
- ③ 他学部または他学科で修得した単位を卒業要件として認める単位数については、各学部、学科で定めています。各学部、学科の卒業要件を確認してください。

10 他大学の科目の履修（単位互換制度）

単位互換制度とは、他の大学の授業科目を履修し、修得した単位を本学の単位として認定するものです。履修の幅が広がり、幅広い視野の育成に役立つものとなります。本学では、次の3つの単位互換制度を実施しています。履修できる授業科目、手続、卒業単位への算入方法等については、各制度で異なります。学年当初に制度に関する資料を配布しますので、それらを参考にしてください。

- (1) 環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換制度（2005（平成17）年度～）

滋賀県にキャンパスを置く環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟大学の間で実施している単位互換制度です。滋賀県特有の内容をテーマとした科目や各大学の特徴的な科目を履修できます。修得した単位は

「他学部他学科相当科目」として扱われます。

(2) 滋賀大学単位互換制度 (2002(平成14)年度～)

滋賀大学の単位互換制度対象科目を履修できます。修得した単位は、科目により「人間学」「他学部他学科相当科目」または「自由科目」として扱われます。

(3) 彦根3大学連携単位互換制度 (2009(平成21)年度～)

2021(令和3)年度は、3大学(滋賀大学、聖泉大学、本学)と彦根市がそれぞれテーマに沿って1日ずつ講義を担当する「彦根・湖東学」が開講されません。今後の開講状況については、各年度の前期履修登録期間中にお知らせします。

1.1 編入学生の履修

編入学生の履修すべき授業科目、単位数ならびに成績の評価については、編入する年次の学生のもと同じになります。

例えば、2021(令和3)年度3年次編入生が履修すべき授業科目等については、2019(令和元)年度入学生と同じになります。

1.2 その他

(1) 科目担当教員について

各科目を担当する教員は「開講科目索引」に記載されているとおりですが、各担当教員の研究室については、年度当初に学生・就職支援課から別途配布する学生便覧を参照してください。

なお、他大学等からの出講となる非常勤講師については、A棟内に非常勤講師控室がありますが、在室は当該授業日の出講時限の前後のみとなりますので、注意してください。

(2) 留学中に修得した単位について

留学中に修得した単位は、申し出により認定され、他学部・他学科科目と同様に扱われます(国際コミュニケーション学科を除く)。また、本学科目として読み替えを申請することもできます。ただし、卒業単位として認められるかどうか等は、各学部・学科によって取扱いが異なります。詳細については、教務課にお問い合わせください。

(3) 授業評価アンケートの実施について

授業内容やカリキュラムの改善などに取り組むため、授業に対する学生のみなさんの意見を聞くために授業評価アンケートを実施しています。いただいた意見を今後の授業運営に役立てていきたいので、みなさんの真摯な協力をお願いします。

実施にあたっては、該当授業中に担当教員から指示があります。

なお、担当教員には集計結果のみが示されるため、個人を特定する情報が提供されることはありません。

(4) オフィスアワーについて

オフィスアワーは、授業の内容や学習の進め方などについて、学生からの相談を受ける時間を各教員が指定し、学生を支援する制度です。学生のみなさんの積極的な活用を期待します。

各教員のオフィスアワーは、USPOに掲載します。メニューバー「シラバス」より「教員から検索」を選択、教員名を指定して確認してください。

第2章 学部等別履修の手引

第2章は、「履修の手引」各則編です。

各学部・学科毎に科目の履修について、卒業要件等を記載していますが、これらは、原則として入学年度のもものが適用されますので、自分が入学した年の「履修の手引」の該当部分を参照ください。ただし、変更されている事項もあります。

1 全学共通科目

1 全学共通科目の学修到達目標

本学は、「人が育つ大学」「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに掲げ、環境と人間をキーワードとした幅広い学問分野を発展させてきました。

全学共通教育では、「全学共通基礎科目」や「人間学」などのカリキュラムを導入しています。これらの科目では、人間と社会を深く見定めながら、広い視野、深い教養、そして、人権感覚を磨くとともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を養います。全学共通教育の具体的な学修到達目標は以下の通りです。

- A. 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、多面的に学習し、複雑化・流動化していく社会に対応できる知識を身につける。（知識・理解）
- B. 市民としての責任感と倫理観を身につける。（態度・倫理）
- C. 人間や社会を深く見定め、そこから問題の発見、解決に取り組むための能力を身につける。（思考・判断）
- D. 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力を身につける。（技能・技術）
- E. 情報リテラシー、数量的スキル、表現力など社会人として生きていくために必要な汎用的能力を身につける。（汎用的能力）
- F. 地域の現実的な課題を解決するために必要な素養と態度を身につける。（態度・倫理）

2 全学共通科目の教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

全学共通科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指す「全学共通基礎科目」と広い視野、深い教養とともに、問題解決力、行動力などの実践的な能力を身につける「人間学科目」、「地域課題科目」により構成され、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

A. 全学共通基礎科目

A-1 外国語教育科目

言語による国際的なコミュニケーションの能力を身につけるとともに、留学や外部検定の対策のための科目を配置します。

A-2 情報処理科目

情報化社会における基本的なルールやマナーを学ぶとともに、情報機器の操作、大学生として必要なレポート作成やプレゼンテーションの技術などを学ぶための科目を配置します。

A-3 保健体育科目

健康・体力の保持増進に必要な知識および実践能力を習得するとともに、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るための能力を身につけることを目指します。

B. 人間学

人間と社会を深く見定め、人間という存在について考えることにより、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を養います。

C. 地域基礎科目

地域における問題発見や課題解決のために必要な知識、さらにはそれらを生かすための実践的な能力を身につけることを目指します。

3 全学共通科目の内容・構成

I 全学共通基礎科目

全学共通基礎科目は、国際化時代にふさわしい人間性と能力を備えた「世界市民として育つための教育」を目指しています。

この科目は全学の学生を対象として、

- (1) 言語による国際的なコミュニケーションのための外国語教育
 - (2) 国際的な情報伝達に欠かせない情報処理
 - (3) 健康に対する知識と体力を養うための健康・体力科学
- 3つの分野からなっています。

II 人間学

人間学は、必修の1科目・2単位に加え、残り42科目について3科目群から各1科目・2単位、3科目群からの合計で3科目・6単位以上を修得することが卒業要件として必要です。

III 地域教育プログラムー地域基礎科目

地域基礎科目は、必修の1科目・2単位に加え、残り11科目から選択して1科目・2単位以上の修得が卒業要件として必要です。

IV キャリア教育・ボランティア関連科目

キャリア科目としてキャリアデザイン特論やインターンシップなどのキャリア教育科目を開講しています。災害の復興支援活動や学校ボランティア活動などについても、所定の条件を満たせば「ボランティア活動」として単位を取得することができます。卒業要件に算入されない自由科目となりますが、成績通知書に記載されます。

V 資格関連科目

資格取得のために必要となる科目です。卒業単位には算定されません。

VI 日本語・文化関連科目（交換留学生向け科目）

交換留学生を主な受講対象とした科目です。卒業単位には算定されません。

4 全学共通基礎科目履修上の注意

① クラス指定

- ・ 第一外国語（英語）および情報処理（情報リテラシー、情報科学概論）は時間割の配布時に、保健体育（健康・体力科学）は第1回授業時に、それぞれクラスを指定します。必ず指定の曜日時間で履修登録をしてください。

② 再履修

- ・ 全学共通科目の必修科目の単位を修得できずに、翌年度以降で再履修する場合は、履修許可願の提出が必要となります。（人間学、地域基礎科目は除く）必ず履修登録期間に教務課に申し出てください。

③ 超過修得単位の取扱い

- ・ 全学共通科目の必要単位数は30単位（必修18単位、選択科目12単位）ですが、英語、人間学、地域基礎の各選択科目から12単位を超えて修得した場合は、各学部の規定により学部の専門科目として一定の単位まで卒業要件単位に含むことができます。自分が所属の各学部・学科の卒業要件を参照してください。

表1：全学共通科目年次別配当表

		科目名	単 位	1年		2年		3年		4年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
外国語科目 (国際コミュニケーション学科を除く)	必修 8単位	英語ⅠA	1	○							
		英語ⅠB	1		○						
		英語ⅡA	1	○							
		英語ⅡB	1		○						
		英語ⅢA	1			○					
		英語ⅢB	1				○				
		英語ⅣA	1				○				
		英語ⅣB	1					○			
	選択 (注1)	リスニング(中級)	2					○			○
		リーディング(中級)	2						○		○
		Integrated English	2						○		○
		Introduction to Discussion & Debate	2						○		○
		Essay Writing	2							○	○
		Intermediate Academic English	1						○		○
		Advanced Academic English I	2							○	○
		Advanced Academic English II	2							○	○
		English for Business	1						○		○
		English in Media	2							○	○
	独・仏・中・朝から1言語を選択必修4単位 (注2)	第二外国語ⅠA	1	○							
		第二外国語ⅠB	1		○						
第二外国語ⅡA		1			○						
第二外国語ⅡB		1				○					
実用英語演習ⅠA		1				○					
実用英語演習ⅠB		1					○				
外国語科目 (国際コミュニケーション学科)	必修 8単位	英語ⅠA・B	各1	○							
		英語ⅡA・B	各1	○							
		英語ⅢA・B	各1	○							
		英語ⅣA・B	各1		○						
	独・仏・中・朝から1言語を選択必修4単位	第二外国語ⅠA	1	○							
		第二外国語ⅠB	1	○							
情報処理	必修 4単位	情報科学概論	2		○						
		情報リテラシー(情報倫理を含む)	2		○						
保健体育	必修 2単位	健康・体力科学Ⅰ	1		○						
		健康・体力科学Ⅱ	1			○					
人間学 (注3)	必修 2単位	人間探求学	2	○							
	選択必修 6単位	3科目群(「生きる」「考える」「つくる」)から各1科目2単位を選択必修	84	○	○	○	○	○	○	○	
地域基礎 (注3)	必修 2単位	地域共生論	2	○							
	選択必修 2単位	必修以外の地域基礎科目(11科目22単位)から1科目2単位を選択必修	22	○	○						

注1 国際コミュニケーション学科では専門科目として扱われます。

(詳細は、国際コミュニケーション学科のページを参照してください)

注2 国際コミュニケーション学科を除く学科での外国語教育科目の選択必修4単位分は、学科によって履修パターンが異なります。次ページ以降の「表2」にしたがって履修計画を立ててください。

注3 人間看護学科のみ、選択必修のうち2単位が必修となります。
(詳細は、人間看護学科の履修の手引を参照してください)

全学共通科目のカリキュラムマップ

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	全学共通科目 教育目標					
				A	B	C	D	E	F
全学共通基礎科目	英語ⅠA	1	必修				◎		
	英語ⅠB	1	必修				◎		
	英語ⅡA	1	必修				◎		
	英語ⅡB	1	必修				◎		
	英語ⅢA	1	必修				◎		
	英語ⅢB	1	必修				◎		
	英語ⅣA	1	必修				◎		
	英語ⅣB	1	必修				◎		
	ドイツ語ⅠA	1	選択				◎		
	ドイツ語ⅠB	1	選択				◎		
	ドイツ語ⅡA	1	選択				◎		
	ドイツ語ⅡB	1	選択				◎		
	フランス語ⅠA	1	選択				◎		
	フランス語ⅠB	1	選択				◎		
	フランス語ⅡA	1	選択				◎		
	フランス語ⅡB	1	選択				◎		
	中国語ⅠA	1	選択				◎		
	中国語ⅠB	1	選択				◎		
	中国語ⅡA	1	選択				◎		
	中国語ⅡB	1	選択				◎		
	朝鮮語ⅠA	1	選択				◎		
	朝鮮語ⅠB	1	選択				◎		
	朝鮮語ⅡA	1	選択				◎		
	朝鮮語ⅡB	1	選択				◎		
	初習英語ⅠA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	初習英語ⅠB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	初習英語ⅡA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	初習英語ⅡB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅠA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅠB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅡA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅡB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅢA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅢB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅣA(留学生のみ)	1	選択				◎		
	日本語ⅣB(留学生のみ)	1	選択				◎		
	リスニング(中級)	2	選択				◎		
	リーディング(中級)	2	選択				◎		
	Integrated English	2	選択				◎		
	Introduction to Discussion & Debate	2	選択				◎		
	Essay Writing	2	選択				◎		
	Intermediate Academic English	1	選択				◎		
	Advanced Academic English I	2	選択				◎		
	Advanced Academic English II	2	選択				◎		
	English for Business	1	選択				◎		
	English in Media	2	選択				◎		
実用英語演習ⅠA	1	選択				◎			
実用英語演習ⅠB	1	選択				◎			
情報処理	情報科学概論	2	必修		○			◎	
	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	必修		○			◎	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ	1	必修	◎					
	健康・体力科学Ⅱ	1	必修	◎					

区分		授業科目名	単位数	必修・選択 等の別	全学共通科目 教育目標					
					A	B	C	D	E	F
人間学	必修	人間探求学	2	必修	○	○	○			
		自然のしくみB	2	選択	◎	○	○			○
	生きる	農業と環境A	2	選択	◎	○	○			○
		食と健康	2	選択	◎		○			
		人間と病気	2	選択	◎		○			
		生命・人間・倫理	2	選択	○	◎	○			
		精神保健論	2	選択	◎	○	○			○
		キャリア形成への道B	2	選択	◎	○	○		○	○
		キャリア形成への道C	2	選択	◎	○	○		○	○
		経済学	2	選択	◎	○	○		○	
		憲法	2	選択	○	◎	○			
		Japan Studies VI	2	選択	○	○	○	◎		○
	考える	アジアフィールド実習Ⅰ	2	選択	○	○	◎	○		
		アジアフィールド実習Ⅱ	2	選択	○	○	◎	○		
		自然のしくみA	2	選択	◎	○	○		○	
		名著から学ぶ環境問題	2	選択	◎	○	○			
		都市・建築を考える	2	選択	◎	○	○			
		生活の中にもみる力学	2	選択	◎		○		○	
		コンピュータとインターネット	2	選択	○	○			◎	
		地域と文化	2	選択	○		◎			○
		歴史と文化	2	選択	◎		○			○
		人間関係の科学A	2	選択	◎		○			
	つくる	人間関係の科学B	2	選択	◎		○			
		国際文化概論	2	選択	○	○	◎			
		差別と人権(同和問題)	2	選択		○	◎			○
		キャリア形成への道A	2	選択	○	◎	○		○	
		Japan Studies VII	2	選択	○	○	○	◎		○
		World Societies I	2	選択	○	○	○	◎		○
		World Societies II	2	選択	○	○	○	◎		○
		異文化理解A	2	選択	○	○	○	◎		
		異文化理解B	2	選択	○	○	○	◎		
		都市・建築をつくる	2	選択	◎	○	○			
	つくる	農業と環境B	2	選択	◎		○			
		暮らしの中の材料	2	選択	◎	○	○		○	
		自然科学入門	2	選択	○	○			◎	
		機械の再発見	2	選択	◎	○	○		◎	
		機械の役割と仕組み	2	選択	◎		○		○	
		技術の歴史	2	選択	◎		○		○	
		電子社会と人間	2	選択	○	○	◎		○	
		電子システムの最先端	2	選択	◎	○	○		○	
		比較住居論	2	選択	◎	○	○			
		生活と健康	2	選択	◎		○			
地域基礎科目	必修	ジェンダー平等をつくる	2	選択	○	○	◎			○
		地域共生論	2	必修	○	○	○			◎
	選択必修	地域社会福祉論	2	選択	○	○	○			◎
		地域コミュニケーション論	2	選択	○	○	○		○	◎
		地域づくり人材論	2	選択	○	○	○			◎
		びわこ環境行政論	2	選択	○					◎
		多文化共生論	2	選択	○	○	○			◎
		地域産業・企業から学ぶ社長講義	2	選択	○	○	○		○	◎
		SDGsと遊覧のグローバル・イノベーション	2	選択	○		○			◎
		近江の美	2	選択	○			○		◎
		地域診断法	2	選択	○	○	○		○	◎
		ソーシャル・ビジネス概論	2	選択	○	○	○			◎
		地域共生論	2	選択	○	○	○			◎
		地域共生論	2	選択	○	○	○			◎

I 全学共通基礎科目

1. 外国語教育科目

(1) 単位

①国際コミュニケーション学科

・必修科目：

第一外国語として英語ⅠA・B～ⅣA・Bまでの8単位が必修です。

・選択必修科目：

第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から一言語を選択して1年次に4単位履修する必要があります。なお、原則として言語の変更はできません。

②国際コミュニケーション学科を除く学科

・必修科目：

1～2年次で第一外国語として英語ⅠA・B～ⅣA・Bまでの8単位が必修です。

・選択必修科目：

第二外国語として、1年次にドイツ語ⅠA・B、フランス語ⅠA・B、中国語ⅠA・B、朝鮮語ⅠA・Bから一言語を選択し2単位を履修します。2年次には、1年次に履修した第二外国語ⅡA・Bの2単位を引き続き履修するか、あるいは、実用英語演習ⅠA・Bの2単位を履修し、選択必修科目として計4単位の修得が必要です。

(第二外国語ⅡA・Bを履修するか、実用英語演習ⅠA・Bを履修するかは1年次の夏季休業期間中に希望調査を行い、クラス編成を行います。原則として、言語の変更はできません。また、選択必修としての第二外国語の単位を修得し終えるまでは、実用英語演習と第二外国語を同時に履修することも原則としてできません。選択必修としての第二外国語の単位を修得し終えれば、他の第二外国語や実用英語演習を選択科目として履修することは可能ですが、卒業単位に含まれるかどうかは各学部・学科の卒業要件の項目を参照してください。)

・選択科目：

第一外国語では、より深く語学を修得するために選択科目として3年次以降にリスニング(中級)、リーディング(中級)、Integrated English、Introduction to Discussion & Debate、Essay Writing、Intermediate Academic English、Advanced Academic English I、Advanced Academic English II、English for Business、English in Media の10科目が開講されます。詳細は、各学科の配当表を参照してください。

表2：各学部・学科における外国語選択必修科目の履修方法

学部学科	1年次		履修の流れ	2年次	
	前期科目	後期科目		前期科目	後期科目
人間文化学部地域文化学科 人間文化学部人間関係学科	第二外国語ⅠA	第二外国語ⅠB	2年次も同じ言語第二外国語ⅡA・ⅡBを引き続き履修する	第二外国語ⅡA	第二外国語ⅡB
環境科学部 工学部 人間文化学部生活デザイン学科 人間文化学部生活栄養学科	第二外国語ⅠA	第二外国語ⅠB	2年次に、同じ言語の第二外国語ⅡA・ⅡBを履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習ⅠA・ⅠBを履修するかのどちらかを選択する	第二外国語ⅡA 実用英語演習ⅠA	第二外国語ⅡB 実用英語演習ⅠB
人間看護学部	第二外国語ⅠA	第二外国語ⅠB	2年次に、同じ第二外国語ⅡA・ⅡBを履修するか、第二外国語に代替可能な実用英語演習ⅠA・ⅠBを履修するかのどちらかを選択する。 ただし、実用英語演習ⅠA・ⅠBの履修を強く推奨する	第二外国語ⅡA 実用英語演習ⅠA	第二外国語ⅡB 実用英語演習ⅠB
人間文化学部国際コミュニケーション学科	第二外国語ⅠA 第二外国語ⅠB	第二外国語ⅡA 第二外国語ⅡB			

※実用英語演習ⅠAとⅠBは連続して履修しなければなりません。

※実用英語演習ⅠAとⅠBは、原則1年次の12月のTOEIC-IPテストの成績によりクラス編成を行いますので、第二外国語を実用英語演習に変更する学生は、12月のTOEIC-IPテストを受験してください。

(2)外国人留学生等の外国語履修について

外国人留学生の外国語履修について次のように取り扱うこととします。ただし、学部学科によっては、特定の言語の履修を義務づけている場合がありますので、履修登録の前に必ず所属学科の相談窓口教員に確認してください。

第一外国語：英語ⅠA・B～ⅣA・Bまたは日本語ⅠA・B～ⅣA・Bから**8単位**を選択必修

第二外国語：ドイツ語ⅠA・B、ⅡA・B、フランス語ⅠA・B、ⅡA・B、中国語ⅠA・B、ⅡA・B、朝鮮語ⅠA・B、ⅡA・B、実用英語演習ⅠA・B、初習英語ⅠA・B、ⅡA・B、英語ⅠA・B～ⅣA・B、日本語ⅠA・B～ⅣA・Bから**4単位**を選択必修
(国際コミュニケーション学科を除く)

- ① 第一外国語と第二外国語とで同一の言語を履修することはできません(第一外国語として英語を履修した場合に、第二外国語として初習英語を履修できない)。
- ② 母語に関する科目(全学共通科目外国語科目および国際コミュニケーション学科初習外国語科目)は履修することができません。ただし、担当教員の許可を得て、聴講することはできます。
- ③ 初習英語は、入学前に英語を履修したことがない学生のみを対象としていますので、履修したことがある学生は対象外です。

外国語科目一覧(国際コミュニケーション学科を除く)

科目名	単位数	年次	期間	科目名	単位数	年次	期間
英語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	ドイツ語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
英語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	ドイツ語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
英語ⅢA・B	各1	2	各前・後期	フランス語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
英語ⅣA・B	各1	2	各前・後期	フランス語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
初習英語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
初習英語ⅡA・B	各1	2	各前・後期	中国語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
日本語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	朝鮮語ⅠA・B	各1	1	各前・後期
日本語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	朝鮮語ⅡA・B	各1	2	各前・後期
日本語ⅢA・B	各1	2	各前・後期	実用英語演習ⅠA・B)※	(各1)	(2)	(各前・後期)
日本語ⅣA・B	各1	2	各前・後期				

※「実用英語演習ⅠA・ⅠB」の扱いは学科により異なります。各学科の配当表を参照してください。

外国語科目一覧(国際コミュニケーション学科)

科目名	単位数	年次	期間	科目名	単位数	年次	期間
英語ⅠA・B	各1	1	前期	ドイツ語ⅠA・B	各1	1	前期
英語ⅡA・B	各1	1	前期	ドイツ語ⅡA・B	各1	1	後期
英語ⅢA・B	各1	1	前期	フランス語ⅠA・B	各1	1	前期
英語ⅣA・B	各1	1	後期	フランス語ⅡA・B	各1	1	後期
初習英語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅠA・B	各1	1	前期
初習英語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	中国語ⅡA・B	各1	1	後期
日本語ⅠA・B	各1	1	各前・後期	朝鮮語ⅠA・B	各1	1	前期
日本語ⅡA・B	各1	1	各前・後期	朝鮮語ⅡA・B	各1	1	後期
日本語ⅢA・B	各1	2	各前・後期				
日本語ⅣA・B	各1	2	各前・後期				

【参考】e-learning システムによる英語学習について

本学学生は、(株)アルクが提供している e-learning システム (ALC Net Academy NEXT) を低価格で利用することができます。学生一人ひとりに与えられたアカウントを使用し、学内外から Web を使って英語の自己学習ができます。大学の L L 教室や情報処理演習室だけでなく、自身の PC やタブレット、スマートフォンから英語学習が可能となります。

利用には登録手続き（自己負担あり）が必要となります。利用を希望する場合は、学生支援センターまでお問い合わせください。

また、本学では自身の英語学習の成果を確認するため、年に 2 回、TOEIC[®]-IP テストを受験することができます。TOEIC[®]-IP テストの対策として e-learning システムの利用をご検討ください。

2 情報処理科目

「情報リテラシー（情報倫理を含む）」、「情報科学概論」の 4 単位が必修です。

3 保健体育科目

「健康・体力科学Ⅰ」、「健康・体力科学Ⅱ」が必修で、2 単位の修得が卒業要件となります。

健康・体力科学Ⅰ・Ⅱは、下記の開講コースが用意されています。各コースの詳しい内容については、USPO で確認してください。

（１）授業の内容

【健康・体力科学Ⅰ】

第 1 回

全体ガイダンスー健康・体力科学ⅠおよびⅡの授業の進め方、種目説明、履修コース（種目）の決定

第 2 回以降

コース（種目）別ガイダンスー授業の進め方、授業内容等、選択コースによって異なります。

【健康・体力科学Ⅱ】

第 1 回

履修コース（種目）の決定、コース（種目）別ガイダンス

第 2 回以降

基本から応用へ、選択コース（種目）によって異なります。

（２）注意事項

①コース選択

授業科目ごとに開設されている種目の中から、自らの能力、適性、興味、関心に基づいて、それぞれ 1 種目を選択します。種目定員を超える場合は抽選等により調整します。原則として、同じ種目を継続して選択することはできません。なお、怪我や身体に障害のある学生には、運動処方コースが準備されています。

【開講コース】※健康・体力科学ⅠとⅡで異なります。

屋内球技コース（バドミントン、バスケットボール、卓球）

屋外球技コース（サッカー、テニス、ソフトボール）

運動処方コース（フィットネスプログラム、ボディコンディショニング、ヘルスサイエンス）

②授業形態

授業の展開では、基本的にはグループ学習とし、計画・実践・分析・総括といった実験実習の活動形態を重視します。

③服装

実技授業における服装はスポーツウェアを着用し、靴は選択種目に適したものを利用してください。

④更衣室

体育館の更衣室のロッカーを自由に利用できますが、長期の個人的利用を認めません。

⑤貴重品管理

体育館の貴重品ロッカーを利用し、各自で貴重品を管理してください。

Ⅱ 人間学

(人間存在と環境・社会を深く見つめる人間学)

1 人間学の考え方

大学に入学してからは、それぞれの専門分野の学習と、独立した個人としての志を育てるための4年間を過ごすこととなります。この両者のバランスが重要なのですが、従来の大学教育で行われていた一般教養の組み立て方は、ともすれば並列的に客観的知識として教える内容と、それを教えられる学生とが乖離したままの傾向がありました。変化の早い時代に大学で主体的に学び、考える学生が育つには、それとは異なる新しい座標軸の設定が要請されてきました。

本学ではこの要請に応えるために、開学当初から従来の一般教養とは異なった「人間学」という科目群を設けています。日々、複雑化・流動化してゆく現代社会の中で、人間というものを深く見詰め、そこから今後の指針を自ら見出し得る学生が育つことを願って設けられたものです。これらの科目では、具体的、現実的な問題を通して「人間」という存在について考え、将来、新しい問題を発見する能力、新しい視点から発想する能力を、学生諸君自らがそれぞれの個性にしたがって身につけることを目標としています。

身につけた知識や技術が高度で、専門的であるほど、人間・環境・社会・文化というものの理解も深く、幅広くなっていかなければならないでしょうし、それによってこそ専門分野の感性も磨かれるという思いが背景にあります。

本学では、この「人間学」の趣旨にふさわしい43科目を用意しました。

これら43科目のうち、「人間探求学」を必修科目に指定します。自己表現能力開発を目指す少人数グループ形式の「人間探求学」は本学でまず学ぶべきものとして、1年次前期の必修科目とします。

また、「人間探求学」以外の科目は、3科目群に分けられた選択必修科目です。これら科目については原則として科目名と共に、その科目で具体的に扱う内容を表した副題を設けてシラバスに記し、科目選択の参考となるようにしました。

2 科目群について

人間学の選択必修科目は「生きる」「考える」「つくる」の3科目群に分けられています。各科目群からそれぞれ1科目・2単位以上の修得が必要です。なお、低学年で集中的に履修することなく、高学年でも履修するように心がけてください。

3 所属学科提供科目以外での履修について

人間学は、所属学科の専門科目では学ぶことのできない幅広い知識や人間性を養うことを目的としていますので、自身の所属する学科から提供された科目ではなく、他学科から提供された科目を中心に履修することを推奨します。

2021(令和3)年度人間学 科目一覧

(1) 必修科目：1科目2単位

科目名称	配当年次	単位数	備考
人間探求学	1・前	2	

(2) 選択必修科目：各科目群よりそれぞれ1科目2単位以上

科目群	科目名称	配当年次	単位数	定員	所属学科	備考
生きる Live	自然のしくみB	1,2,3,4・後	2	100	環境生態	
	農業と環境A	1,2,3,4・後	2	100	生物資源	
	食と健康	1,2,3,4・前	2	90	生活栄養	注1
	人間と病気	1,2,3,4・前	2	100	人間看護	
	生命・人間・倫理	1,2,3,4・後	2	100	人間看護	人間看護学科は必修
	精神保健論	1,2,3,4・後	2	100	人間看護	注2
	キャリア形成への道B	2,3,4・前	2	100		キャリア教育関連
	キャリア形成への道C	2,3,4・後	2	50		キャリア教育関連
	経済学	1,2,3,4・後	2	100		キャリア教育関連
	憲法	1,2,3,4・後	2	100		キャリア教育関連
	Japan Studies VI	1,2,3,4・後	2	100		
アジアフィールド実習Ⅰ	1,2,3,4	2	100		注3	
アジアフィールド実習Ⅱ	2,3,4	2	100		注3	
考える Think	自然のしくみA	1,2,3,4・後	2	100	環境生態	
	名著から学ぶ環境問題	1,2,3,4・後	2	100	環境政策	
	都市・建築を考える	1,2,3,4・前	2	100	建築デザイン	
	生活の中にもみる力学	1,2,3,4・後	2	50	機械システム	注4 注8
	コンピュータとインターネット	1,2,3,4・後	2	100	機械システム	注4 注8
	地域と文化	1,2,3,4・前	2	100	地域文化	
	歴史と文化	1,2,3,4・後	2	100	地域文化	
	人間関係の科学A	1,2,3,4・前	2	100	人間関係	
	人間関係の科学B	1,2,3,4・後	2	100	人間関係	
	国際文化学概論	1,2,3,4・前	2	100	国際コミュ	注5
	差別と人権（同和問題）	1,2,3,4・前	2	100	人間看護	
	キャリア形成への道A	1,2,3,4・前	2	50		キャリア教育関連
	Japan Studies VII	1,2,3,4・前	2	100		
	World Societies I	1,2,3,4・前	2	100		
	World Societies II	1,2,3,4・後	2	100		
異文化理解A	1,2,3,4・前	2	100		注6	
異文化理解B	1,2,3,4・後	2	100		注6	
つくる Make	都市・建築をつくる	1,2,3,4・前	2	100	建築デザイン	
	農業と環境B	1,2,3,4・後	2	100	生物資源	
	暮らしの中の材料	1,2,3,4・前	2	100	材料科学	
	自然科学入門	1,2,3,4・前	2	100	材料科学	
	機械の再発見	1,2,3,4・後	2	100	機械システム	注8
	機械の役割と仕組み	1,2,3,4・前	2	100	機械システム	注4 注8
	技術の歴史	1,2,3,4・後	2	100	機械システム	注4 注8
	電子社会と人間	1,2,3,4・後	2	100	電子システム	
	電子システムの最先端	1,2,3,4・前	2	100	電子システム	注4
	比較住居論	1,2,3,4・前	2	100	生活デザイン	注7
	生活と健康	1,2,3,4・前	2	100	人間看護	
ジェンダー平等をつくる	1,2,3,4・前	2	100		キャリア教育関連	

注1 「食と健康」は、生活栄養学科の学生は自由科目となります。そのため、卒業要件に算入されません。

注2 「精神保健論」は、人間看護学科の学生は人間学科目ではなく必修の学科専門基礎科目とし

て卒業要件に算入されます。

- 注3 「アジア・フィールド実習Ⅰ」「アジア・フィールド実習Ⅱ」は、海外短期研修における特別講義です。ベトナム、タイ、バングラデシュ等アジア諸国の大学と提携し相手国の学生も参加する共通のプログラムとして、10日程度実施されます。詳細は別途お知らせします。
- 注4 「生活の中にみる力学」「コンピュータとインターネット」「機械の役割と仕組み」「技術の歴史」「電子システムの最先端」は、工学部の学生は自由科目となります。そのため、卒業要件に算入されません。
- 注5 「国際文化概論」は、国際コミュニケーション学科の学生は人間学科目ではなく、学科専門科目「比較宗教論」として卒業要件に算入されます。
- 注6 「異文化理解A」「異文化理解B」は、海外短期研修における特別講義です。Aは4月中旬、Bは10月中旬に授業日程等の詳細について発表されるとともに、参加者の募集が行われる予定です。成績評価は「認定」または「不可」となります。
- 注7 「比較居住論」は、生活デザイン学科、人間関係学科の学生は人間学科目ではなく学科専門科目として卒業要件に算入されます。
- 注8 各科目の開講年度

	2021年度 (令和3)	2022年度 (令和4)	2023年度 (令和5)	2024年度 (令和6)	2025年度 (令和7)
生活の中にみる力学			○	○	○
技術の歴史	○			○	○
機械の再発見	○	○			○
コンピュータとインターネット	○	○	○		
機械の役割と仕組み		○	○	○	

<その他留意事項>

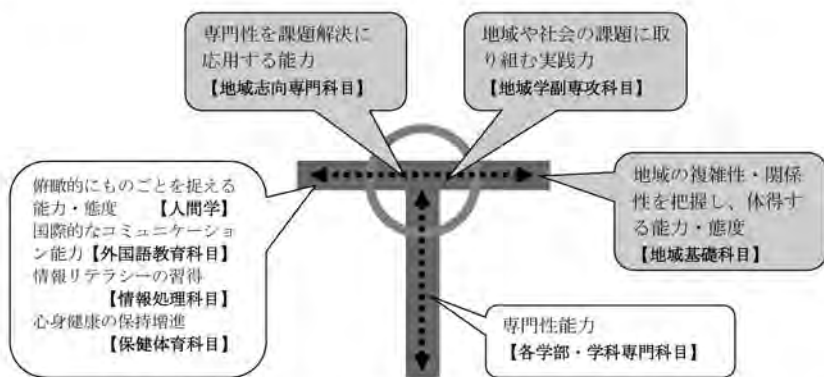
- ※ 定員以内であっても教室収容人数に限りがあるため、収容人数を超える履修希望者がいた場合は、受講者の調整を行うことがあります。履修登録については「(4)人間学・地域教育プログラムの履修登録(P, 6)」を参照してください。
- ※ 教育職員免許の必修となる科目で定員を超える登録があった場合は、免許取得希望者(前期「教職論」の履修登録を行った者)を優先します。また、免許取得希望者で定員を超えた場合は、定員に限らず免許取得希望者全員の履修を認めます。ただし、希望者は当該年度履修登録時に期限内に「資格取得申告書」により申告のあった者に限ります。
- ※ 学科専門科目として卒業要件に算入される科目で定員を超える登録があった場合は、当該学科の学生を優先します。
- ※ 編入学生のカリキュラムは、編入学年度のカリキュラムではなく、編入した年次の学生と同一のカリキュラムが適用されます。
- ※ 滋賀大学との単位互換協定に基づき、「滋賀大学での全学共通教養科目」を履修し、修得した単位は、本学の人間学として4単位まで卒業要件に算入できます。
- ※ 彦根3大学の単位互換協定に基づき、「彦根・湖東学」を履修し、修得した単位は、本学の人間学として卒業要件に算入できます。

Ⅲ 地域教育プログラム—地域基礎科目

地域教育プログラムの位置づけ

経済、社会、環境の大きな変化の中にあつて、これからの時代に生きる若い世代には、これまでの仕組みの延長線上に自らの能力を磨くだけでなく、変化する時代を生き抜き、持続可能な社会の創造を担う能力と資質を養うことが求められています。

滋賀県立大学では、この課題に応える未来志向の変革力を身につけた人材を育成するため、2015年度から教育カリキュラムを大幅に改め、これまでの、専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力を養うことに加えて、現実には生起する諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養うために、新たに地域教育プログラムを整備・体系化しました。



地域教育プログラムの位置づけ

(T字型の人材=未来志向の変革力を身につけた人材育成)

地域には、教室では学べないことがたくさんあります。地域の現場に飛び込み、生きた課題に触れることで、大学で獲得した知識や技術を生かすための「センス」を養うことができます。また、多くの地域の人との出逢いは、知識や技術の獲得につながるだけでなく、就職をはじめ、人生を豊かにする財産となります。

「地域教育プログラム」では、より豊かな学びの成果を得るために、大学と地域の様々な主体が連携・協働して学生の学びの場を構築し、地域の人や自然とのつながりを築くための基本的な作法やマナーから、地域を理解し、地域の人々や仲間を巻き込み、課題解決を実践するための技法などを身につけていきます。これらは、変わりゆく社会の中で、1人ひとりが輝くための必須の能力です。

身につける力

地域や社会の課題に対して既成概念や常識を打ち破り、新たな価値を創造し未来を拓く力「変革力」の修得を目指します。この変革力を以下の3つの側面から養います。

【コミュニケーション力】他者を理解し共感し豊かな対話を可能にする力

【構想力】地域の過去や現状に関する正しい認識の上で、あるべき未来の姿を描き出す力

【実践力】自ら率先して行動し、人をまきこみ、試行錯誤しながら構想を実現に導く力

地域教育プログラムの特徴 ～地域のサポーターが学びを支援～

様々な分野の教員と先輩、そして学生の育ちを応援してくれる地域のサポーターが連携して学びの場を提供します。多くの地域の人びとを教室に招き、また逆に地域に向向いて、生の地域課題や地域の魅力に触れ、対話やグループワーク、ワークショップや活動への参加など、アタマとカラダとココロの全部を動かす「アクティブラーニング」によって、生きた知と実践力を身に付けていきます。

地域教育プログラムがめざす変革力醸成のためのステップ

地域教育プログラムは、各学部学科の学びの中で、無理なく学ぶ事ができるよう配置されています。

専門的な学びにおいても「地域」を志向した科目（地域志向専門科目）が配置され、自らの専門と社会や地域とのつながりについて考察を深めることができます。卒業研究や卒業制作においてもそうしたつながりに配慮した発想を生かすことが可能となります。

地域教育プログラムでの学びと各学部学科の専門科目における学びの相乗効果で、専門的な能力と共に、コミュニケーション力、構想力、実践力に基づく変革力が身に付くのです。



地域教育プログラムのカリキュラムマップ

地域教育プログラムは、「基礎」「展開」「応用」で構成されています。「基礎」では、全1年次必修の「地域共生論」と、選択科目の「地域コミュニケーション論」をはじめとする地域基礎科目に指定された科目において基礎的な能力を養います。「展開」では、近江楽士（地域学）副専攻科目や各自の学部学科に設置された地域志向専門科目において、地域とのつながりを学ぶための理論や手法を修得します。「応用」では、地域共生センター教員等がアレンジした具体的な地域フィールドや地域課題をテーマに、自らの専門性を生かした実プロジェクトに参画することで、実践力を鍛えます。

近江楽士（地域学）副専攻は、これらの地域教育プログラム「基礎」「展開」「応用」の3段階を履修した証として、大学が称号「近江楽士」を授与し、その能力を保証する制度です。この副専攻には「コミュニティ・ネットワークコース」と「ソーシャル・アントレプレナーコース」の2コースがあります。3年次の履修登録の段階で「修了見込み」を発行できますので、就職活動などに活用することが可能です。必修科目（3科目6単位）および選択必修科目（1科目2単位以上を履修）を通じて、コミュニケーション力、構想力、実践力のスキルアップを図ります。

地域教育プログラム カリキュラムマップ

学習段階	コース別	授業科目名												
		1年			2年			3年			4年			
		前期	地域活動実践チーム(前・後)	後期	前期	地域活動実践チーム(前・後)	後期	前期	地域活動実践チーム(前・後)	後期	前期	地域活動実践チーム(前・後)	後期	
各学部各学科での卒業論文・制作														各学部・学科での卒業論文・卒業制作
インターンシップ履修科目(卒業必修)														■インターンシップE
応用	地域学副専攻	コア共通(1コースにつき1科目必修)												■地域デザイン(A(実践チーム(前期)), B(前期), C(後期), D(前期))
展開	地域志向専門科目													■地域志向専門科目 (各学部学科の専門科目であり、副専攻要件には含まない)
	地域学副専攻	ソーシャル・アントレプレナー(SEコース)			■ソーシャル・ビジネス基礎(SEコース必修)		■MBA入門			■ビジネス・プランニング				
		コミュニティ・ネットワーク(CN2-C)			■地域革新法(CN2コース必修)		■システム思考法			■問題解決デザイン論				
基礎	地域基礎科目(副専攻必修)				「■ソーシャル・ビジネス基礎」(SEコース必修)									
					■地域革新法(CN2コース必修)									
	地域基礎科目(群)				■地域共生論									
	地域基礎科目													■地域共生論

「地方創生、地域活性化」のエキスパートになる ～大学院：近江環人地域再生学座

学部学科における学びを生かし、地域や企業でより専門的にスキルを展開したい人、まちづくりや地域活性化のエキスパートを目指したい人、自ら起業をしたい人などを対象に、大学院に副専攻「近江環人地域再生学座」を設置しています。近江環人地域再生学座では、地域資源を活用した地域課題の解決や地域イノベーションを興し、新しい地域社会を切り拓く、イノベーターやコーディネーターとして地域診断からまちづくり活動の実践まで、地域における多様な活動や挑戦のための知識・手法を修得することができます。所定のプログラムを修了した学生を対象に、検定試験を実施し、合格した人に「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」の称号を授与します。社会人と院生と一緒に学び、各地の実践者とのネットワークを形成することができます。

地域教育プログラム関連科目

(1) 地域基礎科目

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群です。

地域基礎科目は全学共通科目ですので、全学部生は次の必修科目および選択必修科目を履修してください。

必修科目：	1科目2単位
<u>選択必修科目：</u>	<u>1科目2単位以上</u>
合計：	2科目4単位以上

① 必修科目：1科目2単位

科目名称	配当年次	単位数	備考
地域共生論	1・前	2	

② 選択必修科目：1科目2単位以上

科目名称	配当年次	単位数	定員	備考
地域コミュニケーション論	1・後	2		地域活動実践ゲーム(注1)に実施
地域診断法	1・後	2	60	副専攻(CN必修)
ソーシャル・ビジネス概論	1・後	2	100	副専攻(SE必修)
地域社会福祉論	1・後	2		
地域づくり人材論	1・後	2		
びわこ環境行政論	1,2,3,4・後	2		注2
多文化共生論	1・前	2		隔年開講(奇数年開講)
地域産業・企業から学ぶ 社長講義	1・後	2	150	
SDGsと滋賀のグローバル・ イノベーション	1・前	2	100	
近江の美	1・前	2	100	2021(令和3)年開講
彦根商工会議所寄附講義「世界 遺産のまちづくり・人づくり」	1・後	2	40	

(注1) 地域活動実践ゲームとは、全学的に地域活動の実践を促進する休業期間中の特定期間を言います。

具体的な期間は学年暦を参照してください。

(注2) 「びわこ環境行政論」は、環境政策・計画学科の2020(令和2)年度以降入学生は地域基礎科目ではなく、学科専門科目として卒業要件に算入されます。

(注3) 地域コミュニケーション論、地域診断法、MBA入門以外の選択必修科目を地域課題科目といたします。

(注4) 定員を超える登録があった場合は、受講者の選定を行います(詳細は「4 履修の登録」を参照のこと)。

(2) 地域志向専門科目 (詳細は各学部のシラバスを参照)

地域志向専門科目は、各学部学科の専門科目の中で地域志向の科目です。副専攻の履修要件ではありませんが、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨します。

学部	科目名称	学科	科目名称	学科
環境科学部	環境フィールドワークⅠ	全学科	地域システム論	政
	環境フィールドワークⅡ	全学科	地域調査法演習	政
	環境フィールドワークⅢ	全学科	地域環境計画	建
	理論生態学	態、資	都市・地域計画	建
	琵琶湖環境学	態	木匠塾	建
	環境政策デザイン論・演習	政	地域資源管理学	資
	ファンリテーション技法・演習	政	地域情報処理学	資
	環境心理学	政		
工学部	材料科学実験Ⅱ	材	電子システム工学実験Ⅳ	電
	機械システム工学概論	全学科		
人間文化学部	環境琵琶湖文化論実習	全学科	食品加工実習	業
	地域と空間	地	コミュニケーション論	関
	地域研究論	地	現代社会福祉論	関
	地域文化財論B	地	社会変動論	地、関
	近世近江論	地	社会問題の社会学	関
	生活デザイン学外演習	デ	生涯学習論	関
	考現学概論	デ	社会運動論	関
	道具デザイン演習Ⅲ	デ	日本社会論	地、関
	道具デザイン論	デ	発達支援論	関
	道具計画論	デ	多文化社会論A	国
人間看護学部	人間看護学概論	看	小児看護学概論	看
	在宅看護学概論	看	成人看護学概論	看
	公衆衛生看護学概論	看	母性看護学概論	看
	精神看護学概論	看	老年看護学概論	看

(3) 近江楽土(地域学)副専攻

「2 近江楽土(地域学)副専攻の履修について」を参照してください。

(4) 中期インターンシップ(インターンシップE)

「Ⅳ キャリア教育・ボランティア関連科目」の「2. インターンシップについて」を参照してください。

IV キャリア教育・ボランティア関連科目

1. キャリア教育科目・キャリア教育推奨科目について

みなさんが社会人として自立するためには、自身のキャリアを考えることが大切です。キャリアを築く重要な要素は学部学科における専門科目となります。

さらに、みなさん自身の人間形成や将来設計を描き、職業観を育成するとともに自己の職業適性を考え、職業意識を高める機会として、キャリア形成に有効な科目をキャリア教育科目として示しています。

また、専門科目の知識・技術を十分に生かすには、歴史、経済、法学などの基礎知識を身につけ、社会の現状と動きを俯瞰的に把握することが併せて必要であり、このためにキャリア教育推奨科目を示しています。

開講科目は下表の通りです。

■キャリア教育科目

科目名	単位数	配当年次	備考
キャリア形成への道 A	2	1,2,3,4・前	人間科目目、【副題】考えるための道具
キャリア形成への道 B	2	2,3,4・前	人間科目目、【副題】キャリアデザイン
キャリア形成への道 C	2	2,3,4・後	人間科目目、【副題】キャリアデザイン特講
インターンシップ A	1	3・前	卒業要件単位にならない
インターンシップ B	2	3・前	卒業要件単位にならない
インターンシップ E	3	3・前	卒業要件単位にならない。地域教育プログラム関連科目

■キャリア教育推奨科目

科目名	配当年次	備考
経済学	1,2,3,4・後	人間科目目
憲法	1,2,3,4・後	人間科目目
ジェンダー平等をつくる	1,2,3,4・前	人間科目目
地域産業・企業から学ぶ社長講義	1,2,3,4・後	地域教育プログラム関連科目
社会学概論	1・前	人間文化学部複数学科共通専門科目
西洋史	1・後	人間文化学部国際コミュニケーション学科専門科目
日本史概説	1・前	人間文化学部地域文化学科専門科目

2. インターンシップについて

みなさんの社会的・職業的自立に向けたキャリア形成意識を涵養するため、本学ではインターンシップを実施しています。

- 1) インターンシップとは、学生が自らの専攻や将来希望する職業に関連した職場で業務を体験することです。本学では、学生が企業や団体において就業体験することを通して、勤労観や社会観を育み、自己の適性や志向に照らして進路を考え、キャリア意識を高めることを目的に、単位認定型のインターンシッププログラムを実施しています。
- 2) インターンシップの基本理念
 - ① 本学の教育理念「人が育つ」に基づき、学生の「学習」と「社会人としての成長」を促す。
 - ② 社会体験を通じて、学問への社会的要請と意義を理解する。
 - ③ 社会や職業における諸課題を解決する実践的能力を身につけ、総合的な人間力を高める。
- 3) インターンシップの基本方針
 - ① 専門知識の有用性や学習を意識づける契機とする。
 - ② ガイダンスを経て、事前研修・就業体験・事後研修を含むものとし、学生のキャリア形成を促進する教学プログラムの一環である。
- 4) インターンシップの種類

大学と受入企業・団体が、協定書(覚書)を締結して行う「協定型インターンシップ」を基本とする。

ほかに、企業・団体が独自に公募するインターンシップに学生が自ら応募する「自由応募型インターンシップ」、学部・学科からの紹介で専門的分野の「学部学科・研究科等専門型インターンシップ」がある。
- 5) 単位認定されるインターンシップの内容
 - ① 対象：全学部全学科の原則として3年次
 - ② 実施時期：4月のガイダンス、6月～7月事前研修、夏季休業期間に就業体験、10月事後研修(報告会)
 - ③ 授業科目名：「インターンシップA」(就業体験が5日以上9日間である。) 1単位
 「インターンシップB」(就業体験が10日以上14日間である。) 2単位
 「インターンシップE」(就業体験が15日間以上である。) 3単位
 *自由科目とし、卒業単位には加えない。
 - ③ 履修登録：受入先決定後行うのでWeb登録は不要。インターンシップガイダンスで説明する。
 - ④ 保険の加入義務：実習中の事故に備え、全員、賠償責任保険に加入する。
 - ⑤ 成績評価：就業体験に原則として全て出席していることを前提に「事前学習レポート」「実習日誌」「受入担当者報告書(評価書)」「報告書レポート」の4点を総合的に評価する。
 - ⑥ その他：実習にかかる報酬等は支払われない(無報酬である)。交通費、食費は自己負担である。ただし、受入企業・団体が交通費等を補助する場合は、この限りではない。
 - ⑦ 注意：インターンシップに申込をした後は、特別な事情がない限り辞退できない。

滋賀県立大学インターンシップの流れ

	学生	大学	受入先(企業・団体)
2月～3月	受入問合せ・有無、要件の確認 【大学⇄受入先】		
4月下旬	ガイダンス・体験者の発表		
	応募票・ガイダンスブック配布【学生→大学】		
5月～6月	応募票受付、申込先の決定(必要に応じて選考)【学生⇄大学】		
	申込手続き 5月～6月(順次)		
	申込書(履歴書)・学長への同意書・賠償責任保険確認書(手続)・誓約書 事前レポートの提出 【学生→大学】		
			受入の依頼 5月～6月(順次)
			依頼文書・申込書・誓約書・覚書(協定書)・事前レポート 実習プログラム(様式)の送付【大学→受入先】
			受入の承諾(選考の場合も)
		承諾書・実習プログラム・協定書受領【大学→受入先】	
実習プログラム通知 【学生→大学】			
7月	事前研修Ⅰ(マナー講座) 6月下旬～7月上旬		
	事前研修Ⅱ(就業体験心得・手続き等確認)7月下旬		(場合によって打合せ)【受入先と学生】
	実習日誌・その他文書等配布【学生→大学】		
8月～9月	インターンシップ参加	受入先訪問	インターンシップ受入
	実習日誌の記録	就業体験参観等	就業体験指導
	実習報告レポート・パワーポイントの提出【学生→大学】		
	評価書・実習日誌の送付【大学→受入先】		
10月下旬	報告会・グループディスカッション【参加学生全員】		
11月	インターンシップ単位認定		

インターンシップ参加者は、次の①～④に必ず出席すること

- ① ガイダンス 数回実施 (いずれか1回出席)
- ② 事前研修Ⅰ(マナー講座等) 2回実施 (いずれか1回出席)
- ③ 事前研修Ⅱ 1回実施
- ④ 報告会 3回実施 (いずれか1回出席)

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、変更する場合があります。

3. ボランティア関連科目について

2011（平成23）年度から学生のボランティア活動についても、下記の要件で単位を認定しています。単位の認定を希望する場合、教務課まで相談に来てください。

- 1) 科目名：「ボランティア活動」
- 2) 単位数：1単位（自由科目とし、卒業要件単位には含まれません。）
- 3) 成績評価：「合格・不合格」
- 4) 活動対象（※1）：災害救助法が適用される災害に対する復興支援活動
学校や教育委員会から要請を受けた学校ボランティア活動
その他、全学共通教育推進機構長が認めるボランティア活動
- 5) 活動期間：30時間以上のボランティア活動（複数期間の通算可）
- 6) 休業期間中以外の取扱い：不可（休業期間中のみを対象とする。（※2））

※1 有償ボランティアは除く。

※2 ただし、授業を欠席することなくボランティア活動を行った場合は、学業期間中であっても認めることとします。

単位認定にあたっては、下記の申請、報告が必要となります。

1. 事前届（単位認定申請書）
2. ボランティア活動の現認が確認できる現認証明書
3. 事後報告（活動レポート）
※活動終了後3週間までに提出すること

V 資格関連科目

教育職員免許、学芸員、保健師受験資格等の資格取得のために必要となる科目です。卒業単位には算定されません。

資格関連科目の詳細については、第3章を参照してください。

VI 日本語・文化関連科目 (Japanese/culture related subjects)

日本語・文化関連科目は、交換留学生等を対象とする科目です。
Japanese/culture related subjects are mainly for exchange students.

(1) 日本語基礎 (Basic Japanese)

初級～中級の日本語を学ぶ交換留学生を主な対象に、日本語基礎（初級）ⅠA・B～日本語基礎（中級）ⅢA・Bを開講します。

学部の私費外国人留学生で、日本語レベルが日本語能力試験（JLPT）のN2レベル以下の学生は、補講として一部科目を履修出来る場合がありますが、卒業要件単位に算入することはできません。

"Japanese (beginner) ⅠA・B"～"Japanese (intermediate) ⅢA・B" are mainly for exchange students who study beginner to intermediate level Japanese.

Regular international students whose JLPT scores are N2 or lower may be allowed to attend those classes, on the condition that obtained credits will not be included in those required for course completion.

科目名 Subject	単位数 credits	年次 asgnd yr	期間 semester
日本語基礎（初級）ⅠA・B Japanese (beginner) ⅠA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初級）ⅡA・B Japanese (beginner) ⅡA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初級）ⅢA・B Japanese (beginner) ⅢA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅠA・B Japanese (low-intermediate) ⅠA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅡA・B Japanese (low-intermediate) ⅡA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅢA・B Japanese (low-intermediate) ⅢA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（初中級）ⅣA・B Japanese (low-intermediate) ⅣA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅠA・B Japanese (intermediate) ⅠA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅡA・B Japanese (intermediate) ⅡA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall
日本語基礎（中級）ⅢA・B Japanese (intermediate) ⅢA・B	各1 1 each	1 1	各前・後期 spring/fall

(2) Contemporary Japanese Culture

(3) Intensive Japanese Language

(4) Intensive Japanese Culture

(5) Japanese Culture and Society in Community

(6) Japan Studies I : Influences of Geography on Culture & Society

(7) Japan Studies II : Japanese politics and diplomacy I

(8) Japan Studies III : Japanese society and culture I

(9) Japan Studies IV : Japanese politics and diplomacy II

(10) Japan Studies V : Japanese society and culture II

(11) Independent Study I

(12) Independent Study II

2 近江楽士（地域学）副専攻の履修について

1. 近江楽士（地域学）副専攻とは

近江楽士（地域学）副専攻とは、地域基礎科目の履修を通して習得した基礎的な知識・能力を向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻（各学科）に所属しながら履修することができる全学共通の副専攻課程です。

近江楽士（地域学）副専攻の修了要件を満たした学生には、主専攻の修了時に、卒業証書・学位記と合わせて「近江楽士」の称号を授与します。

近江楽士（地域学）副専攻ではコミュニティ・ネットワーク（CN）コースとソーシャル・アントレプレナー（SE）コースの2コースを設置しており、卒業後の進路目標や各人の志向に合わせて、いずれかのコースを選択することができます。また、更に意欲のある学生は、両方のコースを履修することができます。

コース別	育成人材イメージ	付与される称号
コミュニティ・ネットワーク（CN）コース	<ul style="list-style-type: none"> 地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取り組みをデザインする人材。 行政やNPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材。 	近江楽士（コミュニティ・ネットワーク）
ソーシャル・アントレプレナー（SE）コース	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャル・ビジネスやビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家的人材。 起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材。 	近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー）

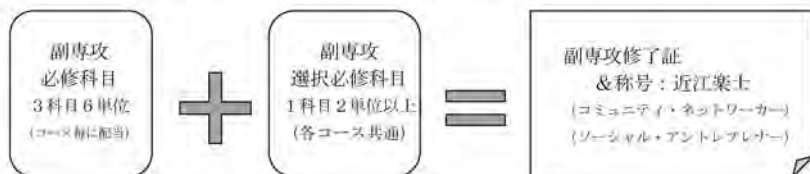
近江楽士（地域学）副専攻の履修を希望する学生は、前期の履修登録期間にUSP6にて申請を行ってください。

2. 近江楽士（地域学）副専攻の教育目標

本学は、開学以来、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を掲げ、地域の様々な主体（住民、団体、企業、行政等）との連携による様々な教育活動を実践してきました。

近江楽士（地域学）副専攻では、この特徴を生かした「地域教育プログラム」の一環として、「変革力」を実践できるノウハウを学ぶカリキュラムを導入しています。これらの科目では、地域の具体的な課題をテーマに、地域の様々な主体との連携のもとに、地域で主体的に活動できる実践力を養います。近江楽士（地域学）副専攻の教育目標（称号授与方針）は以下の通りです。

- 地域やものごとの特性について、情報を収集し、客観的および複眼的な視点で分析し、その本質を見極め判断する能力を身につける。（態度・倫理）（技能・技術）
- 地域や社会の課題を解決するために用いる様々な手法に関する知識を習得し、それらを活用する技術を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
- 地域や社会の未来のありようを見据え、旧来の固定観念や既成事実にとらわれない柔軟な思考と発想を有した構想力を身につける。（思考・判断）
- 地域や社会の課題解決を実践するノウハウを備え、実際の現場において様々な主体と連携し、主体的に活動に取り組み、課題解決を実践できる実践力を身につける。（汎用的能力）



3. 近江楽士（地域学）副専攻の修了要件

コース毎に配当・指定する「必修科目」3科目6単位と両コース共通の「選択必修科目」1科目2単位以上を修得し、所属する学科の修了要件を満たすと、副専攻の修了が認められます。

副専攻修了者には、履修したコースに応じてそれぞれ「近江楽士（コミュニティ・ネットワークカー：CN）」または「近江楽士（ソーシャル・アントレプレナー：SE）」の称号を授与します。

科目名	必修・選択必修の別	配当年次	単位数	定員	称号授与方針との対応*			
					A	B	C	D
地域診断法 ^{※2}	必修（CN）	1・後	2	60	◎		○	
システム思考法	必修（CN）	2・前	2	40		◎	○	
問題解決デザイン論	必修（CN）	2・後	2			○	◎	
ソーシャル・ビジネス概論 ^{※2}	必修（SE）	1・後	2	100	◎		○	
MBA入門	必修（SE）	2・前	2	40		○	◎	
ビジネス・プランニング	必修（SE）	2・後	2	40	○	◎		
地域デザインA	選択必修（CN推奨）	2,3,4・前	2					◎
地域デザインB	選択必修（CN推奨）	2,3,4・前	2					◎
地域デザインC	選択必修（SE推奨）	2,3,4・後	2					◎
地域デザインD	選択必修（SE推奨）	2,3,4・前	2					◎

※1 コミュニティ・ネットワークカー（CN）コースは地域デザインAまたはB、ソーシャル・アントレプレナー（SE）コースは地域デザインBまたはDの選択科目を履修することを「推奨」します。

コミュニティ・ネットワークカーコースおよびソーシャル・アントレプレナーコースの両方の履修を希望する場合は、それぞれの要件を満たすことが必要となります。そのため、地域デザインA、B、C、Dの履修においては、少なくとも2科目の履修が求められることに注意してください。

※2 「地域診断法」「ソーシャル・ビジネス概論」は地域基礎科目として卒業要件単位に算入され、C/A/F制の対象となります。そのほかの科目は自由科目として取り扱い、卒業要件単位に算入されません。

※3 称号授与方針との対応、は前記2「近江楽士（地域学）副専攻の教育目標」に記載のA～Dの教育目標（称号授与方針）との対応を示し、◎は強く対応するものを表します。

4. 身につける力

（必修科目）

「コミュニティ・ネットワークカーコース」必修科目は、地域診断という手法を用いて物事の本質を見るための見方、考え方を学ぶ「地域診断法」、課題解決のための様々な考え方や手法を身につける「システム思考法」、そしてイノベーションを起こすために活用されているデザインシンキング（デザイン思考）の手法を学ぶ「問題解決デザイン論」の3つの科目からなり、「地域」を題材に、具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいきます。

「ソーシャル・アントレプレナーコース」必修科目は、社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスについて概要を学ぶ「ソーシャル・ビジネス概論」、企業や組織のマネジメント、ビジネスに関する知識とノウハウをビジネスゲームや経営者との対話を通じて学ぶ「MBA入門」、そして、地域における「起業」や企業における「第2創業」、あるいはそれらを支援する立場を視野に入れ、具体的な事業企画のノウハウを学ぶ「ビジネス・プランニング」の3つの科目からなり、ビジネスの手法を用いた地域課題解決や将来の起業あるいは地域に根差した新たななりわい創出に必要な知識やノウハウ、心構えを身につけます。

（選択必修科目）

2コース共通の選択必修科目「地域デザインA、B、C、D」は、様々な地域で活動する地域共生センター教員と産官学の第一線で活動する「地域人」等地域の多彩な協力者がスクラムを組む指導体制と、本学が地域と共同で活動を推進する各地の拠点を活用した実践活動への参画を通じた学びとなります。必修科目で学んだノウハウをもとに、地域の多様な人々との対話や連携を体験することは、自分自身の能力のブラッシュアップを図るうえで決定的に重要な機会となります。そこには「滋賀県立大学の学生だから学べる」実践体験やネットワークの形成があります。このような科目の構成により、近江楽士（地域学）副専攻のプログラムでは、地域課題を実践的に解決できる、未来志向の変革力を身につけた人材を育成します。

3 環境科学部科目履修の手引

1. 環境科学部の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

(1) 学位授与方針

環境科学部は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を以下のとおり定めます。

- A 環境問題を多角的に俯瞰するための幅広い知識と倫理観を身につけ、自然科学・社会科学の両側面から理解し判断できる。(知識・理解) (思考・判断)
- B 自らの専門分野における環境問題の解決、あるいは自然環境と調和した人間社会を創造するための高度な専門知識・技術を有している。(知識・理解) (技術・技能)
- C 直面する環境問題に関心を持ち、問題解決に向けて主体的・協同的に取り組むことができる。(意欲・関心) (態度)
- D 専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに他者と論理的に議論できる。(技術・技能) (思考・判断)

(2) 教育課程の編成・実施方針

環境科学部は、琵琶湖とその周辺を主なフィールドとした実践的な環境教育を基幹とし、以下の方針に沿った教育カリキュラムを編成しています。

- A <人間学・地域基礎・健康体力科学科目>： 人間・環境・社会・文化について多面的に理解し、論理的・倫理的・主体的に思考判断できる能力を養う。
- B <外国語教育・情報処理科目>： 外国語によるコミュニケーション能力、読解力、および必要な情報を入手・発信する能力を養う。
- C <学部共通基礎科目・複数学科共通科目>： 自然科学と社会科学の両面から幅広い知識を身につけることで、多様で複雑な環境問題に対して自らの見解を柔軟に形成できる能力を養う。
- D <学科専門科目・複数学科共通科目>： 自らの専門分野における環境問題に関心を持ち、問題の発見と解決あるいは自然環境と調和した人間社会の創造に必要となる専門知識、技術、実践力等を身につける。また、専門分野に関する調査研究の内容や成果等を、口頭発表、論文作成などの手法を用いて表現するとともに、他者と論理的に議論できる能力を養成する。

2. 環境科学部共通科目の履修について

- ① 環境フィールドワーク (FW) は、1年次にFWⅠ、2年次にFWⅡ、3年次にFWⅢがあります。これらのうちFWⅠとFWⅡは必修科目で、FWⅢは選択科目です。FWⅢはテーマにより実施時期が異なるので、通年講義で3単位とします。
- ② 専門科目は、学部共通基礎科目、複数学科共通科目、学科専門科目からなっています。これらの科目の履修の仕方については各学科の指示にしたがってください。
- ③ 専門科目の中には同じ科目名の後にⅠ、Ⅱを付した科目があります。これらはそれぞれ独立した科目ですが、できるだけⅠを付した科目から履修し、その後Ⅱを付した科目を履修するようにしてください。
- ④ 基礎数学Ⅰ、Ⅱは、高校で数学Ⅲを履修していない1回生を対象にしています。高校で両科目を履修したものは、履修するに及びません。
- ⑤ 3回生までに単位履修が十分でないときは、4年次に卒業研究の単位履修を認めないことがあります。その条件は、各学科で決められています。

3. 環境生態学科専門科目の履修について

(1) 環境生態学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■教育目標

環境生態学科の学生には、授業を通して、実際の環境での問題を発見し、その対処法を提案することを求めます。環境問題を発見して解析する能力を養うため、幅広い分野で少人数制の先鋭的な授業を展開しています。我々のカリキュラムは、従来の基礎科学のうち環境問題解決に特に必要な基礎分野を統合して学習することから始まります。その上で、各分野で特に重要な事項に関する実習・実験科目を履修します。この段階では、実際の野外環境を題材として学習します。4年生では一年かけて卒業研究にとりくみます。学生は滋賀県の恵まれたフィールドにじかに触れ、環境調査への即戦力的実力を身に付けます。

■学位授与方針

環境生態学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で、環境生態学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる。(知識・理解)
- B. 外国語で意思疎通し、与えられた課題について情報を入手し発信する基礎能力を養う。(技術・技能)
- C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得する。(知識・理解)
- D. 様々な生態系の構造と機能、地域の課題について幅広い知識を身につけ、それらについて自然科学(物理学・化学・生物学・地球科学)的方法論を用いて理解できる。(知識・理解)
- E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに、その保全修復に積極的に関わる態度を持つ。(知識・理解) (興味・関心) (思考・判断)
- F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定、解析に必要な技術を修得する。(技術・技能)
- G. 環境問題、地域課題の解決に対し、専門知識に基づいて自らの見解を形成できる。(知識・理解) (興味・関心) (思考・判断)
- H. 調査結果等を口頭発表、論文作成等の適切な手法を用いて表現できる。(技術・技能) (思考・判断) (興味・関心)
- I. 他者と論理的に議論できる。(技術・技能) (思考・判断) (興味・関心)

■教育課程の編成・実施方針

環境生態学科では、実際の環境問題を発見し、その対処法を提案する能力を培うことを目的として、必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。科目履修のモデルとして構造・機能・保全修復科学の科目について陸域環境保全コースおよび水域環境保全コースを設置し、専門化を行います。

<人間学・健康体力科学・専門科目>

- A. 人間・社会・環境の関係について多様な側面から理解できる能力を養うための科目を配置している。

<外国語教育科目・専門科目>

- B. 外国語で意思疎通し、与えられた課題について情報を入力し発信する基礎能力を養うための科目を配置している。

<情報処理・専門科目>

- C. 生態系の構造と機能を探求するのに必要な科学的基礎力を修得するための科目を配置している。

<専門科目・地域志向専門科目>

- D. 様々な生態系の構造と機能について幅広い知識を身につけ、それらを自然科学（物理学・化学・生物学・地球科学）的方法論を用いて理解できる能力を修得するための科目を配置している。

<専門科目>

- E. 生態系の保全と修復に関する知識を身につけるとともに、その保全修復に積極的に関わる態度を養うための科目を配置している。

<専門科目>

- F. 物理的・化学的・生物的・地球科学的環境因子の調査測定、解析に必要な技術を修得するための科目を配置している。

<人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目>

- G. 環境問題に対し、自らの見解を形成できる能力を養うための科目を配置している。

<人間学・専門科目・地域基礎教育・地域志向専門科目>

- H. 調査結果等を口頭発表、論文作成等の適切な手法を用いて表現できる能力を身につけるための科目を配置している。

<人間学・専門科目>

- I. 他者と論理的に議論できる能力を身につけるための科目を配置している。

区分	授業科目名	学位授与方針に対する関与の程度									
		A 知識・理解	B 技術・技能	C 知識・理解	D 知識・理解	E 思考・判断	F 技術・技能	G 知識・理解	H 技術・技能、思考・判断、興味・関心	I 技術・技能、思考・判断、興味・関心	
学部共通基礎科目	環境フィールドワークⅠ	○		○			◎		◎	○	
	環境フィールドワークⅡ	○		○			◎		◎	○	
	環境フィールドワークⅢ	○		○			◎		◎	○	
	環境科学概論Ⅰ	○		◎	○						
	環境科学概論Ⅱ	○		○							
	基礎数学Ⅰ						◎				
	基礎数学Ⅱ						◎				
	環境経済学入門	○									
	環境監査	○									
	環境財政	○									
理数学科共通科目	環境政策学	◎						○			
	環境アセスメント	◎						○			
	環境数学Ⅰ・演習						◎				
	環境数学Ⅱ・演習						◎				
	環境物理学Ⅰ			◎							
	地球科学Ⅰ			◎							
	環境統計解析学								○		
	環境地下水学			◎	○						
	水環境政策論	◎						○			
	測量学			○			◎				
	環境水文学			◎	○						
	環境法	◎						○			
	地域環境政策論	◎						○			
	環境解析学・同実験			◎			◎		○		
	地球環境システム論			◎	○						
	湖沼環境学			◎	○						
	土壌環境化学			○							
	農業環境学			○							
	陸域生態系保全修復論					◎		◎			
	地球環境化学			◎	◎						
	理論生態学					◎	○				
	環境微生物学					◎					
	集水域生態系保全修復論					◎		◎			
	学科専門科目	琵琶湖環境学			◎	○					
		環境変遷学			◎						
		環境生物学Ⅰ			◎						
		環境生物学Ⅱ			◎						
		環境生物学実験			○			◎			
		環境物理学Ⅱ			◎						
		環境物理学実験			○			◎			
環境化学Ⅰ				◎							
環境化学Ⅱ				◎							
環境化学実験				○			◎				
地球科学Ⅱ				◎							
地球科学実験				○			◎				
森林環境学				◎	○						
遺伝学				◎	○						
海洋環境学				◎	○						
大気環境学				◎	○						
集水域環境学				◎	○						
集水域環境学・同実験							◎		○		
生物資源統計学Ⅰ							◎				
動物生態学				◎							
環境疫学				◎	◎						
環境汚染システム論				◎	◎						
微生物機能論				◎	◎						
陸域環境学・同実験									○		
水域環境学・同実験									○		
分子生物学				○	○						
環境毒性学				◎	◎						
陸域物質循環論				◎	◎						
環境リスク解析法							◎	○			
水域生態系保全修復論							◎		◎		
科学作文								◎			
環境生態学特別実習						◎	○	○			
環境学野外実習Ⅰ				○			◎				
環境学野外実習Ⅱ				○			◎				
環境学野外実習Ⅲ				○			◎				
科学英語Ⅰ		◎									
科学英語Ⅱ		◎									
環境生態学基礎演習			○					◎	◎		
環境生態学演習Ⅰ								◎	◎		
環境生態学演習Ⅱ								◎	◎		
卒業研究Ⅰ				○	○	◎	○	◎	◎		
卒業研究Ⅱ				○	○	◎	○	◎	◎		

環境生態学科 カリキュラムツリー

学位授与 方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間概論学 健康共生論	健康体力科学Ⅰ	健康体力科学Ⅱ					
	人間学科目							
B	第一外国語ⅠA 第一外国語ⅠB 第二外国語ⅠA 第二外国語ⅠB	第一外国語ⅡA 第一外国語ⅡB 第二外国語ⅡA 第二外国語ⅡB	第一外国語ⅢA 第一外国語ⅢB 第二外国語ⅢA 第二外国語ⅢB 実用英語講習ⅠA	第一外国語ⅣA 第一外国語ⅣB 第二外国語ⅣA 第二外国語ⅣB 実用英語講習ⅠB	科学英語Ⅰ	科学英語Ⅱ		
	基礎数学Ⅰ 環境数学Ⅰ-演習 環境化学Ⅰ 環境生物学実験	基礎数学Ⅱ 環境数学Ⅱ-演習 環境化学実験 環境物理学Ⅰ 環境生物学Ⅰ 環境交通学	環境統計解析学 環境物理学Ⅱ 環境物理学実験 環境物理学Ⅲ 地球科学Ⅰ 地球科学実験					
D	環境フィールドワークⅠ 環境科学概論Ⅰ	環境生物学基礎実習 環境科学概論Ⅱ	環境フィールドワークⅡ 海洋環境学 森林環境学 環境地下水学 淡水環境学 森林環境学 大気環境学	環境フィールドワークⅢ 環境生態学 環境動物論 環境汚染システム論 地球環境化学 環境疫学 環境物理学概論	環境フィールドワークⅣ 環境生態学特別実習	環境生態学		
					環境微生物学 環境微生物学特別実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習	環境微生物学特別実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習 環境微生物学実習		
F			分子環境科学-演習 環境解析学-演習 環境科学-演習 環境科学-演習 環境科学-演習	環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習				
	環境学野外実習Ⅰ	環境学野外実習Ⅱ						
G	健康共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生物学基礎実習 環境フィールドワークⅡ	環境フィールドワークⅢ	環境フィールドワークⅣ	環境生態学特別実習	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ	
	人間概論学 健康共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生物学基礎実習 環境フィールドワークⅡ	分子環境科学-演習 環境解析学-演習 環境科学-演習 環境科学-演習	環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習	環境生態学特別実習 卒業研究Ⅰ	環境生態学特別実習 卒業研究Ⅱ		
I	人間概論学 健康共生論 環境フィールドワークⅠ	環境生物学基礎実習 環境フィールドワークⅡ	分子環境科学-演習 環境解析学-演習 環境科学-演習 環境科学-演習	環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習 環境生態学特別実習	環境生態学特別実習 卒業研究Ⅰ	環境生態学特別実習 卒業研究Ⅱ		
			地球科学Ⅱ	環境統計学Ⅱ 環境化学Ⅱ 環境生物学Ⅱ				

※1: 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。
 ※2: トイック語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、初級英語(留学生のみの)、英語(留学生のみの)、日本語(留学生のみの)から選択必修。
 ただし、モンゴル語については前期に1か1Bか、後期に1Bか2Bが必修となります。

環境科学部

(2) 環境生態学科卒業要件

[2021 (令和3) 年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30 単位以上) 必修18 単位、選択必修12 単位以上

① 共通基礎科目 18 単位以上

第一外国語 ※ 英語 (I A～IV B) 8 単位(必修)

第二外国語 ※ ドイツ語 (I A～II B)、フランス語 (I A～II B)、中国語 (I A～II B)、朝鮮語 (I A～II B) のうちから 4 単位以上 (選択必修)
ただし、「第二外国語 II A・II B」は「実用英語演習 I A・I B」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4 単位

保健体育 健康・体力科学 I・II 2 単位

② 人間学 8 単位以上 (「人間探求学」は必修)

③ 地域基礎 4 単位以上 (「地域共生論」は必修)

2 専門科目 (計 100 単位以上) 必修56 単位、選択44 単位以上

① 必修 年次別配当表に指定する科目 56 単位

② 選択 年次別配当表に指定する科目から 44 単位以上

ただし、全学共通科目で 30 単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10 単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位の算入することができる。(学則第 38 条)

合計 130 単位以上

【卒業研究等履修要件】

合計 100 単位以上、110 単位以上の取得が望ましい。

【卒業研究審査基準】

1 卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的の妥当性
- (2) 研究方法の的確性・獨創性
- (3) 研究内容の新規性・学術性・社会性
- (4) 研究内容の論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
- (5) 卒業論文の論理性

2 卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 上記 1 ならびに 2 による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

(3)環境生態学科年次別配当表

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
2 専門科目						
2.1 学部共通基礎科目						
環境フィールドワークⅠ	3	○				必修
環境フィールドワークⅡ	3		○			必修
環境フィールドワークⅢ	3			○	○	選択
環境科学概論Ⅰ	2	○				必修
環境科学概論Ⅱ	2	○				必修
基礎数学Ⅰ	2	○				選択
基礎数学Ⅱ	2	○				選択
2.2 複数学科共通科目						
環境経済学入門	2	○				選択
環境監査	2			○		選択
環境財政	2			○		選択
環境政策学	2			○		選択
環境アセスメント	2			○		選択
環境数学Ⅰ・演習	3	○				選択
環境数学Ⅱ・演習	3	○				選択
環境物理学Ⅰ	2	○				必修
地球科学Ⅰ	2		○			必修
環境統計解析学	2		○			必修
環境地下水学	2		○			選択
水環境政策論	2			○		選択
測量学	2			○		選択
環境水文学	2		○			選択
環境法	2			○		選択
地域環境政策論	2		○			選択
環境解析学・同実験	4		○			必修
地球環境システム論	2		○			選択
湖沼環境学	2		○			選択
土壌環境化学	2			○		選択
農薬環境学	2			○		選択
陸域生態系保全修復論	2				○	選択
地球環境化学	2			○		選択
理論生態学	2			○		選択
環境微生物学	2			○		選択
集水域生態系保全修復論	2				○	選択

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
2.3 学科専門科目						
琵琶湖環境学	2	○				必修
環境変遷学	2	○				必修
環境生物学Ⅰ	2	○				必修
環境生物学Ⅱ	2		○			選択
環境生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	○				選択
環境物理学Ⅱ	2			○		選択
環境物理学実験(コンピュータ 活用を含む)	2		○			選択
環境化学Ⅰ	2	○				必修
環境化学Ⅱ	2			○		選択
環境化学実験(コンピュータ活 用を含む)	2	○				選択
地球科学Ⅱ	2		○			選択
地球科学実験(コンピュータ活 用を含む)	2		○			選択
森林環境学	2		○			選択
遺伝学	2		○			選択
海洋環境学	2		○			選択
大気環境学	2			○		選択
集水域環境学	2			○		選択
集水域環境学・同実験	4			○		必修
生物資源統計学Ⅰ	2		○			選択
動物生態学	2			○		選択
環境疫学	2				○	選択
環境汚染システム論	2				○	選択
微生物機能論	2				○	選択
陸域環境学・同実験	4				○	必修
水域環境学・同実験	4				○	必修
分子生物学	2		○			選択
環境毒性学	2				○	選択
陸域物質循環論	2				○	選択
環境リスク解析法	2				○	選択
水域生態系保全修復論	2				○	選択
科学作文	2					○ 必修
環境生態学特別実習	3				○	必修
環境学野外実習Ⅰ	1	○				選択
環境学野外実習Ⅱ	1		○			選択
環境学野外実習Ⅲ	1			○		選択
科学英語Ⅰ	1				○	必修
科学英語Ⅱ	1				○	必修
環境生態学基礎演習	1	○				必修
環境生態学演習Ⅰ	1				○ 〇	必修
環境生態学演習Ⅱ	1				○ 〇	必修
卒業研究Ⅰ	3				○ 〇	必修
卒業研究Ⅱ	3				○ 〇	必修

環境生態学科・専門科目履修モデル

※構造科学と機能科学の選択科目に関しては、陸域環境保全コースまたは水域環境保全コースの科目を一通り履修することが推奨されます。関心領域や卒業後の進路をよく考えてコースを選択してください（他コースの推奨科目も履修できます）。

<学部共通基礎科目>

太字…必修科目，細字…選択科目

	学年	学期			
<学部共通基礎>	1	前	環境科学概論Ⅰ	環境フィールドワークⅠ	基礎数学Ⅰ
		後	環境科学概論Ⅱ	基礎数学Ⅱ	
	2	前	環境フィールドワークⅡ		
		3	前・後	環境フィールドワークⅢ	

<複数学科共通科目および学科専門科目>

	学年	学期			
<学科基礎>	1	前	環境化学Ⅰ	環境生物学実験	環境数学Ⅰ・演習
		後	環境物理学Ⅰ	環境生物学Ⅰ	琵琶湖環境学
	2	前	環境変遷学	環境生態学基礎演習	環境化学実験
			環境数学Ⅱ・演習		
		後	地球科学Ⅰ	地球科学Ⅱ	環境物理学実験
			地球科学実験		
3	後	環境生物学Ⅱ	環境物理学Ⅱ	環境化学Ⅱ	
	前後	科学英語Ⅰ			
			科学英語Ⅱ		
			陸域環境保全コース 推奨科目	両コース共通	水域環境保全コース 推奨科目
<構造科学>	2	前後	森林環境学 大気環境学	環境地下水学 集水域環境学	海洋環境学 湖沼環境学
<機能科学>	3	前	環境校学	環境汚染システム論 地球環境化学	微生物機能論
	3	後	陸域物質循環論		環境毒性学
<保全修復科学>	3	前	理論生態学	環境リスク解析法	環境微生物学
	3	後	陸域生態系保全修復論	集水域生態系保全修復論	水域生態系保全修復論
<解析科学>	2	前後	環境統計解析学	集水域環境学・同実験 水域環境学・同実験	
	3	前後	環境解析学・同実験		
	3	前後	陸域環境学・同実験		
	4	後	科学作文		
<野外科学>	1	前	環境学野外実習Ⅰ		
	2	前	環境学野外実習Ⅱ		
	3	前	環境学野外実習Ⅲ		
<卒業研究>	3	後	環境生態学特別実習		
	4	前	環境生態学演習Ⅰ	卒業研究Ⅰ	
	4	後	環境生態学演習Ⅱ	卒業研究Ⅱ	

4. 環境政策・計画学科専門科目の履修について

(1) 環境政策・計画学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■教育目標

環境政策・計画学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標にカリキュラムが組まれています。環境政策や環境計画は、さまざまなプロジェクトの設計、イベントの計画、ビジネスの構築、行政計画において必要となる、環境を配慮した目標達成のための人間および社会を対象とした政策や計画です。したがって、環境政策や環境計画を学ぶために、人間行動や社会システムに関する科目群と環境および環境と人間活動の相互作用に関する科目群および環境フィールドワークの延長としての実習、演習系の科目群が配置されています。これらの科目群を学んだ後に、フィールドワークを踏まえた卒業研究を通して政策や計画の理論と技法を身につけることができるようにカリキュラムが編成されています。

■学位授与方針

環境政策・計画学科は、卒業時点において学生が身に付けるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境政策・計画学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 環境政策と環境計画についての知識を習得し理解する。(知識・理解)
 - ・環境を配慮した政策や計画について学ぶ。
 - ・環境問題と関連する人間行動や社会システムについて理解する。
 - ・環境および環境と人間活動の相互作用についての知識を習得する。
 - ・環境政策と環境計画の理解に必要な知識を学ぶ。
- B. 環境問題に対して思考・判断する能力を獲得する。(思考・判断)
 - ・プロジェクトの設計やイベントの計画を通じて環境問題について考える。
 - ・ビジネスの構築や行政計画から環境問題の解決策を検討する。
 - ・環境を配慮した政策や計画の目標を達成するための思考能力と判断力を身に付ける。
- C. 地成環境問題や地球環境問題についての興味や関心を養成する。(興味・関心)
 - ・環境フィールドワークによる現場での体験から学ぶ。
 - ・環境政策や環境計画の実態について調べる。
 - ・環境問題と人間や社会とのかかわりについて興味を持つ。
 - ・環境問題が発生してきた地域に関心を持つ。
- D. 環境を配慮した社会の実現につながる技能や技術を習得する。(技能・技術)
 - ・政策や計画を作成するための技法を習得する。
 - ・環境を配慮した政策や計画を導入するために支援となるような技法を学ぶ。
 - ・環境問題の解決につながる研究を論文の作成と口頭による発表によって、わかりやすく伝える技術を身に付ける。
- E. 環境政策や環境計画に携わるための態度を養成する。(意欲・態度)
 - ・環境問題に関連するイベントや会議に主体的に参加することができる。
 - ・環境政策や環境計画に従事している人にインタビューをすることができる。
 - ・自分から環境問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる。
- F. 地域の課題と専門分野との関わりが理解できる。(知識・理解)
- G. 地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる。(技術・技能) (思考・判断) (興味・関心)

■教育課程の編成・実施方針

環境政策・計画学科では、環境を配慮した政策や計画の理論と技法を学び取ることを目標に、環境政策や環境計画に関する科目を習得するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

A. 基礎・理論系科目

政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶ。

B. 基礎・技法系科目

フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から、計画演習といった環境問題にかかわる政策・計画を行う基礎的な技法を学ぶ。

C. 発展・技法系科目

政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶ。

D. 発展・理論系科目

政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶ。

E. 選択科目

政策立案・計画策定にかかわる多様な領域の考え方を学ぶ。

(2) 環境政策・計画学科専門科目履修上の注意

環境政策・計画学科科目配当表を参照しながらこの説明を読んでください。

当学科で学士（環境科学）の学位授与の資格を得るためには、所定の科目の単位を修得しなければなりません。科目配当表に示すように、全科目は、基礎・理論系と基礎・技法系、発展・技法系、発展・理論系といったグループから構成されています。前のページに示した全学共通科目に加えて、環境政策・計画学科科目配当表にリストしてある学科必修科目のグループから全科目（41 単位）、学科選択必修科目Aのグループから15 単位以上、学科選択必修科目のBグループから20 単位以上を必ず選択しなければなりません。残りの単位は選択必修A、選択必修B、選択科目のグループから選択することになります。科目群構成を参考にして系統的な履修を心がけてください。

この配当表に記載のない科目（他学部他学科の科目）を選択してもよいですが、この場合15 単位に限り、学士（環境科学）の学位授与資格に必要な専門科目に組み入れることができます。

・学科選択科目のグループの概要

基礎・理論系科目：政策立案・計画策定についての基礎的な理論を学ぶための科目群です。

基礎・技法系科目：フィールドワークや地域調査といった現場にふれる技法から、計画演習といった環境問題に関わる政策・計画をおこなう技法を学ぶための科目群です。

発展・技法系科目：政策立案・計画策定により深く切り込むための発展的な技法を学ぶための科目群です。

発展・理論系科目：政策立案・計画策定にさまざまな視点から深く切り込むための多様な理論を学ぶための科目群です。

選択科目：政策立案・計画策定に関わる多様な領域の考え方を学ぶための科目群です。

・選択に際しての留意事項

- ① 高学年に配当されている科目を低学年のうちに履修したいときは、事前に担当教員の許可が必要です。
- ② 学科科目配当表の選択科目のグループにリストされていても、実験演習科目の場合は、履修に先立ち担当教員の許可が必要です。配当表にリストされていない他学部他学科の実験演習科目の場合もこれと同じです。
- ③ 学年担任、あるいは人間探求学（月曜日1時限）の教員のアドバイスを受けて、履修科目を決定することが望まれます。

科目名	DP-A. 知識・理解	DP-B. 思考・判断	DP-C. 興味・関心	DP-D. 技能・技術	DP-E. 態度	DP-F. 知識・理解	DP-G. 技術・技能・ 思考・判断・ 興味・関心
環境FWⅠ	◎	◎	◎		◎		
環境FWⅡ	◎	◎	◎		◎		
環境FWⅢ		○		○	○		
環境科学概論Ⅰ	◎		◎				
環境科学概論Ⅱ	◎		◎				
基礎数学Ⅰ		○					
基礎数学Ⅱ		○					
環境経済学入門	B	B		B			
地域再生システム論	◎	◎		◎			
地域調査法	◎	◎		◎			
びわこ環境行政論	A	A	A				
環境生物学Ⅰ	○	○					
環境物理学Ⅰ	○	○					
経済学Ⅰ	B	B		B			
環境水文学		○					
地球科学Ⅰ	○						
環境法	B	B					
経済学Ⅱ(国際経済を含む)	B	B		B			
社会学		B		B			
森林環境学	○						
政治学Ⅰ		○					
地域開発論	B	B	B				
地域環境政策論	B		B				
法学概論(国際法を含む)		○					
環境経営学	◎	◎	◎				
環境計画学			◎				
環境経済学	B	B		B			
環境財政	B	B	B	B			
環境政策学	◎						
景観計画		◎					
政治学Ⅱ(国際政治を含む)		◎					
地球環境システム論	B	B	B	B			
水環境政策論	B	B					
環境アセスメント	A	A	A				
環境会計	B	B	B	B			
環境化学Ⅰ	○						
環境監査	A	A		A			
環境行動論	○	○					
環境公正論	B	B					
サステイナブルデザイン論		○					
資源経済学	B		B				
環境シミュレーション		A		A			
国際環境資源論	B	B		B			
動物生態学	○						
基礎統計		◎					
市民参加論	B		B				
地域システム論	B	B	B				
応用数学		◎					
環境経済演習	A	A		A			
環境社会学	B		B				
地域調査法演習	◎			◎			
ファシリテーション技法・演習		◎		◎			
応用統計学Ⅰ	◎	◎		◎			
環境情報	A	A					
環境心理学	B			B			
応用統計学Ⅱ	◎	◎		◎			
合意形成支援技法・演習				A			
GIS演習	A	A		A			
社会システム分析設計・演習	A	A		A			
環境政策デザイン論・演習			A	A	A		
環境マネジメント演習		A		A			
社会調査実習		A		A	A		
廃棄物管理論	B			B			
エネルギー変換工学	◎	◎			◎		
政策形成・施設演習	◎	◎	◎		◎		
政策計画基礎演習Ⅰ		◎	◎	◎	◎		
政策計画基礎演習Ⅱ		◎	◎	◎	◎		
政策計画演習Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎		
政策計画演習Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎		
政策計画演習Ⅲ	◎	◎	◎	◎	◎		
政策計画演習Ⅳ	◎	◎	◎	◎	◎		
卒業研究Ⅰ	◎	◎	◎	◎	◎		
卒業研究Ⅱ	◎	◎	◎	◎	◎		

◎=必修、○=選択、A=選択必修A、B=選択必修B

(3) 環境政策・計画学科卒業要件

[2021 (令和3) 年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30 単位以上) 必修18 単位、選択必修12 単位以上	
① 共通基礎科目	18 単位以上
第一外国語 ※	英語 (IA~IVB) 8 単位(必修)
第二外国語 ※	ドイツ語 (IA~II B)、フランス語 (IA~II B)、中国語 (IA~II B)、朝鮮語 (IA~II B) のうちから4 単位以上 (選択必修) ただし、「第二外国語II A・II B」は「実用英語演習IA・IB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4 単位 (必修)
保健体育	健康・体力科学 I・II 2 単位 (必修)
② 人間学	8 単位以上 (「人間探求学」2 単位は必修)
③ 地域基礎	4 単位以上 (「地域共生論」2 単位は必修)
2 専門科目 (計 100 単位以上) 必修4 1 単位、選択必修35 単位以上、選択24 単位以上	
① 必修	年次別配当表に指定する科目 4 1 単位
② 選択必修	年次別配当表のAグループから15 単位以上、Bグループから20 単位以上、合計35 単位以上 (超過分は「③選択」に参入できる)
③ 選択	科目配当表に指定する科目から24 単位以上 ただし、全学共通科目で30 単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、15 単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。(学則第38条)
合計	130 単位以上

注意) 入学時の履修の手引は、卒業するまで保管しておくこと。履修の手引は大学と学生との間の契約書のようなものです。履修の手引は毎年改訂されますが、入学時の履修の手引に記載されていたことが適用されます。

【卒業研究履修要件】

全学共通科目: 26 単位以上

全学共通基礎科目 18 単位以上 (卒業要件に示す必修18 単位を含む)

人間学 6 単位以上

地域基礎 2 単位以上

専門科目: 84 単位以上

専門必修科目 33 単位以上

選択必修科目 35 単位以上 (科目配当表の「選択必修A」から15 単位以上、
「選択必修B」から20 単位以上)

専門選択科目* 16 単位以上

*認定される科目とされない科目があるので十分留意すること。

【卒業研究審査】

1 卒業研究 (卒業論文) は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的の明確性や新規 (独創) 性
- (2) 論文の論理展開の明快さ
- (3) 目的達成のための調査量
- (4) 結論としての知見の社会的あるいは学術的な有用性
- (5) 十分な分析と考察
- (6) 論文の完成度
- (7) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

2 卒業研究 (卒業論文) は、審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 1 および2 に基づき審査し、その後の修正を経た最終提出をもって合否を決定する。

(4)環境政策・計画学科年次別配当表(2021(令和3)年度入学生)

科目名	担当教員	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
			前 後	前 後	前 後	前 後	
2 専門科目							
2.1 学部共通基礎科目							
環境ファーストワークⅠ		3	○				必修
環境ファーストワークⅡ		3		○			必修
環境ファーストワークⅢ		3			○ ○		選択
環境科学概論Ⅰ		2	○				必修
環境科学概論Ⅱ		2	○				必修
基礎数学Ⅰ		2	○				選択
基礎数学Ⅱ		2	○				選択
2.2 複数学科共通科目							
環境経済学入門		2	○				選択必修B
地域調査法		2	○				必修
環境物理学Ⅰ		2	○				選択
経済学Ⅰ		2	○				選択必修B
環境水文学		2		○			選択
地球科学Ⅰ		2	○				選択
経済学Ⅱ(国際経済を含む)		2		○			選択必修B
社会学		2		○			選択必修B
地域開発論		2		○			選択必修B
地域環境政策論		2		○			選択必修B
水環境政策論		2		○			選択必修B
環境経営学		2		○			必修
環境計画学		2		○			必修
環境経済学		2		○			選択必修B
環境財政学		2		○			選択必修B
環境政策学		2		○			必修
景観計画		2		○			選択
地球環境システム論		2			○		選択必修B
環境法		2			○		選択必修B
環境アセスメント		2			○		選択必修A
環境会計		2			○		選択必修B
環境監査		2			○		選択必修A
環境行動論		2			○		選択
環境公正論		2			○		選択必修B
サステイナブルデザイン論		2			○		選択
資源経済学		2			○		選択必修B
環境シミュレーション		2			○		選択必修A
国際環境資源論		2			○		選択必修B
2.3 学科専門科目							
環境生物学Ⅰ		2	○				選択
森林環境学		2		○			選択
法学概論(国際法を含む)		2		○			選択
政治学Ⅰ		2		○			選択
政治学Ⅱ(国際政治を含む)		2		○			選択
環境化学Ⅰ		2			○		選択
動物生態学		2			○		選択
基礎統計		2	○				必修
市民参加論		2		○			選択必修B
地域システム論		2	○				選択必修B
応用数学		2	○				必修
びわこ環境行政論		2	○				選択必修A
環境経済演習		1	○				選択必修A
環境社会学		2	○				選択必修B
地域調査法演習		1	○				必修
ファンリテーション技法・演習		3	○				選択必修A

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備 考
		前後	前後	前後	前後	
応用統計学Ⅰ	2		○			必修
環境情報	2			○		選択必修A
環境心理学	2		○			選択必修B
応用統計学Ⅱ	2			○		必修
合意形成支援技法・演習	3		○			選択必修A
G I S 演習	1			○		選択必修A
社会システム分析設計・演習	3		○			選択必修A
環境政策デザイン論・演習	3			○		選択必修A
環境マネジメント演習	1			○		選択必修A
社会調査実習	1			○	○	選択必修A
廃棄物管理論	2			○		選択必修B
エネルギー変換工学	2				○	選択
政策形成・施設演習	2	○				必修
政策計画基礎演習Ⅰ	1		○			必修
政策計画基礎演習Ⅱ	1			○		必修
政策計画演習Ⅰ	1				○	必修
政策計画演習Ⅱ	1				○	必修
政策計画演習Ⅲ	1				○	必修
政策計画演習Ⅳ	1				○	必修
卒業研究Ⅰ	3				○	必修
卒業研究Ⅱ	3				○	必修

環境政策・計画学科 2021(令和3)年度科目配当表

学年/学期	全学共通基礎	基礎・理論系(必修)	基礎・技法系(必修)	発展・理論系(選択必修A)	発展系(選択必修)	選択科目
前期	1 人間学・地域基礎	2 環境科学概論1	2 環境フィールドワーク1	3 地域システム論	2 基礎数学1	2
	1 地域共生論	2 基礎統計	2 地域調査法	2 環境経済学入門	2	
1年	1 ①英語IA	2 環境科学概論II	2 政策形成・施設演習	2 ファンクショナルシステム・演習	2 基礎数学II	2
	1 ②英語IA	2 応用数学	2 地域調査法演習	1 びわこ環境行政論	2 環境生物学I	2
	1 ③英語IB			2 環境経済演習	2 環境物理学I	2
	1 ④英語IB					
	1 ⑤英語IB					
2年	1 ⑥英語IIA	2 応用統計学I	2 環境フィールドワークII	2 環境心理学	2 政治学I	2
	1 ⑦英語IIA	2 政策計画基礎演習I	3 政策計画基礎演習II	2 地域開発論	2 法字概論(国際法を含む)	2
前期	1 ⑧英語IIA		1 政策計画基礎演習I	2 環境環境政策論	2 地球科学I	2
	1 ⑨英語IIA			2 環境政策学	2 森林環境学	2
後期	1 ⑩英語IIB	2 応用統計学II	2 政策計画基礎演習II	1 社会システム分析概論・演習	2 水環境政策論	2
	1 ⑪英語IIB	2 環境政策学	2 環境計画学	2 社会システム分析概論・演習	2 農観計画	2
3年	1 ⑫英語IIB	2 環境計画学	2 政策計画演習I	3 社会システム分析概論・演習	2 政治学II(国際政治を含む)	2
	1 ⑬英語IIB			1 社会調査実習(通年)		
前期				2 環境政策学	2 環境物理学論	3
				2 環境政策学	2 環境会計	2
後期				2 環境政策学	2 環境公正論	2
				2 環境政策学	1 資源経済学	2
4年				2 環境政策学	2 環境法	2
				2 環境政策学	2 環境財政	2
前期				2 環境政策学	2 環境環境資源論	2
				2 環境政策学	2 国際環境システム論	2
後期				2 環境政策学	2 環境情報	
				2 環境政策学	2 環境情報	
前期				2 環境政策学	2 環境情報	
				2 環境政策学	2 環境情報	
後期				2 環境政策学	2 環境情報	
				2 環境政策学	2 環境情報	
合計単位	20	4	18	23	26	40
卒業単位	18	12				
必修単位合計						
必修A						20
必修B						24
選択科目						59

ただし、全学共通科目で30単位を超えた分の科目および他学部・他学科の開講科目については、15単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。

5. 環境建築デザイン学科専門科目の履修について

(1) 環境建築デザイン学科の学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■教育目標

本学科は、我が国で初めて創設された環境科学部に属する建築学科です。従来の工学的建築の枠組み、専門性を超えて、自然と人間・社会の相互の関係性、連続性、人間の生活に根ざした視点に価値をおく環境科学的枠組みが必要であるという共通の認識のもと、建築や地域・都市を深く探求し、創造的な提案をしていく専門的な能力を個々に養いつつ、それらの総合化を目指しています。そのプロフェッションをキーワードで示せば、「循環」「再生」「持続」「長寿命」「省エネ」「景観」「融合」「調整」「生態」などがあげられます。強い意志で環境問題を理解し、環境倫理を持つ建築の学生を輩出するのが本学科の目標です。

■学位授与方針

環境建築デザイン学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記の通り定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、環境建築デザイン学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につけること（知識・理解）（興味・関心）
 - A-1. 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、興味に応じて多面的に学習し、大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見いだし、いく能力を身につけること（知識・理解）
 - A-2. 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につけること（知識・理解）
- B. 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し、技術者・デザイナーとしての責任感と倫理観を身につけること（知識・理解）（興味・関心）
- C. 力学、数学、フィールドワーク、情報処理技術、および環境建築デザイン分野の全般に関わる基礎的な知識と技法を身につけること（知識・理解）（技能・技術）
- D. 環境建築デザインの各分野の専門的な知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識と技法を身につけるとともに、それらを活用して与えられた課題を整理・探究する能力を身につけること（知識・理解）（思考・判断）
- E. 環境建築デザイン分野の様々なデザイン技法を習得し、さらにそれらを基礎として演習・実習を通じて高度な設計・デザイン技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
 - E-1. 環境建築デザインの幅広い課題に関する演習を通じて、課題の分析・解決・提案、及びそれらをデザインに表現する能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
 - E-2. 環境建築デザインに関する実習を通じて、地域の課題を理解し、解決するための技術と技能を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
- F. 自分の論点や考えを制作や論文を用いて、わかり易く論理的に表現する能力とともに、それを口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う能力を身につけること（思考・判断）（技能・技術）
- G. 環境の一部としての建築を計画・設計するという意識をもち、建築プロフェッションとしての明確な目的意識をもち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につけること（技能・技術）（興味・関心）

■教育課程の編成・実施方針

環境建築デザイン学科は、環境と調和し持続発展可能な社会の建設に資する建築・環境デザイナーを養成するという目的のために、必要な分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

<全学共通基礎科目>

- A. 人間と環境や社会について広く理解し、環境科学の基礎的な知見を身につけるための、人間学に関する科目
- B. 学士としての基本的な能力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・情報処理に関する科目

<学部共通基礎科目>

- C. 環境建築デザインの基礎となる環境科学の基礎的な知識と調査・分析手法について学ぶ科目
- D. 環境建築デザインに関わる主題や論点についてその背景と課題について学ぶ科目

<専門基礎科目>

- E. 環境建築デザイン分野に共通する基礎的な知識と論理を習得し、デザインと表現の技法を身につける科目

＜専門展開科目＞

- F. 環境建築デザインの高度な知識と理論、技法を習得する科目
計画、デザイン、歴史・理論、エンジニアリングの4つの分野の科目群を系統的に履修する

＜演習・実習科目＞

- G. 専門科目で修得した知見をもとに、環境建築デザインの幅広い課題の理解と分析、解決と提案を行う技術を実践を通じて習得する演習科目
H. 専門科目で修得した知見を基に地域の課題を理解し解決するための技術と技能を習得する科目

＜卒業研究・卒業設計＞

- I. 上記の教育課程で修得した知見と技術を応用し、研究テーマに関して卒業論文または卒業設計としてまとめる

(2) 環境建築デザイン学科科目履修上の注意

- ① 専門科目は (I) 環境科学部全体の共通科目 (II) 複数の学科間での共通科目 (III) 各学科の学生を対象とする科目——の3群から構成されます。複数学科共通科目として挙げている科目は、人間・社会環境を積極的に形成する上で基本となる価値観と方法論を講述します。学科によって必修・選択・選択必修の区分が異なるので注意してください。環境建築デザイン学科の専門科目は、さらにその内容から、(a) デザイン系 (b) 歴史・理論系 (c) 計画系 (d) 技術系の4分野に大別されます。

(a) デザイン系

建築、ランドスケープ、都市は人の手によっていかにようにもデザインすることができる。人と、生活、もの、生態、自然、社会、歴史など相互の様々な関係性を相対的な環境という視座で形にしていくことがデザインである。その関係性を解き明かし、実践するための意匠論、手法論、造形論、職能論などを学ぶ。

(b) 歴史・理論系

建築とそれを取巻く環境を成立させる理論的根拠を包括的に学ぶと同時に、今日の建築がいかなる社会的、さらには時代的背景をもって生産されているか探究する。また、これまでどのような建築・環境が生み出され、どのような変遷をたどってきたのか、日本・西洋の建築の歴史を通して学ぶ。

(c) 計画系

環境と共生する持続可能な社会の構築をめざし、都市・農村・自然地域における空間の構造と、その計画論について探究する。これからの建築・ランドスケープ・都市を創造するため、住居をはじめとする居住空間、都市・集落の生活空間と地域環境、景観の保全・活用、定住環境と持続・再生、計画制度とまちづくり等に着目した空間論・計画論を学ぶ。

(d) 技術系

建築物の設計は、美しさ、快適性ととも安全性、環境性に配慮する必要がある。技術系の科目は、力の流れを理解し、いかに骨組みを構成するかを学ぶ構造計画、構造力学、構造材料実験および私たちの生活に不可欠な光・音・熱についての基礎技術を学ぶ環境工学などの講義、実験、演習で構成される。

- ② 上記4つの科目群は最終的には扱う対象をそれぞれ異にし、また対応する社会的職能も分かれますので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨が求められることになります。総合的な能力を得るためにも、幅広く履修することを勧めます。

- ③ 各科目群に関連した科目が他学科・他学部の科目の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧めます。別表に履修することが望ましい他学科・他学部の科目の主要なものを例示してあります。

他学科・他学部の科目（所定の必要単位を超える人間学科科目と外国語科目を含む。）履修のうち10単位までは科目にかかわらず、卒業単位として認定されます。

なお、他学科・他学部開講の実験・実習科目の履修を希望する者は、履修登録に先立って科目担当教員の了解を得る必要があります。

- ④ 卒業研究・卒業制作については、原則、Ⅰを履修した後でないとⅡは登録できません。卒業研究・卒業制作Ⅰ、卒業研究・卒業制作Ⅱは、同一年度に連続して履修するのが基本であって、複数年度にわたって、もしくは期間を空けて履修するのは、留学、休学等特別の事情がある場合に限られます。

環境建築デザイン学科 カリキュラムマップ

区分	授業科目名	単位数	必修・ 選択 等の 別	学年・ 学期	学位授与方針に対する関与の程度															
					A 1	A 2	B	C	D	E 1	E 2	F	G							
学部 共通 基礎 科目	環境フィールドワークⅠ	3	必修	1・前期				◎												
	環境フィールドワークⅡ	3	必修	2・前期				◎												
	環境フィールドワークⅢ	3	選択	3・前後				○												
	環境科学概論Ⅰ	2	必修	1・前期				◎												
	環境科学概論Ⅱ	2	必修	1・後期				◎												
	基礎数学Ⅰ	2	選択	1・前期				○												
基礎数学Ⅱ	2	選択	1・後期				○													
複 数 学 科 共 通 科 目	景観計画	2	選択	2・後期					◎											
	構造力学Ⅰ	2	必修	2・前期						◎										
	環境経済学入門	2	選択	1・前期				○												
	ランドスケープデザイン	2	選択	2・前期						◎										
	環境政策学	2	選択	2・後期				○												
	サステナブルデザイン論	2	選択	3・前期					○	◎										
	環境監査	2	選択	3・前期				○												
	環境アセスメント	2	選択	3・前期				○												
	環境計画学	2	選択	3・後期				○												
	環境公正論	2	選択	3・前期				○												○
	環境財政	2	選択	3・後期				○												
	環境行動論	2	選択	3・前期						◎										
	文化財・保存修復論A	2	選択	4・前期						○										
	専 門 科 目	環境・建築デザイン概論	2	必修	1・前期					◎										
建築一般構造		2	選択	1・前期				○	◎											
イメージ表現法		2	必修	1・前期						◎										○
建築数学・物理		2	選択	1・後期				○	◎											
地域環境計画		2	選択	1・後期						◎										
CAD演習Ⅰ		2	必修	2・後期							◎									
設計基礎演習		2	必修	1・後期							◎									○
構造計画		2	必修	1・後期						◎										
CAD演習Ⅱ		2	選択	3・後期							◎									
設計演習Ⅰ		3	必修	2・前期						◎										○
環境設計Ⅰ		2	選択	2・前期						◎										
西洋建築・思潮史		2	選択	2・前期						◎										
建築デジタルデザイン基礎		2	選択	2・後期				○	◎											
環境造形論		2	選択	2・後期						◎										
内部空間論		2	選択	2・後期						◎										
環境共生論		2	選択	3・後期					○	◎										
建築環境工学		2	必修	2・後期						◎										
設計演習Ⅱ		3	必修	2・後期							◎									○
設計演習Ⅲ		3	必修	3・前期							◎									○
設計演習Ⅳ		1	選択	3・後期							◎									○
日本建築史		2	選択	3・前期						◎										
都市・地域計画		2	選択	3・前期						◎										
環境設計Ⅱ		2	選択	3・前期						◎										
構造力学Ⅱ		2	必修	3・前期						◎										
建築環境工学演習		2	選択	3・前期						◎										
建築生産施工		2	必修	3・前期						◎										
環境技術史		2	選択	3・後期						◎										
構造材料実験		2	必修	3・後期						◎										
アジア建築史		2	選択	3・後期						◎										
環境設備		2	必修	3・後期						◎										
環境職能論		2	選択	3・後期					○	◎										○
建築法規		2	必修	2・後期						◎										
環境建築デザイン演習	3	選択	3・後期							◎									○	
木匠塾	2	選択	1,2,3,4・通年																○	
地域産学連携実習Ⅰ	2	選択	1,2,3,4・前期																◎	
地域産学連携実習Ⅱ	2	選択	1,2,3,4・後期																◎	
卒業研究・卒業制作Ⅰ	3	必修	4・前期						◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
卒業研究・卒業制作Ⅱ	3	必修	4・後期						◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

環境科学部

学位授与 方針	卒業科目表									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間探求学	健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ	人間学科目						
A-2	第一外国語Ⅰa 第一外国語Ⅰb 第二外国語ⅠA 第二外国語ⅠB	第一外国語Ⅱa 第一外国語Ⅱb 第二外国語ⅡA 第二外国語ⅡB	第一外国語Ⅲa 第一外国語Ⅲb 第二外国語ⅢA 第二外国語ⅢB 実用英語演習ⅠA 実用英語演習ⅠB	第一外国語Ⅳa 第一外国語Ⅳb 第二外国語ⅣA 第二外国語ⅣB						
B	地域共生論 環境科学概論Ⅰ 環境経済学入門	環境科学概論Ⅱ	環境の素学	環境倫理 環境教育	環境公正論 環境アセスメント	環境計画学 環境財政				
C	環境フィールドワークⅠ 情報リテラシー 基礎数学Ⅰ 環境建築デザイン概論 建築一般概論	環境フィールドワークⅡ 情報科学概論 基礎数学Ⅱ 建築数学・物理	環境フィールドワークⅢ 建築デジタルデザイン基礎 環境造形論 CAD演習Ⅰ	環境フィールドワークⅣ 建築デジタルデザイン演習 サステナブルデザイン論 CAD演習Ⅱ	環境倫理論 環境電気論 CAD演習Ⅱ					
D 計画 建築 歴史	建築一般概論 建築数学・物理	構造計画 建築力学Ⅰ 建築数学・物理	建築力学Ⅱ 建築デジタルデザイン基礎 建築環境工学	構造力学Ⅲ 建築デジタルデザイン演習 建築環境工学演習	構造材料論 構造式論 環境設備	卒業研究・卒業制作Ⅰ	卒業研究・卒業制作Ⅱ			
	地域環境計画	環境設計Ⅰ	環境法論 都市・地域計画 環境設計Ⅱ	都市・地域計画 環境設計Ⅲ	文化財保存概論A					
	ランドスケープデザイン 内装空間論	景観計画 建築工学 サステナブルデザイン論	建築工学 サステナブルデザイン論	建築工学 サステナブルデザイン論	環境電気論 卒業研究・卒業制作Ⅰ	卒業研究・卒業制作Ⅱ				
E-1	イメージ表現法 設計基礎演習	設計演習Ⅰ	CAD演習Ⅰ 設計演習Ⅱ	設計演習Ⅲ 環境建築デザイン演習	CAD演習Ⅱ 設計演習Ⅳ	卒業研究・卒業制作Ⅰ	卒業研究・卒業制作Ⅱ			
	本学給									
E-2	本学給									
F	イメージ表現法 設計基礎演習	設計演習Ⅰ	設計演習Ⅱ	設計演習Ⅲ 環境建築デザイン演習 設計演習Ⅳ	卒業研究・卒業制作Ⅰ	卒業研究・卒業制作Ⅱ				
	本学給									
G	本学給									
	地域共生論			環境公正論	環境電気論	卒業研究・卒業制作Ⅰ	卒業研究・卒業制作Ⅱ			

環境科学部

(3) 環境建築デザイン学科卒業要件

[2021 (令和3) 年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30 単位以上) 必修 18 単位、選択必修 12 単位以上	
① 共通基礎科目	18 単位以上
第一外国語※	英語 (I A～IV B) 8 単位(必修)
第二外国語※	ドイツ語 (I A～II B)、フランス語 (I A～II B)、中国語 (I A～II B)、朝鮮語 (I A～II B) のうちから 4 単位以上 (選択必修) ただし、「第二外国語 II A・II B」は「実用英語演習 I A・I B」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4 単位
保健体育	健康・体力科学 I・II 2 単位
② 人間学	8 単位以上 (「人間探求学」は必修)
地域基礎	4 単位以上 (「地域共生論」は必修)
2 専門科目 (計 100 単位以上) 必修 49 単位、選択 51 単位以上	
① 必修	年次別配当表に指定する科目 49 単位
② 選択	科目配当表に指定する科目から 51 単位以上 ただし、全学共通科目で 30 単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10 単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位に算入することができる。(学期第 3.8 条)
合計	130 単位以上

【卒業研究履修要件】

- 3 年次終了までに、全学共通基礎科目を 16 単位以上 (編入生に対しては 14 単位以上) 取得していること。
- 3 年次終了までに、専門科目の必修単位 43 単位のうち 41 単位以上取得していること。
- 4 年次に取得しなければならない単位数が「卒業研究・卒業制作 I」「卒業研究・卒業制作 II」以外に 12 単位以下であること。

上記 1、2、3 を全て満たしていなければならない。

この要件を満たしていない場合、「卒業研究・卒業制作 I」「卒業研究・卒業制作 II」の履修登録ができない。卒業見込証明書の発行も受けられない。

【卒業研究等審査基準】

- 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、以下の評価項目によって審査する。
 - 研究又は制作の目的とその妥当性
 - テーマの新規性・学術性・社会性
 - 方法的確性・独創性
 - 論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
 - 論理構成及び結論 (表現) の妥当性
 なお、卒業制作は、以上に加えてプレゼンテーションの手法・技術・密度・完成度について評価する。
- 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、発表会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。
- 1 および 2 による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

(4)環境建築デザイン学科年次別配当表

科目名	単位	1年	2年	3年	4年	備考
		前後	前後	前後	前後	
2 専門科目						
2.1 学部共通基礎科目						
環境ファーストワークⅠ	3	○				必修
環境ファーストワークⅡ	3		○			必修
環境ファーストワークⅢ	3			○	○	選択
環境科学概論Ⅰ	2	○				必修
環境科学概論Ⅱ	2	○				必修
基礎数学Ⅰ	2	○				選択
基礎数学Ⅱ	2	○				選択
2.2 複数学科共通科目						
景観計画	2		○			選択
構造力学Ⅰ	2		○			必修
環境経済学入門	2	○				選択
ランドスケープデザイン	2		○			選択
環境政策学	2		○			選択
サステイナブルデザイン論	2			○		選択
環境監査	2			○		選択
環境アセスメント	2			○		選択
環境計画学	2				○	選択
環境公正論	2			○		選択
環境財政	2			○		選択
環境行動論	2			○		選択
文化財・保存風景論A	2				○	選択
2.3 学科専門科目						
環境・建築デザイン概論	2	○				必修
建築一般構造	2	○				選択
イメージ表現法	2	○				必修
建築数学・物理	2	○				選択
地域環境計画	2	○				選択
CAD演習Ⅰ	2		○			必修
設計基礎演習	2	○				必修
構造計画	2	○				必修
CAD演習Ⅱ	2			○		選択
設計演習Ⅰ	3		○			必修
環境設計Ⅰ	2		○			選択
西洋建築・思潮史	2	○				選択
建築デジタルデザイン基礎	2		○			選択
環境造形論	2		○			選択
内部空間論	2		○			選択
環境共生論	2			○		選択
建築環境工学	2		○			必修
設計演習Ⅱ	3		○			必修
建築法規	2		○			必修
設計演習Ⅲ	3			○		必修
設計演習Ⅳ	1				○	選択
日本建築史	2			○		選択
都市・地域計画	2			○		選択
環境設計Ⅱ	2			○		選択

科目名	単位	1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後	備考	
構造力学Ⅱ	2			○		必修	
建築環境工学演習	2			○		選択	
建築生産施工	2			○		必修	
環境技術史	2				○	選択	
構造材料実験	2				○	必修	
アジア建築史	2				○	選択	
環境設備	2				○	必修	
環境職能論	2				○	選択	
環境建築7ヶ月演習	3				○	選択	
木匠塾	2	○	○	○	○	○	選択
地域産学連携実習Ⅰ	2	○	○	○	○		選択
地域産学連携実習Ⅱ	2		○			○	選択
卒業研究・卒業制作Ⅰ	3					○	必修
卒業研究・卒業制作Ⅱ	3					○	必修

環境建築デザイン学科推奨科目一覧表（他学部・他学科で開講される推奨科目）

- ① 以下の一覧表に示す他学部・他学科で開講される科目は、その内容が環境建築デザイン学科の専門科目を学ぶ上で、より理解を深めることができる本学科の「推奨科目」である。
- ② 推奨科目の履修にあたっては、卒業要件の参入条件について、学科卒業要件を読んで十分理解しておくこと。
- ③ 以下の表の履修年次は、本来開講されている他学部・他学科での履修年次であるので注意すること。

推奨科目名	単位	本来開講されている他学部・他学科での履修年次				開講学部・学科
		1年 前後	2年 前後	3年 前後	4年 前後	
比較住居論	2	○	○	○	○	人間学、生活デザイン・人間関係学科
考現学概論	2	○				生活デザイン学科
人間行動論	2	○				生活栄養・人間関係学科
地域文化財論A※	2	○	○			地域文化学科
人間工学	2		○			生活デザイン学科
文化財情報論	2		○	○		地域文化学科
地域文化財論B	2	○	○			地域文化学科

※地域文化財論Aは隔年開講（奇数年度開講、偶数年度不開講）

6. 生物資源管理学科専門科目の履修について

(1) 生物資源管理学科の教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■教育目標

環境負荷の少ない持続可能な社会を形成するために、生物機能の開発・利用、および新しい生物生産技術と生物資源管理技術の必要性が叫ばれています。生物資源管理学科では、このような社会からの期待に応える意志と能力を有する人材を育成しています。このため、学生諸君は幅広い分野を体系的に学びつつ、2回生後期からは「生物機能利用コース」と「環境農学コース」に分かれ、専門分野の知識・技術を修得します。また、フィールドワークなど現場に密着した学習から、実験室内の最先端の分析・研究技術まで一貫した教育体制により、社会で活躍できる実力と実践力を身に付けます。

■学位授与方針

生物資源管理学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を取得した上で、生物資源管理学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の環境科学の学位を授与します。

- A. 人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで、豊かな人間性と倫理観を身につける。（知識・理解）
 - A-1. 幅広い教養を習得し、環境問題を解決するための基礎的能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および文章表現能力を身につける。（知識・理解）
 - A-2. 外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を身につける。（知識・理解）
- B. 生物資源管理学の基礎となる知識と技術を身につける。（知識・理解）
- C. 生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を身につける。（知識・理解）
- D. 生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で、自ら選択した個別分野について深く理解し、応用できる能力を身につける。（知識・理解）（技能・技術）
 - D-1. 各専門分野における専門知識を体系的に身に付け、自ら選択した個別分野について、高度な専門知識と応用力を身につける。（知識・理解）
 - D-2. 地域課題と専門分野の関係性についての知識を身につける。（知識・理解）
 - D-3. 実験・実習を通じて、実践的な専門技術、結果の解析能力、論理的思考力およびレポート作成能力を身につける。（技能・技術）
- E. 地域課題の解決に向けて、生物資源管理学の専門知識を応用する能力を身につける。（技能・技術）（思考・判断）（興味・関心）
- F. 生物資源管理学に関する諸問題を、自らの専門性に基づいて発見し、問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を身につける。（思考・判断）（興味・関心）
- G. 専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し、論理的にディスカッションできる能力、および科学論文の作成能力を身につける。（技能・技術）

■教育課程の編成・実施方針

生物資源管理学科では「生物資源と環境に関わる幅広い視野と知識を持ち、生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成する」という目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

- A. 人間性・倫理観形成科目（教養・言語科目）
 - 人間と自然・社会の関係について多面的に理解することで、豊かな人間性と倫理観を養成する。
 - A-1. 教養形成科目：幅広い教養を習得し、環境問題を解決するための基礎的能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力および文章表現能力を養成する。
 - A-2. 言語教育科目：外国語によるコミュニケーション能力および異文化を理解する能力を養成する。
- B. 生物資源管理学基礎科目
生物資源管理学の基礎となる知識と技術を養成する。
- C. 生物資源管理学関連科目
生物資源管理学に関連する幅広い専門知識を養成する。
- D. 生物資源管理学科目
生物資源管理学の幅広い分野について俯瞰した上で、自ら選択した個別分野について深く理解し、応用できる能力を養成する。

- D-1. 生物資源管理学専門科目
各専門分野における専門知識を体系的に身につけ、自ら選択した個別分野について、高度な専門知識と応用力を養成する。
- D-2. 生物資源管理学地域志向専門科目
地域課題と専門分野の関係性についての知識を養成する。
- D-3. 生物資源管理学実験・実習科目
実験・実習を通じて、実践的な専門技術、結果の解析能力、論理的思考力およびレポート作成能力を養成する。
- E. 生物資源管理学地域志向応用科目
地域課題の解決に向けて、生物資源管理学の専門知識を応用する能力を養成する。
- F. 生物資源管理学応用・展開科目(1)
生物資源管理学に関係する諸問題を、自らの専門性に基づいて発見し、問題解決に向けて主体的・協同的に行動できる能力を養成する。
- G. 生物資源管理学応用・展開科目(2)
専門分野の調査研究結果を他者に分かりやすく発表し、論理的にディスカッションできる能力、および科学論文の作成能力を養成する。

(2) 科目履修上の注意

- ① 専門科目は、(a) 環境科学部全体の学部共通基礎科目、(b) 複数学科共通科目、および(c) 学科専門科目から構成されています。資格関連科目については、「資格取得等の手引」の項を見てください。
- ② 複数学科共通科目と学科専門科目の履修にあたっては、卒業後の進路をよく考えて、学科が提供する履修コースの選択を踏まえたうえで、体系的に講義科目を履修することが望まれます。詳しくは学科のオリエンテーションで説明します。
- ③ 生物資源統計学Ⅰ、生物資源統計学Ⅱ、生物資源管理学実験・実習Ⅰ～Ⅺおよび環境フィールドワークⅢは選択必修科目で、計13科目(27単位)から8科目(16単位)以上を履修してください。生物資源管理学実験・実習Ⅰ～Ⅺの実習分野は以下のとおりです。

生物資源管理学実験・実習Ⅰ	植物栽培分野
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	遺伝・培養分野
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	動物資源管理分野
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	微生物・菌類分野
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	遺伝子工学分野
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	作物保護分野
生物資源管理学実験・実習Ⅶ	土壌・木質分析分野
生物資源管理学実験・実習Ⅷ	土壌物理・気象分野
生物資源管理学実験・実習Ⅸ	測量実習
生物資源管理学実験・実習Ⅹ	経営・経済分野
- ④ 4年次における卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、学科教員の各研究室に分属して行うことになります。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱは、同一の教員の指導を受けるのを常とします。さらに、研究内容によっては、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修時期に制約を受ける場合があります。
なお、3年次までに単位履修が不十分な場合、4年次において卒業研究Ⅰ・Ⅱと生物資源管理学演習Ⅰ・Ⅱを履修できないことがあります。
- ⑤ 他学科開講の実験・実習の履修を希望する者は、科目担当教員の了解を事前に得なければなりません。
- ⑥ 次年度以降、科目名が改訂・変更される場合があります。新科目名：旧科目名の読み替え表(対応表)は4月上旬の学科オリエンテーションで配布します。また、時間割表には新科目名と旧科目名の両方が表記されます。

(3) 生物資源管理学科卒業要件

[2021(令和3)年度入学生用]

1 全学共通科目 (計 30 単位以上) 必修 18 単位、選択必修 12 単位以上

① 共通基礎科目 18 単位以上

第一外国語※ 英語 (ⅠA～ⅠB) 8 単位(必修)

第二外国語※ ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上 (選択必修)

ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー (情報倫理を含む)、情報科学概論 4 単位

保健体育 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2 単位

② 人間学 8 単位以上 (「人間探求学」は必修)

③ 地域基礎 4 単位以上 (「地域共生論」は必修)

2 専門科目 (計 100 単位以上)

必修 年次別配当表に指定する 11 科目 22 単位

選択必修 年次別配当表に指定する選択必修 13 科目 27 単位から 16 単位以上

選択 年次別科目配当表に指定する選択科目、および選択必修科目のうち必修単位を超える単位数あわせて 62 単位以上

ただし、複数学科共通科目のうち生物資源管理学科が提供する科目 (年次別配当表に「選択・資源」と記入) と学科専門科目から 32 単位以上を履修しなければならない

なお、全学共通科目で 30 単位を超えた分の科目および他学科・他学部の開講科目については、10 単位までを限度に、専門科目の単位として、卒業単位数に算入することができる。(学則第 38 条)

合計 130 単位以上

【卒業研究等履修要件】

	取得単位数	
	3 年次前期終了時	3 年次後期終了時
全学共通基礎科目	12	16
専門科目 (必修・選択必修)	18	26
専門科目 (選択)	46	50
うち学科提供科目	20	26
専門科目 (合計)	64	76

(4) 生物資源管理学科年次別配当表

区分	授業科目名	単位数	必修・選択 の別	学年・学期	学科のDPとの対応																	
					A-1	A-2	B	C	D-1	D-2	D-3	E	F	G								
学部 共通基礎 科目	環境フィールドワークⅠ	3	必修	1・前期	◎																	
	環境フィールドワークⅡ	3	必修	2・前期	◎																	
	環境フィールドワークⅢ	3	選択必修	3・通年	◎																	
	環境科学概論Ⅰ	2	必修	1・前期	◎																	
	環境科学概論Ⅱ	2	必修	1・後期	◎																	
複 数 学 科 共 通 科 目	基礎数学Ⅰ	2	選択	1・前期			○															
	基礎数学Ⅱ	2	選択	1・後期			○															
	環境数学Ⅰ・演習	3	選択	1・前期			○															
	環境数学Ⅱ・演習	3	選択	1・後期			○															
	環境物理学Ⅰ	2	選択	1・後期			○															
	地球科学Ⅰ	2	選択	2・前期			○															
	環境解析学・同実験	4	選択	2・後期			○															
	環境経済学入門	2	選択	1・前期				○														
	経済学Ⅰ	2	選択	1・後期				○														
	環境地下水学	2	選択	2・前期				○														
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	2	選択	2・前期				○														
	ソートスクープデザイン	2	選択	2・前期				○														
	社会学	2	選択	2・前期				○														
	環境統計解析学	2	選択	2・前期				○														
	構造力学Ⅰ	2	選択	2・前期				○														
	水環境政策論	2	選択	2・前期				○														
	環境財政	2	選択	2・後期				○														
	景観計画	2	選択	2・後期				○														
	湖沼環境学	2	選択	2・後期				○														
	環境経営学	2	選択	2・後期				○														
	環境経済学	2	選択	2・後期				○														
	環境政策学	2	選択	2・後期				○														
	地球環境システム論	2	選択	2・後期				○														
	資源経済学	2	選択	3・前期				○														
	環境法	2	選択	3・前期				○														
	環境会計	2	選択	3・前期				○														
	環境監査	2	選択	3・前期				○														
	環境アセスメント	2	選択	3・前期				○														
	地球環境化学	2	選択	3・前期				○														
	理論生態学	2	選択	3・前期				○														
	環境微生物学	2	選択	3・前期				○														
	集水域生態系保全修復論	2	選択	3・後期				○														
	陸域生態系保全修復論	2	選択	3・後期				○														
	環境シミュレーション	2	選択	3・後期				○														
	国際環境資源論	2	選択	3・後期				○														
	地域調査法	2	選択	1・前期				○														
	地域開発論	2	選択	2・前期				○														
	環境水文学	2	選択・資源	2・前期				○														
	土壌環境化学	2	選択・資源	2・前期				○														
	測量学	2	選択・資源	2・後期				○														
農業環境学	2	選択・資源	3・前期				○															
学 科 専 門 科 目	環境化学Ⅰ	2	選択	1・前期			○															
	環境化学Ⅱ	2	選択	3・前期			○															
	環境生物学Ⅰ	2	選択	1・後期			○															
	環境生物学Ⅱ	2	選択	2・後期			○															
	環境化学実験	2	選択	1・後期			○															
	環境生物学実験	2	選択	1・前期			○															
	地球科学実験	2	選択	2・前期			○															
	環境物理学実験	2	選択	2・前期			○															
	森林環境学	2	選択	2・前期				○														
	環境汚染システム論	2	選択	3・前期				○														
	環境疫学	2	選択	3・前期				○														
	生物資源管理学概論	2	必修	1・前期				◎														
	植物生産学	2	選択	1・後期				○														
分子生物学	2	選択	1・後期				○															

生物資源管理学科履修モデル

生物機能利用コースでは、生物機能を用いた物質生産や環境改善に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。

環境農学コースでは、生物資源の生産・循環、土壌・水資源の保全・活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。

科目区分	科目名(学年・学期)		望ましい取得単位数	
卒業研究	卒業研究Ⅰ	4・前期 生物資源管理学科実習Ⅰ	4・前期	
	卒業研究Ⅱ	4・後期 生物資源管理学科実習Ⅱ		4・後期
コース実験・実習	生物機能利用コース	生物資源管理学科実習Ⅰ	環境農学コース	
		生物資源管理学科実習Ⅱ		3・前期
		生物資源管理学科実習Ⅲ		3・後期
コース専門	生物機能利用コース	植物遺伝資源学	2・後期	
		植物病害防除論	3・前期	
		応用微生物学	3・前期	
		植物資源開発学	3・後期	
		養魚飼料学	3・後期	
コース基礎	生物機能利用コース	分子生物学	1・後期	
		遺伝学	2・前期	
		土壌環境化学	2・前期	
		環境植物生理学	2・後期	
		農業経済学	2・後期	
学科基礎(実験)	環境化学実務(コンピュータ活用を含む)	環境化学実務	2・前期	
		環境物理学実務	2・後期	
学科基礎(講義)	環境物理学Ⅰ	環境物理学Ⅰ	1・後期	
		環境生物学Ⅰ	1・後期	

4 工学部科目履修の手引

1. 工学部の学習・教育目標について

科学技術の進歩は、人類に豊かな生活とグローバルな物の流通と人の交流をもたらしたが、その反面、科学技術がもたらす地球環境問題が顕在化してきています。

工学部では、材料科学科、機械システム工学科、電子システム工学科の3学科において、持続可能な社会を実現するための「ものづくり」を通じて、自然と共生できるより豊かな社会、より暮らしやすい社会の構築に向けて、我が国および地域の産業のリーダーになれる技術者、また世界的な視野をもって社会に貢献できる各専門分野の技術者の育成を目指しています。そのための学習・教育目標として次の事項を掲げています。

- 1) 人間社会の深い理解と豊かな人間性を身につけるとともに、科学技術が自然環境に与える影響を理解する
- 2) 工学の幅広い基礎知識の習得と、それを基礎として工業技術の高度化、先端化、複合化に対応できる専門知識と先端技術を身につけ、課題を解決する応用力を養う
- 3) 実験、実習、演習などの実践教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢と独創的な思考力を習得する
- 4) 世界的立場から工学を眺めることができる広い視野と、環境問題に配慮した新しい技術を創出できる豊かな創造力を養う
- 5) 日本語による論理的な記述、表現の力を身につけるとともに、学際的な交流ができ、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を身につける
- 6) 技術者として目的意識を持ち、自主的、計画的に仕事を進める能力を身につける
- 7) 地域課題と専門科目の関わりが理解でき、地域課題の解決に向け専門知識を応用できる能力を身につける

これらの学習・教育目標を達成するために、各学科では、それぞれ学科の学習・教育目標を設定しています。

2. 科目の履修について

(1) 全学共通科目の履修について

各学科の科目配当表に示すように、主に1年次、2年次に配当されていますので、内容などについては全学共通科目の項目を参照してください。

(2) 専門科目の履修について

各学科の専門科目については、「科目配当表」に各年次の順に科目名を示しています。科目名の後に単位数、配当期を前：前期、後：後期、通：通年の記号で示しています。低学年では、講義や実験は学部共通基礎科目が中心になり、2年次、3年次になると各学科の基礎科目が配当されています。必修の科目は当然履修しなければなりません、選択の専門科目もなるべく広い範囲にわたって受講することが望まれます。

他学部専門科目および規定単位数以外の全学共通科目の履修は、あわせて6単位を限度として、専門科目の卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けてください。工学部他学部開設科目の履修など、その他履修に関する詳細については各学科の指示を受けてください。

3年次、4年次では、学科専門科目が配当されています。これらの中で卒業研究以外は選択科目ですが、広い視野を持つために様々な分野の科目を広範囲で積極的に受講することを勧めます。

また、最終学年では、卒業研究が必修で、各研究室に配属されて研究の進め方を学び、最先端の研究の一端を担うこととなります。

なお教職免許取得など各種資格取得を希望する場合は、「資格取得の手引」を参照してください。

以上の科目について、各学科における卒業に必要な必修科目、単位数など、卒業要件に注意して履修を検討してください。

3. 工学部卒業要件

2021（令和3）年度入学生適用の卒業要件です。2020（令和2）年度以前入学生は、入学年度の卒業要件が適用されますので、入学年度の「履修の手引」の卒業要件に従ってください。

(1) **全学共通科目**（計30単位以上） 必修18単位、選択必修12単位以上

①全学共通基礎科目 18単位以上

第一外国語※ 英語（ⅠA～ⅣB） 8単位（必修）

第二外国語※ ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上（選択必修）

ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可
※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

情報処理 情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 4単位（必修）

保健体育 健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位（必修）

②人間学 8単位以上（「人間探求学」は必修）

③地域基礎 4単位以上（「地域共生論」は必修）

(2) **専門科目** 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・学科基礎科目・学科専門科目
100単位以上

合計 130単位以上

註1：他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができます。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、所属する学科の学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けてください。

註2：卒業要件の詳細については各学科の項を見てください。

註3：修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）1科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足科目の再試験を認める場合があります。

4. 自己学習について

本学では、15～45 時間の授業をもって 1 単位としています。例えば、1 時限の授業が 15 回（1 学期は 15 週の授業で構成）で 2 単位の講義科目は、1 時限（90 分）を 2 時間相当としている（ただし、次ページ以降の表中の授業科目別授業時間は実際の授業時間です）ため、授業時間が 30 時間であり、15 時間の授業で 1 単位です。また、同様の授業で 1 単位の演習科目は、30 時間の授業で 1 単位です。しかし、大学設置基準には、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると定められています。従って、大学での授業だけでは不足しており、学生はその不足分（1 単位あたり 45 時間と実際の授業時間との差）の自己学習（予習・復習、等）を各自行う必要があります。例えば、上記の講義科目に必要な自己学習時間は 60 時間であり、演習科目に必要な自己学習時間は 15 時間です。

以上のことを考慮して、工学部では学生の自己学習時間確保のための取り組みを組織的に行っており、その一環として、主要科目では、宿題やレポート、授業中に行う演習や小テストの予習、等を課すことにしています。それらの具体的な内容は、各授業科目のシラバスに記載されていますので、そちらを参照して下さい。

なお、シラバスに記載されている指示は最低限ですので、実際にはそれ以上の自己学習が必要です。また、シラバスに自己学習に関する具体的な指示がない授業科目（専門科目だけでなく全学共通科目も含まれます）についても、学生の自己学習を前提とした講義が行われます。いずれにしろ、大学設置基準に定められた必要学修時間と授業時間との差の学修時間は、みなさんが各自の自己学習により補うことが必要であることに注意して下さい。

材料科学の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者の養成を目的としています。そこで材料科学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、材料科学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士(工学)の学位を授与します。

- A 「人間」という存在を深く見つめ、人間と環境・社会の関係について地域特性への配慮も含めて多面的に理解し、技術者が社会に対して負っている責任と使命を実践する能力を身につける(思考・判断)
- B 英語や他の外国語で生活および材料科学技術分野に関する必要な情報発信ができる、コミュニケーション基礎能力を身につける(技能・技術)
- C 工学の基礎となる数学、自然科学、情報科学および情報処理についての理解と活用能力を身につける(知識・理解)
- D 工学とその基礎となる学問の幅広い分野に基づいて、技術について俯瞰的に見ることが出来る能力を身につける(興味・関心)
- E 材料の物性、構造や機能、これらの解析方法、および材料製造方法についての、金属、セラミックス、有機材料、高分子材料に共通する基本的な知識と、それを材料開発、プロセス開発に応用する能力を身につけ、さらに地域産業・地域環境の視点からも材料科学について理解する。(知識・理解)
- F 様々な材料の特性、製造方法、機能性について、その構造と関係づけて理解し、材料設計およびプロセス設計へと活用できる能力を身につける(知識・理解)
- G 与えられた課題に対して適切な実験計画を立案・遂行して、得られたデータをもとに現象について考察し論理的に説明し記述できる能力、卒業研究などを通して自主的・継続的に学習できる能力、伝えたい専門的内容を論理的で判り易く説明し議論できるコミュニケーション能力等を身につける(思考・判断)(技能・技術)

■教育課程の編成・実施方針

材料科学科は、環境と調和した持続可能な人間社会の構築のために、科学技術に裏打ちされた材料技術の進歩に貢献できる、研究者・技術者を養成するという目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム(教育課程)を編成しています。

- A 滋賀県立大学の卒業生に共通する学士力を身につけるための科目
 - A-1 学士としての基本的な人間力を身につけるための語学、健康・体力科学、情報科学・処理に関する科目
 - A-2 人間そのもの、および人間と環境・社会の関係を理解し、科学技術に正しく携わるために必要な広い視野を身につけるための、人間学および地域基礎に関する科目
- B 科学技術への取り組みの背景となる工学部共通科目
 - B-1 工学についての幅広い視点を身につけるための科目
 - B-2 事象を論理的かつ定量的に扱うための基礎となる数学に関する科目
- C 多様な材料に共通する内容について学ぶ科目
 - C-1 材料科学とその応用を俯瞰し材料全体へのイメージを養うことで個々の材料への理解に資する科目
 - C-2 材料の研究および開発において的確な実験を行い、得られた結果を適切に解釈できるようにするための、分析化学に関する科目および実験に関する科目
 - C-3 材料全般に共通する考え方を身につけて応用できるようにするための物理化学系および材料力学系科目
- D 個別の材料について基礎から応用まで学ぶ科目
 - D-1 主に無機系の材料や複合材料、電子デバイスなどに関連する無機化学および無機・金属材料系の科目
 - D-2 主に有機系の材料や複合材料、環境調和型材料などに関連する有機化学および有機材料系科目
- E 卒業研究
材料科学の発展にはどのようなアプローチが必要かを、実践を通して学ぶ卒業研究

材料科学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間探求学	健康体力科学Ⅰ	健康体力科学Ⅱ					
	地域共生論					技術者倫理		
人間学科目・地域基礎科目								
B	第一外国語ⅠA ※1	第一外国語ⅠB ※1	第一外国語ⅡA ※1	第一外国語ⅡB ※1	科学技術英語			
	第一外国語ⅡA ※1	第一外国語ⅡB ※1	第一外国語ⅣA ※1	第一外国語ⅣB ※1			卒業論文Ⅰ	卒業論文Ⅱ
	第二外国語ⅠA ※2	第二外国語ⅠB ※2	第二外国語ⅡA ※2	第二外国語ⅡB ※2				
		実用英語演習ⅠA	実用英語演習ⅠB					
C	情報リテラシー 基礎情報科学Ⅰ	情報科学概論						
	微積分Ⅰ	微積分Ⅱ		工業数学				
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	微分方程式					
D	基礎化学	電子と化学結合		化学工学				
	基礎力学	基礎電磁気学	材料力学		材料科学実験Ⅱ			
	分析化学	基礎電気電子回路						
	材料科学概論							
	機械システム工学概論							
	電子システム工学概論							
E		基礎熱力学	化学熱力学	反応速度論	電気化学		分子・統計力学	
				物理化学総合および演習				
			基礎結晶学	固体物性基礎				
			輪講分析Ⅰ		輪講分析Ⅱ			
F			有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ	金属材料	材料科学概論Ⅰ		
					セラミックス材料	材料強度論		
					高分子科学基礎	材料電子論		
					高分子科学応用	環境膜化学		
					有機化学Ⅲ	高分子物性		
					有機化学総合および演習	複合材料		
					無機化学Ⅰ	高分子合成		
					生化学Ⅱ	先端材料科学		
G	分析・環境化学実験		定常・増強分析および応用実験	物理学実験	材料科学実験Ⅰ	材料科学実験Ⅱ	卒業論文Ⅰ	卒業論文Ⅱ
				物理化学総合および演習	材料化学総合および演習			
					科学技術英語			
					有機化学総合および演習			

※1 英語必修。ただし、留学生は、英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、初習英語(留学生のみ)、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

工学部材料科学科卒業要件

【2021(令和3)年度入学生】

(1) 全学共通科目(計30単位以上) 必修18単位 選択必修12単位以上		
① 全学共通基礎科目 18単位以上		
第一外国語※	英語 (ⅠA～ⅣB)	8単位(必修)
第二外国語※	ドイツ語(ⅠA～ⅡB)、フランス語(ⅠA～ⅡB)、中国語(ⅠA～ⅡB)、朝鮮語(ⅠA～ⅡB)のうちから4単位以上(選択必修) ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。	
情報処理	情報リテラシー(情報倫理を含む)2単位(必修) 情報科学概論 2単位(必修)	
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位(必修)	
② 人間学 8単位以上(「人間探求学」は必修)		
③ 地域基礎 4単位以上(「地域共生論」は必修)		
(2) 専門科目 学部共通基礎科目・学科基礎科目・学科専門科目 (計100単位以上)		
必修64単位、選択36単位以上		
① 必修	科目配当表に指定する科目	64単位
② 選択	科目配当表に指定する科目および工学部他学科配当表記載の科目から	36単位以上
合計	130単位以上	

註1:

外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(8単位)。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、初習英語ⅠA～ⅡB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修(4単位以上)。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2:

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、材料科学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

工学部材料科学科 年次別科目配当表
(1)2021(令和3)年度入学生

区 分		1年次		2年次	
全学 共通科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA	1前	◎英語ⅢA	1前
		◎英語ⅠB	1後	◎英語ⅢB	1後
		◎英語ⅡA	1前	◎英語ⅣA	1前
		◎英語ⅡB	1後	◎英語ⅣB	1後
○第二外国語ⅠA※1		1前	○第二外国語ⅡA※1	1前	
○第二外国語ⅠB※1		1後	○第二外国語ⅡB※1	1後	
◎情報リテラシー(情報倫理を含む)		2前	○実用英語演習ⅠA	1前	
◎情報科学概論		2後	○実用英語演習ⅠB	1後	
◎健康・体力科学Ⅰ		1後	◎健康・体力科学Ⅱ	1前	
◎人間探求学		2前			
人間学	上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で6単位選択必修				
他域基礎	◎地域共生論	2前			
	上記必修科目以外 he 地域基礎科目から、4年間で2単位選択必修				

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

専門科目	学部 共通 基礎	◎材料科学概論	2前	微分方程式	2前
		機械システム工学概論	2前	工業数学	2後
		電子システム工学概論	2前	◎物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2後
◎微積分Ⅰ		2前			
微積分Ⅱ		2後			
◎線形代数Ⅰ		2前			
線形代数Ⅱ		2後			
◎基礎力学		2前			
◎基礎電磁気学		2後			
◎基礎化学		2前			
◎電子と化学結合	2後				
基礎電気電子回路	2後				
学科 基礎	◎分析化学	2前	材料力学	2前	
	◎分析・環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	2前	化学工学	2後	
	◎基礎熱力学	2後	◎無機化学Ⅰ	2前	
	◎有機化学Ⅰ	2後	◎化学熱力学	2前	
			◎反応速度論	2後	
			◎有機化学Ⅱ	2前	
			◎有機化学Ⅲ	2後	
			◎無機化学Ⅱ	2後	
			◎機器分析Ⅰ	2前	
			◎基礎結晶学	2前	
		固体物性基礎	2後		
		生化学Ⅰ	2後		
		◎物理化学総合および同演習	2後		
		◎定数・機器分析および同実験(コンピュータ活用を含む)	2前		
学科専門					

◎:必修 ○:選択必修 無印:選択

	3年次	4年次	配当単位数
全学 共通 基礎	リスニング(中級) 2前	Intermediates Academic English 1前	必修 14
	リーディング(中級) 2後	Advanced Academic English I 2後	選択必修 22
	Integrated English 2前	Advanced Academic English II 2後	選択 18
	Introduction to Discussion & Debate 2前	English for Business 1前	
	Essay Writing 2後	English in Media 2後	
人間学			必修 2 選択必修 74
地域基礎			必修 2 選択必修 22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語 2前		必修 18
	技術者倫理 2後		選択 16
学科 基礎	電気化学 2前		必修 38
	分子・統計力学 2後		選択 18
	有機化学Ⅳ 2前		
	生化学Ⅱ 2前		
	◎機器分析Ⅱ 2前		
	◎有機化学総合および同演習 2前		
	材料計算化学および同演習 2前		
学科専門	◎材料科学実験Ⅰ 3前		
	◎材料科学実験Ⅱ 3後		
	金属材料 2前	◎卒業研究Ⅰ 4前	必修 8
	セラミックス材料 2前	◎卒業研究Ⅱ 4後	選択 24
	エネルギー・界面科学 2前		
	高分子物性 2後		
	高分子合成 2前		
	環境調和化学 2後		
	材料開発工学 2前		
	材料量子論 2後		
	先端材料科学 2後		
	材料組織学 2後		
材料強度物性 2後			
複合材料 2後			

機械システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

機械システム工学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力(教育研究上の目的)を下記のとおり定めます。これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、機械システム工学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士(工学)の学位を授与します。

- A. 自然環境、社会、人間に関する理解、および技術の役割に関する理解
 - A-1. 自然環境、社会、人間について、地球的視点や地域の視点、さまざまな立場から多面的に理解し、幅広く深い教養を身につける。(興味・関心、態度)
 - A-2. 技術が、自然環境、社会、人間に及ぼす影響を理解して、技術者が負っている責任を自覚できる。(興味・関心、態度)
- B. 国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける。(技能・技術)
- C. 数学、力学、電磁気学、化学、情報技術に関する基礎学力を修得し、これらを機械システム工学に応用できる能力を身につける。(知識・理解、技能・技術)
- D. 機械システム工学専門科目に関する能力
 - D-1. 機械システム工学の概要を学習し、機械システム工学の基礎を修得するとともに、機械システム工学全般を見渡せる能力を育成する。(知識・理解、思考・判断)
 - D-2. 機械システム工学の基礎である材料と構造、エネルギー、流れ、力と運動、応用である計測制御、生産技術に関する学力を身につける。(知識・理解)
 - D-3. 講義で学んだ知識を、実験・実習・演習を通してより具体的に機械システム工学を理解し、ものづくりに応用できる能力を身につける。(知識・理解、技能・技術)
- E. 社会が要求する実際の課題を、種々の専門知識を活用して解決する実践的なデザイン能力を身につける。(興味・関心、技能・技術)
- F. 自分の意見を論理的に整理し相手にわかりやすく伝える力、相手の意見を聴き理解する力を身につける。(思考・判断、技能・技術、表現)
- G. 自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力、継続的に自己啓発と学習を続けていく力を身につける。(思考・判断、興味・関心、態度、意欲)
- H. 課題の解決への道筋を明らかにする力、目標に向け確実に行動する力を身につける。(思考・判断、態度)

■教育課程の編成・実施方針

機械システム工学科は、機械工学の基礎と体系的なセンスと、高機能的機械の設計・開発能力を備え、柔軟な発想能力を発揮する技術者を養成します。この目標を達成するために、下記のように「教養科目」および「基礎から応用にわたる幅広い専門科目」によって、カリキュラム(教育課程)を編成しています。

<教養科目>

技術者として社会に貢献することを目指して、広い視野とコミュニケーション能力を身につけるために、語学、健康・体力科学、情報処理などの基礎科目および人間学、人間探求学を配置する。

<工学部共通専門科目>

高校で学んだ数学や物理を体系的に学び直し、広範な工学に関する知識を習得することによって工学的思考の方法を学ぶために、工学に共通する基礎科目を配置する。

<機械システム工学科専門科目>

- ・導入科目:機械システム工学への入門として、身近な工業製品の分解・再組立などを通して「ものづくり」の基礎を体験するための導入科目を配置する。
- ・基礎科目:機械システムの数理的理解や表現能力を深く身につけるために、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、制御工学などの機械システム工学の基礎科目を配置する。
- ・実習科目:機械システムの製作のための基本的な加工技術の実習と機械製図の実習を通して「ものづくり」の感性を養うための実習科目を配置する。
- ・応用科目:機械の力学の応用を学ぶとともに、情報処理、メカトロニクス、生産工学など、機械の制御法、知能化・生産の方法について学ぶための応用科目を配置する。
- ・実験・演習科目:実験・演習を通して機械システムの設計、試作、機能評価を総合的に学ぶための実験演習科目を配置する。

<卒業研究>

4年間の学びの締めくくりとして、機械システム工学としての問題の捉え方、課題の設定の仕方、問題解決へのアプローチの方法などを実践的に体得し、「ものづくり」に必要な実力を養うために、卒業研究を実施する。

機械システム工学科 カリキュラムツリー

学位授与 方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A-1	人間探求学 地域共生論	健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ					
	地域基礎科目(1科目2単位選択必修)							
	人間学(2科目6単位選択必修)							
A-2	地域共生論					技術書検定		
B	第一外国語ⅠA※ 第一外国語ⅡA※ 第二外国語ⅠA※	第一外国語ⅠB※ 第一外国語ⅡB※ 第二外国語ⅠB※	第一外国語ⅢA※ 第一外国語ⅣA※ 第二外国語ⅡA※	第一外国語ⅢB※ 第一外国語ⅣB※ 第二外国語ⅡB※	科学技術英語 実用英語ⅠB			卒業研究
					実用英語ⅠA			
C	情報リテラシー (情報無題を含む) 微積分Ⅰ 線形代数Ⅰ	情報科学概論 微積分Ⅱ 線形代数Ⅱ	プログラミング基礎 微分方程式	工業数学			数理統計	教養概論
	基礎力学 基礎化学 材料科学概論 電子システム工学概論	物理学実験 電子と化学結合 基礎電気光学						
D-1	機械システム工学概論 機械システム工学セミナー	工業力学 機械製作 物理実験	材料力学Ⅰ 機械製作実習	熱力学Ⅰ 流体力学Ⅰ	科学技術英語 機械力学Ⅰ			
D-2	工業力学 機械製作	材料力学Ⅰ 機械要素	材料力学Ⅱ 熱力学Ⅰ 流体力学Ⅰ 機械材料学	熱力学Ⅱ 流体力学Ⅱ 機械力学Ⅰ 創製工学Ⅰ 生産工学 金属加工工学	熱力学Ⅲ エネルギー変換工学 応熱学 機械力学Ⅱ 制御工学Ⅱ メカトロニクス	システム工学 ロボット工学 特種加工学		
				機械力学Ⅱ 制御工学Ⅰ 生産工学 金属加工工学	機械力学Ⅲ 制御工学Ⅲ メカトロニクス			
				機械力学Ⅳ 制御工学Ⅳ メカトロニクス				
D-3	物理学実験	機械設計習得 機械製作実習	機械設計演習Ⅰ	機械設計演習Ⅱ 機械工学基礎実験 機械力学演習	機械設計演習Ⅲ 機械工学基礎実験 機械力学演習			卒業研究
E				機械設計演習Ⅱ 機械工学基礎実験 機械力学演習	機械設計演習Ⅲ 機械システム前 進実験			卒業研究
F	機械システム工学 セミナー 人間探求学	物理学実験		機械工学基礎実験				卒業研究
G	機械システム工学 セミナー				機械システム前 進実験			卒業研究
H				機械工学基礎実験	機械システム前 進実験			卒業研究

※1 要履必修。ただし、留学生は、要履および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、初級英語(留学生のみ)、英語(留学生のみ)、日本語(留学生のみ)から選択必修。

工 学 部

工学部機械システム工学科卒業要件

2021（令和3）年度入学生適用の卒業要件です。

(1) 全学共通科目 （計30単位以上） 必修18単位、 選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目 18単位以上	
第一外国語※	英語（ⅠA～ⅣB） 8単位（必修）
第二外国語※	ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上（選択必修） ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）2単位（必修） 情報科学概論 2単位（必修）
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位（必修）
②人間学 8単位以上（「人間探求学」は必修）	
③地域基礎 4単位以上（「地域共生論」は必修）	
(2) 専門科目 学部共通基礎科目・複数学科共通科目・ 学科基礎科目・学科専門科目（計100単位以上）	
必修66単位、選択34単位以上	
①必修	学科の科目配当表に指定する必修科目 66単位
②選択	学科の科目配当表に指定する選択科目 28単位以上
合 計	130単位以上

注1：

外国人留学生の外国語の履修については次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（8単位）。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、初習英語ⅠA～ⅡB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（4単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

注2：

工学部他学科専門科目、他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、工学部他学科専門科目および他学部開設科目の履修を希望するときは、機械システム工学科長の許可を得た後に、その科目を担当する教員の許可を受けること。

機械システム工学科 年次別科目配当表

(1)2021(令和3)年度入学生

区 分		1 年 次		2 年 次	
全学 共通 科目	全学 共通 基礎 ※2	◎英語ⅠA ◎英語ⅠB ◎英語ⅡA ◎英語ⅡB ○第二外国語ⅠA※1 ○第二外国語ⅠB※1 ◎情報リテラシー(情報倫理を含む) ◎情報科学概論 ◎健康・体力科学Ⅰ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1後	◎英語ⅢA ◎英語ⅢB ◎英語ⅣA ◎英語ⅣB ○第二外国語ⅡA※1 ○第二外国語ⅡB※1 ○実用英語演習ⅠA ○実用英語演習ⅠB ◎健康・体力科学Ⅱ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前
	人 間 学	◎人間探求学	2前	上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で3科目6単位選択必修	
	地域基礎	◎地域共生論	2前	上記必修科目以外の地域基礎科目から、4年間で1科目2単位選択必修	

※1ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

工 学 部	専門 科目	材料科学概論 電子システム工学概論 ◎機械システム工学概論 ◎微積分Ⅰ ◎微積分Ⅱ ◎線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ ◎基礎力学 ◎基礎電磁気学 ◎基礎化学 電子と化学結合 基礎電気電子回路 ◎物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	2前 2前 2前 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2後 2後 2後	◎微分方程式 工業数学 ◎プログラミング基礎	2前 2後 2前
	複 数 学 科 共 通				
	学 科 基 礎	◎機械製作 ◎工業力学 機械システム工学セミナー	2後 2後 2前	◎材料力学Ⅰ ◎機械設計製図 機械要素 ◎熱力学Ⅰ ◎流体力学Ⅰ ◎機械材料学 材料力学Ⅱ ◎機械製作実習 ◎機械設計演習Ⅰ	2前 2前 2前 2後 2後 2後 2後 2前 2後
	学 科 専 門				
		1年次必修	20	2年次必修	18

◎:必修 ○:選択必修 無印:選択

	3年次		4年次		配当単位数	
全学 共通 基礎	リスニング(中級)	2前	Intermediate Academic English	1前	必修	14
	リーディング(中級)	2後	Advanced Academic English I	2後	選択必修	18
	Integrated English	2前	Advanced Academic English II	2後	選択	18
	Introduction to Discussion & Debate	2前	English for Business	1前		
	Essay Writing	2後	English in Media	2後		
人間学					必修	2
					選択必修	74
地域基礎					必修	2
					選択必修	22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語	2前			必修	24
	◎技術者倫理	2後			選択	12
複数 学科 共通	情報処理基礎	2前			必修	2
	◎確率統計	2後			選択	2
学科 基礎	◎機械力学Ⅰ	2前			必修	32
	◎制御工学Ⅰ	2前			選択	20
	◎生産工学	2前				
	熱力学Ⅱ	2前				
	流体力学Ⅱ	2前				
	機械力学Ⅱ	2後				
	制御工学Ⅱ	2後				
	計測工学	2前				
	伝熱学	2後				
	◎機械設計演習Ⅱ	2前				
	◎機械設計演習Ⅲ	2後				
	◎機械工学基礎実験	2前				
◎機械システム創造実験	2後					
機械四力学演習	2前					
学科 専門	金属加工学	2前	数値解析	2前	必修	8
	メカトロニクス	2後	ロボット工学	2前	選択	14
	エネルギー変換工学	2後	システム工学	2前		
			特殊加工学	2前		
			◎卒業研究	8通		
	3年次必修	20	4年次必修	8	専門必修	66

※ 機械システム工学科配当の専門科目は、配当学年よりも先だって履修することはできません。

電子システム工学科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人の養成を目的としている。そのため学生は、次の能力を身につけることが求められる。

- A 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につける(③興味・関心)
- B 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける(④技能・技術)
- C 電子システム工学分野の基礎となる、大学工学部共通基礎レベルの数学、物理学、化学および情報処理技術に関する知識とそれらに応用する能力を身につける(①知識・理解)
- D 電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける(①知識・理解)
- E 電子システム工学分野の実験、実習の実践を通して、工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける(④技能・技術)
- F 自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う、日本語によるコミュニケーション能力を身につける(④技能・技術)
- G 技術者としての明確な目的意識を持ち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける(②思考・判断)
- H 地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる能力を身につける(①知識・理解)

■教育課程の編成・実施方針

電子システム工学科は、電気・電子・情報工学分野の高度な技術と知識に裏打ちされた創造力豊かな高度専門職業人を養成するという目的を達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を次のようなカテゴリーに分けて編成している。

- A 人間存在と環境・社会について深く理解し、豊かな人間性を身につける科目
 - A-1 人間の心身および人間と自然や社会とのかかわりなどについて、興味に応じて多面的に学習し、大学教養レベルの知識と複雑化・流動化していく現代社会の中で将来の指針を見出していく能力を身につける科目
 - A-2 技術が環境や社会に与える影響や効果について理解し、技術者としての責任感と倫理観を身につける科目
- B 国際的に活躍する世界市民に必要な外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける科目
- C 電子システム工学分野の基礎となる、大学工学部共通基礎レベルの数学、物理学、化学および情報処理技術に関する知識とそれらに応用する能力を身につける科目
- D 電子システム工学分野の幅広い基礎知識を習得し、さらにそれらを基礎として高度な専門知識を身につける科目
 - D-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について、大学工学部学科専門レベルの基礎知識とそれらを駆使して課題を探索し組み立て解決する能力を身につける科目
 - D-2 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術の中から興味に応じて選択した個別技術について、大学工学部学科専門レベルの高度な専門知識とそれらを駆使して課題を探索し組み立て解決する能力を身につける科目
- E 電子システム工学分野の実験、実習の実践を通して、工学課題を設定・遂行・解決する能力を身につける科目
 - E-1 電気・電子・情報工学をカバーする電子システム工学分野の幅広い技術について、大学工学部学科専門レベルの実験遂行能力と、結果の解析・考察・説明能力および報告書の作成能力を身につける科目
 - E-2 電子システム工学分野の技術者に要求される実験計画能力と問題や課題を理解し設定する能力および与えられた制約下でそれらの問題や課題に対する工学的な解決法を見つけて計画的に仕事を進め成果としてまとめるエンジニアリングデザイン能力と実行力を身につける科目
- F 自分の論点や考え方について論文や口頭でわかり易く論理的に発表しディスカッションを行う、日本語によるコミュニケーション能力を身につける科目
- G 技術者としての明確な目的意識を持ち、生涯にわたって自発的に学習する能力を身につける科目
- H 地域の課題と専門分野との関わりが理解でき、地域課題の解決に向けて、専門知識を応用することができる能力を身につける科目

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	授業時間(時間)			学位授与方針に対する関与の程度								
						学習内容の区分			A	B	C	D	E	F	G	H	
						人文科学 社会科学 語学	数学 自然科学 情報技術	専門分野									
全学共通科目	人間探求学	2	必修	1・前期	22.5	22.5			◎								
	自然のしくみB	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	農業と環境A	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	食と健康	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	人間と病気	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	生命・人間・倫理	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	生活と健康	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	精神保健論	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	キャリア形成への道B	2	選択	2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	キャリア形成への道C	2	選択	2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	経済学	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	憲法	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	Japan Studies VI	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	アジアフィールド実習 I	2	選択	1,2,3,4	22.5	22.5			○								
	アジアフィールド実習 II	2	選択	2,3,4	22.5	22.5			○								
	自然のしくみA	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	名著から学ぶ環境問題	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	都市・建築を考える	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	生活の中にある力学	2	自由	1,2,3,4・後	22.5	22.5											
	コンピュータとインターネット	2	自由	1,2,3,4・後	22.5	22.5											
	地域と文化	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	歴史と文化	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5											○
	人間関係の科学A	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	人間関係の科学B	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	国際文化学概論	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	差別と人権(同和問題)	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	キャリア形成への道A	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	Japan Studies VII	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	World Societies I	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	World Societies II	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	異文化理解A	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	異文化理解B	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	都市・建築をつくる	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	農業と環境B	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	暮らしの中の材料	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	自然科学入門	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
	機械の再発見	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	機械の役割と仕組み	2	自由	1,2,3,4・前	22.5	22.5											
	技術の歴史	2	自由	1,2,3,4・後	22.5	22.5											
	電子社会と人間	2	選択	1,2,3,4・後	22.5	22.5			○								
	電子システムの最先端	2	自由	1,2,3,4・前	22.5	22.5											
	比較住居論	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○								
ジェンダー平等をつくる	2	選択	1,2,3,4・前	22.5	22.5			○									
地域共生論	2	必修	1・前期	22.5	22.5											◎	
地域社会福祉論	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
地域コミュニケーション論	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
地域づくり人材論	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
びわこ環境行政論	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
多文化共生論	2	選択	1,2,3,4・前期	22.5	22.5											○	
地域産業・企業から学ぶ社長講義	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション	2	選択	1,2,3,4・前期	22.5	22.5											○	
近江の美	2	選択	1,2,3,4・前期	22.5	22.5											○	
地域診断法	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
ソーシャル・ビジネス概論	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	
世界遺産のまちづくり・人づくり	2	選択	1,2,3,4・後期	22.5	22.5											○	

電子システム工学科 カリキュラムマップ (その3)

区分	授業科目名	単位数	必修・選択等の別	学年・学期	合計時間数(時間)	授業時間(時間)		学位授与方針に対する関与の程度														
						学習内容の区分		A	B	C	D	E	F	G	H							
						人文科学 社会科学 語学	数学 自然科学 情報技術									専門分野						
学部 共通 基礎 科目	材料科学概論	2	選択	1・前期	22.5		22.5				○											
	機械システム工学概論	2	選択	1・前期	22.5		22.5				○											
	電子システム工学概論	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎										
	微積分Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎										
	微積分Ⅱ	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎										
	線形代数Ⅰ	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎										
	線形代数Ⅱ	2	選択	1・後期	22.5		22.5				○											
	基礎力学	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎										
	基礎電磁気学	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎										
	電子と化学結合	2	選択	1・後期	22.5		22.5					○										
	基礎化学	2	必修	1・前期	22.5		22.5					◎										
	基礎電気電子回路	2	必修	1・後期	22.5		22.5					◎										
	物理学実験	2	必修	1・後期	45		45					◎										
	工業数学	2	必修	2・後期	22.5		22.5					◎										
	微分方程式	2	選択	2・前期	22.5		22.5					○										
	プログラミング基礎	2	必修	2・前期	22.5		22.5					◎										
	科学技術英語	2	必修	3・前期	22.5	22.5							◎									
	技術書倫理	2	必修	3・後期	22.5	22.5							◎									
	確率統計	2	必修	2・後期	22.5		22.5						◎									
	情報処理基礎	2	選択	2・前期	22.5		22.5							◎								
	※	電子システム工学セミナー	2	選択	1・前期	67.5		67.5														
電磁気学Ⅰ		2	必修	2・前期	22.5		22.5					◎										
電磁気学Ⅱ		2	選択	2・後期	22.5		22.5					○										
電気回路Ⅰ		2	必修	2・前期	22.5		22.5					◎										
電気回路Ⅱ		2	選択	2・後期	22.5		22.5					◎										
電子回路Ⅰ		2	必修	2・後期	22.5		22.5					◎										
電子力学概論		2	選択	2・前期	22.5		22.5					○										
物性デバイス基礎論		2	選択	2・後期	22.5		22.5					○										
半導体基礎		2	必修	2・後期	22.5		22.5					◎										
微積分総論		2	選択	2・前期	22.5		22.5						○									
コンピュータハードウェア		2	必修	2・後期	22.5		22.5						◎									
アルゴリズムとデータ構造		2	必修	2・前期	22.5		22.5						◎									
プログラミング言語		2	必修	2・後期	22.5		22.5						◎									
デジタル信号処理		2	選択	2・後期	22.5		22.5						◎									
通信情報理論		2	選択	2・前期	22.5		22.5						◎									
電子システム工学実験Ⅰ		2	必修	2・前期	67.5		67.5							◎								
電子システム工学実験Ⅱ		2	必修	2・後期	67.5		67.5							◎								
電子回路Ⅱ		2	必修	3・前期	22.5		22.5						◎									
電気電子計測Ⅰ		2	必修	3・前期	22.5		22.5						◎									
電気電子計測Ⅱ		2	選択	3・後期	22.5		22.5						◎									
電気エネルギーシステム工学		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
半導体デバイス		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
制御工学		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
電力工学Ⅰ		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
電力工学Ⅱ		2	選択	3・後期	22.5		22.5						◎									
情報通信工学		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
コンピュータアーキテクチャ		2	選択	3・前期	22.5		22.5						◎									
コンピュータソフトウェア		2	必修	3・前期	22.5		22.5						◎									
電子システム工学実験Ⅲ		2	必修	3・前期	67.5		67.5							◎								
電子システム工学実験Ⅳ		2	必修	3・後期	67.5		67.5							◎								
電気電子設計製図		1	必修	3・前期	22.5		22.5							◎								
学 科 専 門 科 目		電磁波工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎									
		電気機器	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎									
	集積回路設計基礎	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎										
	電子デバイス	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎										
	通信システム工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎										
	通信ネットワーク工学	2	選択	3・後期	22.5		22.5					◎										
	プラズマ工学	2	選択	4・前期	22.5		22.5					◎										
	パワーエレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5		22.5					◎										
	光エレクトロニクス	2	選択	4・前期	22.5		22.5					◎										
	ロボット工学	2	選択	4・前期	22.5		22.5					◎										
電気関係法規・施設管理	2	選択	3・後期	22.5		22.5						◎										
卒業研究	8	必修	4・通年	90		90							◎	◎	◎	◎						

※複数学科共通科目

電子システム工学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	人間探求学		「人間学」の選択科目から3科目選択必修					
		健康・体力科学Ⅰ	健康・体力科学Ⅱ				技術者倫理	
B	英語ⅠA※1	英語ⅠB※1	英語ⅡA※1	英語ⅡB※1	英語ⅢA※1	英語ⅢB※1	科学技術英語	
	英語ⅡA※1	英語ⅡB※1	英語ⅢA※1	英語ⅢB※1	実用英語講習ⅠA	実用英語講習ⅠB		
	第二外国語ⅠA※2	第二外国語ⅠB※2	第二外国語ⅡA※2	第二外国語ⅡB※2				
C	情報リテラシー 〔情報倫理を含む〕	情報科学概論	プログラミング基礎	工業数学				
	微積分Ⅰ	微積分Ⅱ	微積分応用	確率統計				
	線形代数Ⅰ	線形代数Ⅱ	微分方程式					
	基礎力学	物理学実験						
		基礎電磁気学						
		基礎電気電子回路						
	基礎化学	電子と化学結合						
D	電子システム工学概論	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電気電子計測Ⅰ	電磁波工学	電気電子計測Ⅱ		
	機械システム工学概論	電気回路Ⅰ	電子回路Ⅰ	電子回路Ⅱ	ロボット工学	プラズマ工学		
材料科学概論	電気回路Ⅱ	電気回路Ⅲ	制御工学	電力工学Ⅰ	電力工学Ⅱ	パワーエレクトロニクス		
		半導体基礎	半導体デバイス	電気エネルギーシステム工学	電気機器	光エレクトロニクス		
		量子力学概論	物性デバイス基礎	情報通信工学	単結晶回路設計基礎			
		通信情報理論	デジタル信号処理	情報通信工学	通信ネットワーク工学			
		アルゴリズムとデータ構造	プログラミング言語	コンピュータソフトウェア	適成システム工学			
		情報処理基礎	コンピュータハードウェア	コンピュータアーキテクチャ	電気電子設計基礎			
				電気電子設計基礎	電気情報法理・施設管理			
					卒業研究			
E	電子システム工学ゼミナー	電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ	電子システム工学実験Ⅳ	卒業研究		
F	物理学実験	電子システム工学実験Ⅰ	電子システム工学実験Ⅱ	電子システム工学実験Ⅲ	電子システム工学実験Ⅳ	卒業研究		
G	電子システム工学ゼミナー	卒業研究						
H	地域共生論	電子システム工学実験Ⅴ						
	「地域基礎」の選択科目から1科目選択必修							

※1 留学生は英語および日本語から選択必修。

※2 ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語講習ⅠA・ⅠBで代替可能であり、留学生は初習英語、英語、日本語も選択可。

工学部電子システム工学科卒業要件

2021（令和3）年度入学生適用の卒業要件です。

(1) 全学共通科目 （計30単位以上） 必修18単位、 選択必修12単位以上	
①全学共通基礎科目 18単位以上	
第一外国語※	英語（ⅠA～ⅣB） 8単位（必修）
第二外国語※	ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上（選択必修） ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可 ※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。
情報処理	情報リテラシー（情報倫理を含む）、情報科学概論 4単位（必修）
保健体育	健康・体力科学Ⅰ・Ⅱ 2単位（必修）
②人間学	8単位以上（「人間探求学」は必修）
③地域基礎	4単位以上（「地域共生論」は必修）
(2) 専門科目 学部共通基礎科目・複数学科共通科目 学科基礎科目・学科専門科目（計100単位以上） 必修65単位、選択35単位以上	
①学部共通基礎科目・複数学科共通科目	28単位以上
学科の科目配当表に指定する必修科目	28単位
学科の科目配当表に指定する選択科目	0単位以上
②学科基礎科目	46単位以上
学科の科目配当表に指定する必修科目	29単位
学科の科目配当表に指定する選択科目	17単位以上
③学科専門科目	20単位以上
学科の科目配当表に指定する必修科目	8単位
学科の科目配当表に指定する選択科目	12単位以上
合 計	130単位以上

註1：

外国人留学生の外国語の履修については、次の通りとする。第一外国語は、英語ⅠA～ⅣBまたは日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（8単位）。第二外国語は、ドイツ語ⅠA～ⅡB、フランス語ⅠA～ⅡB、中国語ⅠA～ⅡB、朝鮮語ⅠA～ⅡB、実用英語演習ⅠA・ⅠB、初習英語ⅠA～ⅡB、英語ⅠA～ⅣB、日本語ⅠA～ⅣBから選択必修（4単位以上）。詳しくは、全学共通科目履修の手引に記載の「外国人留学生等の外国語履修について」を参照のこと。

註2：

電子システム工学科の科目配当表に指定する専門科目以外に、工学部他学科の科目配当表に指定する専門科目も、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、履修を希望する科目を担当する教員の許可を受けること。

註3：

他学部専門科目および全学共通科目あわせて6単位を限度とし、専門科目として卒業要件単位に算入することができる。ただし、他学部開設科目の履修を希望するときは、電子システム工学科長の許可を得た後、その科目を担当する教員の許可を受けること。

註4：

4年次末の時点で、修得した単位が卒業要件を満たしていないが、卒業要件に不足している単位に係わる科目が当該年度に履修登録された専門必修講義科目（除外科目あり）1科目のみであるものには、教授会の議を経て、不足単位の再試験を認めることがある。

工学部電子システム工学科 年次別科目配当表

(1) 2021 (令和3) 年度入学生

区分	1 年 次	2 年 次
全学 共通 科目	◎英語ⅠA 1前 ◎英語ⅠB 1後 ◎英語ⅡA 1前 ◎英語ⅡB 1後 ○第二外国語ⅠA※1 1前 ○第二外国語ⅠB※1 1後 ◎情報リテラシー(情報論理を含む) 2前 ◎情報科学概論 2後 ◎健康・体力科学Ⅰ 1後	◎英語ⅢA 1前 ◎英語ⅢB 1後 ◎英語ⅣA 1前 ◎英語ⅣB 1後 ○第二外国語ⅡA※1 1前 ○第二外国語ⅡB※1 1後 ○実用英語演習ⅠA 1前 ○実用英語演習ⅠB 1後 ◎健康・体力科学Ⅱ 1前
	◎人間探求学 2前 上記必修科目以外の人間学科目から、4年間で6単位選択必修	
	◎地域共生論 2前 上記必修科目以外の地域基礎科目から、4年間で2単位選択必修	

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

専門 科目	材料科学概論 2前 機械システム工学概論 2前 ◎電子システム工学概論 2前 ◎微積分Ⅰ 2前 ◎微積分Ⅱ 2後 ◎線形代数Ⅰ 2前 線形代数Ⅱ 2後 ◎基礎力学 2前 ◎基礎電磁気学 2後 電子と化学結合 2後 ◎基礎化学 2前 ◎基礎電気電子回路 2後 ◎物理学実験(コンピュータ活用を含む) 2後	◎工業数学 2後 微分方程式 2前 ◎確率統計(複数学科共通) 2後 ◎プログラミング基礎 2前 情報処理基礎(複数学科共通) 2前
	電子システム工学セミナー 2前	微積分統論 2前 ◎電磁気学Ⅰ 2前 電磁気学Ⅱ 2後 ◎電気回路Ⅰ 2前 電気回路Ⅱ 2後 ◎電子回路Ⅰ 2後 量子力学概論 2前 物性デバイス基礎論 2後 ◎半導体基礎 2後 ◎コンピュータハードウェア 2後 ◎アルゴリズムとデータ構造 2前 ◎プログラミング言語 2後 デジタル信号処理 2後 通信情報理論 2前 ◎電子システム工学実験Ⅰ 2前 ◎電子システム工学実験Ⅱ 2後
	学科 専門	
	1年次必修 18	2年次必修 24

工 学 部

◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

	3年次		4年次		配当単位数	
全学 共通 基礎	リスニング(中級)	2前	Intermediate Academic English	1前	必修	14
	リーディング(中級)	2後	Advanced Academic English I	2後	選択必修	22
	Integrated English	2前	Advanced Academic English II	2後	選択	18
	Introduction to Discussion & Debate	2前	English for Business	1前		
	Essay Writing	2後	English in Media	2後		
人間学					必修	2
					選択必修	74
地域基礎					必修	2
					選択必修	22

学部 共通 基礎	◎科学技術英語	2前			必修	28
	◎技術者倫理	2後			選択	12
学科 基礎	◎電子回路Ⅱ	2前			必修 29 選択 32	
	◎電気電子計測Ⅰ	2前				
	電気電子計測Ⅱ	2後				
	電気エネルギーシステム工学	2前				
	半導体デバイス	2前				
	制御工学	2前				
	電力工学Ⅰ	2前				
	電力工学Ⅱ	2後				
	情報通信工学	2前				
	コンピュータアーキテクチャ	2前				
	◎コンピュータソフトウェア	2前				
	◎電子システム工学実験Ⅲ	2前				
	◎電子システム工学実験Ⅳ	2後				
◎電気電子設計製図	1前					
学科 専門	電磁波工学	2後	プラズマ工学	2前	必修 8 選択 22	
	電気機器	2後	パワーエレクトロニクス	2前		
	集積回路設計基礎	2後	光エレクトロニクス	2前		
	電子デバイス	2後	ロボット工学	2前		
	通信システム工学	2後	◎卒業研究	8通		
	通信ネットワーク工学	2後				
	電気関係法規・施設管理	2後				
3年次必修	15	4年次必修	8	専門必修	65	

電子システム工学科配当の専門科目は、配当された学年よりも先だって履修することはできません。

5 人間文化学部科目履修の手引

1. 人間文化学部の学位授与方針

人間文化学部では、以下の学位授与方針の下、各学科に即した教育目標が設けられています。

- A 人間の文化に関する幅広い知識を身につけ、文化のさまざまな側面に対する理解を深める。(知識・理解)
- B 大学で学んだことを手がかりに、多様なできごとに興味と関心を持ち問題を解決しようとする態度を身につける。(興味・関心)
- C 自分の直面している問題に対して柔軟な思考と判断ができる。(思考・判断)
- D 各専門領域に応じた調査・研究を行い、それを表現する技術・技能を身につける。(技術・技能)

2. 人間文化学部各学科の教育目標について

(1) 地域文化学科

地域文化学科では、琵琶湖地域を中心に、日本、さらに密接な交流がある中国・朝鮮をも視野に入れて、これらの社会に関わる過去と現在の諸問題を考えていきます。そのために、地域を分析するうえで必要な手法を身につけ、フィールドワーク（現地調査）を通じてそれぞれの地域に生きる人々の姿を見つめ、これからの社会のあり方について研究します。

(2) 生活デザイン学科

生活デザイン学科では、生活環境を構成する人の身近な空間を、まず生活の容器である住居、身の回りにある道具、そして人の身体に密着した衣服と、三つの分野に分け、基礎から実践に至るまでの理論を講義するだけでなく、基礎演習、三分野のデザイン演習などにより講義で学んだ理論の理解を深め、デザインスキルを磨く教育を行う。そして、生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により分析・考察し、解明・解決・提案できる総合的なデザイン能力を持った人材の育成を目指す。

(3) 生活栄養学科

現代の日本は世界一の健康寿命国となった反面、生活習慣病、アレルギー性疾患など食生活が要因となる問題がクローズアップされてきている。科学的根拠を基盤としてこれらの問題に対処できる、かつ豊かな人間性をも備えた栄養と食の総合的スペシャリストの育成を目指す。このため、基礎教育の充実とともに、専門科目では多彩な実習・実験を取り入れ実践能力の強化を図る。さらに人間学と人文・社会科学系科目の充実により、豊かな人間性と指導力の育成にも力点を置く。

(4) 人間関係学科

人間のさまざまななかかわりのあり方を個人や集団、社会・文化の諸営為のなかでとらえながら、進化や歴史の大きな時間軸も視野に入れつつ、心理学、教育学、社会学の各分野から総合的に学ぶ。一対一の人間関係に焦点を当てるとともに、共同体の人間同士がかかわる社会現象を見渡せるようになることを目標とする。さらに、発達のダイナミクスやコミュニケーションの多様性に着目することによって、人間関係の本質を読み解く能力の獲得を支援する。これらを通じて、社会の生成プロセスに能動的に参画する人間の理論的、実践的基盤の形成を目指す。

(5) 国際コミュニケーション学科

グローバル化する現代社会の変化に適切に対応するため、自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とする複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につける。それらを活かして、グローバル化する国際社会および地域社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための教育を行う。

3. 科目の履修について

- (1) 履修科目の選択にあたっては、「全学共通科目履修の手引」および人間文化学部の「標準年次別科目配当表」、「卒業に必要な要件」、「講義概要」ならびに年度当初に行われる所属学科のオリエンテーションに十分注意の上、履修してください。
- (2) 教育職員免許・学芸員資格・栄養士免許・管理栄養士受験資格・二級建築士試験受験資格・木造建築士試験受験資格・インテリアプランナー登録資格・社会調査士資格・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得を希望する者（栄養士免許・管理栄養士受験資格・食品衛生管理者資格・食品衛生監視員資格の取得は生活栄養学科の学生に限る。）は、「資格取得等の手引」および「標準年次別科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

【凡例】

◎：必修 ○、●、□、▽：選択必修 無印：選択 数字：単位数
 前：前期 後：後期 通：通年

人間文化学部での専門科目の科目名の後のローマ字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳなど）は、原則として受講者がその数字の順番に従って受講しなければならないことを示します。科目名の後のアルファベット（A、B、Cなど）については順番にかかわらず受講することができます。（外国語など全学共通基礎科目についてはこの限りではありません。）

4. 各学科の履修について

(1) 地域文化学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

- A. 日本や東アジアの過去・現在の文化について幅広い知識を身につけることが出来る。
(知識・理解)
- B. 多様な地域文化についての関心を持ち、大学で学んだことをもとに課題を解決しようとする態度を持つ。(思考・判断)
- C. 環琵琶湖地域を中心とするフィールドワーク(現地調査)を通じて、それぞれの地域の社会や文化に対して関心を持ち、自らの見解を形成できる。(興味・関心)
- D. 自分の調査・研究の成果を口頭あるいは文章や地図・図像などの製作物の形で表現することが出来る。(技能・技術)

■教育課程の編成・実施方針

地域文化学科は、幅広い知識を身につけ、課題を解決する人材を育成するという目的を達成するために、地域文化に関する科目を教授するための過程を以下のように編成している。

- A. 分析力
 - ・史料、資料、図像、地図などから情報を収集し分析する能力を学ぶ。
 - ・現状を分析し目的や課題を明らかにする能力を学ぶ。
 - ・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する状況把握力を養成する。
- B. 思考力
 - ・自ら考える力を養成する。
 - ・論理的に思考する能力を養成する。
- C. 創造力
 - ・既存の概念に束縛されない自由な発想力を養う。
 - ・既存のものを組み合わせる新たな価値を生み出す力を養成する。
- D. コミュニケーション力
 - ・世代、国籍、専門を越えた意思疎通・共感力を養う。
 - ・外国語の運用能力を養成する。
 - ・文字、言葉を越えた意思疎通を養う。
- E. リーダーシップ
 - ・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する計画力を養成する。
 - ・目的を設定し確実に実行する力を養う。
 - ・チームで問題解決できるコラボレーション力を養成する。
- F. 変化対応力
 - ・複眼的な広い視野を養う。
 - ・社会的変化、自己を取り巻く環境変化への対応力を養う。
 - ・過去にとらわれない自由な発想力を養う。
- G. 自己実現力
 - ・自己の適性を把握し伸ばす力を養う。
 - ・社会の未来像と自己の将来像を見通す力を養う。
 - ・自己の能力を発揮しつつ社会に貢献しようとする意欲を養う。

②専門科目の履修について

専門科目は、地域文化学科配当表と履修モデルを参照し、年次ごとのバランスを考慮して履修するようにしてください。配当表の＊は隔年開講科目です。年度毎に開講・不開講が変わるので、よく考えて受講計画を立ててください。

【卒業に必要な要件】

2012（平成24）年度以降入学生は、下記のとおり、全学共通科目30単位以上、および専門科目100単位以上、合計130単位以上を取得しなければならない。

(1) 全学共通科目（30単位以上）

(A) 次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目14単位

(B) 第二外国語として、ドイツ語（ⅠA～ⅡB）、フランス語（ⅠA～ⅡB）、中国語（ⅠA～ⅡB）、朝鮮語（ⅠA～ⅡB）のうちから4単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C) 人間学から8単位以上（必修2単位を含む）

(D) 地域基礎から4単位以上（必修2単位を含む）

(2) 専門科目（100単位以上）

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する◎印の必修科目19単位

(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目5単位以上（註1）

●印の科目から2単位以上、▽印の科目から2単位以上、□印の科目から1単位以上

(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から76単位以上（註2）

（註1） 選択必修科目で5単位を超えて取得した単位については、選択科目として卒業要件単位に算入することができる。

（註2） 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目から10単位までを専門科目として卒業単位に算入することができる。また、10単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、所属する学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・論文履修要件】

地域文化演習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。

【卒業研究審査基準】

地域文化演習Ⅲ・Ⅳ（ゼミ）の担当教員を主査とし、学科教員（論文の主題に応じて）2名を副査とする審査委員が熟読したうえで、口頭試問を実施し、下に示す基準に照らし合わせて可否を判断し、学科会議において最終的に可否決定をする。

- ① 20,000字を基本とする。
- ② 研究目的が明確であること。
- ③ 研究方法が妥当であること。
- ④ 目的達成のための調査量が十分であること。
- ⑤ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
- ⑥ 卒業論文としての体裁が整っていること。
- ⑦ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

地域文化学科 カリキュラム・マップ

区分	授業科目名	単位数	必修・選択	学年・学期	学位授与方針との対応			
					A	B	C	D
学科基礎	日本文化論	2	選択	1,2・前	◎			
	日本社会論	2	選択	1,2・前	○	○		
	日本史概説	2	選択	1,2・前	◎	○		
	東洋史概説	2	選択	1,2・後	◎			
	考古学	2	選択	1,2・前	◎			
	地域と空間	2	選択	1,2・後	◎			
	民俗学	2	選択	1,2・後	◎			
	地域文化財論A	2	選択	1,2・前		◎		
	地域文化財論B	2	選択	1,2・後	◎			
	基層文化論	2	選択	1,2・後	◎			
	芸術学	2	選択	1,2・後	◎			
	人文地理学A	2	選択	1,2・後	◎			
	社会学概論	2	選択	1,2・前	○	○		
	地域研究論	2	選択	1,2・前	◎	○		
	地域計画概論	2	選択	1,2・前		◎	○	
	社会調査論	2	選択	1,2・前				○
	現代中国論	2	選択	1,2・前	◎	○		
	世界遺産学概論	2	選択	1,2・後	◎	○		
	日本史料講読	2	選択必修	1,2・通	○			◎
	漢文講読	2	選択必修	1,2・通				○
英書講読	2	選択必修	1,2・通	○			◎	
地域文化基礎演習	1	必修	1・後	◎			◎	
専門科目	世界遺産学特論	2	選択	2・後	◎	○		
	地域文化演習Ⅰ	2	必修	2・通	◎			◎
	比較文化論	2	選択	2,3・後		◎		
	地域と行政	2	選択	2,3・前		◎		
	近世近江論	2	選択	2,3・前	◎			
	文化財・保存修景論A	2	選択	2,3・前		◎		
	中国地域文化論	2	選択	2,3・後	◎	○		
	朝鮮地域文化論	2	選択	2,3・後	◎			
	文化人類学特論	2	選択	2,3・前	◎			
	哲学概論A	2	選択	2,3・前		◎		
	哲学概論B	2	選択	2,3・前		◎		
	文化人類学概論	2	選択	2,3・後	◎			
	西洋史概説	2	選択	2,3・前	◎			
	地域と経済	2	選択	2,3・前		◎		
	文化財情報論	2	選択必修	2,3・後				◎
	アジア文献講読A	2	選択必修	2,3・通	◎			
	アジア文献講読B	2	選択必修	2,3・通				○
	アジア文献講読C	2	選択必修	2,3・通	○			◎
	美術史実習	1	選択必修	2,3・前			◎	
	古文書演習Ⅰ	1	選択必修	2,3・前	○			◎
質的データ解析論	2	選択必修	2,3・後			○	○	
考古学実習Ⅰ	1	選択必修	2,3・前				◎	
考古学実習Ⅱ	1	選択必修	2,3・後				◎	
地理学実習Ⅰ	1	選択必修	2,3・前				◎	
地理学実習Ⅱ	1	選択必修	2,3・後				◎	
民俗学実習	1	選択必修	2,3・後			◎		
古文書演習Ⅱ	1	選択必修	2,3・後	◎				
地域計画実習	1	選択必修	2,3・後		◎	◎	◎	
美術史A	2	選択	2,3,4・前	◎				
美術史B	2	選択	2,3,4・後	◎				

区分	授業科目名	単位数	必修・選択	学年・学期	学位授与方針との対応			
					A	B	C	D
専 門 科 目	アジア社会論	2	選択	2,3,4・前	◎	○		
	人文地理学B	2	選択	2,3,4・後		◎		
	近江商人論	2	選択	2,3,4・前	○	◎		
	アジア交流論	2	選択	2,3,4・前	◎			
	日本文化史論A	2	選択	2,3,4・前	◎			
	日本文化史論B	2	選択	2,3,4・前	◎			
	文化社会学	2	選択	2,3,4・後	○	○		
	対外文化交流論A	2	選択	2,3,4・前	◎			
	対外文化交流論B	2	選択	2,3,4・前	◎			
	歴史的地域論	2	選択	2,3,4・後	○	◎		
	東アジア世界論	2	選択	2,3,4・後	◎			
	社会調査方法論	2	選択	2,3,4・後				○
	量的データ解析論Ⅰ	2	選択	2,3,4・前				○
	量的データ解析論Ⅱ	2	選択	2,3,4・後				○
	国際社会論	2	選択	2,3,4・後	○			
	社会学史	2	選択	2,3,4・前	○			
	地域考古学A	2	選択	2,3,4・前	◎			
	地域考古学B	2	選択	2,3,4・後	◎			
	地域考古学C	2	選択	2,3,4・前	◎			
	地域考古学D	2	選択	2,3,4・後	◎			
	中世近江論	2	選択	3,4・後	◎			
	地域文化演習Ⅱ	2	必修	3・通		◎		◎
	考古学特論A	2	選択	3,4・後	◎			
	考古学特論B	2	選択	3,4・後	◎			
	文化財・保存修景論B	2	選択	3,4・後		◎		
	民俗学特論	2	選択	3,4・後		◎		
	現代ジャーナリズム論	2	選択	3,4・後	○			
	博物館展示論	2	選択	3,4・後		◎		
	博物館経営論	2	選択	3,4・前		◎		
	日本・地域交流特論	2	選択	3,4・後	◎			
	地域経済史論	2	選択	3,4・後	○	◎		
	中国地域文化特論	2	選択	3,4・前	◎			
朝鮮地域文化特論	2	選択	3,4・前	◎				
地誌学	2	選択	3,4・前		◎			
自然地理学	2	選択	3,4・前	○				
社会変動論	2	選択	3,4・後	○				
地域社会調査実習	1	選択必修	3,4・通			○	○	
地域文化演習Ⅲ	1	必修	4・前/(後)			◎	◎	
地域文化演習Ⅳ	1	必修	4・(前)/(後)			◎	◎	
卒業研究・論文Ⅰ	4	必修	4・前/(後)			◎	◎	
卒業研究・論文Ⅱ	4	必修	4・(前)/(後)			◎	◎	

◎…関連が深い科目

○…関係する科目

地域文化学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	授業科目名			
	1年	2年	3年	4年
A	日本史概説	近世近江論	中世近江論	
		日本文化史論 A・B		
	日本文化論		日本—地域交流特論	
	芸術学	美術史 A・B		
	考古学		考古学特論 A・B	
		地域考古学 A・B・C・D		
	地域文化財論 B / 基層文化論			
	地域と空間 / 民俗学			
	世界遺産学概論			
	東洋史概説	世界遺産学特論		
		比較文化論		
		東アジア世界論 / アジア社会論 / アジア交流論		
		対外文化交流論 A・B		
		朝鮮地域文化論	朝鮮地域文化特論	
		中国地域文化論		
	現代中国論		中国地域文化特論	
	社会学概論		社会変動論	
	日本社会学			
		社会学史 / 文化社会学 / 国際社会学		
地域研究論		現代ジャーナリズム論		
人文地理学 A		自然地理学		
	文化人類学概論 / 文化人類学特講			
	西洋史概説			
B		近江商人論		
		歴史的・地域論		
	地域文化財論 A		地域経済史論	
		文化財・保存修景論 A	文化財・保存修景論 B	
		民俗学特論		
	地域計画概論		地誌学	
		地域と経済 / 地域と行政		
		人文地理学 B		
		哲学概論 A・B		
		博物館経営論 / 博物館展示論		
C	環境歴史文化論実習			
		美術史実習		
		民俗学実習		
		地域社会調査実習		
D	日本史料 / 漢文 / 英書講読			
		古文書実習 I・II		
		考古学実習 I・II		
		文化財情報論		
		アジア文献講読 A・B・C		
	社会調査論		地域計画実習	
		質的データ解析論		
		量的データ解析論 I・II		
		社会調査方法論		
		地理学実習 I・II		
地域文化基礎演習	地域文化演習 I	地域文化演習 II	地域文化演習 III・IV	卒業研究・論文 I・II

人間文化学部

【ゼミ別・履修が望ましい科目等一覧】

3年次配当の地域文化演習Ⅱ、4年次配当の地域文化演習Ⅲ・Ⅳは、教員個人（グループの場合もある）が担当するいわゆるゼミにあたります。3年次・4年次は、いずれかのゼミに所属することになります。

ここでは、各ゼミがどのような専門分野を扱うのか、またそのゼミに入るにはどのような科目を履修しておくべきかを示します。ゼミ配属希望者が上限（7名）を超えた場合、人数調整の際にこれらの科目の履修状況を考慮するので、所属したいゼミに即して計画的に履修してください。

＜参考＞2021（令和3）年度の開設研究室一覧

教員名	専門分野	履修すべき科目
市川 秀之	民俗学	民俗学を履修済みであること。
亀井 若菜	日本美術史	芸術学、美術史A、美術史Bのどれかを履修済みであること。
京楽 真帆子	日本前近代の文化史、ジェンダー史	日本文化史論AまたはBを履修済みであること。
東 幸代	日本近世史、地域史、古文書	日本史料講読・近世近江論を履修済みであること。
塚本 礼仁	人文地理学	人文地理学A、人文地理学Bを履修済みであること。
石川 慎治	保存修景計画、集落研究	地域文化財論A・B、文化財情報論を履修済みであることとしていることが望ましい。
萩原 和	地域計画学	地域計画概論、地域と行政の両方を履修済みであること。
横田 祥子	文化人類学、現代中国論	現代中国論と中国地域文化論のいずれかを履修済みであること。また、中国語を履修していることが望ましい。
櫻井 悟史	社会学	質的データ解析論を履修済みであること。また、社会学概論・文化社会学・日本社会学のいずれかを履修していることが望ましい。
金 宇大	世界遺産学、アジア考古学	世界遺産学概論を履修済みであること。また、考古学実習Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。
木村 可奈子	東アジア国際関係史	漢文講読および東洋史概説を履修済みであること。また、中国語または朝鮮語を履修していることが望ましい。
高木 純一	日本中世史	日本史料講読を履修済みであること。加えて、日本史概説を履修済みであることが望ましい。

※考古学の新任教員については本年度新規採用のため、別途オリエンテーションで説明します。

地域文化学科

2021（令和3）年度入学生用【標準年次別 科目配当表】

区分	1年次		2年次		
全学 共通 科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA ◎英語ⅠB ◎英語ⅡA ◎英語ⅡB ○第二外国語ⅠA※1 ○第二外国語ⅠB※1 ◎情報リテラシー（情報倫理を含む） ◎情報科学概論 ◎健康・体力科学Ⅰ	1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 2 前 2 後 1 後	◎英語ⅢA ◎英語ⅢB ◎英語ⅣA ◎英語ⅣB ○第二外国語ⅡA※1 ○第二外国語ⅡB※1 ◎健康・体力科学Ⅱ	1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前
	人間学 地域基礎	4年間で8単位以上（人間探求学は1年次必修） 4年間で4単位以上（地域共生論は1年次必修）			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分	1年次		2年次		
専門 科目	学 部 共 通 基 礎	◎ 環境徳胡文化論実習	2 通		
		◎ 人間文化論A ● 人間文化論B ● 人間文化論C	2 前 2 後 2 後		
	複数学科 共通	統計学基礎	2 前		
		演習	◎ 地域文化基礎演習	1 後	
	学 科 基 礎	日本文化論	2 前	基礎文化論	2 後
		日本社会学	2 後	芸術学	2 後
		日本史概説	2 前	人文地理学A	2 後
		東洋史概説	2 後	社会学概論	2 前
	考古学	2 前	地域研究論	2 前	
	地域と空間	2 後	地域計画概論	2 前	
民俗学	2 後	社会調査論	2 前		
*1 地域文化財論A	2 前	現代中国論	2 前		
地域文化財論B	2 後	世界遺産学概論	2 前		
講読	▽ 日本史料講読 ▽ 漢文講読	2 通 2 通	▽ 英書講読	2 通	
学 科 専 門	講 義			世界遺産学特論	2 後
				比較文化論	2 前
				哲学概論A	2 前
				*1 哲学概論B	2 前
				文化人類学概論	2 後
				西洋史概説	2 前
				□ 文化財情報論	2 後
				地域と経済	2 前
				*2 美術史A	2 前
				*1 美術史B	2 前
		*2 アジア社会学	2 前		
		人文地理学B	2 後		
		近江商人論	2 前		
		*1 アジア交流論	2 前		
		*1 日本文化史論A	2 前		
		*2 日本文化史論B	2 前		
表 習			□ アジア文獻講読A	2 通	
			□ アジア文獻講読B	2 通	
演 習			□ アジア文獻講読C	2 通	
			□ 美術史実習	1 前	
			□ 地域計画実習	1 後	
			□ 古文書演習Ⅰ	1 前	
			◎ 地域文化演習Ⅰ	2 通	

●：選択必修（この中から2単位以上履修）

*2：選択必修（この中から2単位以上履修）

□：選択必修（この中から1単位以上履修）

○：選択必修（第二外国語 4単位以上）

	3年次		4年次	
全学 共通基礎	リテラシー(中級)	2 前	Intermediate Academic English	1 前
	リーディング(中級)	2 後	Advanced Academic English I	2 後
	Integrated English	2 前	Advanced Academic English II	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前	English For Business	1 前
	Essay Writing	2 後	English in Media	2 後
	応用英語演習 I A	1 前	応用英語演習 I B	1 後
人間学 地域基礎				

*1: 隔年開講 奇数年度開講

*2: 隔年開講 偶数年度開講

	3年次		4年次	
学部 共通 基礎				
複数学科 共通				
学科 基礎	演習			
	講義			
	講読			
学科 専門	講義	地域と行政	2 後	
		近世近江論	2 前	
		*2 文化財・保存修景論 A	2 前	
		中国地域文化論	2 後	
		*2 朝鮮地域文化論	2 前	
		文化人類学特論	2 前	
		□ 質的データ解析論	2 後	
		中世近江論	2 後	
		文化社会学	2 後	
		*1 対外文化交流論 A	2 前	*2 国際社会論
*2 対外文化交流論 B	2 前	*2 社会学史	2 前	
歴史的地域論	2 後	*2 地域考古学 A	2 前	
*2 東アジア世界論	2 後	*2 地域考古学 B	2 後	
社会調査方法論	2 後	*1 地域考古学 C	2 前	
量的データ解析論 I	2 前	*1 地域考古学 D	2 後	
量的データ解析論 II	2 後			
*2 考古学特論 A	2 後	*1 地域経済史論	2 後	
*1 考古学特論 B	2 後	*2 中国地域文化特論	2 前	
*1 文化財・保存修景論 B	2 後	朝鮮地域文化特論	2 前	
民俗学特論	2 後	地誌学	2 前	
*1 現代ジャーナリズム論	2 前	自然地理学	2 前	
博物館展示論	2 後	*1 社会変動論	2 後	
博物館経営論	2 前			
日本・地域交流特論	2 後			
実習	□ 考古学実習 I	1 前		
	□ 考古学実習 II	1 後		
	□ 地理学実習 I	1 前		
	□ 地理学実習 II	1 後		
	□ 民俗学実習	1 後		
演習	□ 地域社会調査実習	1 通		
	□ 古文書演習 I	1 後		
	◎ 地域文化演習 II	2 通	◎ 地域文化演習 III	1 前 / 後
		◎ 地域文化演習 IV	1 前 / 後	
		◎ 卒業研究・論文 I	4 前 / 後	
		◎ 卒業研究・論文 II	1 前 / 後	

*1 地域文化演習 III の修得後に、「地域文化演習 IV」を履修できる。同時履修は不可。

*2 卒業研究・論文 I の履修後に、「卒業研究・論文 II」を履修できる。同時履修は不可。

2021 (令和3) 年度以降入学生用 地域文化学科 専門科目履修モデル

地域文化学科の科目は、大きく歴史系、地域遺産系、交流系、現代社会系の4つの系に分かれています。関心のある分野を中心に専門科目の履修を考えるとよいでしょう。ただし各目の関心に合わせて他の系の科目も履修してください。

区分		歴史系	地域遺産系	交流系	現代社会系	(通分的科目)
学部共通基礎	実習(1年次)	必修	◎環境資源文化論実習			
	講義(1年次)	必修	◎人間文化論A ●人間文化論B ●人間文化論C			
複数学科共通	実習(1年次)	必修	◎統計学基礎			
	講義(1,2年次)	選択必修1科目以上	◎地域文化基礎実習 ▽漢文講義			
学科基礎	講義(1,2年次)	日本文化論 日本史概説 芸術学	考古学 地域と空間 民俗学 地域文化財論A 地域文化財論B 基層文化論	世界通商学概論 形序史概説 現代中国論	日本社会学 人文地理学A 社会学概論 地域研究論 地域計画論 社会調査論	
	演習(2年次)	必修	◎日本史科講義 ▽漢文演習I			
学科専門	演習(3年次)	必修	◎地域文化演習III/IV ◎卒業研究・論文I・II			
	実習(2,3年次)	選択必修1単位以上 (社会調査実習のみE3, F4を除く科目)	◎考古学実習I ◎考古学実習II ◎文化財情報論 ◎民俗学実習	◎アジア文献講義A ◎アジア文献講義B ◎アジア文献講義C	◎地理学実習I ◎地理学実習II ◎質的予一夕分析論 ◎地域計画実習 ◎地域社会調査実習 (3,4年次配当)	哲学概論A 哲学概論B 文化人類学概論 西洋史概説 文化人類学特論
学科専門	講義(2,3年次)	近世近江論	文化財・保存技術論A	中国地域文化論 朝鮮地域文化論 世界遺産学特論 (2年次配当) 比較文化論	地域と経済 地域と行政	
	講義(2,3,4年次)	日本文化史論A 日本文化史論B 歴史的地域論 素戔嗚尊A 製糖史B 近江商人論	地域考古学A 地域考古学B 地域考古学C 地域考古学D	アジア社会論 アジア交流論 対外文化交流論A 対外文化交流論B 東アジア世界論	人文地理学B 文化社会学 社会調査方法論 量的予一夕分析論I 量的予一夕分析論II 現代社会学 社会学史	
学科専門	講義(3,4年次)	日本・地域文化論特論 地域経済史論 中世近江論	考古学特論A 考古学特論B 文化財・保存技術論B 民俗学特論	中国地域文化特論 朝鮮地域文化特論	現代ジャーナリズム論 地理学 自然地理学 社会変動論	博物館学特論 博物館経営論

(2) 生活デザイン学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

- A. 身近な生活環境を構成する住居・道具・服飾の各分野について、基礎から実践に至るまでの知識と理論を理解することができる。(知識・理解)
- B. 演習科目を通して、自分の専攻する分野のデザインスキルを身に付ける。(技能・技術)
- C. 生活環境、生活様式に関わる問題を発見し、具体的な方法論により、分析・考察し、説明・解決・提案できる。(思考・判断)
- D. 生活環境の中のデザインや地域におけるデザインについて関心を持ち、大学で学んだことをもとに、それを改善しようとする態度を持つ。(興味・関心)
- E. 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章や、制作物の形で表現する事ができる。(技能)

■教育課程の編成・実施方針

生活デザイン学科では、人々の様々な生活シーンに関連する種々の問題を深く洞察し、研究分析を根拠とする実践的なデザイン発想を以て解決・提案のできる人材を育成することを目的としている。その目的を達成するために、生活デザイン学に関する科目を教授するための課程を、以下のカテゴリーに分けて編成している。

<人間文化学部全体の共通科目>

人間文化に関する科学的知見と、実践的な調査・分析手法を学ぶ。

<複数学科の共通科目>

専門分野に留まらない、幅広い視点から物事を考察するための知見を学ぶ。

<本学科の学生を対象とする科目>

当該科目は、生活環境の構成に密接に関連する以下の3分野に大別される。また、3分野をまたぐ科目が配当されている。

(a) 住居系：

住空間には、安全性、利便性、社会的公共性など様々な配慮が必要である。人の生活空間である住居および公共空間のインテリアを含むデザインについて、これを実践する為の技術と知識を身につける。

(b) 道具系：

人がその生活を支えるために使う工作物（モノ、プロダクト、製品）を道具と定義し、これらのデザインを具体的に実践する為に必要な技術と知識を身につける。

(c) 服飾系：

着衣基体としての人体と、自然、社会、文化に広く関わる服飾について、自らの感性を活かして主体的にデザインを行うために必要な技術と知識を身につける。

②専門科目の履修について

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

(1) 全学共通科目 (30 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B) 第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C) 人間学(「比較住居論」を除く) から 8 単位以上(必修 2 単位を含む)。

(D) 地域基礎から 4 単位以上(必修 2 単位を含む)。

(2) 専門科目 (100 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 21 単位

(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 12 単位以上 (註 1)

●印から 2 単位以上、□印から 10 単位以上 (住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする)

(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 67 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 12 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から 10 単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することができる。

【卒業研究・制作／論文着手要件】

生活デザイン論演習Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。原則として卒業単位を 110 単位以上修得していること

【卒業研究等審査基準】

1 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的と研究計画の妥当性
- (2) テーマの新規性・学術性・社会性
- (3) 研究方法の的確性・独創性
- (4) 研究内容の論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
- (5) 論理構成および結論 (表現) の妥当性、制作の場合は加えて完成度
- (6) プレゼンテーションの技法と質疑応答能力

2 卒業研究 (卒業論文・卒業制作) は、学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 1 および 2 による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

【科目履修上の注意】

専門科目は、人間文化学部全体の共通科目、複数学科の共通科目、本学科の学生を対象とする科目の3群から構成されている。学部共通の環境芸術湖文化論実習、人間文化論Aは必修科目である。複数学科共通科目として挙げられている科目は、人間生活のあり方を追求し、文化的な生活を創造する上で、基礎となる科目である。学科専門科目は、その内容から、(a)住居系、(b)道具系、(c)服飾系の3分野に大別できる。また、3分野をまたぐ基礎的な科目が、主に1年次および2年次に配当されている。

(a) 住居系

住居は人の生活の器である。それは過酷な自然や災害から身を守り、快適な生活を人にもたらす。そして住居が集まって集落や都市ができ、コミュニティが形成され、人の社会活動が営まれる。従って住居には安全性、利便性はもちろんのこと、社会的公共性も強く求められる。そのため住居の計画・設計・建設においては家の構造や、自然の状況、生活の内容に対する豊かな知識と細やかな配慮が必要である。また住居を設計し表現するための実践的な知識、技術も必要である。それらを、講義科目および住環境設計演習を通して身につける。

(b) 道具系

人がその生活を支えるために使う技術的の工作物(モノ、プロダクト、製品)が道具である。その道具というモノをデザインすることによって人は何かしらのコトを実現する。道具系の科目は、道具を企画・デザインし、広報・宣伝し、流通・販売する社会的行為について学ぶ講義科目と、そのデザインを具体的に実践するために必要な技術と知識を基礎から身につける演習科目で構成される。

(c) 服飾系

衣服は人体にとって最も身近な環境である。豊かな感性と論理的思考力、現場での実践力をあわせ持ち、快適で審美的な衣環境を見出すために、素材の基礎知識、衣服の管理、製品の製造と品質、流通・消費者問題に関する事項を学ぶとともに、服飾文化について造詣を深める。感性と専門知識を生かした主体的な服飾デザインを実践するために必要な問題点の分析、アイデアの創出、提案、評価のプロセスを学ぶための講義科目、演習で構成される。

上記の3つの科目群は扱う対象が異なり、対応する社会的職能も分かれるので、履修を進めていくなかで、各人なりの取捨選択が求められることになる。しかし、複数分野の科目を履修することによりデザインに関する幅広い知識・技能を得ることが可能である。マーケティングの科目も積極的に履修することを勧める。

各科目群に関連した科目が他学部・他学科の中にもあるので、積極的にそれらの科目を履修することを勧める。ただし、同名の他学部・他学科科目は受講できない。環境・建築デザイン学科の「建築一般構造」、「木匠塾」、「構造計画」、「構造力学Ⅰ」は、生活デザイン学科の「一般構造」、「木匠塾」、「構造計画」、「構造力学Ⅰ」と同内容であるため受講できない。

生活デザイン学科 カリキュラムマップ

専 門 科 専 門 目	授業科目の名称	学年・学期	単位数			学位授与方針に対する関与の程度				
			必修	選択 必修	選択	A	B	C	D	E
	比較住居論	1・前			2	○				
	消費生活論	1.2・後			2	○				
	デッサン法	1・前		1			○			
	生活造形基礎演習	1・前			2		○			
	社会調査論	2・前			2	○				
	保育学	1.2・前			2	◎	○			
	生活工学	1.2・前			2	○				
	食物学	1.2・前			2	◎	○			
	生活素材論	2・前			2	○				
	色彩学	2・前			2	◎		○		
	色彩学演習	2・後		1			◎	○	○	
	消費科学Ⅰ	2・後			2	○				
	消費科学Ⅱ	3・前			2	○				
	生活経営論	3・後			2	○		◎	○	
	デジタルデザイン演習A	2・前		1			○			
	デジタルデザイン演習B	2・後		1			○			
	人間工学	2・後			2	○				
	近代デザイン史	2・前			2	○				
	生活デザイン論	2・後	2			○				
	構造力学Ⅰ	3・後			2	○				
	インテリア計画論	2・前			2	◎		○		
	一般構造	2・前			2	○				
	建築計画論	2・後			2	○				
	インテリアコーディネート概説	3・前			1	○				
	空間デザイン論	3・前			2	○				
	構造計画	2・後			2	○				
	服飾デザイン論	3・後			2	○		◎	○	
	基礎設計製図	1・後	2				○			
	住環境設計演習Ⅰ	2・前		2		○	◎			
	住環境設計演習Ⅱ	2・後		2		○	◎			
	住環境設計演習Ⅲ	3・前		2		○	◎			
	道具デザイン演習Ⅰ	2・前		2			◎	○		○
	道具デザイン演習Ⅱ	2・後		2			◎	○		○
	道具デザイン演習Ⅲ	3・前		2			◎	○		○
	服飾デザイン演習Ⅰ	2・前		2			◎		○	○
	服飾デザイン演習Ⅱ	2・後		2			◎	○		○
	服飾デザイン演習Ⅲ	3・前		2			◎		○	○
	住環境論	3・後			2	◎		○		
	服飾造形論	3・前			2	◎		○		
	マーケティング論	1・後			2	○		◎		
	マーケティング演習	2・前		2		○	○	◎		
	人間工学実習	3・前			1	○	○	◎		
	道具計画論	3・前			2	○				
	現代産業デザイン論	3・前			2	○				
	視覚伝達デザイン	3・後		2		◎		○		
	建築法規	3・後			2	○				
	基礎服飾デザイン	1・後	1			◎	○			
	考現学概論	1・前			2	○		◎		○
	比較道具論	1・後			2	○				
	比較衣装論	1・前			2	○				
	服飾文化論	2・前			2	○				
	テキスタイルデザイン	2・後		1		○	◎			○
	社会調査方法論	2・後			2	○		○		
	プレゼンテーション技法	1・後			2	○				
	サステナブルデザイン論	3・前			2	○				
	行動デザイン論	3・前			2	○		◎		○
	服飾心理学	3・後			2	○				
	生活デザイン学外演習	1,2,3,4・通			2		○	○	○	○
	木匠塾	1,2,3,4・通			2		○	○	○	○
	生活デザイン論演習Ⅰ	3・前(後)	1			○				
	生活デザイン論演習Ⅱ	3・後(前)	3			○	○	○	○	○
	卒業研究・制作／論文Ⅰ	4・前(後)	4			○	○	○	○	○
	卒業研究・制作／論文Ⅱ	4・後(前)	4			○	○	○	○	○

生活デザイン学科 カリキュラムツリー

学位授与方針	配当学年								
	全学年 通年	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A	基礎 住居 道具 服飾	保育学	消費生活論	食物学	生活デザイン論				
		生活工学	プレゼンテーション技法	近代デザイン史 色彩学	人間工学				
		比較住居論		一般構造 インテリア計画論	建築計画論 構造計画	空間デザイン論 インテリアコーディネート概説	住環境論 建築法規 構造力学Ⅰ		
			比較道具論			道具計画論 現代産業デザイン論	視覚伝達デザイン		
	比較衣裳論		生活素材論 服飾文化論	消費科学Ⅰ	消費科学Ⅱ	服飾造形論	服飾心理学		
B	基礎 住居 道具 服飾	テッサン法			色彩学演習				
		生活造形基礎演習		デジタルデザイン演習A	デジタルデザイン演習B				
					テキスタイルデザイン				
			基礎設計製図	住環境設計演習Ⅰ	住環境設計演習Ⅱ	住環境設計演習Ⅲ			
			道具デザイン演習Ⅰ	道具デザイン演習Ⅱ	道具デザイン演習Ⅲ				
		基礎服飾デザイン	服飾デザイン演習Ⅰ	服飾デザイン演習Ⅱ	服飾デザイン演習Ⅲ				
C	考現学概論	マーケティング論	マーケティング演習		行動デザイン論	生活経営論			
				社会調査方法論	人間工学実習	服飾デザイン論			
	社会調査論				サステナブルデザイン論				
D	生活デザイン学外演習	環琵琶湖文化論実習				生活デザイン演習Ⅰ			
	木匠塾								
E						生活デザイン論演習Ⅱ	卒業研究・制作/論文Ⅰ	卒業研究・制作/論文Ⅱ	

生活デザイン学科

2021（令和3）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分	1年次		2年次		
全学 共通 科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA	1 前	◎英語ⅢA	1 前
		◎英語ⅠB	1 後	◎英語ⅢB	1 後
		◎英語ⅡA	1 前	◎英語ⅣA	1 前
		◎英語ⅡB	1 後	◎英語ⅣB	1 後
		○第二外国語ⅠA※1	1 前	○第二外国語ⅡA※1	1 前
		○第二外国語ⅠB※1	1 後	○第二外国語ⅡB※1	1 後
		◎情報リテラシー（情報倫理を含む）	2 前	◎実用英語演習ⅠA	1 前
◎情報科学概論	2 後	◎実用英語演習ⅠB	1 後		
◎健康・体力科学Ⅰ	1 後	◎健康・体力科学Ⅱ	1 前		
人間学	4年間で8単位以上（人間探求学は1年次必修）				
地域基礎	4年間で4単位以上（地域共生論は1年次必修）				

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、要修を第二外国語とすることができる。

区分	1年次		2年次		
専 門 科 目	学 部 共 通 基 礎	◎ 環境観湖文化論実習	2 通		
		◎ 人間文化論A	2 前		
	複 数 学 科 共 通	● 人間文化論B	2 後		
		● 人間文化論C	2 後		
		心理学基礎	2 前	社会調査方法論	2 後
	学 科 専 門	統計学基礎	2 前		
		社会調査論	2 前		
*1 消費生活論		2 後			
【生活デザインの視点】			【生活デザインの視点】		
□ デッサン法		1 前	◎ 生活デザイン論	2 後	
生活造形基礎演習		2 前	近代デザイン史	2 前	
プレゼンテーション技法		2 後	生活素材論	2 前	
マーケティング論		2 後	人間工学	2 後	
			色彩学	2 前	
			□ 色彩学演習	1 後	
		消費科学Ⅰ	2 後		
		□ マーケティング演習	2 前		
		【住居・道具・服飾デザイン】			
		◎ 基礎設計製図	2 後		
		◎ 基礎服飾デザイン	1 後		
		考現学概論	2 前		
		比較住居論	2 前		
		比較道具論	2 後		
		比較衣装論	2 前		
		*1 食物学（調理実習を含む）	2 前		
		*2 保育学	2 前		
		*1 生活工学	2 前		
		木匠塾	2 通		
		生活デザイン学外演習	2 通		
				【住居・道具・服飾デザイン】	
		□ デジタルデザイン演習A	1 前		
		□ デジタルデザイン演習B	1 後		
		インテリア計画論	2 前		
		一般構造	2 前		
		建築計画論	2 後		
		構造計画	2 後		
		□ 住環境設計演習Ⅰ	2 前		
		□ 住環境設計演習Ⅱ	2 後		
		□ 道具デザイン演習Ⅰ	2 前		
		□ 道具デザイン演習Ⅱ	2 後		
		□ 服飾デザイン演習Ⅰ	2 後		
		□ 服飾デザイン演習Ⅱ	2 後		
		服飾文化論	2 前		
		テキスタイルデザイン	1 後		

◎：必修

●：選択必修（この中から2単位以上履修）

□：選択必修（この中から10単位以上履修）

ただし、住環境設計演習、道具デザイン演習、服飾デザイン演習のいずれかのⅠ～Ⅲを必修とする

○：選択必修（第二外国語 4単位以上）

	3年次		4年次	
全学 共通基礎	リスニング (中級)	2 前	Intermediate Academic English	1 前
	リーディング (中級)	2 後	Advanced Academic English I	2 後
	Integrated English	2 前	Advanced Academic English II	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前	English for Business	1 前
	Essay Writing	2 後	English in Media	2 後
人間学				
地域基礎				

*1 : 隔年開講 奇数年度開講

*2 : 隔年開講 偶数年度開講

	3年次		4年次	
学部 共通基礎				
複数 学科共通	生活経営論	2 後		
学科 専門	〔生活デザインの視点〕			
	行動デザイン論	2 前		
	人間工学実習	1 前		
	消費科学Ⅱ	2 前		
	サステナブルデザイン論	2 前		
	〔住居・道具・服飾デザイン〕			
	住環境論	2 後		
	インテリアコーディネート概説	1 前		
	空間デザイン論	2 前		
	建築法規	2 後		
	構造力学Ⅰ	2 後		
	□ 住環境設計演習Ⅲ	2 前		
	道具計画論	2 前		
	*2 現代産業デザイン論	2 前		
	□ 視覚伝達デザイン	2 後		
	□ 道具デザイン演習Ⅲ	2 前		
	□ 服飾デザイン演習Ⅲ	2 前		
服飾造形論	2 前			
服飾デザイン論	2 後			
服飾心理学	2 後			
◎ 生活デザイン論演習Ⅰ	1 前(後)	◎ 卒業研究・制作/論文Ⅰ	4 前(後)	
◎ 生活デザイン論演習Ⅱ	3 後(前)	◎ 卒業研究・制作/論文Ⅱ	4 後(前)	

(3) 生活栄養学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針について

■学位授与方針

生活栄養学科は卒業時点において学生が身につけるべき能力（教育研究上の目的）を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、生活栄養学科の定める人材育成目標を達成した者に、学士課程の人間文化学の学士を授与します。

- A. 栄養学に関する幅広い基礎的な知識を習得する。（知識・理解）
- B. 栄養学の視点からみた健康に関するさまざまな問題に対して大学で学んだ知識を基に科学的根拠をもって自らの見解を形成できる。（思考・判断）
- C. 実験、実習、演習などの実施教育を通して、明確な目的意識を持ち、自主的な学習姿勢を通じて独創的な思考力を習得する。（思考・判断）
- D. 現代社会が抱える栄養学の視点からみた健康に関する問題に対し、大学で学んだ事を基に解決しようとする態度を持つ。（興味・関心）
- E. 個々人の栄養状態を把握し、個々人に最適な栄養管理を行うことができる。（技能・技術）

■教育課程の編成・実施方針

生活栄養学科は、DIPを達成するために、各分野に関する科目を教授するための課程を以下のようなカテゴリーに分けて、カリキュラム（教育課程）を編成しています。

- A. 自然環境、社会、人間に関する理解および管理栄養士の役割に関する理解
 - A-1 自然環境、社会、人間について地球の視点や地域の視点、さまざまな立場から多面的に理解し、幅広く深い教養を身につける
 - A-2 人間の活動が人間・社会・自然に及ぼす影響および管理栄養士が社会に対して負っている責任について理解する能力および実践力を養う
- B. 国際的にコミュニケーションできる基礎能力を身につける
- C. 栄養学の基礎となる幅広い分野について理解する
 - C-1 社会・環境の視点からみた健康について理解する
 - C-2 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて理解する
 - C-3 運動の視点からみた健康について理解する
 - C-4 食べ物の視点からみた健康について理解する
- D. 専門分野に関する基礎学力を修得する
 - D-1 栄養学の基礎となる基礎栄養学、応用栄養学を理解する
 - D-2 栄養学の応用となる臨床栄養学、公衆栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、スポーツ栄養学を理解する
 - D-3 講義で学んだ知識を実験、実習、演習を通してより具体的に理解し、栄養管理に応用できる能力を養成する
- E. 大学で学んだ栄養学の知識と技術を臨地実習で活用することができる
- F. 自分の意見を論理的に整理し相手に分かりやすく伝える力、相手の意見を聴き理解する力を養う
- G. 自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力、継続的に自己啓発と学習を続けていく力を養う
- H. 課題の解決への道筋を明らかにする力、目標に向け確実に行動する力を身につける

②専門科目の履修について

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

(1)全学共通科目 (30 単位以上)

(A)124 頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B)第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修
ただし、「第二外国語ⅡA・ⅡB」は「実用英語演習ⅠA・ⅠB」で代替可

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C)人間学から 8 単位以上(必修 2 単位を含む)

(D)地域基礎から 4 単位以上(必修 2 単位を含む)

(2)専門科目 (100 単位以上)

(A)124 頁以降の科目配当表に指定する必修科目 68 単位

(B)124 頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 2 単位以上 (註 1)
●印から 2 単位以上

(C)124 頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 30 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 2 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位に算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目のうち、すべての科目から 10 単位までを、専門科目として卒業単位に算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位に算入することがある。

【卒業研究・論文着手要件】

卒業研究・論文実施学年時に、卒業研究・論文Ⅰ、卒業研究・論文Ⅱ、管理栄養士総合演習、生活栄養論演習Ⅱa、生活栄養論演習Ⅱb 以外の科目について、講義科目ならば 10 科目 (20 単位)*以上を履修する場合は、卒業研究・論文を履修できない。

*実験・実習科目 1 科目 (1 単位)は、講義科目 2 科目 (4 単位)に相当する。

【卒業研究審査基準】

1 卒業研究は、以下の評価項目によって審査する。

- (1) 研究目的と研究計画の妥当性
- (2) 研究内容の論拠の客観性・実証性
- (3) 卒業論文の完成度
- (4) プレゼンテーション技法と質疑応答能力
- (5) 研究に対する姿勢

2 卒業研究は、卒業研究発表審査会において学科が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 上記 1 ならびに 2 による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

生活栄養学科 カリキュラムマップ

区分	授業科目名	単位数	学年学期	学位授与方針に対する関与の程度				
				A	B	C	D	E
専 門 科 目	健康情報管理実習	1	1・前期	◎				
	社会福祉概論	2	1・後期	◎				
	基礎栄養学Ⅰ	2	1・後期	○	◎			
	栄養生化学	2	1・前期	◎				
	食品学総論	2	1・前期	◎				
	食品機能科学	2	1・後期	◎				
	食品基礎実験	1	1・後期		○	◎		
	嗜好と調理実習Ⅰ	1	1・後期		○	◎		
	生体の構造と機能	2	1・後期	◎				
	分子生物学基礎	2	1・前期	◎				
	臨床栄養活動論	2	1・後期	○	◎			
	天然物化学基礎	2	1・前期	◎				
	食品微生物学	2	1・後期	○	◎			
	基礎栄養学Ⅱ	2	2・前期	○	◎			
	応用栄養学Ⅰ	2	2・前期	○	◎			
	栄養生化学実験	1	2・後期		○	◎		
	食品機能科学実験	1	2・後期			◎		
	食品の調理と加工	2	2・前期	◎				
	嗜好と調理実習Ⅱ	1	2・前期		○	◎		
	運動と健康	2	2・後期	◎				
	公衆衛生学	2	2・後期	◎				
	疾病の成り立ちⅠ	2	2・前期	◎				
	疾病の成り立ちⅡ	2	2・後期	◎				
	疾病の成り立ちⅢ	2	3・前期	◎				
	臨床栄養学Ⅰ	2	2・後期	○	◎			
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	2・後期		○	○		◎
	栄養教育論Ⅰ	2	2・後期	○	◎			
	食品衛生学	2	2・前期	◎				
	生命科学与人間	2	3・後期	◎				
	公衆栄養学	2	3・前期	○	◎			
	栄養疫学論	2	3・後期	○	◎			
	公衆栄養学実習	1	3・後期		○	○		◎
	応用栄養学Ⅱ	2	2・後期	○	◎			
	スポーツ栄養学	2	3・後期	○	◎			
	基礎栄養学実験	1	3・前期	○	◎			
	食品加工実習	1	3・後期		○	◎		
	応用栄養学実習	1	3・前期		○	◎		
	栄養生理学実習	1	3・前期		○	◎		
	病理生理学実習	1	3・後期		○	◎		
	臨床栄養学Ⅱ	2	3・前期	○	◎			
	臨床栄養学Ⅲ	2	3・後期	○	◎			
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	3・前期		○	○		◎
	栄養教育論Ⅱ	2	3・前期	○	◎			
	栄養教育論Ⅲ	2	3・後期	○	◎			
	栄養教育論実習	1	3・前期		○	○		◎
給食経営管理論Ⅰ	2	2・後期	○	◎				
給食経営管理論Ⅱ	2	3・前期	○	◎				
給食経営管理実習	1	3・前期		○	○		◎	
給食衛生管理実習	1	3・前期		○	◎			
食品衛生学実験	1	3・後期		○	◎			
地域保健臨地実習	1	3・前期				◎	◎	
臨床栄養臨地実習Ⅰ	1	3・前期				◎	◎	
臨床栄養臨地実習Ⅱ	1	3・前期				◎	◎	
給食経営管理臨地実習	1	3・前期				◎	◎	
臨地実習事前事後指導	1	3・前期				◎		
専門外書講義	2	3・後期	◎					
生活栄養論演習Ⅰ	1	3・後期		◎	◎			
管理栄養士総合演習	1	4・後期	◎			◎		
生活栄養論演習Ⅱa	1	4・前期		◎	◎	◎		
生活栄養論演習Ⅱb	1	4・後期		◎	◎	◎		
卒業研究・論文Ⅰ	4	4・前期		◎	◎	◎		
卒業研究・論文Ⅱ	4	4・後期		◎	◎	◎		

◎は各項目と関係の深い科目
○は各項目と関係する科目

人間文化学部

生活栄養学科

2021 (令和3) 年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分	1年次		2年次		
全学 共通 科目	全学 共通基礎 ※2	◎英語ⅠA ◎英語ⅠB ◎英語ⅡA ◎英語ⅡB ○第二外国語ⅠA※1 ○第二外国語ⅠB※1 ◎情報リテラシー(情報倫理を含む) ◎情報科学概論 ◎健康・体力科学Ⅰ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1後	◎英語ⅢA ◎英語ⅢB ◎英語ⅣA ◎英語ⅣB ○第二外国語ⅡA※1 ○第二外国語ⅡB※1 ○実用英語演習ⅠA ○実用英語演習ⅠB ◎健康・体力科学Ⅱ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前
	人間学 地域基礎	4年間で8単位以上(人間探求学は1年次必修) 4年間で4単位以上(地域共生論は1年次必修)			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。ただし、第二外国語ⅡA・ⅡBは実用英語演習ⅠA・ⅠBで代替可。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分	1年次		2年次	
学 部 共 通 基 礎	◎ 環境慈湖文化論実習	2 通		
	◎ 人間文化論A ● 人間文化論B ● 人間文化論C	2 前 2 後 2 後		
複数 学科共通	統計学基礎	2 前	消費生活論 (奇数年開講)	2 後
専 門 科 目	[社会と健康] 健康情報管理実習※ 社会福祉概論*	1 前 2 後	[栄養と健康] ◎ 基礎栄養学Ⅱ* ◎ 応用栄養学Ⅰ* ◎ 応用栄養学Ⅱ* ◎ 栄養生化学実験*	2 前 2 前後 2 後 1 後
	学 科 専 門	◎ 基礎栄養学Ⅰ* ◎ 栄養生化学* 天然物化学基礎 [食べ物と健康] ◎ 食品学総論* ◎ 食品機能科学* ◎ 食品基礎実験* ◎ 嗜好と調理実習Ⅰ* 食品微生物学 [疾病と健康] ◎ 生体の構造と機能* 分子生物学基礎※ ◎ 臨床栄養活動論※	2 後 2 前 2 前 2 前 2 後 1 後 1 後 2 前 2 後 2 前 2 後 2 後	[食べ物と健康] ◎ 食品機能科学実験* 食品の調理と加工* 嗜好と調理実習Ⅱ* [疾病と健康] ◎ 運動と健康* 公衆衛生学* ◎ 疾病の成り立ちⅠ* ◎ 疾病の成り立ちⅡ* [臨床の栄養] ◎ 臨床栄養学Ⅰ* ◎ 臨床栄養学実習Ⅰ* [教育と健康] ◎ 栄養教育論Ⅰ* [給食経営の管理] ◎ 食品衛生学* ◎ 給食経営管理論Ⅰ*

●：選択必修(この中から2単位以上履修)

	3年次		4年次	
全学 共通基礎	リスニング(中級)	2 前	Intermediate Academic English	1 前
	リーディング(中級)	2 後	Advanced Academic English I	2 後
	Integrated English	2 前	Advanced Academic English II	2 後
	Introduction to Discussion & Debate	2 前	English for Business	1 前
	Essay Writing	2 後	English in Medicine	2 後
人間学				
地域基礎				

科目名の後ろの* は栄養士免許取得に必要な科目。

※は管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な追加科目である。

	3年次		4年次	
学 部 基 礎				
複数 学科共通	生活経営論	2 後		
学 科 専 門	【社会と健康】 生命科学と人間※ 2 後 ◎ 公衆栄養学* 2 前 栄養疫学論※ 2 後 ◎ 公衆栄養学実習* 1 後 【栄養と健康】 スポーツ栄養学※ 2 後 ◎ 基礎栄養学実験* 1 前 【食べ物と健康】 ◎ 食品加工実習* 1 後 【疾病と健康】 疾病の成り立ち※ 2 前 ◎ 応用栄養学実習* 1 前 栄養生理学実習※ 1 前 ◎ 病態生理学実習* 1 後 【臨床の栄養】 ◎ 臨床栄養学Ⅱ* 2 前 臨床栄養学Ⅲ※ 2 後 ◎ 臨床栄養学実習Ⅱ* 1 前 【教育と健康】 ◎ 栄養教育論Ⅱ* 2 前 栄養教育論Ⅲ(含カウンセリング論演習)※ 2 後 ◎ 栄養教育論実習* 1 前 【給食の管理】 ◎ 給食経営管理論Ⅱ* 2 前 ◎ 給食経営管理実習* 1 前 ◎ 給食衛生管理実習* 1 前 ◎ 食品衛生学実験* 1 後 【臨地実習】 地域保健臨地実習※ 1 前 臨床栄養臨地実習Ⅰ※ 1 前 臨床栄養臨地実習Ⅱ※ 1 前 給食経営管理臨地実習* 1 前 臨地実習事前事後指導※ 1 前 ◎ 生活栄養論演習Ⅱa 1 前 ◎ 生活栄養論演習Ⅱb 1 後 ◎ 卒業研究・論文Ⅰ 4 前 ◎ 卒業研究・論文Ⅱ 4 後			
	◎ 生活栄養論演習Ⅰ	1 後		
	◎ 生活栄養論演習Ⅰ	1 後		

○：選択必修（第二外国語 4単位以上）

(4) 人間関係学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

本学科の専門科目群、全学共通教育科目群の履修および在学中の多様な活動を通じて、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加するための基礎的、専門的知見と技術を身につけているとともに、多様な立場や職種の人々と対話し、連携する主体としての諸力量を身につけていることが求められる。また、個人の生涯発達と社会の生成、発展のダイナミクスに関心をもち、問題状況を科学的に分析し、理解し、状況の改善に向けて論理的に判断、議論する能力が求められる。以下にも記すこれらの要件を満たした者には人間文化学部から学士（人間文化学）の学位が授与される。

A. 知識・理解

人間関係のあり方について心理学・教育学・社会学を中心とする幅広い知識を身につける。

B. 思考・判断

B-1 一対一の関係で起こる綿密なコミュニケーションを考える一方で、地域コミュニティなど、多様な社会集団で起こる複雑なコミュニケーションを考えることができる。

B-2 対人関係を短い時間単位で捉えるだけでなく、生涯にわたって発達していく関係として考えることができる。

C. 興味・関心

専門性に閉じこもることなく、隣接する分野に積極的な興味と関心を持ち、さまざまな分野の人びとと話し合う態度を身につける。

D. 技法・技術

D-1 人間関係を定量的／質的に分析するための技法を身につける。

D-2 多様な人間関係のあり方を議論することができ、それを口頭や文章で表現することができる。

■教育課程の編成・実施方針

本学科では、人間らしい心の発達と生きがいの感じられる生活や地域をはじめとする社会のシステム構築に参加できる人間の養成をめざしている。心理学、教育学、社会学など人間関係論にかかわる各分野の関連専門科目が以下のようなカテゴリーに分けて配置され、学生はこれらを学ぶ。さらに学びの集大成として人間関係論にかかわるテーマで卒業研究にとりくみ、論文を作成する。

<学科基礎演習・実習科目>

基礎的な演習・実習を通して基本的なスキルや教養を身につける。

<学科専門講義科目>

専門的な講義を通して心理学、教育学、社会学をはじめ関連分野の知見を学ぶ。人間関係論をめぐる諸問題に関心を寄せ、視野を広げながら自分の興味を絞り込んでいく。

<学科専門演習・実習科目>

研究興味の重なる教員、学生と共同調査や文献の輪読などを行う。少人数学習の場の活発な議論を通じて専門的な研究力量を養う。問題を発見し、解決するための手法を探る。プレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考のための力を少人数の演習・実習で身につける。

<卒業研究・卒業論文>

個々人の問題意識にもとづいて設定した研究テーマに沿って、調査・実験・分析する。それらをまとめ、わかりやすく表現する技法を習得し、独創性と論理性を備えた卒業論文を完成させる。

②専門科目の履修について

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

(1) 全学共通科目 (30 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表の全学共通科目に指定する必修科目 14 単位

(B) 第二外国語として、ドイツ語 (Ⅰ A～Ⅱ B)、フランス語 (Ⅰ A～Ⅱ B)、中国語 (Ⅰ A～Ⅱ B)、朝鮮語 (Ⅰ A～Ⅱ B) のうちから 4 単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C) 人間学 (「比較住居論」を除く。) から 8 単位以上 (必修 2 単位を含む。)

(D) 地域基礎から 4 単位以上 (必修 2 単位を含む。)

(2) 専門科目 (100 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 17 単位

(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目から 10 単位以上 (註 1)

●印から 2 単位以上、□印から 8 単位以上

(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 73 単位以上 (註 2)

(註 1) 選択必修科目で 10 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位の算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、すべての科目から 10 単位までを専門科目として卒業単位の算入することができる。

なお、10 単位を超えて取得した単位および除外科目の単位であっても、学科において適切と認められた場合は、所定の手続きを経て卒業単位の算入することがある。

【卒業研究・論文着手要件】

人間関係論基礎演習 (1 単位)、人間関係論演習Ⅰ (2 単位) を修得済みのこと。

【卒業研究審査基準】

1 卒業論文の提出を求める。論文は、以下の評価項目によって複数教員により審査する。

- (1) 研究テーマの新規性・独創性
- (2) 研究方法の妥当性
- (3) 研究内容の学術性
- (4) 研究内容の論拠 (実験・調査データ・文献資料等) の客観性・実証性
- (5) 論文全体の構成力・論理性

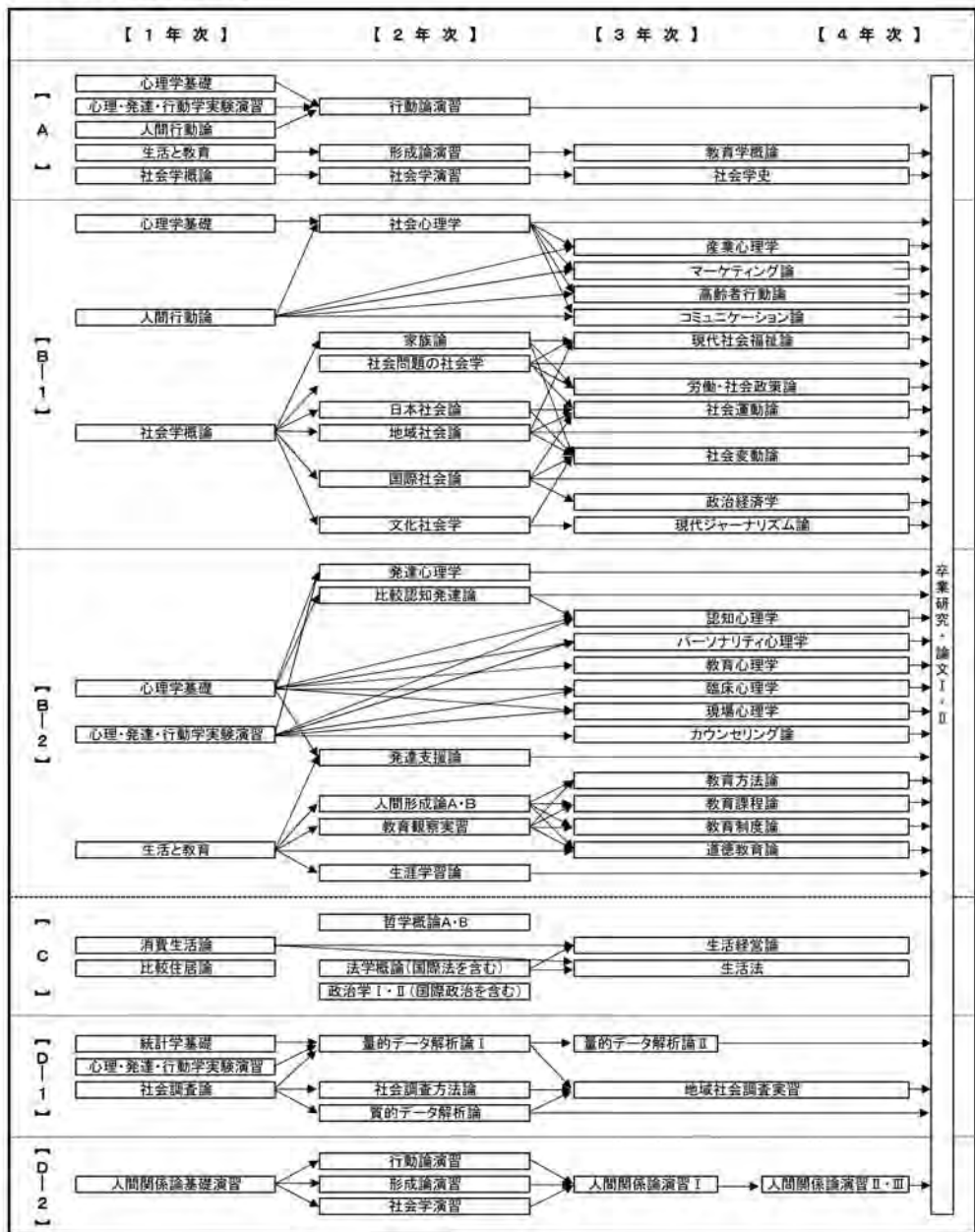
2 論文とは別に、試問・発表会において複数教員との質疑応答を行い、その結果を評価する。

3 上記 1 および 2 による評価結果をもとに、学科構成全教員の合議を経て卒業研究の審査判定を行う。

人間関係学科 カリキュラムマップ

科目	年次	区分	学位授与方針との対応					
			A	B-1	B-2	C	D-1	D-2
心理学基礎	1	複数学科共通	◎	◎	◎			
統計学基礎	1	複数学科共通	○				◎	
心理・発達・行動学実験演習	1	学科専門	◎	◎	◎		◎	◎
人間行動論	1	学科専門	◎	◎	◎			
消費生活論	1	学科専門					◎	
比較住居論	1	学科専門					◎	
生活と教育	1	学科専門	◎	◎	◎			
社会学概論	1	学科専門	◎	◎	◎			
人間関係論基礎演習	1	学科専門	○					◎
社会調査論	1	学科専門	○				◎	
国際社会論	2	学科専門	○	◎	○			
日本社会論	2	学科専門	○	◎	○			
地域社会論	2	学科専門	○	◎	○			
哲学概論A	2	学科専門					◎	
哲学概論B	2	学科専門					◎	
社会問題の社会学	2	学科専門	○	◎	○			
発達心理学	2	学科専門	○	◎	◎			
発達支援論	2	学科専門	○	◎	◎			
人間形成論A	2	学科専門	○	◎	◎			
人間形成論B	2	学科専門	○	◎	◎			
比較認知発達論	2	学科専門	○	◎	◎			
社会心理学	2	学科専門	○	◎	◎			
生涯学習論	2	学科専門	○	◎	◎			
教育観察実習	2	学科専門	○	◎	◎		○	○
法学概論(国際法を含む)	2	学科専門					◎	
政治学Ⅰ	2	学科専門					◎	
政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2	学科専門					◎	
文化社会学	2	学科専門		◎	○			
家族論	2	学科専門	○	◎	○			
社会学演習	2	学科専門	○	◎	○			◎
行動論演習	2	学科専門	◎	◎	◎		○	◎
形成論演習	2	学科専門	◎	◎	◎			◎
社会調査方法論	2	学科専門					◎	
量的データ解析論Ⅰ	2	学科専門					◎	
質的データ解析論	2	学科専門					◎	
社会学史	3・4	学科専門	◎	◎	◎			
社会変動論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
政治経済学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
マーケティング論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
生活経営論	3・4	学科専門					◎	
教育心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
臨床心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
社会精神医学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
現場心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
高齢者行動論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
教育学概論	3・4	学科専門	◎	◎	◎			
教育方法論	3・4	学科専門	◎	◎	◎			
認知心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
カウンセリング論	3・4	学科専門	○	◎	◎			○
パーソナリティ心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎			
道徳教育論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
コミュニケーション論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
現代ジャーナリズム論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
社会運動論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
労働・社会政策論	3・4	学科専門		◎	◎		○	
現代社会福祉論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
産業心理学	3・4	学科専門	○	◎	◎		○	
教育制度論	3・4	学科専門	○	◎	◎		○	
教育課程論	3・4	学科専門	○	◎	◎			
生活法	3・4	学科専門					◎	
地域社会調査実習	3・4	学科専門	○	◎	◎		◎	
量的データ解析論Ⅱ	3	学科専門					◎	
人間関係論演習Ⅰ	3	学科専門	○	◎	◎		◎	◎
人間関係論演習Ⅱ	4	学科専門	○	◎	◎		◎	◎
人間関係論演習Ⅲ	4	学科専門	○	◎	◎		◎	◎
卒業研究・論文Ⅰ	4	学科専門	◎	◎	◎		◎	◎
卒業研究・論文Ⅱ	4	学科専門	◎	◎	◎		◎	◎

注:◎関連が深い科目 ○関連する科目



人間関係学科

2021（令和3）年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分		1年次		2年次	
全学 共通基礎 ※2	全学 共通 科目	◎英語ⅠA	1 前	◎英語ⅢA	1 前
		◎英語ⅠB	1 後	◎英語ⅢB	1 後
		◎英語ⅡA	1 前	◎英語ⅣA	1 前
		◎英語ⅡB	1 後	◎英語ⅣB	1 後
		○第二外国語ⅠA※1	1 前	○第二外国語ⅡA※1	1 前
		○第二外国語ⅠB※1	1 後	○第二外国語ⅡB※1	1 後
		◎情報リテラシー（情報倫理を含む）	2 前	◎健康・体力科学Ⅱ	1 前
		◎情報科学概論	2 後		
		◎健康・体力科学Ⅰ	1 後		
人間学		4年間で8単位以上（人間探求学は1年次必修）			
地域基礎		4年間で4単位以上（地域共生論は1年次必修）			

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

※2 外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

区分		1年次		2年次	
学 部 共 通 基 礎	学 部 共 通 基 礎	◎ 環琵琶湖文化論実習	2 通		
		◎ 人間文化論A	2 前		
		● 人間文化論B	2 後		
		● 人間文化論C	2 後		
複数 学科共通	複数 学科共通	心理学基礎	2 前		
		統計学基礎	2 後		
		*1 消費生活論	2 後		
専 門 科 目	専 門 科 目	【心理・発達・行動】		【社会・文化】	
		□ 心理・発達・行動学実験演習	2 通	*1 国際社会論	2 前
		人間行動論	2 前	日本社会論	2 後
		比較住居論	2 前	哲学概論A	2 後
		【集団・組織・人間関係】		*1 哲学概論B	2 前
		生活と教育	2 後	*1 社会問題の社会学	2 前
				*2 地域社会論	2 後
				【心理・発達・行動】	
				*1 発達心理学	2 前
				発達支援論	2 後
				*1 人間形成論A	2 前
				*2 人間形成論B	2 後
				*1 比較認知発達論	2 後
				【集団・組織・人間関係】	
				*2 社会心理学	2 後
				生涯学習論	2 前
				□ 教育観察実習	2 前
				法学概論(国際法を含む)	2 前
				政治学Ⅰ	2 前
				政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2 後
				文化社会学	2 後
				*1 家族論	2 前
		【社会・文化】			
		社会学概論	2 前		
		【学科基礎および演習】		【学科基礎および演習】	
		◎ 人間関係論基礎演習	1 後	□ 社会学演習	2 通
		社会調査論	2 前	□ 行動論演習	2 通
				□ 形成論演習	2 通
				社会調査方法論	2 後
				□ 量的データ解析論Ⅰ	2 前
				質的データ解析論	2 後

●：選択必修（この中から2単位以上履修） □：選択必修（この中から8単位以上履修）

	3年次	4年次		
全学 共通基礎	リスニング (中級)	2 前	Intermediate Academic English	1 前
	リーディング (中級)	2 後	Advanced Academic English I	2 後
	Integrated English	2 前	Advanced Academic English II	2 2
	Introduction to Discussion & Debate	2 前	English for Business	1 前
	Essay Writing	2 後	English in Media	2 後
	実用英語履修 1A	1 前	実用英語演習 1B	1 後
人間学				
地域基礎				

*1 : 隔年開講 奇数年度開講

*2 : 隔年開講 偶数年度開講

	3年次	4年次		
学部 共通基礎				
複数 学科共通	生活経営論	2 後		
学科 専門	【社会・文化】	【集団・組織・人間関係】		
	*2 社会学史	2 前	*2 コミュニケーション論	2 前
	*1 社会変動論	2 後	*1 現代ジャーナリズム論	2 後
	*1 政治経済学	2 後	*2 社会運動論	2 2
	マーケティング論	2 後	*1 労働・社会政策論	2 2
	【心理・発達・行動】		現代社会福祉論	2 2
	教育心理学	2 前	産業心理学	2 2
	臨床心理学	2 後	教育制度論	2 2
	社会精神医学	2 前	教育課程論	2 2
	現場心理学	2 前	*2 生活法	2 2
	*2 高齢者行動論	2 前	地域社会調査実習	1 通
	教育学概論	2 前		
	教育方法論	2 前		
	*2 認知心理学	2 前		
	カウンセリング論	2 前		
道徳教育論	2 前			
*1 パーソナリティ心理学	2 後			
【学科基礎および演習】				
量的データ解析論Ⅱ	2 後			
【学科基礎および演習】		【学科基礎および演習】		
◎ 人間関係論演習Ⅰ	2 通	◎ 人間関係論演習Ⅱ	1 前	
		◎ 人間関係論演習Ⅲ	1 後	
		◎ 卒業研究・論文Ⅰ	4 前	
		◎ 卒業研究・論文Ⅱ	4 後	

○ : 選択必修 (第二外国語 4単位以上)

◎ : 必修

人間関係学科 履修モデル

人間関係学科は、大きく分けて心理・教育・社会の三つの系統に分かれています。どの系統を目指すかを考えながら、専門科目の履修を考えるとよいでしょう。下表は、各系統の専門科目の履修モデルです。

★なお、以下の必修科目（16単位）は、どの系統を目指す場合も必ず履修して下さい。

必修科目：人間関係論基礎演習（1回生）・環境熱帯文化論実習（1回生）・人間文化論A（1回生）・人間関係論演習Ⅰ（2回生）→人間関係論演習Ⅱ・Ⅲ（4回生）・卒業研究・論文Ⅰ・Ⅱ（4回生）

心理学系	教育学系	社会学系
選択必修（10単位）：	選択必修（10単位）：	選択必修（10単位）：
心理・発達・行動学実験演習（2） 行動論演習（2） 量的データ解析Ⅰ（2）	心理・発達・行動学実験演習（2） 形成論演習（2） 教育観察実習（2）	社会学演習（2） 行動論演習（2） 形成論演習（2） 量的データ解析Ⅰ（2）
社会学演習（2）、形成論演習（2）、教育観察実習（2）のいずれか一つ 人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ	行動論演習（2）、量的データ解析Ⅰ（2）、社会学演習（2）のいずれか一つ 人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ	人間文化論B、人間文化論Cのいずれか一つ
選択科目：	選択科目：	選択科目：
心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会学 社会問題の社会学 発達心理学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 比較認知発達論 社会心理学 生涯学習論 家族論 社会調査方法論 質的データ解析論 社会変動論 マーケティング論 生活経営論 教育心理学 臨床心理学 社会精神医学 環境心理学 高齢者行動論 教育学概論 教育方法論 認知心理学 カウンセリング論 パーソナリティ心理学 量的データ解析Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 教育観察実習（1単位）	心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会学 社会問題の社会学 発達心理学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 比較認知発達論 社会心理学 生涯学習論 家族論 社会調査方法論 質的データ解析論 社会変動論 教育心理学 臨床心理学 社会精神医学 現場心理学 高齢者行動論 教育学概論 教育方法論 認知心理学 カウンセリング論 バーンナリティ心理学 道徳教育論 量的データ解析Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 教育観察実習（1単位）	心理学基礎 統計学基礎 人間行動論 消費生活論 比較住居論 生活と教育 社会学概論 社会調査論 国際社会学 日本社会学 地域社会学 社会問題の社会学 発達支援論 人間形成論A 人間形成論B 社会心理学 法字概論 文化社会学 家族論 社会調査方法論 質的データ解析論 社会学史 社会変動論 政治経済学 マーケティング論 臨床心理学 社会精神医学 現場心理学 高齢者行動論 教育学概論 パーソナリティ心理学 量的データ解析Ⅱ コミュニケーション論 現代ジャーナリズム論 社会運動論 労働・社会政策論 現代社会福祉論 産業心理学 教育制度論 生活法 地域社会調査実習（1単位）

(5) 国際コミュニケーション学科

①学位授与方針・教育課程の編成・実施方針

■学位授与方針

国際コミュニケーション学科は、卒業時点において学生が身につけるべき能力を下記のとおり定めます。

これらの能力を獲得し、カリキュラムに規定する所定の単位を修得した上で、国際コミュニケーション学科の定める人材育成目標を達成した者には学士課程の人間文化学の学位を授与します。

- A-1 本国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養を身につける。(知識・理解)
- A-2 国境を越えた人の移動に伴う諸問題について理解し、グローバル化する世界や地域社会の諸課題に対応できる知と実践力を身につける。(知識・理解)

- B. 異なる民族や異なる文化的背景を持つ人間が、いかに共生していけるかという課題に多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる。(思考・判断)

- C-1 グローバル化の進展により人類の課題となっている多文化共生の未来を拓こうとする態度を持つ。(興味・関心)
- C-2 文化だけでなく人間の持つあらゆる多様性を尊重し、異文化に積極的に関わることによって、新たな関係を創造していく意欲を持つ。(興味・関心)

- D-1 英語を中心とする複数の外国語でのコミュニケーション能力を身につける。(技能・技術)
- D-2 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章(日本語および外国語)で表現することができる。(技能・技術)

■教育課程の編成・実施方針

国際コミュニケーション学科では、本国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とした複数の外国語の運用能力と国際的視野を身につけ、学生一人一人がグローバル化する現代社会において活躍できる「知と実践力」を身につけるための課程を、以下のようなカテゴリーに分けて編成しています。

A. 学科基礎科目

国際的なコミュニケーションの基礎を身につけ、言語学の知識を身につける。

B. 言語コミュニケーション科目

- B-1 英語：「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランス良く身につける。
- B-2 実践英語：TOEIC、TOEFLなどの検定試験に対応する力を身につける。
- B-3 初習外国語：ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語によるコミュニケーション能力を身につける。
- B-4 言語と文化：言語・文学・文化など理論的な側面から学ぶ。英語による講義を理解する。

C. 多文化コミュニケーション科目

- C-1 多文化共生：多民族・多文化化する現代の世界や地域社会の課題を理解し、それに対応できる知と実践力を身につける。
- C-2 国際教養：国際的視野を身につけ、異文化を理解するための方法論を身につける。
- C-3 国際文化論：世界各地、とりわけ留学先の文化・歴史・社会等への理解を深める。

D. 演習科目

各科目群の学びをさらに深め、同時にプレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考、問題発見・解決のための力を少人数の演習で身につける。

E. 卒業研究・論文

論理的なアカデミック・ライティングと、内容の獨創性を備えた卒業研究・論文で学びを集大成する。

②専門科目の履修について

【卒業に必要な要件】

下記のとおり、全学共通科目 30 単位以上、および専門科目 100 単位以上、合計 130 単位以上を取得しなければならない。

(1) 全学共通科目 (30 単位以上)

(B) 第二外国語として、ドイツ語 (ⅠA～ⅡB)、フランス語 (ⅠA～ⅡB)、中国語 (ⅠA～ⅡB)、朝鮮語 (ⅠA～ⅡB) のうちから 4 単位以上を選択必修

※外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

(C) 人間学から 8 単位以上 (必修 2 単位を含む)。

(D) 地域基礎から 4 単位以上 (必修 2 単位を含む)。

(2) 専門科目 (100 単位以上)

(A) 次頁以降の科目配当表に指定する必修科目 24 単位

(B) 次頁以降の科目配当表に指定する選択必修科目 22 単位以上 (註 1)

●印から 2 単位以上、□印から 10 単位以上、▽印から 10 単位以上。

(C) 次頁以降の科目配当表に指定する選択科目から 54 単位以上 (註 2～4)

(註 1) 選択必修科目で 22 単位を超える単位については、選択科目として卒業単位の算入することができる。

(註 2) 他学科および他学部の専門科目ならびに全学共通科目のうち、実験、実習、演習を除いたすべての科目 (以下、「他学部他学科科目」とする) から 10 単位までは、特に手続きを経ずに専門科目として卒業単位の算入できる。

(註 3) 10 単位を超えて取得した他学部他学科科目の単位は、教授会の議を経て適切と認められた場合に限り、卒業単位の算入できる。

(註 4) 海外留学中に留学先で取得した単位については、所定の手続きを経た上で、原則として 20 単位まで卒業単位の算入できる。ただし、中・高教諭一種免許 (英語) に係る科目についてはこの限りではない。

【卒業研究・論文履修要件】

基礎演習Ⅰ (1 単位)、基礎演習Ⅱ (1 単位)、発展演習Ⅰ (1 単位)、発展演習Ⅱ (1 単位) を修得済みであること。

【卒業研究・論文審査基準】

論文は、(論文の主題に応じて) 複数の学科教員により審査する。審査委員は、下に示す基準に照らし合わせて合否を判断し、学科会議において最終的に合否決定をする。

- ① 使用言語は日本語または英語とする。
- ② 日本語の場合は 12,000 字以上とする。英語の場合は 6,000 語以上とする。
- ③ 研究目的が明確であること。
- ④ 研究方法が妥当であること。
- ⑤ 目的達成のための調査量が十分であること。
- ⑥ 内容が独創的・客観的・論理的であること。
- ⑦ 卒業論文としての体裁が整っていること。
- ⑧ 口頭試問の対応が的確であること。

なお、事前に実施する中間発表会において要旨を提出し、発表することが前提となる。

国際コミュニケーション学科 ゼミ別指導内容および履修が望ましい科目等

2年次配当の基礎演習Ⅰ・Ⅱ、3年次配当の発展演習Ⅰ・Ⅱ、4年次配当の研究演習Ⅰ・Ⅱは、各教員がゼミ形式で担当する。特に発展演習Ⅰ・Ⅱと研究演習Ⅰ・Ⅱは、卒業研究に向けて、同じ教員のゼミで指導を受けることを原則とする。

下記に、各教員の専門分野と研究テーマ・方法、履修が望ましい科目等を示すので、履修計画の参考にする。

<参考>2021年度の開設研究室一覧

教員名	専門分野、 テーマ・方法など	履修が望ましい科目等
棚瀬 慈郎	文化人類学、チベット学	文化人類学概論
呉 凌非	言語学、中国語学、 言語処理	学科の中国語関連科目、言語理論関連科目
ジョン・リビー	文芸創作、アメリカ文化、 英米詩、英語教育	特になし
ボルジギン・ ブレンザイン	中国東北・内モンゴル地 域研究、中国少数民族問 題	中国語、アジア文化論Aなどを履修していることが 望ましい
山本 薫	英文学（19世紀末から 20世紀初頭の英国小説）	特になし
吉村 淳一	ドイツ語学、ドイツ文化	ドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB、ドイツ語コミュニ ケーション科目、欧米文化論A、欧米文化特論Aを履修す ることが望ましい。
河 かおる	韓国・朝鮮研究、在日外 国人研究、ジェンダー論 など	原則として河が担当する語学以外の科目を全て履修 すること。（ゼミとの併行履修も可）
マーティン・ ホークス	応用言語学(第二言語習得)	English Lecture A
橋本 周子	フランス文化論、 食の思想史	フランス語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅡA・ⅡB、 フランス語コミュニケーション科目（以上必須）、 欧米文化論B
中谷 博美	英語教育、言語学	特になし
カブシク・アント ニア・ビニ	文化研究（カルチュラル ・スタディーズ）、ポッ プカルチャー	特になし
間 永次郎	南アジア地域研究、イン ド植民地思想史、非暴力 論	アジア文化論C、ポストコロニアル論

区分	授業科目名	学年・学期	必修・選択等の別	単位数	学位授与方針との対応							教職科目
					A-1	A-2	B	C-1	C-2	D-1	D-2	
学科基礎	国際文化論	1・前	必修	2	◎	○	○	○	○			
	文化人類学概論	1・後	必修	2	◎	○	○	○	○			
学科専門	リーディング(中級)	1・後	選択	2	○				○	◎		○
	Introduction to Academic English	1・前	必修	2						◎		◎
	Intermediate Academic English	1・前	選択	1						◎		
	Advanced Academic English I	1・後	選択	2						◎		○
	Advanced Academic English II	1・後	選択	2						◎		◎
	ドイツ語コミュニケーションⅠA	1・後	選択	2						◎		
	ドイツ語コミュニケーションⅠB	1・後	選択	2						◎		
	フランス語コミュニケーションⅠA	1・後	選択	2						◎		
	フランス語コミュニケーションⅠB	1・後	選択	2						◎		
	中国語コミュニケーションⅠA	1・後	選択	2						◎		
	中国語コミュニケーションⅠB	1・後	選択	2						◎		
	朝鮮語コミュニケーションⅠA	1・後	選択	2						◎		
	朝鮮語コミュニケーションⅠB	1・後	選択	2						◎		
	モンゴル語コミュニケーションA	1・後	選択	2						◎		
	モンゴル語コミュニケーションB	2・前	選択	2						◎		
	英語学概論	1・後	選択	2	○					◎	○	◎
	English Lecture A	1・後	選択	2	○					◎		○
	日本語教育基礎	1・前	選択	2	○	◎	○	◎		○		
	多文化社会論A	1.2・前	選必修	2	○	◎	○	◎				
	多文化社会論B	1.2・後	選必修	2	○	◎	○	◎				
	国際関係論	1.2・前	選必修	2	◎	○	○	○				
	西洋史	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			
	法学概論(国際法を含む)	1.2・前	選必修	2	◎		○		○			
	比較宗教学論	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			
	欧米文化論A	1.2・前	選必修	2	◎		○		○			
	欧米文化論B	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			
	欧米文化論C	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			○
	欧米文化論D	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			◎
	アジア文化論A	1.2・前	選必修	2	◎		○		○			
	アジア文化論B	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			
	アジア文化論C	1.2・前	選必修	2	◎		○		○			
	アジア文化論D	1.2・後	選必修	2	◎		○		○			
	リスニング(中級)	2・前	選択	2	○					◎		○
	Integrated English	2・前	選択	2	○					◎	○	○
	Introduction to Discussion & Debate	2・前	選択	2						◎	○	◎
	Public Speaking	2・前	選択	2						◎	○	
	Essay Writing	2・後	選択	2						◎	○	
	ドイツ語コミュニケーションⅡA	2・前	選択	2						◎		
	ドイツ語コミュニケーションⅡB	2・前	選択	2						◎		
	ドイツ語留学対策	2・前	選択	2						◎		
	フランス語コミュニケーションⅡA	2・前	選択	2						◎		
	フランス語コミュニケーションⅡB	2・前	選択	2						◎		
	フランス語留学対策	2・前	選択	2						◎		
	中国語コミュニケーションⅡA	2・前	選択	2						◎		
	中国語コミュニケーションⅡB	2・前	選択	2						◎		
	中国語留学対策	2・前	選択	2						◎		
朝鮮語コミュニケーションⅡA	2・前	選択	2						◎			
朝鮮語コミュニケーションⅡB	2・前	選択	2						◎			
朝鮮語留学対策	2・前	選択	2						◎			

区分	授業科目名	学年・学期	必修・選択等の別	単位数	学位授与方針との対応								教職科目
					A-1	A-2	B	C-1	C-2	D-1	D-2		
	ウイグル式モンゴル文字史料講読	2,3,4-後	選択	2							◎		
	チベット語基礎Ⅰ	2,3,4-前	選択	2							◎		
	チベット語基礎Ⅱ	2,3,4-後	選択	2							◎		
	英米文学概論	2-前	選択	2	○								◎
	現代英文法	2-前	選択	2	○						◎		○
	English Lecture B	2-前	選択	2	○						◎		○
	English Lecture C	2-前	選択	2	○						◎		○
	English Lecture D	2-後	選択	2	○						◎		○
	Debating Global Issues	2-前	選択	2	○	◎	○	◎	○	◎	◎	○	
	基礎演習Ⅰ	2-前	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	基礎演習Ⅱ	2-後	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	Discussion & Debate	3-前	選択	2	○						◎	◎	
	Academic Writing	3-後	選択	2							◎	◎	
	English for Business	3-前	選択	1	○						◎		
	English in Media	3-後	選択	2	○						◎		○
	言語接触論	3-前	選択	2							◎		
	翻訳文化論	3-後	選択	2	○						◎		
	英米文学講読	3-後	選択	2	○						◎		○
	英語学基礎	3-前	選択	2	○						◎	◎	○
	English Lecture E	3-前	選択	2	○						◎		○
	English Lecture F	3-後	選択	2	○						◎		○
	移民社会論A	3,4-後	選必▽	2	○	◎	○	◎					
	移民社会論B	3,4-前	選必▽	2	○	◎	○	◎					
	移民社会論C	3,4-後	選必▽	2	○	◎	○	◎					
	文化人類学特論	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				
	英語文献講読A	3,4-前	選必▽	2	◎			○		○			
	英語文献講読B	3,4-後	選必▽	2	◎			○		○			
	政治経済学	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				
	開発人類学	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	ポストコロニアル論	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	国際社会論	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				
	サブカルチャー交流論	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	アジア文化特論A	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	アジア文化特論B	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				
	アジア文化特論C	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				
	欧米文化特論A	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	欧米文化特論B	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				
	欧米文化特論C	3,4-後	選必▽	2	◎		○		○				○
	欧米文化特論D	3,4-前	選必▽	2	◎		○		○				◎
	発展演習Ⅰ	3-前	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	発展演習Ⅱ	3-後	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	通訳ガイド講座	3,4-前	選択	2							◎		
	英語E-learning A	1~4-後	選択	1							◎		
	英語E-learning B	1~4-前	選択	1							◎		
	英語E-learning C	1~4-後	選択	1							◎		
	English Lecture G	4-後	選択	2							◎		
	研究演習Ⅰ	4-前(後)	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	研究演習Ⅱ	4-後(前)	必修	1	○	○	○	○	○	○	○	◎	
	卒業研究・論文Ⅰ	4-前(後)	必修	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	卒業研究・論文Ⅱ	4-後(前)	必修	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	海外留学	1,2,3,4	選択	12*		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○

注：◎関連が深い科目、◎関連する科目

*上限単位数

A-1 自国や諸外国の社会・文化・歴史等に關する幅広い知識や教養を身につける。

A-2 国際を越えた人の移動に關する諸問題について理解し、グローバル化する世界や地域社会の諸課題に対応できる知と実践力を身につける。

B 異なる民族や異なる文化的背景を持つ人間が、いかに共生して行けるかという課題に多面的な関心をもち、自らその見解を形成できる。

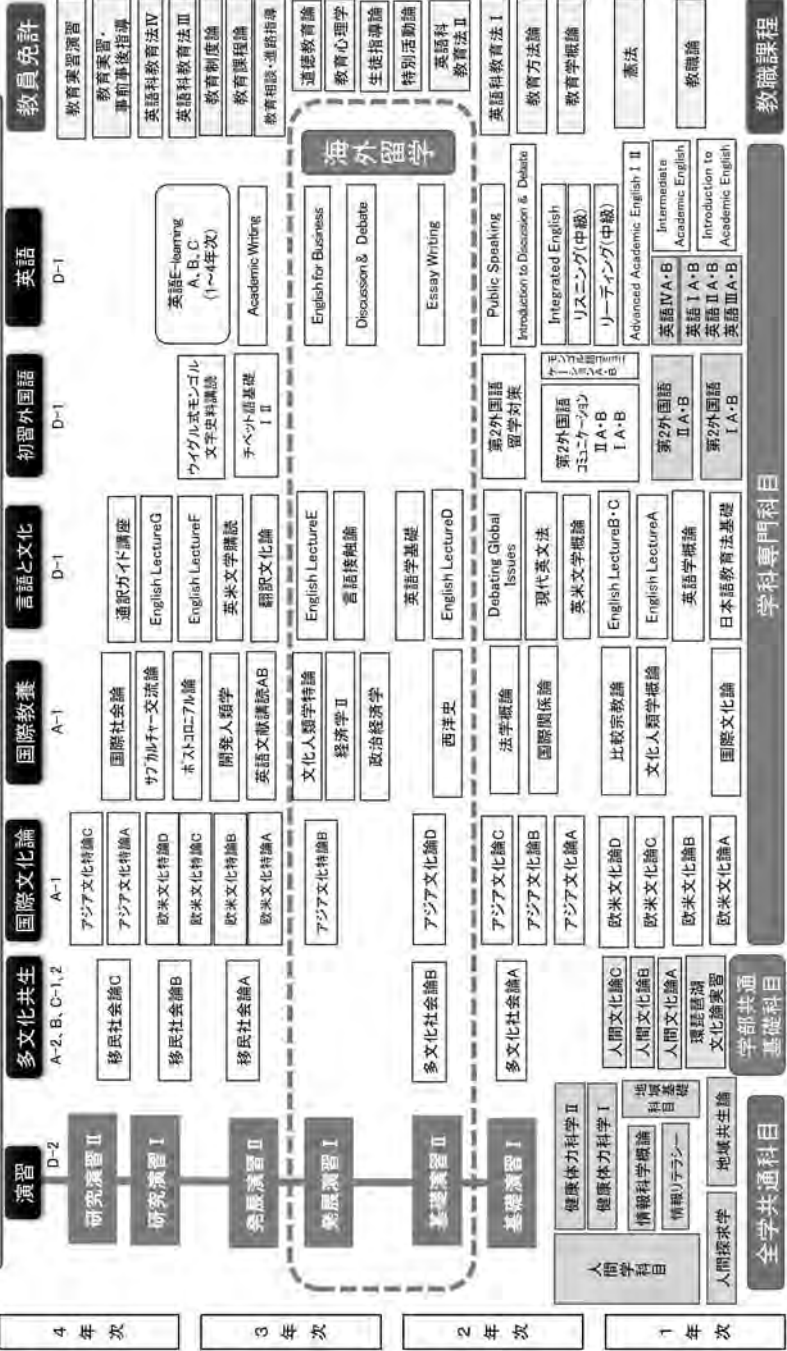
C-1 グローバル化の進展により人類の課題とつながる多文化共生の未来を拓くこととする態度を持つ。

C-2 文化だけでなく人間性も尊重する多文化的に開かれたことに基づいて、新たな関係を創造していく意欲を持つ。

D-1 英語を中心とする複数の外国語でのコミュニケーション能力を身につける。

D-2 自分の調査・研究の成果を、口頭あるいは文章(日本語および外国語)で表現することができる。

卒業研究・論文Ⅱ D-2



国際コミュニケーション学科
2021(令和3)年度入学生用【標準年次別科目配当表】

区分	1年次		2年次	
	全学共通科目	◎ 英語ⅠA・B、ⅡA・B、ⅢA・B ◎ 英語ⅣA・B ○ 第二外国語ⅠA、ⅠB※1 ○ 第二外国語ⅡA、ⅡB※1 ◎ 情報リテラシー(情報倫理を含む) ◎ 情報科学概論 ◎ 健康・体力科学Ⅰ	各1 前 各1 後 各1 前 各1 後 2 前 2 後 1 後	◎ 健康・体力科学Ⅱ
人間学	◎ 人間探求学	2 前	(1～4年次で、必修2単位を含め8単位以上)	
地域基礎	◎ 地域共生論	2 前	(1～4年次で、必修2単位を含め4単位以上)	

※1 ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語から選択必修。

外国人留学生は、第一外国語として日本語を選択し、英語を第二外国語とすることができる。

●□▽:選択必修(●印から2単位以上、□印から10単位以上、▽印から10単位以上)

学部 共通基礎	◎ 環境琵琶湖文化論実習		2 通				
		◎ 人間文化論A	2 前				
	● 人間文化論B	2 後					
	● 人間文化論C	2 後					
学科 基礎	◎ 国際文化論		2 前				
	◎ 文化人類学概論		2 後				
専 門 科 目	英語	◎ Introduction to Academic English		2 前	リスニング(中級)	2 前	
		Intermediate Academic English		1 前	Integrated English	2 前	
		英語 E-learning B(1～4年次)		1 前	Introduction to Discussion & Debate	2 前	
		Advanced Academic English I		2 後	Public Speaking	2 前	
		Advanced Academic English II		2 後	Essay Writing	2 後	
	言語 コミュニケーション	初 習 外 国 語	ドイツ語コミュニケーションⅠA、B		各2 後	ドイツ語コミュニケーションⅡA、B、留学対策	各2 前
			フランス語コミュニケーションⅠA、B		各2 後	フランス語コミュニケーションⅡA、B、留学対策	各2 前
			中国語コミュニケーションⅠA、B		各2 後	中国語コミュニケーションⅡA、B、留学対策	各2 前
			朝鮮語コミュニケーションⅠA、B		各2 後	朝鮮語コミュニケーションⅡA、B、留学対策	各2 前
			モンゴル語コミュニケーションA		2 後	モンゴル語コミュニケーションB	2 前
言語 と 文化	日本語教育基礎		2 前	英米文学概論	2 前		
	英語学概論		2 後	現代英文法	2 前		
	English Lecture A		2 後	Debating Global Issues	2 前		
				English Lecture B	2 前		
			English Lecture C	2 前			
			English Lecture D	2 後			
多 文 化 コ ミ ュ ニ ケー ション	□ 多文化社会論A		2 前	□ 多文化社会論B	2 後		
	□ 国際関係論 *2		2 前	□ 法学概論(国際法を含む)	2 前		
	□ 西洋史		2 後	□ 比較宗教学	2 後		
国 際 教 養	□ アジア文化論A		2 前	□ 欧米文化論A	2 前		
	□ アジア文化論B		2 後	□ 欧米文化論B	2 後		
	□ アジア文化論C		2 前	□ 欧米文化論C	2 後		
	□ アジア文化論D		2 後	□ 欧米文化論D	2 後		
演習				◎ 基礎演習Ⅰ	1 前		
				◎ 基礎演習Ⅱ	1 後		
卒論							
海外留学			海外留学(1～4年次)		上限 12		

	3年次	4年次
全学共通基礎		
人間学		
地域基礎		

*1: 隔年開講 (奇数年度開講)

*2: 隔年開講 (偶数年度開講)

学部 共通基礎				
学科 専門	学科 基礎			
	英語	Discussion & Debate English for Business Academic Writing 英語 E-learning C(1~4年次)	2 前 1 前 2 後 1 後	英語 E-learning A(1~4年次) 1 後
		初習外国語	チベットの語基礎 I チベットの語基礎 II ウイグル式モンゴル文字史料講読 *1	2 前 2 後 2 後
	言語と文化	英語学基礎 言語接触論 English Lecture E 翻訳文化論 英米文学講読 English in Media English Lecture F	2 前 2 前 2 前 2 後 2 後 2 後 2 後	通訳ガイド講座(3,4年) English Lecture G 2 前 2 後
		多文化コミュニケーション	▽ 移民社会論A *2 ▽ 移民社会論B *1	2 後 2 前 ▽ 移民社会論C 2 後
	国際文化コミュニケーション	▽ 文化人類学特論 ▽ 英語文献講読A ▽ 英語文献講読B ▽ 政治経済学 *1 ▽ 経済学II (国際経済を含む)	2 前 2 前 2 後 2 後 2 前	▽ 移民人類学 *1 2 後 ▽ ポストコロニアル論 2 後 ▽ 国際社会論 *1 2 前 ▽ シンカルチャー交流論 *1 2 後
		国際文化論	▽ アジア文化特論A *2 ▽ アジア文化特論B ▽ アジア文化特論C	2 後 2 前 2 前 ▽ 欧米文化特論A 2 後 ▽ 欧米文化特論B 2 後 ▽ 欧米文化特論C 2 前 ▽ 欧米文化特論D 2 前
	演習	◎ 発展演習 I ◎ 発展演習 II	1 前 1 後	◎ 研究演習 I 1 前(後) ◎ 研究演習 II 1 後(前)
	卒論			◎ 卒業研究・論文 I 4 前(後) ◎ 卒業研究・論文 II 4 後(前)
	海外留学	海外留学(1~4年次)	上限 12	

【各留学先別の留学着手要件（「海外留学」履修資格）】

国際コミュニケーション学科の学生は、外国の大学等に3週間以上留学した場合、その期間等に
 応じて、「海外留学」として単位認定を申請することができる（上限12単位）。

短期海外研修（3～8週間の語学研修）を除き、中期留学（3～6か月間）、長期留学（9か月～
 1年間）をして「海外留学」の単位認定を申請するには、留学に着手する前に各言語圏別に下表に
 掲げる科目を履修していることを原則とする。ただし、これ以外の言語圏に留学する場合など、こ
 の着手要件を満たさずに「海外留学」の単位認定を申請する場合は、その都度、学科会議で承認を
 得ることとする。

なお、この要件は「海外留学」の履修資格要件であって、留学そのものの要件ではない。また、
 この要件をクリアすれば必ず留学できるというものでもない。留学をするには、希望する留学先大
 学が求める要件（TOEFLのスコアなど）をクリアする必要がある場合もある。詳しくは別途説明す
 る機会を設ける。

言語圏	履修が必要な科目	
英語	必修8科目	英語ⅠAおよびB、英語ⅡAおよびB、英語ⅢAおよびB、 英語ⅣAおよびB
	以下から3科目 以上	リーディング中級、リスニング(中級)、現代英文法 Integrated English、Public Speaking、Introduction to Disc ussion & Debate、English Lecture A、同B、同C
ドイツ語	ドイツ語ⅠA、ドイツ語ⅠB、ドイツ語ⅡA、ドイツ語ⅡB ドイツ語コミュニケーションⅠA、ドイツ語コミュニケーションⅠB、 ドイツ語コミュニケーションⅡA、ドイツ語コミュニケーションⅡB、 ドイツ語留学対策	
フランス語	フランス語ⅠA、フランス語ⅠB、フランス語ⅡA、フランス語ⅡB フランス語コミュニケーションⅠA、フランス語コミュニケーションⅠB、 フランス語コミュニケーションⅡA、フランス語コミュニケーションⅡB、 フランス語留学対策	
中国語	中国語ⅠA、中国語ⅠB、中国語ⅡA、中国語ⅡB 中国語コミュニケーションⅠA、中国語コミュニケーションⅠB、 中国語コミュニケーションⅡA、中国語コミュニケーションⅡB、 中国語留学対策	
朝鮮語	朝鮮語ⅠA、朝鮮語ⅠB、朝鮮語ⅡA、朝鮮語ⅡB 朝鮮語コミュニケーションⅠA、朝鮮語コミュニケーションⅠB、 朝鮮語コミュニケーションⅡA、朝鮮語コミュニケーションⅡB、 朝鮮語留学対策	

【履修モデル】

国際コミュニケーション学科では、2年次の後期から1年間の海外留学を推奨しており、1年間
 の留学をしても4年間で卒業できるようなカリキュラムとなっている。

次頁に、以下の3つのケースを想定して、学科専門科目の履修モデルを示す。留学する時期や期
 間はこれ以外もあり得るため、科目についてもあくまでも選択の参考例である。

- ① 英語圏へ1年間留学する場合
- ② 第二外国語圏に1年間留学する場合
- ③ 教職課程を履修して英語圏に1年間留学する場合

なお、学科専門科目のうち、次の必修科目（20単位）は、全員が履修するので示していない。

- | | |
|--|------------------|
| ○Introduction to Academic English（1回生） | ○文化人類学概論（1回生） |
| ○国際文化論（1回生） | ○発展演習Ⅰ・Ⅱ（3回生） |
| ○基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2回生） | ○卒業研究・論文Ⅰ・Ⅱ（4回生） |
| ○研究演習Ⅰ・Ⅱ（4回生） | |

国際コミュニケーション学科 履修モデル

学年	学期	言語コミュニケーション科目群*1			多文化コミュニケーション科目群(選択必修で20単位以上)*2
		①英語圏に1年間留学する場合	②第2外国語圏に1年間留学する場合	③教職課程を履修し英語圏に1年間留学する場合	
1	前期	[英語ⅠA・B～ⅢA・B] [第2外国語ⅠA・B] Intermediate Academic English 日本語教育基礎 英語 E-learning B	[英語ⅠA・B～ⅢA・B] [第2外国語ⅠA・B] 日本語教育基礎	[英語ⅠA・B～ⅢA・B] [第2外国語ⅠA・B] [教職論] 日本語教育基礎 英語 E-learning B	国際関係論
	後期	[英語ⅣA・B] [第2外国語ⅡA・B] 英語学概論 リーディング(中級) Advanced Academic English Ⅰ・Ⅱ English Lecture A	[英語ⅣA・B] [第2外国語ⅡA・B] 第2外国語コミュニケーションⅠA 第2外国語コミュニケーションⅠB 英語学概論	[英語ⅣA・B] [第2外国語ⅡA・B] 英語学概論 リーディング(中級) Advanced Academic English Ⅰ・Ⅱ English Lecture A [憲法]	比較宗教学論 欧米文化論B 欧米文化論C 欧米文化論D アジア文化論B
2	前期	リスニング(中級) Integrated English Introduction to Discussion & Debate 英米文学概論 English Lecture B・C 現代英文法 Debating Global Issues: Public Speaking	第2外国語コミュニケーションⅡA 第2外国語コミュニケーションⅡB 第2外国語留学対策 現代英文法 Debating Global Issues	リスニング(中級) Integrated English 英米文学概論 English Lecture B 現代英文法 [教育方法論] [教育学概論] [道徳教育論] [教育心理学] [教育相談・進路指導] [英語科教育法Ⅰ]	多文化社会論A 法学概論 欧米文化論A アジア文化論A アジア文化論C
	後期	海外留学	海外留学	海外留学	アジア文化論D 西洋史 多文化社会論B
3	前期	海外留学	海外留学	海外留学	英語文献講読A 経済学Ⅱ 国際社会論 欧米文化特論D
	後期	Academic Writing 翻訳文化論 英米文学講読 英語 E-learning C English in Media English Lecture F	翻訳文化論 英語 E-learning C English in Media English Lecture F	英米文学講読 [教育課程論] [教育制度論] [教育実習・事前事後指導] [生徒指導論] [特別活動論] [英語科教育法Ⅱ] [英語科教育法Ⅲ]	サブカルチャー交流論 移民社会論A 英語文献講読B 開墾人類学 欧米文化特論A 欧米文化特論C アジア文化特論A 政治経済学
4	前期	通訳ガイド講座(3,4年)	通訳ガイド講座(3,4年) 言語接触論 英語 E-learning B	[英語科教育法Ⅳ] [教育実習・事前事後指導]	文化人類学特論 アジア文化特論B アジア文化特論C
	後期	英語 E-learning A English Lecture G	英語 E-learning A English Lecture G	英語 E-learning A 英語 E-learning C [教育実践演習] English Lecture G	移民社会論B・C ポストコロニアル論 欧米文化特論B

- *1 便宜上、全学共通基礎科目の外国語科目を、専門科目に交えて〔 〕内に示してある。また同様に、③については、教職科目を、専門科目に交えて〔 〕内に示してある。(英語の教職課程は中学と高校で必要な単位数が異なるので注意すること。詳細はP.158以降で確認すること)
- *2 多文化コミュニケーション科目群の科目のうち、1・2年次配当科目より10単位以上、3・4年次配当科目より10単位以上を選択必修。配当年次が複数にまたがる科目がほとんどだが、上の履修モデルでは、便宜上、特定の学年に開講する形で示してある。

6 人間看護学部科目履修の手引

1 人間看護学部人間看護学科の教育目標

- (1) 豊かな人間性のもと、幅広い視野で人間を総合的に理解する看護職が育つ
人間の生命に対する畏敬の念をもち、その尊厳と権利を尊重し、人の痛みや苦しみを共有し、喜びをともにする豊かな人間性を備えた看護職としての資質を養います。
- (2) 高度な専門的知識や技術、実践的な判断力、指導力を有する看護職が育つ
看護の専門職としての知識・技術を修得するとともに、社会情勢の変化に的確に対応できる柔軟な思考力を養い、看護における理論と実践の統合を図ります。
- (3) 地域特性に即した実践力を有する看護職が育つ
地域特性を理解した上で生活実態に即した看護を創造する力を養います。

■学位授与方針

- A. 主体的に取り組む姿勢と、他者に共感・協調する態度を兼ね備え、人間の尊厳と権利を擁護する基本的な倫理観を備えている。 <態度・倫理>
- B. 人間に対する深い洞察力と看護学に対する幅広い興味関心をもち、生涯にわたって自らの学術的・専門的能力を高める姿勢を備えている。 <興味・関心>
- C. 看護学の専門知識と科学的根拠に基づき、人間を全人的に理解できる。 <知識・理解>
- D. 健康上のさまざまな課題を科学的に分析し、解決のための方策を考えることができる。 <思考・判断>
- E. 基礎的な看護技術を修得し、対象や状況に応じた看護を提供できる。 <技術・技能>
- F. 国際的視点をもつと共に地域社会への貢献を視野に入れ、ヘルスケアチームの一員として、看護活動に取り組む基礎能力を備えている。 <関心・協働性>

■教育課程の編成・実施方針

人間看護学部は、本学の「全学共通教育の目標」の達成を前提として、本学部独自のカリキュラムを構成している。興味・関心を持つことで知識・理解を促し、専門職者としての思考・判断能力や技術・技能および倫理観を備えた態度を培うことを目標として6つのディプロマポリシー(DP)を掲げている。

DPを基にしたカリキュラム構成として、1～2年次に基礎となる看護学や対象を理解するための科目(共通科目・専門基礎・看護学科目群等)を配置し、1～2年次に養った能力を応用・発展させることを目的に、3年次に領域別看護学*の演習・実習科目群を配置している。また、本学部では領域別看護学実習科目群、人間看護学統合実習ならびに卒業研究を、6つのDPの到達を評価するための総括科目として位置づけている。

*領域別看護学とは、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学の総称です。

<人間学・保健体育・専門科目>

- A 主体的に取り組む姿勢と、他者に共感・協調する態度を兼ね備え、人間の尊厳と権利を擁護する基本的な倫理観を備えるために、以下の科目を配置している。(DP-A)
人間理解を深め、倫理観のベースを培うための科目として、人間学科目として人間探求学、生命・人間・倫理等を配置し、そこで培った人間に対する尊厳や倫理観を、1～2年次に配置している基礎看護学科目群等を通してさらに深め発展させる。

<情報処理・専門科目・地域志向専門科目>

- B 人間に対する深い洞察力と看護学に対する幅広い興味関心をもち、生涯にわたって自らの学術的・専門的能力を高める姿勢を備えるために、以下の科目を配置している。(DP-B)
学術的・専門的能力を高める姿勢を備え、人間理解および看護学に対する幅広い興味関心を高めるよう、1年次に情報処理を配当し、1～2年次に人間看護学概論・基礎看護技術・基礎看護学実習等の基礎看護学科目群を配置している。さらに、地域特性を踏まえ、生活実態に応じた看護を提供する志向を養うため、1年次に地域生活実習、1～2年次に地域志向専門科目である領域別看護学概論を配置している。

＜専門基礎科目・専門科目・地域志向専門科目＞

C 看護学の専門知識と科学的根拠に基づき、人間を全人的に理解できるために、以下の科目を配置している。(DP-C)

科学的根拠をもとに人間を全人的に理解するため、1～2年次に解剖生理学・疾病論・栄養学等の専門基礎科目を配置し、さらに看護学の専門知識を踏まえて地域課題解決も志向する領域別看護学概論・看護学科目を配置している。

＜専門基礎科目・専門科目＞

D 健康上のさまざまな課題を科学的に分析し、解決のための方策を考えていくために、以下の科目を配置している。(DP-D)

看護アセスメントに必要な専門知識を修得するため、1～2年次に専門基礎科目群を配置している。さらに専門知識をもとに、健康上のさまざまな課題を科学的に分析し、解決のための方策を考えていく領域別看護学演習科目を2～3年次に配置している。また、看護を研究的にとらえ発展させる能力を養うため、3年次に看護研究の基礎、4年次にはその総括として卒業研究を配置している。

＜専門科目＞

E 基礎的な看護技術を修得し、対象や状況に応じた看護を提供するために、以下の科目を配置している。(DP-E)

1～2年次に基礎看護学技術に関する科目を配置し、それらの技術を応用・発展するために3年次に領域別看護学演習・実習科目群、さらにその総括として4年次に人間看護学統合実習を配置している。また、専門選択科目において、専門的な看護実践能力を発展させるための科目群を配置している。

＜地域基礎科目・語学・専門科目＞

F 国際的視点をもつと共に地域社会への貢献を視野に入れ、ヘルスケアチームの一員として、看護活動に取り組む基礎能力を備えるために以下の科目を配置している。(DP-F)

国際貢献を視野に入れ、1～2年次に外国語科目群を配置している。また、地域基礎科目における地域共生論・地域社会福祉論等の配置、および3年次に在宅看護学実習をはじめとする領域別看護学実習を配置し、地域社会における看護職の役割を学ぶ。

また、専門職者としての社会貢献の在り方を理解するために、3～4年次に国際看護学・災害看護学等を含む専門選択科目群、ヘルスケアチームを理解するための看護管理学を4年次に配置している。さらにその集大成として、人間看護学統合実習を4年次に配置している。

2 科目の履修について

(1) 全学共通科目の履修について

「全学共通科目履修の手引」に沿って履修してください。共通基礎科目は、主に1年次、2年次に配当されています。また、地域基礎科目および人間学は、4年間にわたって履修可能ですので個人の学習状況に合わせて効果的に履修をしてください。なお、地域基礎科目の「地域共生論」および人間学の「人間探求学」「生命・人間・倫理」は1年次、地域基礎科目の「地域社会福祉論」は2年次に履修してください。(いずれも必修)

(2) 専門基礎科目、専門科目の履修について

①「人間看護学部科目配当表」に単位数、配当時期を示していますので、時間割表を参考に履修計画を立ててください。

- ・講義科目のうち、30時間の授業をもって1単位とする科目があります。科目配当表に明示しています。
- ・低学年では専門基礎科目や看護学の講義、演習が配当されています。履修漏れのないように注意してください。
- ・臨地実習は、1年次、2年次の夏季集中時期と、3年次～4年次に集中で配当されていますので、前期に、履修登録をしてください。実習は、届出前までに修得しておくべき科目等が条件として設けられていますので、人間看護学部実習前提科目表で必ず確認してください。

②保健師課程、養護教諭一種免許・二種免許の取得を希望する者は、「資格取得等の手引」をもとに「人間看護学部科目配当表」および「時間割表」を検討の上、履修してください。

人間看護学部 カリキュラムマップ

人間看護学部 学位授与方針に対する関与の程度(その1)

		科目名	単位数	配当学年	時期	必・選	DP-A	DP-B	DP-C	DP-D	DP-E	DP-F		
全 学 共 通 科 目	人間学	人間探求学	2	1	前	必	○							
		自然のしくみB	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		産業と環境A	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		食と健康	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		人間と病気	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		生命・人間・倫理	2	1, 2, 3, 4	後	必	○							
		生活と健康	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		キャリア形成への道B	2	2, 3, 4	前	選								
		キャリア形成への道C	2	2, 3, 4	後	選								
		経済学	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		憲法	2	1, 2, 3, 4	後	選		○						
		Japan Studies VI	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		アジアフィールド実習Ⅰ	2	1, 2, 3, 4	後・春	選								
		アジアフィールド実習Ⅱ	2	2, 3, 4	後・春	選								
		自然のしくみA	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		名著から学ぶ環境問題	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		都市・建築を考える	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		生活の中みる力学	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		コンピュータとインターネット	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		地域と文化	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		歴史と文化	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		人間関係の科学A	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		人間関係の科学B	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		国際文化概論	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		差別と人権(同和問題)	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		キャリア形成への道A	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		Japan Studies VII	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		World Societies I	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		World Societies II	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		異文化理解A	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		異文化理解B	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		都市・建築をつくる	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		産業と環境B	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		暮らしの中の材料	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		自然科学入門	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		機械の再発見	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		機械の役割と仕組み	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		技術の歴史	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		電子社会と人間	2	1, 2, 3, 4	後	選								
		電子システムの最先端	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		比較住居論	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		ジェンダー平等をつくる	2	1, 2, 3, 4	前	選								
		地 域 基 礎 科 目		地域共生論	2	1	前	必						○
				地域コミュニケーション論	2	1, 2, 3, 4	後	選						○
				地域づくり人材論	2	1, 2, 3, 4	後	選						○
びわこ環境行政論	2			1, 2, 3, 4	後	選						○		
地域社会福祉論*	2			1, 2, 3, 4	後	必						○		
多文化共生論	2			1, 2, 3, 4	前	選						○		
地域産業・企業から学ぶ社長講義	2			1, 2, 3, 4	後	選						○		
SDGsと道東のグローバル・イノベーション	2			1, 2, 3, 4	前	選						○		
近江の美	2			1, 2, 3, 4	前	選						○		
地域診断法	2			1, 2, 3, 4	後	選						○		
ソーシャル・ビジネス概論	2			1, 2, 3, 4	後	選						○		
世界遺産のまちづくり・人づくり	2			1, 2, 3, 4	後	選						○		
語 学				英語ⅠA(活性化コース)	1	1	前	必						○
				英語ⅠB(活性化コース)	1	1	後	必						○
				英語ⅡA(応用コース)	1	1	前	必						○
		英語ⅡB(応用コース)	1	1	後	必						○		
		英語ⅢA(卒業コース)	1	2	前	必						○		
		英語ⅢB(卒業コース)	1	2	後	必						○		
		英語ⅣA(展開コース)	1	2	前	必						○		
		英語ⅣB(展開コース)	1	2	後	必						○		
		第二外国語ⅠA(初級コース)	1	1	前	選						○		
		第二外国語ⅠB(初級コース)	1	1	後	選						○		
		第二外国語ⅡA(中級コース)	1	2	前	選						○		
		第二外国語ⅡB(中級コース)	1	2	後	選						○		
		実用英語演習ⅠA	1	2	前	選						○		
		実用英語演習ⅠB	1	2	後	選						○		
		保 健 体 育 情 報 処 理		健康・体力科学Ⅰ	1	1	後	必	○					
健康・体力科学Ⅱ	1			2	前	必	○							
情報リテラシー(情報倫理を含む)	2			1	前	必			○					
		情報科学概論*	2	1	後	必		○						

人間看護学部 学位授与方針に対する関与の程度(その2)

		科目名	単位数	配当学年	時期	必・選	DP-A	DP-B	DP-C	DP-D	DP-E	DP-F	
専門基礎科目		解剖生理学Ⅰ	2	1	前	必			○	○			
		解剖生理学Ⅱ	2	1	後	必			○	○			
		生化学	2	1	前	必			○	○			
		病理学	2	1	後	必			○	○			
		微生物学	2	1	前	必			○	○			
		薬理学	2	2	前	必			○	○			
		疾病論Ⅰ	2	2	前	必			○	○			
		疾病論Ⅱ	2	2	後	必			○	○			
		疾病論Ⅲ	1	2	後	必			○	○			
		栄養学	2	2	後	必			○	○			
		精神保健論	2	1	後	必			○	○			
		公衆衛生学	2	2	前	必			○	○			
	必修科目		人間看護学概論	2	1	前	必		○	○			
			基礎看護技術Ⅰ	1	1	前	必	○	○				
		基礎看護技術Ⅱ	2	1	後	必	○	○					
		基礎看護技術Ⅲ	1	2	前	必	○	○					
		基礎看護技術Ⅳ	2	2	前	必	○	○					
		看護理論	2	2	後	必	○	○					
		基礎看護学実習Ⅰ	1	1	前・中	必	○	○					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	2	前・中	必	○	○					
		成人看護学概論	1	1	後	必		○	○				
		成人看護学	2	2	前	必			○	○			
		成人クロニックケア演習	1	2	後	必				○	○		
		成人クリティカルケア演習	1	3	前	必				○	○		
		エンドオブライフケア演習	1	3	前	必				○	○		
		成人クロニックケア実習	2	3	通	必				○	○	○	
		成人クリティカルケア実習	2	3	通	必				○	○	○	
		エンドオブライフケア実習	2	3	通	必				○	○	○	
		老年看護学概論	1	2	前	必		○	○				
		老年看護学	2	2	後	必			○	○			
		老年看護学演習	1	3	前	必				○	○		
		老年看護学実習Ⅰ	1	3	通	必					○	○	
		老年看護学実習Ⅱ	2	3	通	必					○	○	
		小児看護学概論	1	1	前	必		○	○				
		小児看護学	2	2	後	必		○	○				
		小児看護学演習	1	3	前	必				○	○		
		小児看護学実習	2	3	通	必					○	○	
		母性看護学概論	1	1	後	必		○	○				
		母性看護学	2	2	前	必			○	○			
		母性看護学演習	1	3	前	必				○	○		
		母性看護学実習	2	3	通	必					○	○	
		精神看護学概論	1	2	前	必		○	○				
		精神看護学	2	2	後	必				○	○		
		精神看護学演習	1	3	前	必				○	○		
		精神看護学実習	2	3	通	必					○	○	
	在宅看護学概論	1	2	前	必		○	○					
	在宅看護学	2	2	後	必			○	○				
	在宅看護学演習	1	3	前	必				○	○			
	在宅看護学実習	2	3	通	必					○	○		
	地域生活実習	1	1	前	必		○	○					
	看護管理学	2	4	前	必						○		
	公衆衛生看護学概論	2	2	前	必		○	○					
	看護研究の基礎	1	3	通	必				○				
	人間看護学統合実習	2	4	前	必					○	○		
	卒業研究	4	4	通	必				○				
看護実践能力		家族看護学*	2	3,4	前	選					○		
		健康教育論*	2	3	前	選					○		
		クリティカルケア実践演習	1	4	前	選					○		
		チャイルドライフケア論	1	4	前	選					○		
		ホリスティックケア論	1	3,4	前	選					○		
	看護探求能力		疫学*	2	2	後	選						○
			看護トピックス	1	4	前	選						○
			看護キャリアデザイン論	1	3,4	前	選						○
			看護英語	1	3,4	前	選						○
			看護英語実践	2	1~4	後	選						○
		看護教育と実践	1	4	前	選						○	
看護看護能力			公衆衛生看護学Ⅰ*	2	3	前	選						○
			国際看護学	1	3,4	前・中	選						○
			災害看護学	1	3,4	前・中	選						○
			ポランティア実践演習	1	4	前	選						○

3 人間看護学部卒業要件について

(1) 2017（平成 29）年度以降入学生用、3 年次編入学生用

以下のとおり、卒業要件が適用されます。

1	全学共通科目	(計 30 単位以上)	必修 22 単位、選択必修 8 単位以上
	共通基礎科目	18 単位以上	
	第一外国語	英語 I A・B、II A・B、III A・B、IV A・B	8 単位
	第二外国語	ドイツ語 I A・I B・II A・II B、フランス語 I A・I B・II A・II B、中国語 I A・I B・II A・II B、朝鮮語 I A・I B・II A・II B、のうちから 4 単位以上。	
	情報処理	情報リテラシー (情報倫理を含む) 2 単位 (必修) 情報科学概論 2 単位 (必修)	4 単位
	保健体育	健康・体力科学 I・II	2 単位
	人間学	8 単位以上 (「人間探求学」、「生命・人間・倫理」、は必修)	
	地域基礎	4 単位以上 (「地域共生論」、「地域社会福祉論」は必修)	
2	専門基礎科目	(計 23 単位)	
3	専門科目	(計 76 単位以上)	
	必修	68 単位	
	選択必修	8 単位以上 (専門選択科目一覧表の中から 8 単位以上とする。)	
	合計	129 単位以上	

注：ただし、全学共通科目で 30 単位を超えた分の科目や他学部の開講科目については、履修可能ですが、卒業要件には算入できません。

【卒業研究の審査基準】

1 卒業研究（卒業論文）に対しては、以下の評価項目にもとづいて審査する。

- (1) 研究目的の明確性
- (2) 研究方法の妥当性
- (3) 研究結果の明確性
- (4) 論文の論理展開の一貫性
- (5) 研究内容の新規性・学術性・社会性
- (6) プレゼンテーション技法と質疑応答能力

2 卒業研究（卒業論文）は、発表会において学部が定める方法で発表し、質疑を行う。

3 1 および 2 による評価結果をもとに、学科教員全員の合議を経て審査判定を行う。

科目年次配当表

【人間看護学部科目配当表】2016(平成28)年度以降入学生用

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			必要単位数
	科目	単位数	履修条件	科目	単位数	履修条件	科目	単位数	履修条件	科目	単位数	履修条件	
全学共通科目	英語ⅠA・B	各1	必修	英語ⅡA・B	各1	必修							18単位
	英語ⅡA・B	各1	必修	英語ⅣA・B	各1	必修							
	第二外国語ⅠA・B	各1	選択	第二外国語ⅡA・B	各1	選択							
	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	必修	または実用英語演習ⅠA・実用英語演習ⅡB(実用英語を推奨)	各1	選択							
人間学	健康・体力科学Ⅰ	1	必修	健康・体力科学Ⅱ	1	必修							8単位以上
	人間探求学 生命・人間・倫理	2	必修										
人間学 必須以外の4単位を4年次までに修得													
地域基礎	地域共生論	2	必修	地域社会福祉論	2	必修							4単位以上
専門基礎科目	解剖生理学Ⅰ	2	必修	公衆衛生学	2	必修							23単位
	解剖生理学Ⅱ	2	必修	薬理学	2	必修							
	生化学	2	必修	疾病論Ⅰ	2	必修							
	病理学	2	必修	疾病論Ⅱ	2	必修							
	微生物学	2	必修	疾病論Ⅲ	1	必修							
	精神保健論	2	必修	栄養学	2	必修							
専門科目	人間看護学概論	1	必修	基礎看護技術Ⅲ	1	必修	成人クリティカルケア演習	1	必修	看護管理学	2	必修	76単位
	基礎看護技術Ⅰ	2	必修	基礎看護技術Ⅳ	2	必修	エンドオブライフケア演習	1	必修				
	基礎看護技術Ⅱ	2	必修	看護理論	2	必修	老年看護学演習	1	必修				
	小児看護学概論	1	必修	成人看護学	2	必修	小児看護学演習	1	必修				
	成人看護学概論	1	必修	成人クロニックケア演習	1	必修	母性看護学演習	1	必修				
	母性看護学概論	1	必修	老年看護学概論	1	必修	精神看護学演習	1	必修				
				老年看護学	2	必修	在宅看護学演習	1	必修				
				小児看護学	2	必修	看護研究の基礎	1	必修				
				母性看護学	2	必修							
				精神看護学概論	1	必修							
				精神看護学	2	必修							
				在宅看護学概論	1	必修							
				在宅看護学	2	必修							
				公衆衛生看護学概論	2	必修							
				専門選択必修科目(前・後学Ⅱ) (2~4年までに8単位)	2	選択	専門選択必修科目	4	選択	専門選択必修科目	2	選択	
				地域生活実習	1	必修	【領域別実習】 老年看護学実習Ⅰ	1	必修	人間看護学総合実習	2	必修	
				基礎看護学実習Ⅰ	1	集中(前)	母性看護学実習	2	必修				
							精神看護学実習	2	必修				
							小児看護学実習	2	必修				
							成人クロニックケア実習	2	必修				
						成人クリティカルケア実習	2	必修					
						エンドオブライフケア実習	2	必修					
						老年看護学実習Ⅱ	2	必修					
						在宅看護学実習	2	必修					
									卒業研究	4	必修		
必修単位・人間学必修	前期21・後期18 小計 39単位			必修単位・選択必修	前期24・後期23 小計 47単位		必修単位・選択必修	前期11・通年18 小計 29単位	必修単位・選択必修・ (例:人間学選択前期)	前期10・通年4 小計 14単位		合計 129単位	
<p>*要教を選択する場合は、人間学(憲法)は必修となる。保健師を選択する場合は、人間学(憲法)の履修を強く推奨する。</p> <p>*保健師を選択する場合は「疫学」「家族看護学」「健康教育論」「公衆衛生看護学Ⅰ」が、要教を選択する場合は「疫学」と「公衆衛生看護学Ⅰ」「健康教育論」のいずれかか、専門選択必修科目では必修となる。</p> <p>*保健師を選択する場合は3年次までに専門選択必修科目を履修しておく。</p>													
卒業履修要件以外履修の科目							公衆衛生看護学Ⅱ	2	必修	公衆衛生看護学Ⅲ	2	必修	14単位
							公衆衛生看護学管理論	2	必修	健康教育方法演習	1	必修	
							学校看護論	2	必修	公衆衛生看護学演習	2	必修	
							遠隔教育論	2	必修	公衆衛生看護学実習	5	必修	
							小計 2単位			小計 12単位		履修単位の合計 143単位	
注:教職科目の配当年次は1~4年次であるため、あくまでもモデルとして													
卒業要件以外履修の科目	教育相談	1	必修	教育心理学	2	必修	教育実習・事前事後指導	2	必修	教育実習・事前事後指導	2	必修	29単位 (教職科目 29単位)
	教職論	2	必修	総合的な学習の時間の指導法	1	必修	学校保健論	2	必修	教職実践演習	2	必修	
	特別活動論	2	必修	特別支援教育概論	1	必修	学校看護論	2	必修				
	教育制度論	2	必修				遠隔教育論	2	必修				
	教育学概論	2	必修										
	教育方法論	2	必修										
	教育課程論	2	必修										
	生徒指導論	2	必修										
	小計 13単位			小計 8単位			小計 8単位			小計 2単位			
<p>*教育実習・事前事後指導は3年次後期および4年次前期</p> <p>**「憲法」「教職論」「教育学概論」「教育方法論」「遠隔教育論」「学校保健論」「学校看護論」は実習までに履修済小幡中であること</p> <p>・「必」は必修科目 「選必」は選択必修科目 「選」は選択科目</p> <p>・「前」は前期、「後」は後期、「通」は通年科目を示し、「集」は集中授業を行う</p> <p>※ページの専門選択科目一覧を参照し履修科目を選択してください。</p>													

【人間看護学部科目配当表】2018(平成30)年度以降編入学生用

区分	3年次	単位	必・選	学期	認定単位数	4年次	単位	必・選	学期	認定単位数	必要単位数
全学共通基礎	英語ⅠA・B	各1	必	前・後	個別認定						必修8単位
	英語ⅡA・B	各1	必	前・後	個別認定						
	英語ⅢA・B	各1	必	前・後	個別認定						
	英語ⅣA・B	各1	必	前・後	個別認定						
	第二外国語ⅠA・B	各1	選必	前・後	個別認定	第二外国語ⅡA・B ※3年次で取れない場合※1	各1	選必	前・後	個別認定	必修4単位
	第二外国語ⅡA・B※1	各1	選必	前・後	個別認定						
健康・体力科学Ⅰ	1	必	後	個別認定						必修2単位	
健康・体力科学Ⅱ	1	必	前	個別認定							
情報リテラシー (情報倫理を含む)	2	必	前								必修4単位
情報科学概論	2	必	後								
人間学	「人間探求学」、「生命・人間・倫理」は必修(個別認定:必修4単位を除く)										8単位以上
地域基礎	「地域共生論」、「地域社会福祉論」は必修(必修4単位)										4単位以上
専門基礎	公衆衛生学	2	必	前	2						23単位
	その他の専門基礎科目 (実習学:個別認定)	11科目			21単位認定						
専門科目	小児看護学概論	1	必	前	12	選択必修科目 (3年次・4年次)	6	選		個別認定	72単位
	成人看護学概論	1	必	後							
	母性看護学概論	1	必	後							
	老年看護学概論	1	必	前							
	精神看護学概論	1	必	前							
	在宅看護学概論	1	必	前							
	公衆衛生看護学概論	2	必	前							
	看護理論	2	必	後							
	疫学	2	必	後							
	1・2年次開講科目(実習含む)					15科目	25単位認定				
エンドオブライフケア演習	1	必	前	2	人間看護学統合実習	2	必	前	個別認定		
看護研究の基礎	1	必	通								
3年次開講科目(実習含む)					15科目	23単位認定					
卒業研究							4	必	通		4単位
計											129単位

専門選択必修科目一覧

2017(平成29)年度以降入学生用、3年次編入学生用

■履修にあたっては下欄の注意書きを参照。

	選択科目分野		科目名	配当学年	単位数
専門 選択必修 8単位	看護探究能力を 育む科目群	2年次	疫学※1	2・後	2
		3年次以上	看護トピックス	4・前	1
			看護キャリアデザイン論	3,4・前	1
			看護英語	3,4・前	1
			看護教育と実践	4・前(集)	1
	1~4年次	看護英語実践	1~4・後	2	
	看護実践能力を 養う科目群	3年次以上	家族看護学※1	3,4・前	2
			健康教育論※1	3・前	2
			クリティカルケア実践演習	4・前	1
			チャイルドライフケア論	4・前	1
			ホリスティックケア論	3,4・前	1
	地域看護能力を 高める科目群	3年次以上	公衆衛生看護学Ⅰ※1	3・前	2
			国際看護学	3,4・前(集)	1
			災害看護学	3,4・前(集)	1
ボランティア実践演習			4・前(集)	1	

注1: 保健師課程履修を希望する学生は、※1の科目は必修科目となる

注2: 養護教諭免許取得を希望する学生は、「疫学」が必修科目となる

注3: 養護教諭免許の取得を希望する学生は、「公衆衛生看護学Ⅰ」または「健康教育論」のいずれか1科目を履修すること。

注4: 保健師課程履修の学生は、3年前期までに専門選択必修8単位をすべて履修しておくこと。

注5: 保健師課程以外の学生は、3年次に4~6単位を履修し、4年次までに8単位を履修すること。

注6: 保健師課程、養護教諭免許取得を希望する学生は実習と重なるため、集中講義の科目は開講時期により受講できない可能性がある

人間看護学部実習前提科目(2017(平成29)年度以降入学生用)

実習名	実習期間	履修要件	修得済み科目・履修科目			
			専門基礎科目		専門科目	
基礎看護学実習Ⅰ	1年次 前期集中	○1年前期の人間看護学概論及び基礎看護技術Ⅰを修得していること			人間看護学概論	1・前
					基礎看護技術Ⅰ	1・前
基礎看護学実習Ⅱ	2年次 前期集中	○1年次の専門基礎科目及び専門科目5科目を修得していること ○2年前期の基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳを修得していること	解剖生理学Ⅰ	1・前	地域生活実習	1・前
			解剖生理学Ⅱ	1・後	基礎看護学実習Ⅰ	1・集中(前)
			病理学	1・後	基礎看護技術Ⅱ	1・後
			※精神保健論	1・後	基礎看護技術Ⅲ	2・前
			※生命・人間・倫理	1・後	基礎看護技術Ⅳ	2・前
領域別実習	3年次 通年	○2年次までの専門基礎科目・専門科目における必修科目を全て修得していること ○3年次前期の専門科目における必修科目を修得していること	※情報科学概論	1・後	基礎看護学実習Ⅱ	2・集中(前)
			生化学	1・前	小児看護学概論	1・前
			微生物学	1・前	成人看護学概論	1・後
			公衆衛生学	2・前	母性看護学概論	1・後
			薬理学	2・前	老年看護学概論	2・前
			疾病論Ⅰ	2・前	精神看護学概論	2・前
			疾病論Ⅱ	2・後	在宅看護学概論	2・前
			疾病論Ⅲ	2・後	公衆衛生看護学概論	2・前
			栄養学	2・後	成人看護学	2・前
			※地域社会福祉論	2・後	母性看護学	2・前
					看護理論	2・後
					老年看護学	2・後
					小児看護学	2・後
					精神看護学	2・後
					在宅看護学	2・後
					成人クロニックケア演習	2・後
					成人クリティカルケア演習	3・前
					エンドオブライフケア演習	3・前
					老年看護学演習	3・前
		小児看護学演習	3・前			
		母性看護学演習	3・前			
		精神看護学演習	3・前			
		在宅看護学演習	3・前			
人間看護学統合実習	4年次 前期	○3年次の専門科目の必修科目をすべて修得しておくこと ○領域別実習の単位を全て修得していること ○4年次前期の専門科目の必修科目を履修すること			看護研究の基礎	3・通
					母性看護学実習	
					精神看護学実習	
					小児看護学実習	
					成人クロニックケア実習	
					成人クリティカルケア実習	
					エンドオブライフケア実習	
					老年看護学実習Ⅰ 注1	
					老年看護学実習Ⅱ	
					在宅看護学実習	
		看護管理学	4・前			

※・・・地域基礎科目、人間学および全学共通科目にあたる科目ですが、実習の前提科目となります。

注1: 老年看護学実習Ⅰは、老年看護学実習Ⅱの前提科目となります。

第3章 資格取得の手引

第3章は、「履修の手引」特別編です。

本学に学ぶみなさんが、将来社会で活躍するのに必要な資格の取得について解説していますので、該当部分を熟読の上、履修計画をたててください。

1 本学における免許・資格の取得について

(1) 免許・資格一覧

各学部・学科で取得可能な免許・資格は下表のとおりです。

学 部	学 科	取得可能免許・資格
環 境 科 学 部	環 境 生 態 学 科	中学校教諭一種免許（理科） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（理科） 自然再生士補 甲種危険物取扱者試験受験資格
	環 境 政 策 ・ 計 画 学 科	高等学校教諭一種免許（公民） 学芸員資格 社会調査士資格 GIS 学術士資格 自然再生士補 地域調査士資格
	環 境 建 築 デ ザ イ ン 学 科	一級建築士受験資格 二級・木造建築士受験資格 施工管理技士受験資格
	生 物 資 源 管 理 学 科	中学校教諭一種免許（理科） 高等学校教諭一種免許（理科・農業） 学芸員資格 甲種危険物取扱者試験受験資格
工 学 部	材 料 科 学 科	高等学校教諭一種免許（理科・工業） 甲種危険物取扱者試験受験資格 毒物劇物取扱責任者資格
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科	高等学校教諭一種免許（理科・工業） 施工管理技士受験資格
	電 子 シ ス テ ム 工 学 科	高等学校教諭一種免許（工業・情報 ㊦） 電気通信主任技術者試験資格(1科目免除) 電気主任技術者資格 施工管理技士受験資格
人 間 文 化 学 部	地 域 文 化 学 科	中学校教諭一種免許（社会） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（地理歴史） 社会調査士資格 地域調査士資格 ㊦
	生 活 デ ザ イ ン 学 科	中学校教諭一種免許（家庭） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（家庭） 二級・木造建築士受験資格 インテリアプランナー登録資格
	生 活 栄 養 学 科	中学校教諭一種免許（家庭） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（家庭） 栄養教諭一種免許 栄養士資格 管理栄養士受験資格 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格
	人 間 関 係 学 科	中学校教諭一種免許（社会） 学芸員資格 高等学校教諭一種免許（公民） 社会調査士資格
	国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 学 科	中学校教諭一種免許（英語） 高等学校教諭一種免許（英語）
人 間 看 護 学 部	人 間 看 護 学 科	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格 養護教諭一種免許
全学部・学科		社会福祉主事任用資格

○内の数字は、平成の年度を表し、その年度以降の入学者でないと当該免許・資格が取得できません。

2 各学部・学科における教育職員免許の取得について

本学(環境建築デザイン学科、人間看護学部を除く。)では、「中学校教諭一種免許」、「高等学校教諭一種免許」を取得可能です。また、生活栄養学科では「栄養教諭一種免許」を、人間看護学部では「養護教諭一種免許」を取得可能です。

※ 「栄養教諭一種免許」および「養護教諭一種免許」の取得については、それぞれのページを参照のこと。

※ この内容は2021(令和3)年度入学生用です。

※ 本学において教育職員免許を取得するためには、次の表1の授業科目(単位数)を修得する必要があります。なお、これは最低単位数ですから、この単位数以上にできるだけ多く修得してください。

表1 本学における最低必要単位数

教育職員免許法上の区分	中学校教諭一種	高等学校教諭一種	備 考
教育の基礎的理解に関する科目等	29単位	25単位	(1) で説明 (表2の②③④)
教科及び教科の指導法に関する科目	32単位	36単位	(2) で説明 (表2の①⑤)
大学が独自に設定する科目			人間学(教職必修科目)
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	○憲法(2単位) ○健康・体力科学Ⅰ、Ⅱ(各1単位) ○英語ⅡA、英語ⅡB(各1単位) ○情報リテラシー(情報倫理を含む)(2単位)		卒業要件上の必修科目

(1) 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修方法について(表2の②③④)

「教育の基礎的理解に関する科目等」は、『教科及び教職に関する科目一覧表』の中の「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」を履修してください。

- ・「道徳教育論」は中学校教諭一種免許では必修、高等学校教諭一種免許では選択科目とします。
- ・「教育学概論」「教育方法論」「教育心理学」「教育制度論」「教育課程論」「道徳教育論」は人間文化学部人間関係学科専門科目です。

(2) 「教科及び教科の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」の履修方法について(表2の①⑤)

「教科及び教科の指導法に関する科目」(次ページ以降の免許および教科ごと学科別科目一覧表)の中から、中学校教諭一種免許の場合、32単位以上、高等学校教諭一種免許の場合、36単位以上履修してください。

・高等学校教諭一種免許を希望する者は、『教科及び教職に関する科目一覧表』(表2)から「道徳教育論」を単位取得した場合、それ(2単位)を「大学が独自に設定する科目」の単位の一部として充当することができます。

(3) 「教育実習・事前事後指導」について

※履修登録は、3年後期および4年前期の2回とも必ず行うこと。

① 事前事後指導

事前指導は、教育実習実施前(3年次)の後期に実施します。

事後指導は、原則として教育実習終了後(4年次)に実施します。

② 教育実習の実施

「教育実習」は、原則として、4年次の前期に出身校において、中学校教諭一種免許は3週間、高等学校教諭一種免許は2週間実施します(受入校の都合により、実施時期を変更することがある)。

人間看護学部の養護教育実習および生活栄養学科の栄養教育実習については、それぞれ「養護教諭

一種免許」および「栄養教諭一種免許」のページを参照のこと。

③ 教育実習参加の基礎要件

- ・教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。
「憲法」「教職論」「教育方法論」「教育学概論」「生徒指導論」「道德教育論」（中学校のみ）を既に修得済であること。ただし、履修上困難な場合は、履修中であることも可とします。
- ・教科及び教科の指導法に関する科目については、「教科教育法Ⅰ・Ⅱ」を含み、中学校教諭一種免許は24単位以上、高等学校教諭一種免許は28単位以上を履修していること。
- ・中学校教諭一種免許の取得を希望する者は、教育実習受講年度において、後掲(4)の「介護等体験（7日間）」を実習済みか、履修中であること。

(4) 「介護等体験」について

平成10年4月1日より介護等体験特例法が施行され、平成10年以降入学生から適用を受けることになりました。これは、単位修得とは別に社会福祉施設等において7日間の介護等体験（社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間）が義務付けられるもので、本学では、中学校教諭一種免許の取得を希望するものが、3年次に介護等体験を受けることとなります。これに関するオリエンテーションは、2年次の2月頃に開催します。

(5) 隔年開講科目について

「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」「職業指導」「情報と職業」「被服学」「住居学」は、隔年開講となります。4回生時に不開講で履修できないこともあり得るので3年生までで履修済となるよう計画的に履修してください。

- ・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」は奇数年度開講
- ・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」は偶数年度開講
- ・「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は奇数年度開講
- ・「職業指導」は偶数年度開講
- ・「情報と職業」は奇数年度開講
- ・「被服学」「住居学」は奇数年度開講

(6) 「教職実践演習」について

4年次後期に履修すること。

表2 ◆ 教科及び教職に関する科目一覧表 ◆

科目	免許法施行規則に定める科目区分						免許法による必修単位						本学開講科目						合計 単位数				
	各科目に含める必要事項						中学校	高等学校	1年次		2年次		3年次		4年次		前期	後期					
	①教科及び教科の指導法に関する事項 ・教科に関する専門的事項 ・教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ②教育の基礎に関する事項(学校の地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキエラム・マネジメントを含む。) ③道徳、総合的な学習の時間の指導法等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する事項								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
①教科及び教科の指導法に関する事項	・教科に関する専門的事項 ・教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ②教育の基礎に関する事項(学校の地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキエラム・マネジメントを含む。) ③道徳、総合的な学習の時間の指導法等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する事項						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	28 高 24
④道徳、総合的な学習の時間の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する事項	・道徳の理論及び指導法 ・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法 ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含む。の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
⑤教育実践に関する科目	・教育実践 ・教育実習						5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	中 5 高 7 高 5				
⑥大学が独自に設定する科目	・教育実習 ・教育実習 ・教育実習						4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	中 4 高 12				
合計	合計						59	59	59	59	59	59	59	59	59	59	59	59	本学では 中学61単位 高校61単位 必修				

(注)・教科教育法は原則として2年次以降に教科ごとに履修することとするが、教科によっては、時間別の都合上、上記の一覧表とは異なる学期に開講もしくは年次配当となることもあるので、年度当初に時間割表で十分確認することとする。
・「工業科教育法Ⅰ」「工業科教育法Ⅱ」「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」は高専年度に開講される。
・「農業科教育法Ⅰ」「農業科教育法Ⅱ」「職業指導」は働専年度に開講される。

環境科学部 ★環境生態学科

中学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2		
	環境物理学Ⅱ	3		2		
	環境地下水学	2			2	
	環境水文学	2			2	
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	○	2		
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2		
	環境化学Ⅱ	3		2		
	環境疫学	3			2	
	環境汚染システム論	3			2	
	環境毒性学	3			2	
	大気環境学	2			2	
	薬水環境学	2			2	
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○	2		
	環境解析学・同実験	2			4	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		
	環境生物学Ⅱ	2		2		
	森林環境学	2			2	
	動物生態学	2			2	
	陸域物質循環論	3			2	
	海洋環境学	2			2	
	遺伝学	2			2	
	生物資源統計学Ⅰ	1			2	
	分子生物学	1			2	
	微生物機能論	3		2		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○	2		
	陸域環境学・同実験	3			4	
	水域環境学・同実験	3			4	
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		
	地球科学Ⅱ	2		2		
	土壌環境化学	3			2	
	湖沼環境学	2			2	
	地球環境化学	3			2	
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	2	○	2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
		合計		32	48	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

環境科学部 ★環境生態学科

高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	環境物理学Ⅰ	1		2		
	環境物理学Ⅱ	3	○	2		
	環境地下水学	2			2	
	環境水文学	2			2	
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2		
	環境化学Ⅱ	3		2		
	環境疫学	3			2	
	環境汚染システム論	3			2	
	環境毒性学	3			2	
	大気環境学	2			2	
	集水域環境学	2			2	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		
	環境生物学Ⅱ	2		2		
	森林環境学	2			2	
	動物生態学	2			2	
	陸域物質循環論	3			2	
	海洋環境学	2			2	
	遺伝学	2			2	
	生物資源統計学Ⅰ	1			2	
	分子生物学	1			2	
微生物機能論	3			2		
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		
	地球科学Ⅱ	2		2		
	土壌環境化学	3			2	
	湖沼環境学	2			2	
	地球環境化学	3			2	
「物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)」	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2		2		} うち4単位以上
	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○※	2		
	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	1		2		
	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	2		2		
	環境解析学・同実験	2			4	
	陸域環境学・同実験	3			4	
	水域環境学・同実験	3			4	
	集水域環境学・同実験	2			4	
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
		合計		24	60	

(注1) 一般的包括的内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。(※除く)

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

環境科学部 ★環境政策・計画学科
 高等学校教諭一種免許(公民)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
「法学(国際法を含む)、 政治学(国際政治を含む)」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		
	政治学Ⅰ	2			2	
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2			2	
	環境法	3			2	
	地域環境政策論	2			2	
	環境政策学	2			2	
「社会学、経済学 (国際経済を含む)」	社会学	2	○	2		
	経済学Ⅰ	1			2	
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	2			2	
	地域開発論	2			2	
	環境経済学入門	1			2	
	環境経済学	2			2	
	地域調査法	1			2	
	地域調査法演習	1			1	
	政策計画演習Ⅰ	3			1	
	政策計画演習Ⅱ	3			1	
	政策計画演習Ⅲ	4			1	
	環境監査	3			2	
	環境社会学	1			2	
「哲学、倫理学、 宗教学、心理学」	哲学概論A	3	○	2		人間文化学部専門科目
	心理学基礎	3			2	人間文化学部専門科目
	環境公正論	3			2	
	環境心理学	2			2	
各教科の指導法(情報機 器及び教材の活用を含 む。)	公民科教育法Ⅰ	2			2	教職用科目
	公民科教育法Ⅱ	2			2	教職用科目
			合計	10	36	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上を修得しなければならない。

環境科学部 ★生物資源管理学科

中学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考	
				必修	選択		
物理学	環境物理学Ⅰ	1	○	2		環境生態学科専門科目	
	環境物理学Ⅱ	3		2			
	土壌環境物理学	2			2		
	環境水文学	2			2		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	○	2			
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	3			2		
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2			
	環境化学Ⅱ	3		2			
	環境疫学	3			2		
	環境汚染システム論	3			2		
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○	2			
	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	3			2		
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2			
	環境生物学Ⅱ	2		2			
	森林環境学	2			2		
	動物生態学	2			2		
	遺伝学	2			2		
	生物資源統計学Ⅰ	1			2		
	環境植物生理学	2			2		
	分子生物学	1			2		
	植物栄養学	2			2		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○	2			
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	3			2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	3			2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅶ	2			2		
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境生態学科専門科目	
	地球科学Ⅱ	2		2			
	土壌環境化学	2			2		
	湖沼環境学	2			2		
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	2	○	2			
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目	
	理科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目	
		合計		32	36		

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

環境科学部 ★生物資源管理学科

高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	環境物理学Ⅰ	1		2		環境生態学科専門科目
	環境物理学Ⅱ	3	○	2		
	土壌環境物理学	2			2	
	環境水文学	2			2	
化学	環境化学Ⅰ	1	○	2		
	環境化学Ⅱ	3		2		
	環境疫学	3			2	
	環境汚染システム論	3			2	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		
	環境生物学Ⅱ	2		2		
	森林環境学	2			2	
	動物生態学	2			2	
	遺伝学	2			2	
	生物資源統計学Ⅰ	1			2	
	環境植物生理学	2			2	
	分子生物学	1			2	
地学	植物栄養学	2			2	
	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境生態学科専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		
	土壌環境化学	2			2	
湖沼環境学	2			2		
「物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)」	環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2		2		うち4単位以上
	環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○※	2		
	環境生物学実験(コンピュータ活用を含む)	1		2		
	地球科学実験(コンピュータ活用を含む)	2		2		
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅷ	3			2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅸ	2			2	
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				24	44	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。(※除く)

※環境物理学実験、環境化学実験、環境生物学実験、地球科学実験から2科目4単位以上を修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

環境科学部 ★生物資源管理学科

高等学校教諭一種免許(農業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		備考
			必修	選択	
農業の 関係科目	生物資源管理学概論	1	○	2	
	栽培植物各論A	2		2	
	植物資源管理学	2		2	
	栽培植物各論B	3		2	
	植物遺伝資源学	2		2	
	動物資源管理学	3		2	
	家畜生産学	2		2	
	植物生産学	1		2	
	植物病害防除論	3		2	
	害虫管理学	3		2	
	植物資源開発学	3		2	
	応用微生物学	3		2	
	水資源利用学	2		2	
	水資源保全学	3		2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	3		2	
	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2		2	
	地域資源管理学	2		2	
	資源経済学	3		2	
	環境経営学	2		2	
	国際環境資源論	3		2	
水理学	2		2		
農業環境学	3		2		
作物保護学	2		2		
職業指導	職業指導	1,2,3,4	○	2	教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用 を含む。)	農業科教育法Ⅰ	2,3		2	教職用科目 隔年開講(偶数年)
	農業科教育法Ⅱ	2,3		2	教職用科目 隔年開講(偶数年)
合計				8	44

〔注1〕 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

〔注2〕 必修の全ての科目と、選択科目より28単位以上修得しなければならない。

工学部 ★材料科学科

高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	基礎力学	1		2		
	基礎熱力学	1		2		
	基礎電磁気学	1	○	2		
	材料力学	2		2		
化学	基礎化学	1	○	2		
	電子と化学結合	1		2		
	化学熱力学	2			2	
	反応速度論	2			2	
	電気化学	3			2	
	無機化学Ⅰ	2		2		
	無機化学Ⅱ	2			2	
	有機化学Ⅰ	1		2		
	有機化学Ⅱ	2		2		
	有機化学Ⅲ	2			2	
	分析化学	1			2	
	物理化学総合および同演習	2			2	
	材料計算化学および同演習	3			2	
有機化学総合および同演習	3			2		
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		環境科学部専門科目
	環境生物学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
	生化学Ⅰ	2			2	
	生化学Ⅱ	3			2	
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境科学部専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
「物理学実験 (コンピュータ活用を含む)」、 化学実験 (コンピュータ活用を含む)」、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む)」、 地学実験 (コンピュータ活用を含む)」	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	○	2		
	分析・環境化学実験(コンピュータ活用を含む)	1		2		
	定量・機器分析および同実験(コンピュータ活用を含む)	2		2		
	材料科学実験Ⅰ	3		3		
材料科学実験Ⅱ	3		3			
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
合計				42	26	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修科目は全て修得しなければならない。選択科目については履修することを推奨する。

工学部 ★材料科学科

高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	材料科学概論	1	○	2		
	環境調和化学	3		2		
	化学工学	2		2		
	機器分析Ⅰ	2		2		
	機器分析Ⅱ	3		2		
	基礎結晶学	2		2		
	金属材料	3		2		
	セラミックス材料	3		2		
	材料量子論	3		2		
	材料組織学	3		2		
	高分子物性	3		2		
	エネルギー・界面科学	3		2		
	複合材料	3		2		
	高分子合成	3		2		
	固体物性基礎	2		2		
	材料強度物性	3		2		
	分子・統計力学	3		2		
	技術者倫理	3		2		
職業指導	職業指導	1.2, 3.4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	工業科教育法Ⅰ	2.3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	工業科教育法Ⅱ	2.3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
		合計		10	32	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上修得しなければならない。

工学部 ★機械システム工学科

高等学校教諭一種免許(理科)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
物理学	基礎力学	1		2		
	基礎電磁気学	1	○	2		
	熱力学Ⅰ	2		2		
	工業力学	1			2	
	材料力学Ⅰ	2			2	
	材料力学Ⅱ	2			2	
	熱力学Ⅱ	3			2	
	伝熱学	3			2	
	流体力学Ⅰ	2			2	
流体力学Ⅱ	3			2		
化学	基礎化学	1	○	2		
	エネルギー変換工学	3			2	
生物学	環境生物学Ⅰ	1	○	2		環境科学部専門科目
	環境生物学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
	生化学Ⅰ	2			2	材料科学科専門科目
	生化学Ⅱ	3			2	材料科学科専門科目
地学	地球科学Ⅰ	2	○	2		環境科学部専門科目
	地球科学Ⅱ	2		2		環境科学部専門科目
〔物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)]	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1	○	2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	理科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	理科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目
	理科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目
	合計			22	24	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上修得しなければならない。

工学部 ★機械システム工学科

高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	機械システム工学概論	1	○	2		
	機械工学基礎実験	3		2		
	機械力学Ⅰ	3			2	
	制御工学Ⅰ	3			2	
	生産工学	3			2	
	機械製作	1			2	
	機械力学Ⅱ	3			2	
	機械要素	2			2	
	制御工学Ⅱ	3			2	
	メカトロニクス	3			2	
	計測工学	3			2	
	機械材料学	2			2	
	機械設計演習Ⅰ	2			2	
	機械設計演習Ⅱ	3			2	
	機械設計演習Ⅲ	3			2	
	機械製作実習	2			2	
	機械システム創造実験	3			2	
	金属加工学	3			2	
職業指導	職業指導	1,2, 3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	工業科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	工業科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
		合計		10	32	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より26単位以上を修得しなければならない。

工学部 ★電子システム工学科

高等学校教諭一種免許(工業)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
工業の関係科目	電子システム工学概論	1	○	2		
	基礎電磁気学	1		2		
	工業数学	2		2		
	電磁気学Ⅰ	2		2		
	電気回路Ⅰ	2		2		
	電子回路Ⅰ	2		2		
	半導体基礎	2		2		
	基礎電気電子回路	1			2	
	電磁気学Ⅱ	2			2	
	電気回路Ⅱ	2			2	
	電子回路Ⅱ	3			2	
	量子力学概論	2			2	
	物性デバイス基礎論	2			2	
	電気エネルギーシステム工学	3			2	
	半導体デバイス	3			2	
	電磁波工学	3			2	
	電子デバイス	3			2	
パワーエレクトロニクス	4		2			
職業指導	職業指導	1,2, 3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	工業科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	工業科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
合計				22	20	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

工学部 ★電子システム工学科

高等学校教諭一種免許(情報)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
情報社会及び情報倫理	電子社会と人間	1,2, 3,4	○	2		人間学科目
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	コンピュータハードウェア	2		2		
	アルゴリズムとデータ構造	2		2		
	プログラミング言語	2	○	2		
	プログラミング基礎	2		2		
	情報処理基礎	2		2		
	電気電子計測Ⅰ	3			2	
	電気電子計測Ⅱ	3			2	
	制御工学	3			2	
通信情報理論	2			2		
情報システム (実習を含む。)	コンピュータアーキテクチャ	3		2		
	コンピュータソフトウェア	3	○	2		
	情報科学概論	1		2		全学共通基礎科目(情報処理)
	集積回路設計基礎	3			2	
	ロボット工学	4			2	
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報通信工学	3		2		
	通信ネットワーク工学	3	○	2		
	電子システム工学実験Ⅱ	2		2		
マルチメディア表現・マルチメディア技術 (実習を含む。)	通信システム工学	3	○	2		
	電気電子設計製図	3		1		
	デジタル信号処理	2			2	
情報と職業	情報と職業	1,2, 3,4	○	2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	情報科教育法Ⅰ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
	情報科教育法Ⅱ	2,3		2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
合計				33	14	

〔注1〕一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

〔注2〕必修の全ての科目と、選択科目より4単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★地域文化学科

中学校教諭一種免許(社会)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史・外国史	日本史概説	1,2	○	2		
	日本社会論	1,2		2		
	西洋史概説	2,3		2		
	東洋史概説	1,2		2		
	考古学	1,2		2		
	基層文化論	1,2			2	
	日本文化史論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	日本文化史論B	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
	日本・地域交流特論	3,4			2	
	対外文化交流論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	古文書演習Ⅰ	2,3			1	
	古文書演習Ⅱ	2,3			1	
	考古学特論A	3,4			2	隔年開講(偶数年)
	中国地域文化論	2,3			2	
	朝鮮地域文化論	2,3			2	隔年開講(偶数年)
東アジア世界論	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)	
地理学(地誌を含む。)	人文地理学A	1,2	○	2		
	自然地理学	3,4		2		
	地誌学	3,4		2		
	人文地理学B	2,3,4		2		
	地域研究論	1,2		2		
「法学、政治学」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		人間関係学科専門科目
	政治学Ⅰ	2		2		人間関係学科専門科目
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2		2		人間関係学科専門科目
「社会学、経済学」	社会学概論	1,2	○	2		
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論A	2,3	○	2		
	哲学概論B	2,3			2	隔年開講(奇数年)
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	社会科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
合計				32	28	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修全ての科目を修得しなければならない。選択科目については、履修することを推奨する。

人間文化学部 ★地域文化学科

高等学校教諭一種免許(地理歴史)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史	日本史概説	1,2	○	2		
	日本社会論	1,2		2		
	考古学	1,2		2		
	基層文化論	1,2			2	
	日本文化史論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	日本文化史論B	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
	日本・地域交流特論	3,4			2	
	対外文化交流論A	2,3,4			2	隔年開講(奇数年)
	古文書演習Ⅰ	2,3			1	
	古文書演習Ⅱ	2,3			1	
	考古学特論A	3,4		2	隔年開講(偶数年)	
外国史	西洋史概説	2,3	○	2		
	東洋史概説	1,2		2		
	中国地域文化論	2,3			2	
	朝鮮地域文化論	2,3			2	隔年開講(偶数年)
	東アジア世界論	2,3,4			2	隔年開講(偶数年)
人文地理学・ 自然地理学	人文地理学A	1,2	○	2		
	自然地理学	3,4		2		
	人文地理学B	2,3,4		2		
	地域研究論	1,2			2	
地誌	地誌学	3,4	○	2		
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	地理歴史科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	地理歴史科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
			合計	22	22	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★生活デザイン学科

中学校教諭一種免許(家庭)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む。)	生活経営論	3		2		
	消費生活論	1,2	○	2		隔年開講(奇数年)
被服学(被服製作実習 を含む。)	生活素材論	2	○	2		
	服飾造形論	3		2		
	比較衣装論	1			2	
	服飾デザイン論	3			2	
	服飾文化論	2			2	
	服飾心理学	3			2	
	服飾デザイン演習Ⅰ	2	○	2		
	服飾デザイン演習Ⅱ	2			2	
服飾デザイン演習Ⅲ	3			2		
食物学(栄養学、食品学 及び調理実習を含む。)	食物学(調理実習を含む)	1,2	○	2		隔年開講(奇数年)
住居学	比較住居論	1	○	2		
	一般構造	2			2	
	建築計画論	2			2	
	インテリア計画論	2			2	
	住環境論	3			2	
	道具計画論	3			2	
	基礎設計製図	1			2	
	住環境設計演習Ⅰ	2			2	
住環境設計演習Ⅱ	2			2		
保育学(実習を含む。)	保育学(実習及び家庭看護を含む)	1,2	○	2		隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	家庭科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
		合計		24	28	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての単位と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★生活デザイン学科

高等学校教諭一種免許（家庭）に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考	
				必修	選択		
家庭経営学（家族関係学 及び家庭経済学を含む。）	生活経営論	3	○	2			
	消費生活論	1,2		2		隔年開講（奇数年）	
被服学（被服製作実習 を含む。）	生活素材論	2	○	2			
	服飾造形論	3		2			
	比較衣装論	1			2		
	服飾デザイン論	3			2		
	服飾文化論	2			2		
	服飾心理学	3			2		
	服飾デザイン演習Ⅰ	2		○	2		
	服飾デザイン演習Ⅱ	2				2	
	服飾デザイン演習Ⅲ	3			2		
食物学（栄養学、食品学 及び調理実習を含む。）	食物学（調理実習を含む）	1,2	○	2		隔年開講（奇数年）	
住居学（製図を含む。）	比較住居論	1	○	2			
	一般構造	2			2		
	建築計画論	2			2		
	インテリア計画論	2			2		
	住環境論	3			2		
	道具計画論	3			2		
	基礎設計製図	1	○	2			
	住環境設計演習Ⅰ	2			2		
	住環境設計演習Ⅱ	2			2		
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	保育学（実習及び家庭看護を含む）	1,2	○	2		隔年開講（偶数年）	
家庭電気・家庭機械・ 情報処理	生活工学（情報処理を含む）	1,2	○	2		隔年開講（奇数年）	
各教科の指導法（情報 機器及び教材の活用を 含む。）	家庭科教育法Ⅰ	2			2	教職用科目	
	家庭科教育法Ⅱ	2			2	教職用科目	
	家庭科教育法Ⅲ	3			2	教職用科目	
	家庭科教育法Ⅳ	3			2	教職用科目	
	合計			24	30		

(注1) 一般的包括的内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★生活栄養学科

中学校教諭一種免許（家庭）に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考	
				必修	選択		
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)	生活経営論	3	○	2		隔年開講（奇数年）	
	消費生活論	1,2		2			
被服学（被服製作実習を含む。）	被服学（被服製作実習を含む）	2,3	○	2		教職用科目 隔年開講（奇数年）	
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	基礎栄養学Ⅰ	1	○	2			
	食品学総論	1		2			
	食品の調理と加工	2		2			
	嗜好と調理実習Ⅰ	1		1			
	応用栄養学Ⅰ	2			2		
	応用栄養学Ⅱ	2			2		
	臨床栄養学Ⅰ	2			2		
	臨床栄養学Ⅱ	3			2		
	公衆栄養学	3			2		
	食品機能科学	1			2		
	食品衛生学	2			2		
	栄養生化学	1			2		
疾病の成り立ちⅢ	3			2			
住居学	住居学（製図を含む）	1,2	○	2		教職用科目 隔年開講（奇数年）	
保育学（実習を含む。）	保育学(実習及び家庭看護を含む)	1,2	○	2		生活デザイン学科専門科目 隔年開講（偶数年）	
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	家庭科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目	
	家庭科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目	
	家庭科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目	
	家庭科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目	
	合計			25	18		

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より8単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★生活栄養学科

高等学校教諭一種免許(家庭)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
家庭経営学(家族関係学及 び家庭経済学を含む。)	生活経営論	3	○	2		
	消費生活論	1,2		2	隔年開講(奇数年)	
被服学(被服製作実習を 含む。)	被服学(被服製作実習を含む。)	2,3	○	2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
食物学(栄養学、食品学 及び調理実習を含む。)	基礎栄養学Ⅰ	1	○	2		
	食品学総論	1		2		
	食品の調理と加工	2		2		
	嗜好と調理実習Ⅰ	1		1		
	応用栄養学Ⅰ	2		2		
	応用栄養学Ⅱ	2		2		
	臨床栄養学Ⅰ	2		2		
	臨床栄養学Ⅱ	3		2		
	公衆栄養学	3		2		
	食品機能科学	1		2		
	食品衛生学	2		2		
栄養生化学	1	2				
疾病の成り立ちⅢ	3	2				
住居学(製図を含む。)	住居学(製図を含む)	1,2	○	2		教職用科目 隔年開講(奇数年)
保育学(実習及び家庭 看護を含む。)	保育学(実習及び家庭看護を含む)	1,2	○	2		生活デザイン学科専門科目 隔年開講(偶数年)
家庭電気・家庭機械・ 情報処理	生活工学(情報処理を含む)	1,2	○	2		生活デザイン学科専門科目 隔年開講(奇数年)
各教科の指導法(情報 機器及び教材の活用を 含む。)	家庭科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	家庭科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
	合計			23	22	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より14単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★人間関係学科

中学校教諭一種免許（社会）に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
日本史・外国史	日本史概説	1,2	○	2		地域文化学科専門科目
	日本社会論	1,2		2		
	東洋史概説	1,2		2		地域文化学科専門科目
	西洋史概説	2,3		2		地域文化学科専門科目
地理学（地誌を含む。）	人文地理学A	1,2	○	2		地域文化学科専門科目
	自然地理学	3,4		2		地域文化学科専門科目
	地誌学	3,4		2		地域文化学科専門科目
	人文地理学B	2,3, 4		2		地域文化学科専門科目
「法学、政治学」	法学概論（国際法を含む）	2	○	2		
	政治学Ⅰ	2		2		
	政治学Ⅱ（国際政治を含む）	2		2		
	社会運動論	3,4		2		隔年開講（偶数年）
「社会学、経済学」	社会学概論	1	○	2		
	政治経済学	3,4		2		隔年開講（奇数年）
	社会変動論	3,4		2		隔年開講（奇数年）
	社会調査論	1		2		
	人間行動論	1		2		
	社会問題の社会学	2,3		2		隔年開講（奇数年）
	現代社会福祉論	3,4		2		
	社会学演習	2		2		
	行動論演習	2		2		
形成論演習	2	2				
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論A	2	○	2		
	哲学概論B	2,3		2		隔年開講（奇数年）
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	社会科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	社会科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
		合計		30	26	

（注1）一般的包括的な内容を含んでいる科目（○印）は全て修得しなければならない。

（注2）必修の全ての科目と、選択科目より2単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★人間関係学科

高等学校教諭一種免許(公民)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
「法律学(国際法を含む。), 政治学(国際政治を含む。)」	法学概論(国際法を含む)	2	○	2		
	政治学Ⅰ	2		2		
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	2		2		
	社会運動論	3.4			2	隔年開講(偶数年)
「社会学、経済学(国際 経済を含む。)」	社会学概論	1	○	2		
	政治経済学	3.4		2		隔年開講(奇数年)
	社会変動論	3.4		2		隔年開講(奇数年)
	社会調査論	1		2		
	人間行動論	1			2	
	社会問題の社会学	2.3			2	隔年開講(奇数年)
	現代社会福祉論	3.4			2	
	社会学演習	2			2	
	行動論演習	2			2	
形成論演習	2			2		
「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	哲学概論A	2	○	2		
	心理学基礎	1		2		
	哲学概論B	2.3			2	隔年開講(奇数年)
	臨床心理学	3.4			2	
	社会心理学	2.3			2	隔年開講(偶数年)
	高齢者行動論	3.4			2	隔年開講(偶数年)
各教科の指導法(情報機 器及び教材の活用を含 む。)	公民科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	公民科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
合計				24	20	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★国際コミュニケーション学科

中学校教諭一種免許(英語)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	包括 科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	英語学概論	1	○	2		
	現代英文法	2			2	
	英語学基礎	3			2	
英語文学	英米文学概論	2	○	2		
	英米文学講読	3			2	
英語コミュニケーション	リスニング(中級)	2			2	
	リーディング(中級)	1			2	
	Introduction to Academic English	1	○	2		
	Advanced Academic English I	1			2	
	Advanced Academic English II	1			2	
	Integrated English	2			2	
	Introduction to Discussion & Debate	2	○	2		
English in Media	3			2		
異文化理解	English Lecture A	1			2	
	English Lecture B	2			2	
	English Lecture C	2			2	
	English Lecture D	2			2	
	English Lecture E	3			2	
	English Lecture F	3			2	
	欧米文化論C	1,2			2	
	欧米文化論D	1,2	○	2		
	欧米文化特論C	3,4			2	
欧米文化特論D	3,4	○	2			
各教科の指導法(情報機器 及び教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
		合計		20	34	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より12単位以上を修得しなければならない。

人間文化学部 ★国際コミュニケーション学科

高等学校教諭一種免許(英語)に係る教科及び教科の指導法に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講年次	包括科目	単位数		備考
				必修	選択	
英語学	英語学概論	1	○	2		
	現代英文法	2			2	
	英語学基礎	3			2	
英語文学	英米文学概論	2	○	2		
	英米文学講読	3			2	
英語コミュニケーション	リスニング(中級)	2			2	
	リーディング(中級)	1			2	
	Introduction to Academic English	1	○	2		
	Advanced Academic English I	1			2	
	Advanced Academic English II	1			2	
	Integrated English	2			2	
	Introduction to Discussion & Debate	2	○	2		
English in Media	3			2		
異文化理解	English Lecture A	1			2	
	English Lecture B	2			2	
	English Lecture C	2			2	
	English Lecture D	2			2	
	English Lecture E	3			2	
	English Lecture F	3			2	
	欧米文化論C	1,2			2	
	欧米文化論D	1,2	○	2		
	欧米文化特論C	3,4			2	
欧米文化特論D	3,4	○	2			
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育法Ⅰ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅱ	2		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅲ	3		2		教職用科目
	英語科教育法Ⅳ	3		2		教職用科目
	合計			16	38	

(注1) 一般的包括的な内容を含んでいる科目(○印)は全て修得しなければならない。

(注2) 必修の全ての科目と、選択科目より20単位以上を修得しなければならない。

人間看護学部における養護教諭免許の取得について

◆養護教諭一種免許取得のための科目履修方法について

・次表および次ページの「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」（表1）、「養・教育の基礎的理解に関する科目等」「養護に関する科目」（表2）～（表4）、「大学が独自に設定する科目」（表5）をすべて修得してください。（すべて必修）

「養護に関する科目」は次ページ以降の「養護教諭一種免許に係る養護に関する科目」から48単位以上履修してください。

表1

◆教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	2	憲法	2	人間学・教職科目
体育	2	健康・体力科学Ⅰ、Ⅱ（各1単位）	2	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡA、英語ⅡB（各1単位）	2	全学共通基礎科目
情報機器の操作	2	情報リテラシー（情報倫理を含む）	2	全学共通基礎科目

表2

◆養・教育の基礎的理解に関する科目等◆

科目	免許法施行規則に定める科目区分		免許法による 必修単位	本学開講科目		単 位 数	合 計
	各科目に含める必要事項			配当年次は1～4年次			
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	8	教育学概論	2	11	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職論	2		
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育制度論	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学	2		
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育概論	1		
・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2					
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。） ・生徒指導の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	6	道徳教育論	2	10	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び機材の活用を含む。）			総合的な学習の時間の指導法 特別活動論	1 2		
	・生徒指導の理論及び方法			教育方法論	2		
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			生徒指導論	2		
	・養護実習			教育相談	1		
教育実践に関する科目	・養護実習	5	教育実習・事前事後指導（養護教諭）	5	7		
	・教職実践演習		2	教職実践演習（養護教諭） ※4年次後期			
合 計		21	本学では28単位必修				

表3

◆養護に関する科目◆

養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）、学校保健、養護概説・健康相談活動の理論・健康相談活動の方法、栄養学（食品学を含む。）、解剖学・生理学、「微生物学、免疫学、薬理概論」、精神保健、看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	28	養護教諭一種免許に係る養護に関する科目（表4）から履修	48
合 計		28	本学では48単位必修	

表5

◆大学が独自に設定する科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	免許法による 必修単位	本学開講科目	
		科目名	単位数
大学が独自に設定する科目	7	小児看護学概論 成人看護学概論 精神看護学演習 小児看護学演習 成人クリティカルケア演習 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅳ	1 1 1 1 1 2 2
合 計	7	本学では9単位必修	

・「教育実習・事前事後指導」について

- ①履修登録は、3年後期および4年前期とも必ず行うこと。
- ②事前指導は、教育実習実施前（3年次）の後期に実施します。
- ③事後指導は、原則として教育実習終了後（4年次）に実施します。
- ④「教育実習」は、原則として、4年次に出身校において3週間実施します。
- ⑤教育実習参加の基礎要件

教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。

「憲法」、「教職論」、「教育学概論」、「教育方法論」、「生徒指導論」、「道徳教育論」、「学校保健論」、「学校看護論」を履修済か履修中であること。

・「教職実践演習（養護教諭）」について

4年次後期に履修すること。

- ・ それ以外の「養・教育の基礎的理解に関する科目」については年次配当の規定はありませんので、年度当初に配布する時間割表で十分に確認し、低年次にできるだけ履修してください。

◆養護教諭二種免許取得のための科目履修方法について

- ・ 保健師国家試験受験資格に必要な科目および人間学科目である「憲法」を履修してください。
- ・ 「憲法」は1・2年次に履修してください（3年次には領域別実習、4年次には公衆衛生看護学実習と重複するため履修できない場合があります）。
- ・ 保健師資格を取得後、在任する教育委員会に申請することで二種免許を取得することができます。

人間看護学部 ★人間看護学部

表4

養護教諭一種免許に係る養護に関する科目

法規上の科目区分	授業科目の名称	開講 年次	単位数		備考
			必修	選択	
衛生学・公衆衛生学 (予防医学を含む。)	公衆衛生学	2	2		
	疫学	2	2		
学校保健	学校保健論	3	2		教職用科目
養護概説	学校看護論	3	2		教職用科目
健康相談活動の理論・健康相談活動 の方法	公衆衛生看護学Ⅰ	3		2	} いずれか1科目を選択
	健康教育論	3		2	
	公衆衛生看護学概論	2	2		
栄養学(食品学を含む。)	栄養学	2	2		
解剖学・生理学	解剖生理学Ⅰ	1	2		
	解剖生理学Ⅱ	1	2		
	生化学	1	2		
「微生物学、免疫学、薬理概論」	病理学	1	2		
	微生物学	1	2		
	薬理学	2	2		
精神保健	精神保健論	1	2		
	精神看護学概論	2	1		
	精神看護学実習	3	2		
看護学 (臨床実習及び救急処置を含む。)	小児看護学	2	2		
	成人看護学	2	2		
	小児看護学実習	3	2		
	成人クリティカルケア実習	3	2		
	人間看護学概論	1	2		
	看護理論	2	2		
	基礎看護技術Ⅰ	1	1		
	基礎看護技術Ⅲ	2	1		
	基礎看護学実習Ⅰ	1	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2		
	合計		46	4	

(注1) 必修の全ての科目と、選択科目より2単位以上を修得しなければならない。

(注2) 編入生においては、2年間ですべての必要単位を修得することができない場合もあります。

生活栄養学科における栄養教諭免許の取得について

◆栄養教諭一種免許取得のための科目履修方法について

- ・ 次表の「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」(表1)、「栄・教育の基礎的理解に関する科目等」(表2)、「栄養に係る教育に関する科目」(表3)をすべて修得してください。(すべて必修)
- ・ 栄養教諭一種免許の取得には、栄養士免許の取得および管理栄養士養成課程の修了が必要となります。

表1

◆教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目◆

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	本学開講科目	単位数	備考
日本国憲法	2	憲法	2	人間学・教職科目
体育	2	健康・体力科学Ⅰ、Ⅱ(各1単位)	2	全学共通基礎科目
外国語コミュニケーション	2	英語ⅡA、英語ⅡB(各1単位)	2	全学共通基礎科目
情報機器の操作	2	情報リテラシー(情報倫理を含む)	2	全学共通基礎科目

表2

◆栄・教育の基礎的理解に関する科目◆

免許法施行規則に定める科目区分		免許法による 必修単位	本学開講科目 配当年次は1～4年次	単 位 数	合 計
科目	各科目に含める必要事項				
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育学概論	2	11
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職論	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1	
・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2			
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	2	10
	・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		総合的な学習の時間の指導法	1	
			特別活動論	2	
	・生徒指導の理論及び方法		教育方法論	2	
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)		生徒指導論	2	
教育相談	教育相談	1			
教育実践に関する科目	・栄養教育実習	2	栄養教育実習・事前事後指導	2	4
	・教職実践演習	2	教職実践演習(栄養教諭)※4年次後期	2	
合 計		18	本学では25単位必修		

表3

◆栄養に係る教育に関する科目◆

栄養に係る教育に関する科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	4	学校栄養指導論	2	4
	・食に関する指導の方法に関する事項				
	・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項		食生活教育論	2	
	・食生活に関する歴史的及び文化的事項				
合 計		4	本学では4単位必修		

- ・「栄養教育実習・事前事後指導」について
 - ①履修登録は、3年後期および4年前期とも必ず行うこと。
 - ②事前指導は、栄養教育実習実施前（3年次）後期に実施します。
 - ③事後指導は、原則として栄養教育実習終了後（4年次）に実施します。
 - ④「栄養教育実習」は、原則として、4年次に出身校において1週間実施します。
 - ⑤教育実習参加の基礎要件
教育実習に参加するためには、次の基礎要件を満たしていなければなりません。
「憲法」「教職論」「教育方法論」「教育学概論」「学校栄養指導論」「食生活教育論」を履修済み
履修中であること。

- ・「教職実践演習（栄養）」について
4年後期に履修すること。

- ・ 隔年開講科目について
「学校栄養指導論」「食生活教育論」は隔年開講です。4年次に不開講で履修できないこともあり
得るので、計画的に履修してください。
「学校栄養指導論」は偶数年度開講
「食生活教育論」は奇数年度開講

3 「学芸員」の資格取得について

学芸員は、博物館の専門職員です。学芸員の資格は、「博物館法」に基づいて授与されます。

学芸員となるための資格は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」となっています。

本学においては、学芸員の資格取得に必要な授業科目は別表1、2に示されています。

履修にあたっては、次の点に留意してください。

- ①学芸員の資格を取得する者は、必修の全ての科目と、選択科目より10単位以上を修得しなければならない。なお、必修科目「博物館学概論」は、2回生で履修すること。
- ②4年次開講の「博物館実習」を履修しようとする者は、原則として3回生までに「博物館学概論」、「博物館資料論」、「博物館情報・メディア論」および「生涯学習論」を含む10単位以上を修得しなければならない。
- ③学内実習施設の都合により、4年次開講の「博物館実習」の受講人数を制限する場合があります。

別表1 学芸員の資格取得に必要な授業科目（環境科学部） ※2021(令和3)年度入学生用

授業科目の名称	開講年次	単位数		備 考
		必修	選択	
博物館学概論	2	2		学芸員用科目
博物館経営論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館資料論	2,3	2		学芸員用科目
博物館資料保存論	3,4	2		学芸員用科目
博物館展示論	3,4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館教育論	3,4	2		学芸員用科目
生涯学習論	2	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
博物館情報・メディア論	2,3	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
自然のしくみA	1,2,3,4		2	人間学
環境科学概論Ⅰ	1		2	環境科学部学部共通基礎科目
環境科学概論Ⅱ	1		2	環境科学部学部共通基礎科目
環境生物学Ⅰ	1		2	環境生態学科、環境政策・計画学科、生物資源管理学科専門科目
環境生物学Ⅱ	2		2	環境生態学科、生物資源管理学科専門科目
地球科学Ⅰ	2		2	環境科学部複数学科共通科目
環境地下水学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
森林環境学	2		2	環境生態学科、環境政策・計画学科、生物資源管理学科専門科目
遺伝学	2		2	環境生態学科、生物資源管理学科専門科目
湖沼環境学	2		2	環境科学部複数学科共通科目
動物生態学	2		2	環境生態学科、環境政策・計画学科、生物資源管理学科専門科目
分子生物学	1		2	環境生態学科、生物資源管理学科専門科目
理論生態学	3		2	環境科学部複数学科共通科目
環境リスク解析法	3		2	環境生態学科専門科目
環境微生物学	3		2	環境科学部複数学科共通科目
陸域生態系保全修復論	3		2	環境科学部複数学科共通科目
集水域生態系保全修復論	3		2	環境科学部複数学科共通科目
水域生態系保全修復論	3		2	環境生態学科専門科目
植物生産学	1		2	生物資源管理学科専門科目
琵琶湖環境学	1		2	環境生態学科専門科目
地球科学Ⅱ	2		2	環境生態学科専門科目
環境変遷学	1		2	環境生態学科専門科目
海洋環境学	2		2	環境生態学科専門科目
大気環境学	2		2	環境生態学科専門科目
集水域環境学	2		2	環境生態学科専門科目
動物資源管理学	3		2	生物資源管理学科専門科目
植物資源管理学	2		2	生物資源管理学科専門科目
水産資源学	2		2	生物資源管理学科専門科目

※別表は2021(令和3)年度入学生用です。2020(令和2)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得の手引」の該当部分を参照してください。

別表2 学芸員の資格取得に必要な授業科目(人間文化学部) ※2021(令和3)年度入学生用

授業科目の名称	開講 年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
博物館学概論	2	2		学芸員用科目
博物館経営論	3.4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館資料論	2.3	2		学芸員用科目
博物館資料保存論	3.4	2		学芸員用科目
博物館展示論	3.4	2		人間文化学部地域文化学科専門科目
博物館教育論	3.4	2		学芸員用科目
生涯学習論	2	2		人間文化学部人間関係学科専門科目
博物館情報・メディア論	2.3	2		学芸員用科目
博物館実習	4	3		学芸員用科目
日本文化論	1.2		2	地域文化学科専門科目
考古学	1.2		2	地域文化学科専門科目
考古学特論B	3.4		2	地域文化学科専門科目 *隔年開講(奇数年度開講)
民俗学	1.2		2	地域文化学科専門科目
西洋史概説	2.3		2	地域文化学科専門科目
芸術学	1.2		2	地域文化学科専門科目
美術史A	2.3.4		2	地域文化学科専門科目 *隔年開講(偶数年度開講)
美術史B	2.3.4		2	地域文化学科専門科目 *隔年開講(奇数年度開講)
人文地理学A	1.2		2	地域文化学科専門科目
人文地理学B	2.3.4		2	地域文化学科専門科目
文化財・保存修景論A	2.3		2	地域文化学科専門科目 *隔年開講(偶数年度開講)
文化財・保存修景論B	3.4		2	地域文化学科専門科目 *隔年開講(奇数年度開講)
比較住居論	1		2	人間学、人間文化学部専門科目
比較道具論	1		2	生活デザイン学科専門科目
比較衣装論	1		2	生活デザイン学科専門科目
考現学概論	1		2	生活デザイン学科専門科目
近代デザイン史	2		2	生活デザイン学科専門科目
服飾文化論	2		2	生活デザイン学科専門科目
現代産業デザイン論	3		2	生活デザイン学科専門科目 *隔年開講(偶数年度開講)

※別表は2021(令和3)年度入学生用です。2020(令和2)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得の手引」の該当部分を参照してください。

4 「栄養士」の免許取得と「管理栄養士受験資格」について

栄養士の免許は、「栄養士法」に基づいて授与されます。本学において栄養士の免許取得に必要な授業科目は、以下の別表1に示されています。なお、栄養士の免許を取得できるのは、人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

「管理栄養士受験資格」は、別表2に示された管理栄養士受験資格取得に必要な授業科目の単位を取得するか、あるいは栄養士免許の取得後、1年の栄養士実務経験を経れば与えられます。

単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

以下の別表1、別表2は、2018(平成30)年度入学生から適用されます。2017(平成29)年度以前の入学生は自分の入学年度の「履修の手引」の中の第3章「資格取得の手引」の該当部分を参照してください。

別表1 栄養士の免許取得に必要な授業科目(2018(平成30)年度入学生から適用)

栄養士法施行規則別表第一			本学の授業科目				
教育内容	単位数		授業科目	単位数			
	講義又は 演習	実験又は 実習		講義又は 演習	実験又は 実習	講義又は 演習計	実験又は 実習計
社会生活と健康	4		公衆衛生学 2			4	
人体の構造と機能	8	4	社会福祉概論 2			8	5
			生体の構造と機能 2				
			疾病の成り立ちⅠ 2				
			病態生理学実習 1				
			運動と健康 2				
			栄養生化学 2				
食品と衛生	6		栄養生化学実験 1			6	
			食品学総論 2				
			食品機能科学 2				
			食品基礎実験 1				
			食品機能科学実験 1				
			食品衛生学 2				
栄養と健康	8	10	食品衛生学実験 1			12	
			基礎栄養学Ⅰ 2				
			基礎栄養学Ⅱ 2				
			基礎栄養学実験 1				
			応用栄養学Ⅰ 2				
			応用栄養学Ⅱ 2				
			応用栄養学実習 1				
			臨床栄養学Ⅰ 2				
			臨床栄養学Ⅱ 2				
			臨床栄養学実習Ⅰ 1				
栄養の指導	6	10	臨床栄養学実習Ⅱ 1			6	12
			栄養教育論Ⅰ 2				
			栄養教育論実習 1				
			栄養教育論Ⅱ 2				
給食の運営	4		公衆栄養学 2			6	
			公衆栄養学実習 1				
			食品の調理と加工 2				
			食品加工実習 1				
			嗜好と調理実習Ⅰ 1				
			嗜好と調理実習Ⅱ 1				
			給食経営管理論Ⅰ 2				
			給食経営管理実習(校内実習) 1				
			給食衛生管理実習(校内実習) 1				
			給食経営管理臨地実習(校外実習) 1				
給食経営管理論Ⅱ 2							
小計	36	14	小計	42	17	42	17
合計	50		合計			59	

別表2 管理栄養士受験資格に必要な授業科目(2018(平成30)年度入学生から適用)

栄養士法施行規則別表第四				本学の授業科目		
教育内容		単位数		科目名	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
専 門 基 礎 分 野	社会・環境と健康	6	10	社会福祉概論	2	
	人体の構造と機能及び 疾病の成り立ち	14		生命科学と人間	2	
				公衆衛生学	2	
				健康情報管理実習		1
				社会・環境と健康の小計	6	1
				生体の構造と機能	2	
				分子生物学基礎	2	
				疾病の成り立ちⅠ	2	
				疾病の成り立ちⅡ	2	
				運動と健康	2	
				疾病の成り立ちⅢ	2	
				栄養生化学	2	
				病態生理学実習		1
				栄養生化学実験		1
				栄養生理学実習		1
人体の構造と機能及び 疾病の成り立ちの小計	14	3				
食べ物と健康	8		食品学総論	2		
食べ物と健康	8	食品機能科学	2			
		食品衛生学	2			
		食品の調理と加工	2			
		食品基礎実験		1		
		食品機能科学実験		1		
		食品衛生学実験		1		
		嗜好と調理実習Ⅰ		1		
		嗜好と調理実習Ⅱ		1		
		食品加工実習		1		
		食べ物と健康の小計	8	6		
		小計	28	10	専門基礎分野小計	28

栄養士法施行規則別表第四				本学の授業科目				
教育内容		単位数		科目名		単位数		
		講義又は演習	実験又は実習			講義又は演習	実験又は実習	
専	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2			
				基礎栄養学Ⅱ	2			
				基礎栄養学実験			1	
				基礎栄養学の小計	4		1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2			
				応用栄養学Ⅱ	2			
				スポーツ栄養学	2			
				応用栄養学実習			1	
				応用栄養学の小計	6		1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2			
栄養教育論Ⅱ			2					
栄養教育論Ⅲ (含カゼリソク論演習)			2					
栄養教育論実習					1			
栄養教育論の小計			6		1			
門	臨床栄養学	8	臨床栄養学Ⅰ	2				
			臨床栄養学Ⅱ	2				
			臨床栄養学Ⅲ	2				
			臨床栄養活動論	2				
			臨床栄養学実習Ⅰ			1		
			臨床栄養学実習Ⅱ			1		
			臨床栄養学の小計	8		2		
	公衆栄養学	4	公衆栄養学	2				
			栄養疫学論	2				
			公衆栄養学実習			1		
公衆栄養学の小計	4		1					
分	給食経営管理論	4	給食経営管理論Ⅰ	2				
			給食経営管理論Ⅱ	2				
			給食経営管理実習			1		
			給食衛生管理実習			1		
			給食経営管理論の小計	4		2		
野	総合演習	2	管理栄養士総合演習	1				
			臨地実習事前事後指導	1				
	総合演習の小計	2						
	臨地実習		4	地域保健臨地実習			1	
				給食経営管理臨地実習			1	
臨床栄養臨地実習Ⅰ						1		
臨床栄養臨地実習Ⅱ						1		
臨地実習の小計			4					
小計	32	12	専門分野の小計	34	12			
合計	82		合計	84				

5 「看護師国家試験受験資格」について

「看護師国家試験受験資格」は、下記に示す科目および単位数を履修し、人間看護学部人間看護学科の課程を卒業（見込みを含む。）した者が受験できます。

資格取得に必要な科目

—2021(令和3)年度入学生用—

分野	授 業 科 目				必修 単位数		
全学 共通 科目	地域基礎科目：「地域共生論」および「地域社会福祉論」（必修）				4		
	人間学：「人間探求学」「生命・人間・倫理」（必修） その他に、2科目選択必修				8		
	英語ⅠA、ⅠB（活性化コース） 英語ⅢA、ⅢB（充実コース）		英語ⅡA、ⅡB（応用コース） 英語ⅣA、ⅣB（展開コース）		8		
	(選択科目) ドイツ語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅠA・ⅠB、中国語ⅠA・ⅠB、朝鮮語ⅠA・ⅠB、モンゴル語ⅠA・ⅠBから2科目および実用英語演習ⅠA・ⅠB		(各1単位)		4		
	健康・体力科学Ⅰ	1	健康・体力科学Ⅱ	1	2		
	情報リテラシー (情報倫理を含む)	2	情報科学概論	2	4		
専 門 基 礎 科 目	解剖生理学Ⅰ	2	微生物学	2	23		
	解剖生理学Ⅱ	2	精神保健論	2			
	生化学	2	薬理学	2			
	病理学	2	公衆衛生学	2			
専 門 科 目	人間看護学概論	2	老年看護学概論	1	成人クリティカルケア演習	1	76
	基礎看護技術Ⅰ	1	在宅看護学概論	1	エンドオブライフケア演習	1	
	基礎看護技術Ⅱ	2	公衆衛生看護学概論	2	老年看護学演習	1	
	小児看護学概論	1	成人看護学	2	小児看護学演習	1	
	成人看護学概論	1	老年看護学	2	母性看護学演習	1	
	母性看護学概論	1	小児看護学	2	精神看護学演習	1	
	基礎看護技術Ⅲ	1	母性看護学	2	在宅看護学演習	1	
	基礎看護技術Ⅳ	2	精神看護学	2	看護管理学	2	
	看護理論	2	在宅看護学	2	看護研究の基礎	1	
	精神看護学概論	1	成人クロニックケア演習	1			
	(専門選択科目) 8単位選択						
	疫学、公衆衛生看護学Ⅰ、健康教育論、家族看護学、看護トピックス、看護キャリアデザイン論、看護英語、看護教育と実践、クリティカルケア実践演習、チャイルドライフケア論、ホリスティックケア論、国際看護学、災害看護学、ボランティア実践演習、看護英語実践					8	
	地域生活実習	1	精神看護学実習	2	エンドオブライフケア実習	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	1	小児看護学実習	2	在宅看護学実習	2	
基礎看護学実習Ⅱ	2	成人クロニックケア実習	2	人間看護学統合実習	2		
老年看護学実習Ⅰ	1	成人クリティカルケア実習	2	卒業研究	4		
老年看護学実習Ⅱ	2	母性看護学実習	2				
計（卒業要件）				129			

6 「保健師国家試験受験資格」について

◇2021(令和3)年度入学生用、3年次編入学生用

「保健師国家試験受験資格」の取得要件は以下のとおりです。

- 1) 「看護師国家試験受験資格」に必要な科目をすべて履修し、人間看護学部の卒業要件を満たしていること。
- 2) 下記に示す科目および単位数をすべて履修していること。

※この資格を取得するには、保健師課程(3～4年次)を選択する必要があります。本課程を希望する者のなかから2年次終了時にGPAにより選抜された者のみが選択できます。

資格取得に必要な科目

	保健師課程授業科目	開講	単位数
学部共通科目	情報科学概論	1年 後期	2
	公衆衛生学	2年 前期	2
	公衆衛生看護学概論	2年 前期	2
	地域社会福祉論	2年 後期	2
選択必修科目	疫学	2年 後期	2
	家族看護学	3年 前期	2
	健康教育論	3年 前期	2
	公衆衛生看護学Ⅰ	3年 前期	2
卒業要件外の科目	公衆衛生看護学Ⅱ	3年 前期	2
	公衆衛生看護学Ⅲ	4年 前期	2
	公衆衛生看護管理論	4年 前期	2
	健康教育方法演習	4年 前期	1
	公衆衛生看護学演習	4年 前期	2
	公衆衛生看護学実習	4年 通年	5
	合計		30

注) 上の表のうち卒業要件外の科目は、保健師課程選択者のみ履修する科目です。公衆衛生看護学Ⅱは、3年次で必ず履修してください。

7 「一級建築士受験資格」および「二級・木造建築士受験資格」について（環境建築デザイン学科）

1. 一級建築士について

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表1に示す所定の単位数を取得すると、一級建築士試験の「受験資格」が得られます。また、建築士試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務の経験が、取得単位数に応じた年数（表2）以上であれば、一級建築士として「免許登録」することができます。

表1 一級建築士試験「受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
③建築環境工学	建築環境工学	必修	2	2単位以上
	建築環境工学演習	選択	2	
④建築設備	環境設備	必修	2	2単位
⑤構造力学	構造力学Ⅰ	必修	2	4単位
	構造力学Ⅱ	必修	2	
⑥建築一般構造	建築一般構造	選択	2	4単位
	構造計画	必修	2	
⑦建築材料	構造材料実験	必修	2	2単位
⑧建築生産	建築生産施工	必修	2	2単位
⑨建築法規	建築法規	必修	2	2単位
⑩その他	環境・建築デザイン概論	必修	2	適宜
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境共生論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープデザイン	選択	2	
	サステナブルデザイン論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
	環境技術史	選択	2	
	環境行動論	選択	2	
	CAD演習Ⅱ	選択	2	
都市・地域計画	選択	2		
①～⑩の合計単位数		—	—	40単位以上

表2 一級建築士の「免許登録」に必要な実務経験年数

表1の①～⑩の合計単位数	実務経験年数
60単位以上	2年
50単位以上 60単位未満	3年
40単位以上 50単位未満	4年

2. 二級・木造建築士について

環境科学部環境建築デザイン学科の課程を修了し、かつ表3に示す所定の単位数を取得すると、二級・木造建築士試験の「受験資格」が得られます。また、建築士試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務の経験が、取得単位数に応じた年数（表4）以上であれば、二級・木造建築士として「免許登録」することができます。

表3 二級・木造建築士試験「受験資格」の取得に必要な科目・単位数

分類	授業科目	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計製図	設計演習Ⅰ	必修	3	9単位
	設計演習Ⅱ	必修	3	
	設計演習Ⅲ	必修	3	
②建築計画、 ③建築環境工学 または ④建築設備	環境設計Ⅰ	選択	2	8単位以上
	環境設計Ⅱ	選択	2	
	内部空間論	選択	2	
	日本建築史	選択	2	
	アジア建築史	選択	2	
	西洋建築・思潮史	選択	2	
	建築環境工学	必修	2	
建築環境工学演習	選択	2		
環境設備	必修	2		
⑤構造力学、 ⑥建築一般構造 または ⑦建築材料	構造力学Ⅰ	必修	2	6単位以上
	構造力学Ⅱ	必修	2	
	建築一般構造	選択	2	
	構造計画	必修	2	
	構造材料実験	必修	2	
⑧建築生産	建築生産施工	必修	2	2単位
⑨建築法規	建築法規	必修	2	2単位
⑩その他	環境・建築デザイン概論	必修	2	適宜
	イメージ表現法	必修	2	
	地域環境計画	選択	2	
	CAD演習Ⅰ	必修	2	
	設計基礎演習	必修	2	
	環境造形論	選択	2	
	環境共生論	選択	2	
	景観計画	選択	2	
	ランドスケープデザイン	選択	2	
	サステナブルデザイン論	選択	2	
	環境職能論	選択	2	
	環境技術史	選択	2	
	環境行動論	選択	2	
	CAD演習Ⅱ	選択	2	
都市・地域計画	選択	2		

表4 二級建築士の「免許登録」に必要な実務経験年数

表3の①～⑩の合計単位数	実務経験年数
40単位以上	0年
30単位以上 40単位未満	1年
20単位以上 30単位未満	2年

8 「二級建築士受験資格」および「木造建築士受験資格」について（生活デザイン学科）

人間文化学部生活デザイン学科の課程を修了し、下表に示す所定の単位数【試験時】を取得しているものには、「二級・木造建築士受験資格」が与えられます。

また、試験に合格した上で、大学卒業後の建築実務経験年数が必要年数を満たしていれば、免許登録を行うことができます。※必要となる実務経験年数は取得単位により異なります。

資格の取得に必要な科目

分類	授業科目名	必修・選択	単位数	必要単位数
①建築設計・製図	基礎設計製図	必修	2	6単位以上
	住環境設計演習Ⅰ	選択必修	2	
	住環境設計演習Ⅱ	選択必修	2	
	住環境設計演習Ⅲ	選択必修	2	
②建築計画、 ③建築環境工学 または ④建築設備	比較住居論	選択	2	8単位以上
	近代デザイン史	選択	2	
	インテリア計画論	選択	2	
	建築計画論	選択	2	
⑤構造力学、 ⑥建築一般構造または ⑦建築材料	空間デザイン論	選択	2	6単位以上
	住環境論	選択	2	
	構造力学Ⅰ	選択	2	
⑧建築生産	一般構造	選択	2	2単位
	構造計画	選択	2	
⑨建築法規	建築生産施工 ※1	選択	2	2単位
⑩その他	建築法規	選択	2	適宜
	考現学概論	選択	2	
	デジタルデザイン演習B	選択必修	1	
	色彩学演習	選択必修	1	
	人間工学	選択	2	
	人間工学実習	選択	1	
	地域文化財論B ※1	選択	2	
	文化財・保存修景論A ※1	選択	2	
	サステナブルデザイン論	選択	2	
	木匠塾	選択	2	
	都市・建築をつくる ※2	選択	2	
	環境共生論 ※1	選択	2	
	都市・地域計画 ※1	選択	2	
日本建築史 ※1	選択	2		
必要な実務経験年数 ①～⑩の合計単位数	【試験時】	実務経験0年	20単位以上	
	【登録時】	実務経験0年	40単位以上	
		実務経験1年	30単位以上（40単位未満）	
		実務経験2年	20単位以上（30単位未満）	

※1 他学部・他学科の開講科目

※2 「人間学」科目

9 「インテリアプランナー登録資格」について

「インテリアプランナー登録資格」は、インテリアプランナー試験の合格者で下記に示す科目および単位数を履修し、人間文化学部生活デザイン学科の課程を卒業した後、実務経験なしで与えられます。また、二級建築士、木造建築士資格を取得した者も、実務経験なしで登録資格が得られます。

また、学科試験の合格者は、登録を受けることにより「アソシエイト・インテリアプランナー」（通称：准インテリアプランナー、略称AIP）が付与されます。

資格取得に必要な科目

授業科目	単位数	必修単位数
色彩学	2	A (36-B-C) 単位以上
色彩学演習	1	
デッサン法	1	
生活造形基礎演習	2	
現代産業デザイン論	2	
近代デザイン史	2	
道具計画論	2	
道具デザイン演習Ⅰ	2	
道具デザイン演習Ⅱ	2	
道具デザイン演習Ⅲ	2	
比較住居論	2	
サステナブルデザイン論	2	
インテリア計画論	2	
建築計画論	2	
空間デザイン論	2	
人間工学	2	
人間工学実習	1	
住環境論	2	
構造計画	2	
構造力学Ⅰ	2	
一般構造	2	
建築法規	2	
基礎設計製図	2	
デジタルデザイン演習B	1	C 2単位以上
インテリアコーディネート概説	1	
住環境設計演習Ⅰ	2	
住環境設計演習Ⅱ	2	
住環境設計演習Ⅲ	2	

10 「社会調査士資格」について

◆人間文化学部地域文化学科および人間関係学科

「地域文化学科」および「人間関係学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は、一般社団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授 業 科 目	開講年次	単位数	備考
統計学基礎	1	2	人間文化学部共通科目
社会調査論	1	2	
社会調査方法論	2	2	
量的データ解析論Ⅰ	2	2	
※質的データ解析論	2	2	いずれか1科目選択必修
※量的データ解析論Ⅱ	3, 4		
地域社会調査実習	3	1	

※ 原則として、地域文化学科は「質的データ解析論」、人間関係学科は「量的データ解析論Ⅱ」を選択すること

◆環境科学部環境政策・計画学科

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は一般社団法人「社会調査協会」に申請することにより、「社会調査士」の資格を取得することができます。

授 業 科 目	開講年次	単位数	備考
地域調査法	1	2	
地域調査法演習	1	1	
基礎統計	1	2	
応用統計学Ⅰ	2	2	
応用統計学Ⅱ	2	2	
社会調査実習	3	1	

11 「GIS学術士資格」について

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得した者は「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「GIS学術士」の資格を取得することができます。

授業科目	開講年次	単位数	備考
情報リテラシー（情報倫理を含む）	1	2	
情報科学概論	1	2	
GIS演習	3	1	
環境フィールドワークⅢ	3	3	GISを使用すること
卒業研究Ⅰ	4	3	GISを使用すること
卒業研究Ⅱ	4	3	GISを使用すること

12 「自然再生士補資格」について

下の分野別科目対応表にある科目を、コース1またはコース3の条件を満たして履修・修得し卒業した者が、「一般財団法人 日本緑化センター」に所定の申請を行った場合に自然再生士補に認定されます。

□分野別科目対応表(環境生態学科)

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境解析学・同実験 ・集水域環境学・同実験 ・陸域環境学・同実験 ・水域環境学・同実験	①自然再生・自然環境概論	・環境科学概論Ⅰ ・環境科学概論Ⅱ ・森林環境学 ・環境地下水学 ・海洋環境学 ・大気環境学 ・集水域環境学 ・湖沼環境学
②動・植物同定調査に係る実習・演習(森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)		②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	・理論生態学 ・環境リスク解析法 ・環境微生物学
③地域環境資源調査に係る実習・演習		③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習		④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	・陸域生態系保全修復論 ・集水域生態系保全修復論 ・水域生態系保全修復論
⑤生態学実習・演習	・環境生態学基礎演習 ・環境生態学特別実習	⑤植物(草本類、木本類、水生植物等)分類・生態・生理学	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・環境生態学演習Ⅰ ・環境生態学演習Ⅱ	⑥動物(哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等)分類・生態・生理学	・動物生態学
		⑦環境リスクマネジメント学	・環境アセスメント
		⑧環境経済学	・環境経済学入門 ・環境財政
		⑨環境社会学	・環境政策学
		⑩地域環境学・地域生態論	・地域環境政策論
		⑪環境関連法規	・環境法

□分野別科目対応表(環境政策・計画学科)

実験・実習(演習)分野		講義分野	
指定分野	科目	指定分野	科目
①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	・環境フィールドワーク I	①自然再生・自然環境概論	・環境科学概論 I
②動・植物同定調査に係る実習・演習(森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む)		②自然再生・自然環境保全に係る計画(設計)学	・環境計画学 ・環境政策学
③地域環境資源調査に係る実習・演習	・地域調査法演習	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	
④自然環境保全活動に係る実習・演習		④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	
⑤生態学実習・演習		⑤植物分類・生態・生理学	
⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習	・合意形成支援技法・演習 ・ファシリテーション技法・演習	⑥動物分類・生態・生理学	
		⑦環境リスクマネジメント学	・環境アセスメント
		⑧環境経済学	・環境経済学入門 ・環境経済学 ・環境財政
		⑨環境社会学	・環境社会学
		⑩地域環境学・地域生態論	・地域環境政策論
		⑪環境関連法規	・環境法

□コース選択表(両学科共通。コース1または3を選択)

	実験・実習分野	講義分野	特別講義	規定合計単位数
コース 1	実験・実習分野より3科目以上6単位以上の履修・修得	講義分野より2科目以上4単位以上の履修・修得	—	実験・実習、講義分野より5科目以上10単位以上の履修・修得があること。
コース 2	実験・実習分野又は講義分野より1科目2単位以上の履修・修得		自然再生講義・演習特別講義(必修)の履修・修得	特別講義及び実験・実習、講義分野より2科目以上4単位以上の履修・修得があること。
コース 3	実験・実習分野又は講義分野より6科目12単位以上の履修・修得		—	実験・実習、講義分野に関係なく6科目以上12単位以上の履修・修得があること。

13 「地域調査士資格」について

◆環境科学部環境政策・計画学科

「環境政策・計画学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得し、地域調査に関する卒業論文を完成させた者が、「地域調査士講習」を受講していた場合、「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「地域調査士」の資格を取得することができます。

授業科目	開講年次	単位数	備考
地域システム論	1	2	地域の概念を扱う科目
地域調査法	1	2	地図に関する科目
環境フィールドワークⅠ	1	3	地域の人文的・自然的特性に関する調査
地域調査法演習	1	1	統計処理に関する科目
地域環境政策論	2	2	日本の地域特性を扱う科目
応用統計学Ⅰ	2	2	統計処理に関する科目
GIS演習	3	1	地図に関する科目
自然地理学	3	2	地域の自然的特性を扱う科目

◆人間文化学部地域文化学科

「地域文化学科」の課程を修了した者で、次の単位を修得し、地域調査に関する卒業論文を完成させた者が、「地域調査士講習」を受講していた場合、「公益社団法人日本地理学会」に申請することにより、「地域調査士」の資格を取得することができます。

授業科目	開講年次	単位数	備考
人文地理学A	1, 2	2	地域の概念を扱う科目
人文地理学B	2, 3, 4	2	地図に関する科目
地域社会調査実習	3, 4	1	地域の人文的・自然的特性に関する調査
地理学実習Ⅰ	2, 3	1	統計処理に関する科目
地理学実習Ⅱ	2, 3	1	
地誌学	3, 4	2	日本の地域特性を扱う科目
自然地理学	3, 4	2	地域の自然的特性を扱う科目

14 「社会福祉主事任用資格」について

社会福祉主事とは、社会福祉法において規定されている資格であり、都道府県・市町村の福祉事務所等において、生活保護法等に定める援護等の事務にあたる職員として任用される者に要求される資格(任用資格)です。また、社会福祉施設職員等の資格にも準用されています。

任用資格とは、公務員として採用された後で、特定の業務に任用されるときに必要な資格で、任用されて初めてその資格を名乗ることができる資格のことです。資格認定証は発行されませんので、必要であれば単位取得証明書等で証明することになります。

「社会福祉主事任用資格」は、厚生労働大臣の指定する科目の中から3科目以上を修得し、卒業した場合に取得できます。本学では次の科目の中から3科目以上を修得してください。

- 社会福祉概論（人間文化学部生活栄養学科専門科目）または地域社会福祉論（地域基礎科目）
- 法学概論（環境科学部環境政策・計画学科専門科目、人間文化学部人間関係学科専門科目、国際コミュニケーション学科専門科目）
- 社会学（環境科学部環境政策・計画学科専門科目、生物資源管理学科専門科目）または社会学概論（人間文化学部地域文化学科専門科目、人間関係学科専門科目）
- 教育学概論（人間文化学部人間関係学科専門科目）
- 公衆衛生学（人間文化学部生活栄養学科専門科目）
- 基礎栄養学Ⅰ（人間文化学部生活栄養学科専門科目）、基礎栄養学Ⅱ（人間文化学部生活栄養学科専門科目）または栄養学（人間看護学部専門科目）
- 精神保健論（人間看護学部専門科目）
- 人間看護学概論（人間看護学部専門科目）

15 「毒物劇物取扱責任者」について

毒物及び劇物取締法第7条第1項の規定により、毒物又は劇物を直接に取り扱う製造所、営業所又は店舗ごとに、専任の毒物劇物取扱責任者を置き、毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止に当たらせなければならないとされています。

本学材料科学科を卒業した者は、毒物劇物取扱責任者の資格を有することになります。

16 「甲種危険物取扱者受験資格」について

消防法の規定により、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければならないとされています。危険物取扱者には、甲種・乙種・丙種があり、そのうち甲種危険物取扱者は、全類の危険物について、取扱いと定期点検、保安の監督ができます。また、甲種もしくは乙種危険物取扱者が立ち会えば危険物取扱者免状を有していない一般の者も、取扱いと定期点検を行うことができます。

受験にあたっての詳細事項については、一般財団法人消防試験研究センターのホームページを参考にしてください。(http://www.shoubo-shiken.or.jp/)

◆ 工学部 材料科学科

材料科学科を卒業した者は、自動的に甲種危険物取扱者の受験資格が得られます。また、在学中の学生は、化学に関する分野の科目を15単位以上修得すれば受験資格を得ることができます。対象科目の詳細については、上記一般財団法人消防試験研究センターのホームページを参照してください。

◆ 環境科学部

環境科学部（およびその他の学部）の学生は、以下の一覧表のうち15単位以上を修得すれば、甲種危険物取扱者の受験資格を得ることができます。なお、受験に際しては取得単位の内容を記載した単位取得証明書が必要です。

甲種危険物取扱者受験資格に関連した「化学に関する授業科目」一覧表(環境科学部)

科目名	単位数	担当学科	備考
環境化学Ⅰ	2	環境生態学科・環境政策・計画学科・生物資源管理学科	
環境化学Ⅱ	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境リスク解析法	2	環境生態学科	
集水域環境学	2	環境生態学科	
環境汚染システム論	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
地球環境化学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境毒性学	2	環境生態学科	
大気環境学	2	環境生態学科	
環境疫学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境化学実験	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
環境解析学・同実験	4	環境生態学科・生物資源管理学科	
遺伝学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
応用微生物学	2	生物資源管理学科	
家畜生産環境学	2	生物資源管理学科	
家畜生産生理学	2	生物資源管理学科	
環境植物生理学	2	生物資源管理学科	
植物遺伝資源学	2	生物資源管理学科	
植物栄養学	2	生物資源管理学科	
植物資源開発学	2	生物資源管理学科	
水質管理学	2	生物資源管理学科	
土壌環境化学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
農業環境学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
分子生物学	2	環境生態学科・生物資源管理学科	
水資源保全学	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅱ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅲ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅳ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅴ	2	生物資源管理学科	
生物資源管理学実験・実習Ⅵ	2	生物資源管理学科	

17 「電気通信主任技術者資格」について

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持および運用の監督責任者です。

電気通信事業者は、その事業用電気通信設備を、総務省令で定める技術基準に適合するよう、自主的に維持するために、電気通信主任技術者を選任し、電気通信設備の工事、維持および運用の監督にあたらなければなりません。

試験の種類は、「伝送交換主任技術者試験」と「線路主任技術者試験」があり、試験科目は、次の4科目となっています。

- (1) 電気通信システム
- (2) 専門的能力
- (3) 伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）
- (4) 法規

このうち、電子システム工学科の所定の単位（表1）を修得すると、電気通信システムの試験が免除になります。

表1 電気通信主任技術者試験における「電気通信システム」科目試験免除に関する授業科目

昭和60年郵政省告示第241号の別表第1号及び第2号に規定する科目別授業時間数 (注：1コマ90分は2時間として計算する)		電子システム工学科生が履修する科目及び授業時間数 (注：○は必修科目)			
科 目	授業時間数	授業科目名	授業時間数	単位数	
基礎専門教育科目	数学	○微積分Ⅰ	30	2	
		○線形代数Ⅰ	30	2	
	物理学	○基礎力学	30	2	
		○基礎電磁気学	30	2	
	電磁気学	○電磁気学Ⅰ	30	2	
		電磁気学Ⅱ	30	2	
	電気回路	○電気回路Ⅰ	30	2	
		電気回路Ⅱ	30	2	
	電子回路	○電子回路Ⅰ	30	2	
		○電子回路Ⅱ	30	2	
デジタル回路	30	○コンピュータハードウェア	30	2	
情報工学	30	○アルゴリズムとネットワーク構造	30	2	
電気計測	60	○電気電子計測Ⅰ	30	2	
		電気電子計測Ⅱ	30	2	
専門教育科目	伝送線路工学	30	電磁波工学	30	2
	交換工学	30	ディジタル信号処理	30	2
	電気通信システム	30	情報通信工学	30	2

18 「電気主任技術者資格」について

電気主任技術者は、事業用電気工作物の工事、維持および運用に関する専門的な知識を有する者に与えられる資格で、事業用電気工作物の設置者(所有者)は電気事業法の定めにより電気主任技術者等の主任技術者を有資格者の中から専任することが義務づけられています。電子システム工学科では、開講している授業単位を必要数(表1)修得した上で、卒業後一定の期間の実務経験(表2)を経て、申請により次の種別の電気主任技術者資格が取得できます。

表1 授業科目

【区分】 必要科目数	授業科目および単位数	【区分】 必要科目数	授業科目および単位数
【理 論】 ●科目全て と○科目3 科目以上	● 電磁気学Ⅰ 2	【機 械】 ●科目全て と○科目2 科目以上	● 電気機器 2
	● 電磁気学Ⅱ 2		● パワーエレクトロニクス 2
	● 電気回路Ⅰ 2		● 制御工学 2
	● 電気回路Ⅱ 2		○ コンピュータハードウェア 2
	● 電気電子計測Ⅰ 2		○ ロボット工学 2
	● 電気電子計測Ⅱ 2		○ 光エレクトロニクス 2
	○ 電子回路Ⅰ 2		○ 情報通信工学 2
	○ 電子回路Ⅱ 2		○ 電磁波工学 2
	○ 半導体基礎 2		【法 規】
	○ 半導体デバイス 2		● 科目
	○ 電子デバイス 2		【実験・実習】
【電 力】 ●科目全て と○科目1 科目以上	● 電力工学Ⅰ 2	● 電子システム工学実験Ⅰ 2	
	● 電力工学Ⅱ 2	● 電子システム工学実験Ⅱ 2	
	● 物性デバイス基礎論 2	● 電子システム工学実験Ⅲ 2	
	○ プラズマ工学 2	【設計・製図】	
	○ 電気エネルギーシステム工学 2	● 科目全て	
		● 電気電子設計製図 1	
		● 集積回路設計基礎 2	

●印は、必ず取得しなければならない授業科目
(卒業要件の必修科目とは異なります。)

○印は、選択科目

表2 電気主任技術者資格取得のための実務経験

電気主任技術者の種類	実 務 の 経 験	
	実務の内容	経験年数
第1種電気主任技術者免状	電圧 5万V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が5年以上
第2種電気主任技術者免状	電圧 1万V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が3年以上
第3種電気主任技術者免状	電圧 500V 以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数との和が1年以上

19 「食品衛生管理者資格」および「食品衛生監視員資格」について

食品衛生法第 48 条の規定により、製造または加工にあたり、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品、食肉製品、食品添加物などについて、営業者はその製造または加工を衛生的に管理させるために、食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。

食品衛生監視員は、飲食に起因する衛生上の危害を防止するために、食品を取り扱う営業施設等への監視指導、立入検査および食品等からの試験品を採取する権限を、厚生労働大臣または都道府県等の長から付与された公務員です。

そのため、食品衛生管理者は、食品等の製造・加工の施設を衛生的に管理させるための専門的な知識を、食品衛生監視員は、食品等の衛生に関する専門的な知識を持っていなければなりません。

資格取得には、別表の A～D の各群から 1 科目以上を履修し、その単位の合計が 22 単位以上であり、かつ A～E 群あわせて合計 40 単位以上を履修することが必要です。単位の取得については、原則として毎回の出席を前提とします。

なお、資格取得が可能なのは、2008(平成 20)年度以降入学の人間文化学部生活栄養学科の学生に限られています。

資格取得に必要な科目 (別表)

	基礎科目名	本学科目名	必選	単位数
A 群 化学関係	分析化学、有機化学、無機化学	天然物化学基礎	必修	2
B 群 生物化学関係	生物化学、食品化学、 生理学、食品分析学、 毒性学	生命科学と人間 分子生物学基礎	必修	2
		栄養生化学	必修	2
		食品学総論	必修	2
		食品基礎実験	必修	1
		食品機能科学	必修	2
		食品機能科学実験	必修	1
C 群 微生物学関係	微生物学、食品微生物学、 食品保存学、食品製造学	食品微生物学	必修	2
D 群 公衆衛生学関係	公衆衛生学、食品衛生学、 環境衛生学、衛生行政学、 疫学	公衆衛生学	必修	2
		食品衛生学	必修	2
		食品衛生学実験	必修	1
		栄養疫学論	必修	2
		給食衛生管理実習	必修	1
			小計	24

E 群 その他 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、簡便微生物学、病理学、医学概論、解剖学、疫学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保蔵学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生体の構造と機能	選択	2
		疾病の成り立ち I	選択	2
		疾病の成り立ち II	選択	2
		病態生理学実習	選択	1
		栄養生理学実習	選択	1
		栄養生化学実験	選択	1
		食品の調理と加工	選択	2
		食品加工実習	選択	1
		公衆栄養学	選択	2
		公衆栄養学実習	選択	1
		給食経営管理論 I	選択	2
		給食経営管理論 II	選択	2

○A群からD群までそれぞれ1科目以上、その単位の合計が22単位以上であること。(本学は24単位必修)さらに、E群の科目を含めての総単位数が40単位以上であること。

20 「施工管理技士受験資格」について

建築業法に規定する許可の要件としての営業所に置かれる専任技術者および工事現場に置かれる主任技術者または監理技術者の資格を満たす者として扱われる国家資格です。建築機械施工技士、土木施工管理技士、建築施工管理技士、電気工事施工管理技士、管工事施工管理技士、造園施工管理技士の6種類について、1級および2級に区分して定められています。

下記の指定学科を卒業（一部、履修条件あり）した者については、資格取得に際し、級に応じて実務経験年数の短縮や、学科試験の免除が行われます。

○指定学科：環境科学部環境建築デザイン学科

○条件：基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、建築数学・物理のうちから2単位以上修得し、指定学科を卒業した者

種別	受検要件	【2級技術検定】 受検に必要な実務経験	
		学科試験	実務試験
建築機械施工技士	卒業後3年以上 ※1	卒業後6月以上	卒業後1年以上
土木施工管理技士		卒業後1年以上	卒業後1年以上
建築施工管理技士		なし ※2	卒業後1年以上
電気工事施工管理技士			
管工事施工管理技士			
造園施工管理技士			

※1 実務経験年数には、指導監督の実務経験年数1年以上が含まれていなければならない。

※2 卒業見込時、または大学卒業後1年以内に学科試験のみを受検することができる。

○指定学科：工学部機械システム工学科、電子システム工学科

○条件：指定学科を卒業した者

種別	受検要件	【2級技術検定】 受検に必要な実務経験	
		学科試験	実務試験
建築機械施工技士	卒業後3年以上 ※1	なし ※2	卒業後1年以上
建築施工管理技士			
電気工事施工管理技士			
管工事施工管理技士			

※1 実務経験年数には、指導監督の実務経験年数1年以上が含まれていなければならない。

※2 卒業見込時、または大学卒業後1年以内に学科試験のみを受検することができる。

令和 3 年度開講科目索引

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
A	Academic Writing	後期	国	Martin Hawkes
	Advanced Academic English I[留学英語対策講座Ⅰ]	後期	全国	Martin Hawkes
	Advanced Academic English II[留学英語対策講座Ⅱ]	後期	全国	John Rippey
C	CAD演習Ⅰ	後期	建	Jimenez Verdojo Juan Ramon
	CAD演習Ⅱ	後期	建	Jimenez Verdojo Juan Ramon
	Contemporary Japanese Culture	前期	交	倉茂 好匡
	Contemporary Japanese Culture	後期	交	倉茂 好匡
D	Discussion & Debate	前期	国	Peter Sterlacci※
E	English for Business	前期集中	全国	Fuisting Bjorn※
	English in Media[メディアの英語]	後期	全国	Christopher Garth※
	English Lecture A	後期	国	Martin Hawkes
	English Lecture B	前期	国	Martin Hawkes
	English Lecture C	前期	国	Antonija Cavcic
	English Lecture D	後期	国	小熊 猛※
	English Lecture E	前期	国	John Rippey
	English Lecture F	後期	国	Antonija Cavcic
	English Lecture G	前期	国	間 永次郎
Essay Writing[エッセイ・ライティング]	後期	全国	John Rippey	
G	I S 演習	後期	政	香川 雄一
I	Independent Study I	前期集中	交	
	Independent Study II	後期集中	交	
	Integrated English a[英語会話(中級) a]	前期	全国	Peter Sterlacci※
	Integrated English b[英語会話(中級) b]	前期	全国	Peter Sterlacci※
	Intensive Japanese Culture	前期集中	交	国際交流委員会
	Intensive Japanese Language	前期集中	交	国際交流委員会
	Intermediate Academic English[留学英語対策基礎講座]	前期集中	全国	John Rippey
	Introduction to Academic English	前期	国	John Rippey, Antonija Cavcic
	Introduction to Discussion & Debate a[ディベート基礎ディスカッションa]	前期	全国	Martin Hawkes
	Introduction to Discussion & Debate b[ディベート基礎ディスカッションb]	前期	全国	Martin Hawkes
	Japan Studies VI[Introduction to Japanese Law]	後期	全	Benjamin John McCracken※
	Japan Studies VII[Introduction to Japanese Culture and Society]	前期	交	Benjamin John McCracken※
Japan Studies I: Influences of Geography on Culture & Society	前期	交	倉茂 好匡	
Japan Studies II: Japanese politics and diplomacy I	前期	交		
Japan Studies III: Japanese society and culture I	前期	交		
Japan Studies IV: Japanese politics and diplomacy II	後期	交		
Japan Studies V: Japanese society and culture II	後期	交		
Japanese Culture and Society in Community I	前期集中	交	国際交流委員会	
Japanese Culture and Society in Community II	前期集中	交	国際交流委員会	
M	M B A 入門[経営学序論]	後期	副	西岡 孝幸
P	Public Speaking	前期	国	John Rippey
	World Societies I	前期	全	真島 アマンダ※
	World Societies II	後期	全	真島 アマンダ※
S	SDGsと滋賀のグローバル・イノベーション・近江の暮らしと未来	前期集中	全	上田 洋平, 森川 悠
あ	アジア・フィールド実習Ⅰ[国際環境マネジメントⅠ]	前期集中	全	丸尾 雅啓, 高橋 卓也, 原田 英美子
	アジア・フィールド実習Ⅱ[国際環境マネジメントⅡ]	前期集中	全	丸尾 雅啓, 高橋 卓也, 原田 英美子
	アジア建築史	後期	理	川井 峰
	アジア交流論	前期集中	地	何部 健一※
	アジア文化特論B	後期	国	河 かおる
	アジア文化特論C	前期	国	間 永次郎
	アジア文化論A	前期	国	Borjigin Burensain
	アジア文化論B	後期	国	河 かおる
	アジア文化論C	前期	国	間 永次郎
	アジア文化論D	後期	国	額瀬 慈郎

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
あ	アジア文献講読 A	通年	他	全 軍大
	アジア文献講読 B	通年	地	木村 可奈子
	アジア文献講読 C	通年	地	横田 祥子
	アルゴリズムとデータ構造	前期	電	砂山 渡
い	一般構造	前期	デ	佐々木 一泰
	遺伝学	前期	藝	清水 麗史
	異文化理解 A	前期集中	全	国際交流員会
	異文化理解 B	後期集中	全	国際交流員会
	移民社会論 B	後期	国	石川 真作※
	移民社会論 C	後期	国	河 かねる, Borjigin Burensain, 根川 幸男※
	イメージ表現法	前期	建	金子 尚志, 轟 慎一, 高田 豊文, 永井 拓生, 高屋 麻里子
	インターンシップ A	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インターンシップ B	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インターンシップ C	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インターンシップ D	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インターンシップ E	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インターンシップ F	前期集中	キ	就職指導担当教員
	インテリア計画論	前期	デ	宮本 雅子
う	インテリアコーディネート概説	前期	デ	藤本 庸介
	ウイグル式モンゴル文学史料講読	後期	国	Borjigin Burensain
	運動と健康	後期	体	栗田 一彦
え	英語 I A (活性化コース) (環境①)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (環境②)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (環境③)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (環境④)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (環境⑤)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (環境⑥)	前期	環	
	英語 I A (活性化コース) (工学①)	前期	工	
	英語 I A (活性化コース) (工学②)	前期	工	
	英語 I A (活性化コース) (工学③)	前期	工	
	英語 I A (活性化コース) (工学④)	前期	工	
	英語 I A (活性化コース) (工学⑤)	前期	工	
	英語 I A (活性化コース) (人文①)	前期	人	
	英語 I A (活性化コース) (人文②)	前期	人	
	英語 I A (活性化コース) (人文③)	前期	人	
	英語 I A (活性化コース) (人文④)	前期	人	
	英語 I A (活性化コース) (人文⑤)	前期	人	
	英語 I A (活性化コース) (看護①)	前期	看	
	英語 I A (活性化コース) (看護②)	前期	看	
	英語 I A (活性化コース) (再履修)	前期	再	
	英語 I A (国際a)	前期	国	
	英語 I A (国際b)	前期	国	
	英語 I B (活性化コース) (環境①)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (環境②)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (環境③)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (環境④)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (環境⑤)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (環境⑥)	後期	環	
	英語 I B (活性化コース) (工学①)	後期	工	
	英語 I B (活性化コース) (工学②)	後期	工	
	英語 I B (活性化コース) (工学③)	後期	工	
	英語 I B (活性化コース) (工学④)	後期	工	
	英語 I B (活性化コース) (工学⑤)	後期	工	
	英語 I B (活性化コース) (人文①)	後期	人	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
大	英語ⅠB(活性化コース)(人文②)	後期	人	
	英語ⅠB(活性化コース)(人文③)	後期	人	
	英語ⅠB(活性化コース)(人文④)	後期	人	
	英語ⅠB(活性化コース)(人文⑤)	後期	人	
	英語ⅠB(活性化コース)(看護①)	後期	看	
	英語ⅠB(活性化コース)(看護②)	後期	看	
	英語ⅠB(活性化コース)(再履修)	後期	再	
	英語ⅠB(国際a)	前期	国	
	英語ⅠB(国際b)	前期	国	
	英語ⅡA(応用コース)(再履修)	前期	再	
	英語ⅡB(応用コース)(再履修)	後期	再	
	英語ⅡA(応用コース)(環境①)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(環境②)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(環境③)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(環境④)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(環境⑤)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(環境⑥)	前期	環	
	英語ⅡA(応用コース)(工学①)	前期	工	
	英語ⅡA(応用コース)(工学②)	前期	工	
	英語ⅡA(応用コース)(工学③)	前期	工	
	英語ⅡA(応用コース)(工学④)	前期	工	
	英語ⅡA(応用コース)(工学⑤)	前期	工	
	英語ⅡA(応用コース)(人文①)	前期	人	
	英語ⅡA(応用コース)(人文②)	前期	人	
	英語ⅡA(応用コース)(人文③)	前期	人	
	英語ⅡA(応用コース)(人文④)	前期	人	
	英語ⅡA(応用コース)(人文⑤)	前期	人	
	英語ⅡA(応用コース)(看護①)	前期	看	
	英語ⅡA(応用コース)(看護②)	前期	看	
	英語ⅡA(国際a)	前期	国	
	英語ⅡA(国際b)	前期	国	
	英語ⅡB(応用コース)(環境①)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(環境②)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(環境③)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(環境④)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(環境⑤)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(環境⑥)	後期	環	
	英語ⅡB(応用コース)(工学①)	後期	工	
	英語ⅡB(応用コース)(工学②)	後期	工	
	英語ⅡB(応用コース)(工学③)	後期	工	
	英語ⅡB(応用コース)(工学④)	後期	工	
	英語ⅡB(応用コース)(工学⑤)	後期	工	
	英語ⅡB(応用コース)(人文①)	後期	人	
	英語ⅡB(応用コース)(人文②)	後期	人	
	英語ⅡB(応用コース)(人文③)	後期	人	
	英語ⅡB(応用コース)(人文④)	後期	人	
	英語ⅡB(応用コース)(人文⑤)	後期	人	
	英語ⅡB(応用コース)(看護①)	後期	看	
	英語ⅡB(応用コース)(看護②)	後期	看	
	英語ⅡB(国際a)	前期	国	
	英語ⅡB(国際b)	前期	国	
	英語ⅢA(充実コース)(環境①)	前期	環	
	英語ⅢA(充実コース)(環境②)	前期	環	
	英語ⅢA(充実コース)(環境③)	前期	環	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
英	英語III A (充実コース) (環境④)	前期	環	
	英語III A (充実コース) (環境⑤)	前期	環	
	英語III A (充実コース) (環境⑥)	前期	環	
	英語III A (充実コース) (工学①)	前期	工	
	英語III A (充実コース) (工学②)	前期	工	
	英語III A (充実コース) (工学③)	前期	工	
	英語III A (充実コース) (工学④)	前期	工	
	英語III A (充実コース) (工学⑤)	前期	工	
	英語III A (充実コース) (人文①)	前期	人	
	英語III A (充実コース) (人文②)	前期	人	
	英語III A (充実コース) (人文③)	前期	人	
	英語III A (充実コース) (人文④)	前期	人	
	英語III A (充実コース) (人文⑤)	前期	人	
	英語III A (充実コース) (看護①)	前期	看護	
	英語III A (充実コース) (看護②)	前期	看護	
	英語III A (充実コース) (再履修)	前期	再	
	英語III A (国際a)	前期	国	
	英語III A (国際b)	前期	国	
	英語III B (充実コース) (環境①)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (環境②)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (環境③)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (環境④)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (環境⑤)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (環境⑥)	後期	環	
	英語III B (充実コース) (工学①)	後期	工	
	英語III B (充実コース) (工学②)	後期	工	
	英語III B (充実コース) (工学③)	後期	工	
	英語III B (充実コース) (工学④)	後期	工	
	英語III B (充実コース) (工学⑤)	後期	工	
	英語III B (充実コース) (人文①)	後期	人	
	英語III B (充実コース) (人文②)	後期	人	
	英語III B (充実コース) (人文③)	後期	人	
	英語III B (充実コース) (人文④)	後期	人	
	英語III B (充実コース) (人文⑤)	後期	人	
	英語III B (充実コース) (看護①)	後期	看護	
	英語III B (充実コース) (看護②)	後期	看護	
	英語III B (充実コース) (再履修)	後期	再	
	英語III B (国際a)	前期	国	
	英語III B (国際b)	前期	国	
	英語IV A (展開コース) (環境①)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (環境②)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (環境③)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (環境④)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (環境⑤)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (環境⑥)	前期	環	
	英語IV A (展開コース) (工学①)	前期	工	
英語IV A (展開コース) (工学②)	前期	工		
英語IV A (展開コース) (工学③)	前期	工		
英語IV A (展開コース) (工学④)	前期	工		
英語IV A (展開コース) (工学⑤)	前期	工		
英語IV A (展開コース) (人文①)	前期	人		
英語IV A (展開コース) (人文②)	前期	人		
英語IV A (展開コース) (人文③)	前期	人		
英語IV A (展開コース) (人文④)	前期	人		

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
え	英語ⅣA (展開コース) (人文⑤)	前期	人	
	英語ⅣA (展開コース) (看護①)	前期	看護	
	英語ⅣA (展開コース) (看護②)	前期	看護	
	英語ⅣA (展開コース) (再履修)	前期	再	
	英語ⅣA (国際a)	後期	国	
	英語ⅣA (国際b)	後期	国	
	英語ⅣB (展開コース) (環境①)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (環境②)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (環境③)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (環境④)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (環境⑤)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (環境⑥)	後期	環	
	英語ⅣB (展開コース) (工学①)	後期	工	
	英語ⅣB (展開コース) (工学②)	後期	工	
	英語ⅣB (展開コース) (工学③)	後期	工	
	英語ⅣB (展開コース) (工学④)	後期	工	
	英語ⅣB (展開コース) (工学⑤)	後期	工	
	英語ⅣB (展開コース) (人文①)	後期	人	
	英語ⅣB (展開コース) (人文②)	後期	人	
	英語ⅣB (展開コース) (人文③)	後期	人	
	英語ⅣB (展開コース) (人文④)	後期	人	
	英語ⅣB (展開コース) (人文⑤)	後期	人	
	英語ⅣB (展開コース) (看護①)	後期	看護	
	英語ⅣB (展開コース) (看護②)	後期	看護	
	英語ⅣB (展開コース) (再履修)	後期	再	
	英語ⅣB (国際a)	後期	国	
	英語ⅣB (国際b)	後期	国	
	英語E-learning A	後期集中	国	Martin Hawkes
	英語E-learning B	前期集中	国	John Rippey
	英語E-learning C	後期集中	国	John Rippey
	英語学概論	後期	国	中谷 博美
	英語学基礎	前期	国	小熊 猛※
	英語文献講読 A	前期	国	棚瀬 慈郎
	英語文献講読 B	後期	国	棚瀬 慈郎
	英書講読 (地域文化)	通年	地	亀井 若菜,北村 由美※,萩原 和,櫻井 悟史
	英米文学概論	前期	国	山本 重
	英米文学講読	後期	国	山本 重
	栄養疫学論	後期	栄	今井 結理
	栄養学	後期	看護	関根 愛莉※
	栄養教育実習・事前事後指導 (4年次)	前期実習	教	山川 佐代子※,胡田 裕教,平木 敦子※
	栄養教育実習・事前事後指導 (3年次)	後期実習	教	山川 佐代子※,胡田 裕教,平木 敦子※
	栄養教育論Ⅰ	後期	栄	未定*
	栄養教育論Ⅱ	前期	栄	未定*
栄養教育論Ⅲ(カウンセリング論演習を含む)	後期	栄	未定*	
栄養教育論実習	前期実習	栄	未定*	
栄養生化学	前期	栄	福渡 努	
栄養生化学実験	後期実習	栄	福渡 努,畑山 翔	
栄養生理学実習	前期実習	栄	矢野 仁康,田中 大也	
疫学	後期	看護	檀 林※	
エネルギー・界面科学	前期	材	奥 健夫	
エネルギー変換工学	後期	機政	河崎 澄	
エンドオブライフケア演習	前期	看護	糸島 穂子,小野 あゆみ,高多下 真里	
エンドオブライフケア実習	通年実習	看護	高多下 真里,小野 あゆみ,糸島 穂子,生田 夢見,中川 夢和	
25 欧米文化特論 A	後期	国	吉村 淳一	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
お	欧米文化特論 B	後期	国	橋本 周子
	欧米文化特論 C	後期	国	山本 重
	欧米文化特論 D	後期	国	John Rippey
	欧米文化論 A	前期	国	吉村 淳一
	欧米文化論 B	後期	国	橋本 周子
	欧米文化論 C	後期	国	山本 重
	欧米文化論 D	前期	国	John Rippey, Antoja Cavcic
	近江商人論	後期	地	栗 幸代
	近江の美	前期	全	印南 比呂志
	応用栄養学 I	前期	栄	今井 絵理
	応用栄養学 II	後期	栄	今井 絵理
	応用栄養学実習	前期実習	栄	今井 絵理
	応用数学	後期	政	井手 慎司
	応用統計学 I	前期	政	白木 裕斗
	応用統計学 II	後期	政	村上 一真
応用微生物学	前期	資	入江 俊一	
か	海外留学	適年	国	学科教員
	害虫管理学	前期	資	高倉 耕一
	開発人類学	後期	国	小河 久志※
	解剖生理学 I	前期	畜	安原 治
	解剖生理学 II	後期	畜	安原 治, 越山 雅文
	海洋環境学	前期	應	伴 修平
	カウンセリング論	前期	関	松嶋 秀明
	科学英語 I [環境生態学外書講読]	前期	應	学科教員
	科学英語 II [環境生態学外書表現]	後期	應	学科教員
	科学技術英語 (材料)	前期	材	経溝 謙久, 石田 暁, Dalakrishnan Jayadevan ※, 藤本 幸村, 中野 聖博, 藤岡
	科学技術英語 (機械)	前期	機	学科教員
	科学技術英語 (電子)	前期	電	学科教員
	化学工学	後期	材	渡邊 哲※, 河瀬 元明※
	科学作文 [環境論考解析学]	後期	應	西田 啓義
	化学熱力学	前期	材	竹下 宏樹
	確率統計 (機械)	後期	機	門脇 光輝
	確率統計 (電子)	後期	電	杉山 裕介
	家族看護学	前期	畜	大脇 万起子※
	家族論	前期	関	村上 薫※
	家畜生産学	前期	資	伊川 敬法
	家畜生産環境学 [家畜生産生理学]	前期	畜	平山 塚二※
	学校看護論	前期集中	教	八木 利津子※
	学校保健論	前期集中	教	八木 利津子※, 橋本 進一※
	環境建築デザイン演習	後期	建	学科教員
	環境・建築デザイン概論	前期	建	学科教員
	環境アセスメント	前期集中	態政建資	鍋澤 滋雄※, 柴田 裕希※, 杉本 卓也※
	環境校学 [陸域環境機能論]	前期	態資	肥田 嘉文
	環境汚染システム論 [集水域環境機能論]	前期	態資	工藤 慎治
	環境会計	前期	政資	未定*
	環境解析学・同実験	後期	態資	丸尾 雅啓, 尾坂 兼一, 工藤 慎治
	環境化学 I	前期	態政資	丸尾 雅啓
	環境化学 II	後期	態資	上西 潤一※
	環境科学概論 I	前期	環	小泉 尚嗣, 籠谷 季行, 泉 幸弘, 後藤 直哉, 高倉 耕一
	環境科学概論 II	後期	環	斎 健太郎, 井手 慎司, 増田 清敬, 上河原 勉二, 戸澤 竜一
	環境化学実験 A	後期	態資	丸尾 雅啓, 須戸 幹, 肥田 嘉文, 飯村 康夫, 工藤 慎治
	環境化学実験 B	後期	態資	丸尾 雅啓, 須戸 幹, 肥田 嘉文, 飯村 康夫, 工藤 慎治
	環境学原論 /	前期	環	村上 修一
	環境学野外実習 I	前期実習	態	学科教員

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
か	環境学野外実習Ⅱ	前期実習	態	学科教員
	環境学野外実習Ⅲ	前期実習	態	学科教員
	環境監査	前期集中	態政建資	池北 實崇
	環境技術史	後期	建	白井 孟昌
	環境共生論[環境共生デザイン]	後期	建	金子 尚志
	環境経営学[環境経営論]	後期	政資	高橋 泰也
	環境計画学	後期	政建	龍 健太郎
	環境経済演習	後期	政	林 幸司
	環境経済学	後期	政資	林 幸司
	環境経済学入門[持続可能社会論]	前期	態政建資	高橋 泰也, 林 幸司
	環境公正論[環境倫理学]	前期	政建	土屋 正春崇
	環境行動論/	前期	政建	迫田 正美
	環境財政[エコロジー経済学]	前期	態政建資	永井 克治崇
	環境シミュレーション	後期	政資	井手 慎司
	環境社会学	前期	政	平岡 俊一
	環境情報	後期	政	白木 裕斗
	環境生態論	後期	建	川井 崇松岡 拓公雄崇, 陶器 浩一, 芦澤 達一
	環境植物生理学	後期	資	原田 英美子
	環境心理学	前期	政	佐々木 和之崇
	環境水文学[水文学]	前期	態政資	大久保 卓也
	環境数学Ⅰ・演習	前期	態資	三浦 信広崇
	環境数学Ⅱ・演習	後期	態資	三浦 信広崇
	環境政策学	後期	態政建資	上河原 献二, 和田 有明
	環境政策デザイン論・演習[イベント計画論・演習]	前期	政	龍 健太郎
	環境生態学演習Ⅰ	前期	態	学科教員
	環境生態学演習Ⅱ	後期	態	学科教員
	環境生態学基礎演習	後期	態	学科教員
	環境生態学特別実習	後期実習	態	学科教員
	環境生物学Ⅰ	後期	態政政	浦部 美佐子
	環境生物学Ⅱ	後期	態資	淺岡 一雄崇
	環境生物学実験A	前期	態資	山内 博幸, 津田和典, 高田謙吾, 前川昌樹, 田中一之, 宮 浩希, 藤田真由, 高木由希, 山崎 悠
	環境生物学実験B	前期	態資	山内 博幸, 津田和典, 高田謙吾, 前川昌樹, 田中一之, 宮 浩希, 藤田真由, 高木由希, 山崎 悠
	環境設計Ⅰ	前期	建	Jimenez Verdejo Juan Ramon
	環境設計Ⅱ	前期	建	金子 尚志
	環境設備	後期	建	未定*
	環境造形論	後期	建	迫田 正美
	環境地下水学[河川環境学]	前期	態資	小泉 尚嗣
	環境調和化学	後期	材	金岡 鍾昂
	環境統計解析学	前期	態資	藤谷 泰行
	環境動物学	後期	資	轟 佐代子崇, 山崎 一夫崇
	環境毒性学[水域環境生態論]	後期	態	丸尾 雅啓
	環境微生物学[水域環境影響調査指針]	前期	態資	細井 祥子
環境フィールドワークⅠ	前期	環	学部教員	
環境フィールドワークⅡ	前期	環	学部教員	
環境フィールドワークⅢ	過年度集中	環	学部教員	
環境物理学Ⅰ	後期	態政政	小泉 尚嗣	
環境物理学Ⅱ	前期	態	村岡 良和崇	
環境物理学実験(コンピュータ活用を含む)	前期	態資	岩間 憲治, 堂満 華子, 小泉 尚嗣, 三浦 信広崇	
環境変遷学[環境変遷史]	後期	態	堂満 華子	
環境法	前期	態政資	上河原 献二, 小松 直樹崇	
環境マネジメント演習	前期	政	高橋 泰也	
環境リスク解析法[集水域環境影響調査指針]	後期	態	肥田 嘉文	
看護英語	前期	看護	安部 浩敏野 耕次, 馬嶋 文幸川 恵和, 生田 聖里, 奥本 紀子	
看護英語実践	後期集中	看護	牧野 耕次, 中川 美和, 生田 聖里	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
か	看護管理学	前期前半	春	米田 照美, 本田 可奈子	
	看護キャリアデザイン論	前期	春	横井 和実	
	看護教育と実践	前期集中	春	千田 美紀子, 伊丹 君和, 米田 照美, 関 恵子	
	看護研究の基礎	後期集中	春	糸島 陽子, 古橋 ひろみ, 牧野 耕次, 小林 達子, 米田 照美	
	看護トピックス	前期	春	甘佐 京子	
	看護理論(看護学部)	後期	春	米田 照美	
	環誌琵琶湖文化論実習(地域文化)	通年	地	学科教員	
	環誌琵琶湖文化論実習(生活デザイン)	通年	テ	学科教員	
	環誌琵琶湖文化論実習(生活栄養)	通年	栄	学科教員	
	環誌琵琶湖文化論実習(人間関係)	通年	関	学科教員	
	環誌琵琶湖文化論実習(国際)	通年	国	学科教員	
	漢文講読	通年	地	木村 可奈子	
	管理栄養士総合演習	後期	栄	学科教員	
	き	機械工学基礎実験[機械システム工学実験Ⅰ]	前期	機	和泉 遊以, 安田 孝宏, 田中 昂, 出島 一仁
		機械材料学	後期	機	田邊 裕貴
		機械システム工学概論	前期	工	田邊 裕貴, 河崎 浩, 棚川 久人, 森 志強, 安田 孝宏, 梶原 雅
		機械システム工学セミナー	前期	機	安田 孝宏, 大浦 靖典, 山野 光裕
機械システム創造実験[機械システム工学実験Ⅱ]		後期	機	河崎 浩, 山野 光裕, 西岡 靖貴, 橋本 晋慶	
機械製作		後期	機	橋本 晋慶	
機械製作実習		前期	機	橋本 晋慶, 河崎 浩	
機械設計演習Ⅰ		後期	機	南川 久人, 安田 孝宏	
機械設計演習Ⅱ		前期	機	田邊 裕貴, 和泉 遊以	
機械設計演習Ⅲ		後期	機	大浦 靖典, 田中 昂	
機械設計製図		前期	機	山野 光裕	
機械の再発見[機械技術と人間]		後期	全	山根 浩二	
機械要素		前期	機	山野 光裕	
機械四力学演習		前期	機	学科教員	
機械力学Ⅰ		前期	機	呉 志強	
機械力学Ⅱ		後期	機	大浦 靖典	
機器分析Ⅰ		前期	材	徳満 勝久	
機器分析Ⅱ		前期	材	谷本 智史	
技術者倫理		後期	工	酒井 道徳, 藤 勝久, 田邊 裕貴	
技術の歴史～滋賀の“偉人”と“ものづくり”		後期	全	田邊 裕貴	
基層文化論		後期	地	未定*	
基礎栄養学Ⅰ		後期	栄	福渡 努	
基礎栄養学Ⅱ		前期	栄	福渡 努	
基礎栄養学実験		前期集中	栄	福渡 努, 坂山 輝	
基礎演習Ⅰ(国際コミュニケーション)		前期	国	学科教員	
基礎演習Ⅱ(国際コミュニケーション)		後期	国	学科教員	
基礎化学(材料)		前期	材	北村 千寿	
基礎化学(機械)		前期	機	金岡 鐘局	
基礎化学(電子)		前期	電	谷本 智史	
基礎看護学実習Ⅰ		前期実習	看	伊丹 君和, 米田 照美, 関 恵子, 千田 美紀子, 本田 可奈子	
基礎看護学実習Ⅱ		前期実習	看	米田 照美, 伊丹 君和, 関 恵子, 千田 美紀子, 本田 可奈子	
基礎看護技術Ⅰ		前期	看	伊丹 君和, 米田 照美, 関 恵子, 千田 美紀子, 本田 可奈子	
基礎看護技術Ⅱ		後期	看	千田 美紀子, 伊丹 君和, 米田 照美, 関 恵子, 本田 可奈子	
基礎看護技術Ⅲ		前期	看	伊丹 君和, 米田 照美, 関 恵子, 千田 美紀子	
基礎看護技術Ⅳ		前期	看	関 恵子, 伊丹 君和, 米田 照美, 千田 美紀子, 本田 可奈子	
基礎結晶学		前期	材	宮村 弘	
基礎数学Ⅰ		前期	環	山崎 憲治郎, 森	
基礎数学Ⅱ	後期	環	山崎 憲治郎, 森		
基礎設計製図	後期	テ	藤木 謙介, 南 政宏		
基礎電気電子回路	後期	工	岸根 桂路		
基礎電磁気学(材料)	後期	材	作田 龍		

講義科目名	開講期	対象	担当教員
基礎電磁気学(機械)	後期	機	柳澤 淳一
基礎電磁気学(電子)	後期	電	乾 義尚
基礎統計	前期	政	全谷 健
基礎熱力学	後期	材	奥 健夫
基礎服飾デザイン	後期	デ	横田 尚美, 森下 あおい
基礎力学(材料)	前期	材	森 志強
基礎力学(機械システム)	前期	機	安田 孝宏
基礎力学(電子)	前期	電	河崎 澄
キャリア形成への道A[考えるための道具][思索の視点]	前期	全	高松 徹
キャリア形成への道B[キャリアデザイン]	前期	全	高松 徹
キャリア形成への道C[キャリアデザイン特講]	後期	全	瀧口 桂崇
給食衛生管理実習	前期	栄	奥村 万寿美
給食経営管理実習	前期	栄	奥村 万寿美
給食経営管理臨地実習	前期実習	栄	奥村 万寿美
給食経営管理論Ⅰ[給食経営管理論]	後期	栄	奥村 万寿美
給食経営管理論Ⅱ	前期	栄	奥村 万寿美, 田中 浩子, 瀧
教育学概論	前期	関教	杉浦 由香里
教育課程論	後期	関教	木村 裕
教育観察実習	前期実習	関	杉浦 由香里, 原 未来, 木村 裕
教育実習・事前事後指導(中学高校免許・3年次)	後期実習	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教育実習・事前事後指導(養護教諭・3年次)	後期実習	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教育実習・事前事後指導(中学校免許・4年次)	前期実習	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教育実習・事前事後指導(高等学校免許・4年次)	前期実習	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教育実習・事前事後指導(養護教諭・4年次)	過年実習	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教育心理学	前期	関教	黒田 真由美, 栄
教育制度論	後期	関教	杉浦 由香里
教育相談[教育相談・進路指導]	前期集中	教	未定*
教育方法論	前期	関教	木村 裕
教科教育法Ⅰ(英語科教育法Ⅰ)	前期	教	中谷 博英
教科教育法Ⅰ(家庭科教育法Ⅰ)	前期集中	教	大塚 眞理子, 栄
教科教育法Ⅰ(工業科教育法Ⅰ)	前期	教	堀江 健二郎, 栄
教科教育法Ⅰ(公民科教育法Ⅰ)	前期	教	西村 太志, 栄
教科教育法Ⅰ(社会科教育法Ⅰ)	前期集中	教	奥村 好美, 栄
教科教育法Ⅰ(情報科教育法Ⅰ)	前期集中	教	神月 紀輔, 栄
教科教育法Ⅰ(地理科教育法Ⅰ)	前期	教	藤田 ユリ, 栄
教科教育法Ⅰ(理科教育法Ⅰ)	前期集中	教	石川 聡子, 栄
教科教育法Ⅱ(英語科教育法Ⅱ)	後期	教	中谷 博英
教科教育法Ⅱ(家庭科教育法Ⅱ)	後期集中	教	大塚 眞理子, 栄
教科教育法Ⅱ(工業科教育法Ⅱ)	後期	教	堀江 健二郎, 栄
教科教育法Ⅱ(公民科教育法Ⅱ)	後期	教	西村 太志, 栄
教科教育法Ⅱ(社会科教育法Ⅱ)	前期	教	福井 雅英, 栄
教科教育法Ⅱ(情報科教育法Ⅱ)	後期集中	教	神月 紀輔, 栄
教科教育法Ⅱ(地理科教育法Ⅱ)	後期集中	教	上田 孝俊, 栄
教科教育法Ⅱ(理科教育法Ⅱ)	前期集中	教	宮下 ゆたか, 栄
教科教育法Ⅲ(英語科教育法Ⅲ)	後期	教	中谷 博英
教科教育法Ⅲ(家庭科教育法Ⅲ)	前期集中	教	大塚 眞理子, 栄
教科教育法Ⅲ(社会科教育法Ⅲ)	前期集中	教	福井 雅英, 栄
教科教育法Ⅲ(理科教育法Ⅲ)	前期集中	教	石川 聡子, 栄
教科教育法Ⅳ(英語科教育法Ⅳ)	前期	教	中谷 博英
教科教育法Ⅳ(家庭科教育法Ⅳ)	後期集中	教	大塚 眞理子, 栄
教科教育法Ⅳ(社会科教育法Ⅳ)	後期	教	奥村 信夫, 栄
教科教育法Ⅳ(理科教育法Ⅳ)	後期集中	教	宮下 ゆたか, 栄
教職実践演習(中学校)	後期集中	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教職実践演習(高等学校)	後期集中	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来
教職実践演習(養護教諭)	後期集中	教	胡田 裕教, 木村 裕, 杉浦 由香里, 原 未来

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
き	教職実践演習(栄養教諭)	後期前中	教	未定* 胡田 裕教, 山川 佐代子, 平木 敦子	
	教職論	前期	教	胡田 裕教	
	魚類学[魚類生理学]	後期	畜	杉浦 省三	
	近世近江論	前期	地	東 泰代	
	金属加工学	前期	機	橋本 宣慶	
	金属材料	前期	材	Balachandran Jayadevan	
	近代デザイン史	前期	デ	佐々木 一幸	
く	空間デザイン論	後期	デ	佐々木 一幸	
	暮らしの中の材料①[材料史]	前期	全	Balachandran Jayadevan, 北村 千寿	
	暮らしの中の材料②[材料史]	前期	全	Balachandran Jayadevan, 北村 千寿	
	クリティカルケア実践演習	前期	看	荒川 千登世, 生田 実里	
け	景観計画	後期	政建普	村上 修一	
	経済学[現代経済論]	後期	全	鈴木 康夫	
	経済学Ⅰ	後期	政資	林 幸司	
	経済学Ⅱ(国際経済を含む)	前期	政資国	村上 一真	
	芸術学	後期	地	亀井 若菜	
	形成論演習	過年	園	木村 祐, 杉浦 由香里, 原 未来	
	計測工学	前期	機	田中 昂	
	研究演習Ⅰ(国際コミュニケーション)	前期	国	学科教員	
	研究演習Ⅱ(国際コミュニケーション)	後期	国	学科教員	
	健康・体力科学Ⅰ[フィットネスプログラム]	後期	全	中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(サッカー)	後期	全	中尾 泰史, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(卓球)	後期	全	芳田 哲也, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(テニス)	後期	全	多胡 剛介, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(ヘルスサイエンス)	後期	全	東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(バスケット)	後期	全	岩瀬 雅紀, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(バドミントン)	後期	全	岩瀬 雅紀, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅰ(ボディコンディショニング)	後期	全	原田 圭子, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(ニュースポーツ)	前期	全	東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(ソフトボール)	前期	全	岩瀬 雅紀, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(バドミントン)	前期	全	多胡 剛介, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(バレーボール)	前期	全	多胡 剛介, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(フィットネスプログラム)	前期	全	中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(卓球)	前期	全	中尾 泰史, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(テニス)	前期	全	芳田 哲也, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康・体力科学Ⅱ(ボディコンディショニング)	前期	全	原田 圭子, 中井 直也, 東田 一彦	
	健康教育方法演習	前期	保	川口 恭子, 小林 孝子	
	健康教育論	前期	看	馬場 文	
	健康情報管理実習	前期実習	栄	亀田 彰喜	
	言語接触論	前期	国	呉 凌非	
	現代英文法	前期	国	小柳 猛	
	現代社会福祉論	後期	園	中村 好孝	
	現代ジャーナリズム論	後期	地関	関根 英壽	
	現代中国論	前期	地	橋田 祥子	
	建築一般構造	前期	建	黒川 直樹	
	建築環境工学	後期	建	未定*	
	建築環境工学演習	前期	建	未定*	
	建築計画論	後期	デ	藤本 康介	
	建築数学・物理	後期	建	高田 豊文	
	建築生体施工	前期	建	中西 茂行	
	建築デジタルデザイン基礎	後期	建	永井 拓生	
	建築法規	後期集中	建デ	戸川 勝紀	
	現場心理学	前期	関	松嶋 秀明	
	憲法	後期	全	橋本 憲志	
	こ	合意形成支援技法・演習	後期	政	金谷 健

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
こ	工業数学(材料・機械)	後期	材機	門脇 光輝,杉山 裕介
	工業数学(電子)	後期	電	酒井 道,杉山 裕介
	工業力学	後期	機	大浦 精典
	考現学概論	前期	テ	印南 比呂志,森 慧
	考古学	前期	地	未定*
	考古学実習Ⅰ	前期	地	未定*,金 宇大
	考古学実習Ⅱ	後期	地	未定*,金 宇大
	考古学特論B	後期	地	金 宇大
	公衆衛生学	後期	栄	大江 武崙
	公衆衛生学(看護)	前期	看	草野 文嗣,小林 孝子
	公衆衛生看護学Ⅰ	前期中半	看	馬場 文
	公衆衛生看護学Ⅱ	前期末半	看	馬場 文,西内 恭子,※
	公衆衛生看護学Ⅲ	前期	保	馬場 文,川口 恭子
	公衆衛生看護学演習	前期末半	保	川口 恭子,馬場 文
	公衆衛生看護学概論	前期	看	小林 孝子
	公衆衛生看護学実習	通年実習	保	小林 孝子,馬場 文,川口 恭子
	公衆衛生看護管理論	前期	保	小林 孝子
	公衆栄養学	前期	栄	今井 絵理
	公衆栄養学実習	後期実習	栄	今井 絵理
	構造計画(建築デザイン)	後期	建	陶器 浩一,松村 和夫,※
	構造計画(生活デザイン)	後期	テ	森 隆寿,※
	構造材料実験	後期	建	陶器 浩一,高田 豊文,永井 拓生,下平 祐司,※
	構造力学Ⅰ(建築デザイン)	前期	建資	陶器 浩一,永井 拓生
	構造力学Ⅰ(生活デザイン)	後期	テ	森 隆寿,※
	構造力学Ⅱ	前期	建	高田 豊文
	行動デザイン論[消費者行動論]	前期	テ	山田 步
	行動論演習	通年	関	松嶋 秀明,上野 有理,後藤 崇志,未定*
	高分子合成	前期	材	伊田 翔平
	高分子物性	後期	材	徳満 勝久
	国際環境教育論	後期	政責	高橋 卓也,林 幸司
	国際看護学	前期中半	看	近藤 麻理,森 惠,※
	国際社会学	前期	地関国	大野 光明
	国際文化学概論[比較宗教論]	後期	全	間 永次郎
	国際文化論	前期	国	間 永次郎
	湖沼環境学	後期	懸資	後藤 直成
	固体物性基礎	後期	材	奥 健夫
古文書演習Ⅰ	前期	地	高木 義一	
古文書演習Ⅱ	後期	地	東 季代	
コンピュータアーキテクチャ	前期	電	酒井 道	
コンピュータソフトウェア	前期	電	畑中 裕司,※	
コンピュータとインターネット	後期	全	奥村 進	
コンピュータハードウェア	後期	電	砂山 渡	
き	災害看護学	前期中半	看	未定*,岩永 尊,※
	在宅看護学	後期	看	未定*
	在宅看護学演習	前期	看	森本 安紀,國丸 周平
	在宅看護学概論	前期中半	看	未定*
	在宅看護学実習	通年実習	看	森本 安紀,馬場 文,川口 恭子,國丸 周平
	栽培植物各論A	後期	資	上町 達也
	栽培植物各論B	後期	資	泉 泰弘
	材料開発工学	前期	材	北村 千寿,Elaiachontri Kiyachivan,高橋 謙,下田 幸治,森 三智, 徳田,※
	材料科学概論	前期	工	奥 健夫,金岡 輝,※
	材料科学実験Ⅰ	前期	材	秋山 毅 他
	材料科学実験Ⅱ	後期	材	秋山 毅 他
	材料強度物性	後期	材	山田 明寛,宮村 弘
	材料計算化学および同演習	前期	材	加藤 真一郎,鈴木 厚志,山田 明寛
	材料組織学	後期	材	宮村 弘

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
さ	材料力学Ⅰ[材料力学Ⅰ(材料)]	前期	材	和泉 遊以	
	材料力学Ⅰ(機械)	前期	機	田邊 裕真	
	材料力学Ⅱ	後期	機	和泉 遊以	
	材料量子論	後期	材	宮村 弘	
	作物保護学	後期	資	泉津 弘佑	
	サステナブルデザイン論[コミュニティ計画論]	前期	政建	荻澤 進一	
	サステナブルデザイン論	前期	テ	南 政宏	
	サブカルチャー交流論	後期	国	全 悠進※	
	差別と人権(問和問題)	前期	全	本田 可奈子,山田 稔※,山本 興正※	
	産業心理学	後期	関	未定*	
	し	視覚伝達デザイン	後期	テ	徐 慧
		色彩学	前期	テ	宮本 雅子
		色彩学演習	後期	テ	宮本 雅子
産経経済学		前期	政資	高橋 卓也	
嗜好と調理実習Ⅰ		後期	栄	谷口 美津子※,未定*	
嗜好と調理実習Ⅱ		前期	栄	奥村 万寿美,未定*	
システム工学		前期	機	西岡 靖貴	
システム思考法		前期	副	田口 真太郎※,鶴岡 修	
自然科学入門[自然科学の視点]		前期	全	松岡 純	
自然地理学		前期集中	地	青木 哲哉※	
自然のしくみA[自然保護論]		後期	全	西田 隆義	
自然のしくみB[自然現象のしくみ]		後期	全	倉茂 好匡	
質的データ解析論		後期	地関	櫻井 悟史	
疾病の成り立ちⅠ[疾病の成り立ち]		前期	栄	矢野 仁康	
疾病の成り立ちⅡ[病態評価と治療]		後期	栄	矢野 仁康	
疾病の成り立ちⅢ[疾病と栄養]		前期	栄	矢野 仁康	
疾病論Ⅰ		前期	看	横村 和典,三川 斗聖,石永 陽子,金子 隆徳,佐藤 浩幸,下川 浩幸	
疾病論Ⅱ		後期	看	小林 ひとみ,三川 斗聖,佐藤 浩幸,佐藤 大司, 志千代,下川 浩幸,中野 博幸	
疾病論Ⅲ		後期前半	看	越山 雅文,甘佐 京子,牧野 耕次	
実用英語演習ⅠA①(火1限)		前期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠA②(火1限)		前期	全	Jean-Baptiste Sanfo	
実用英語演習ⅠA③(火2限)		前期	全	坂本 輝世	
実用英語演習ⅠA④(火2限)		前期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠA⑤(火2限)		前期	全	Jean-Baptiste Sanfo	
実用英語演習ⅠA⑥(火2限)		前期	全	未定*	
実用英語演習ⅠA⑦(火3限)		前期	全	坂本 輝世	
実用英語演習ⅠA⑧(火3限)		前期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠA⑨(火3限)		前期	全	近藤 佑樹	
実用英語演習ⅠA⑩(火3限)		前期	全	Alexandra Burke※	
実用英語演習ⅠB①(火1限)		後期	全	Jean-Baptiste Sanfo	
実用英語演習ⅠB②(火1限)		後期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠB③(火2限)		後期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠB④(火2限)		後期	全	Jean-Baptiste Sanfo	
実用英語演習ⅠB⑤(火2限)		後期	全	坂本 輝世	
実用英語演習ⅠB⑥(火2限)		後期	全	未定*	
実用英語演習ⅠB⑦(火3限)		後期	全	近藤 佑樹	
実用英語演習ⅠB⑧(火3限)		後期	全	Alexandra Burke※	
実用英語演習ⅠB⑨(火3限)		後期	全	真島 アマンダ	
実用英語演習ⅠB⑩(火3限)		後期	全	坂本 輝世	
市民参加論		後期	政	平岡 俊一	
社会運動論	前期	関	大野 光明		
社会学	前期	政資	平岡 俊一		
社会学演習	通年	関	中村 好孝,大野 光明		
社会学概論	前期	地関	大野 光明,高梨 克也,櫻井 悟史		
社会システム分析設計・演習	後期	政	和田 有朗		

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
L	社会精神医学	前期集中	関	久保田 奏孝※
	社会調査実習(政策)	通年	政	平岡 俊一,林 幸司,村土 一真,白木 裕斗
	社会調査方法論	後期	地予関	大野 光明
	社会調査論	前期	地予関	中井 治郎※
	社会福祉概論	後期	栄	頼尊 恒信※
	社会変動論	後期	地関	九山 真央
	社会問題の社会学	前期	関	中村 好孝
	住環境設計演習Ⅰ	前期	テ	佐々木 一泰,藤木 庸介
	住環境設計演習Ⅱ	後期	テ	藤木 庸介,宮本 進子
	住環境設計演習Ⅲ	前期	テ	佐々木 一泰,藤木 庸介,木村 博昭※
	住環境論	後期	テ	宮本 雅子
	住居学(製図を含む)	後期集中	教	宮本 雅子
	集水域環境学	後期	歴	尾坂 兼一
	集水域環境学+実験	後期	歴	浦部 美佐子,肥田 嘉文,尾坂 兼一,吉山 浩平
	集水域生態系保全修復論	後期	獣資	浦部 美佐子
	集積回路設計基礎	後期	電	岸根 桂路
	生涯学習論	前期	関	椎名 健人※
	小児看護学	後期	看	古株 ひろみ,川端 智子,玉川 あゆみ
	小児看護学実習	前期	看	玉川 あゆみ,古株 ひろみ,川端 智子
	小児看護学概論	前期前半	看	古株 ひろみ
	小児看護学実習	通年実習	看	川端 智子,古株 ひろみ,玉川 あゆみ
	消費科学Ⅰ	後期	テ	松永 神洋※,上田 良行※,赤野 隆幸※,藤本 高則※,坂道 正敏※
	消費科学Ⅱ	前期前半	テ	松永 神洋※,藤本 昌則※,金田 哲郎※,上田 良行※
	消費生活論	後期	予栄関	小牧 美江※
	情報科学概論(環境a)	後期	環	森 将豪※
	情報科学概論(環境b)	後期	環	亀田 彰憲※
	情報科学概論(環境c)	後期	環	森 将豪※
	情報科学概論(環境d)	後期	環	亀田 彰憲※
	情報科学概論(材料)	後期	材	葛城 大介※
	情報科学概論(機械)	後期	機	西門 秀人※
	情報科学概論(電子)	後期	電	宮城 茂幸
	情報科学概論(人文a)	後期	人	山本 洋紀※
	情報科学概論(人文b)	後期	人	亀田 彰憲※
	情報科学概論(人文c)	後期	人	山本 洋紀※
	情報科学概論(人文d)	後期	人	亀田 彰憲※
	情報科学概論(看護a)	後期	看	森 将豪※
	情報科学概論(看護b)	後期	看	森 将豪※
	情報処理基礎	前期	機電	奥村 進
	情報通信工学	前期	電	岸根 桂路
	情報と職業	前期集中	教	亀田 彰憲※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境a)	前期	環	森 将豪※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境b)	前期	環	亀田 彰憲※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境c)	前期	環	森 将豪※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(環境d)	前期	環	亀田 彰憲※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(材料)	前期	材	山本 洋紀※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(機械)	前期	機	西門 秀人※
	情報リテラシー(情報倫理を含む)(電子)	前期	電	宮城 茂幸
情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文a)	前期	人	山本 洋紀※	
情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文b)	前期	人	亀田 彰憲※	
情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文c)	前期	人	山本 洋紀※	
情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文d)	前期	人	山本 洋紀※	
情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護a)	前期	看	森 将豪※	
情報リテラシー(情報倫理を含む)(看護b)	前期	看	森 将豪※	
食生活教育論	前期集中	教	平木 敦子※	
食と健康	前期	前	佐野 光枝 他	
食品衛生学	前期	栄	遠藤 弘史	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
し	食品衛生学実験	後期集中	栄	通磨 弘史
	食品学総論	前期	栄	佐野 光枝
	食品加工実習	後期実習	栄	佐野 光枝
	食品基礎実験	後期	栄	中井 直也, 東田 一彦
	食品機能科学	後期	栄	佐野 光枝
	食品機能科学実験	後期集中	栄	佐野 光枝
	食品の調理と加工	前期	栄	小川 正栄
	食品微生物学	後期	栄	畑山 翔, 遠藤 弘史
	植物遺伝資源学	後期	資	清水 顕史
	植物栄養学	後期	資	畑 直樹
	植物資源開発学	後期	資	原田 英美子
	植物資源管理学	前期	資	泉 泰弘
	植物生産学	後期	資	上町 達也
	植物病害防除論	前期	資	住田 卓也
	食物学（調理実習を含む）	前期集中	予教	福渡 葵 他
	初習英語ⅠA	前期	留	全学共通教育推進機構教員
	初習英語ⅠB	後期	留	全学共通教育推進機構教員
	初習英語ⅡA	前期	留	全学共通教育推進機構教員
	初習英語ⅡB	後期	留	全学共通教育推進機構教員
	人文地理学A	後期	地	塚本 礼仁
	人文地理学B	後期	地	塚本 礼仁
	心理・発達・行動学実験演習	通年	関	松浦 秀明, 上野 有理, 後藤 徹志, 未定*
	心理学基礎	前期	予栄関	後藤 崇志
森林環境学	前期	恵政育	野間 直彦	
進路指導	前期集中	数	未定*	
す	水域環境学・同実験	前期	恵	浦部 美佐子, 伴 修平, 後藤 直成, 細井 祥子
	水域生態系保全修復論	後期	恵	後藤 直成
	水産資源学	前期	資	杉浦 省三
	水質管理学	前期	資	須戸 幹
	水理学	後期	資	大久保 卓也
	数値解析	前期	機	安田 孝宏
	水環境施設学	前期集中	資	田中 勉※
	スポーツ栄養学	後期	栄	中井 直也
	生化学	前期前半	看	若林 保良※
	生化学Ⅰ	後期	材	竹原 宗範
せ	生化学Ⅱ	前期	材	竹原 宗範
	生活栄養論演習Ⅰ	後期	栄	学科教員
	生活栄養論演習Ⅱa〔生活栄養論演習Ⅱ〕	前期	栄	学科教員
	生活栄養論演習Ⅱb〔生活栄養論演習Ⅱ〕	後期	栄	学科教員
	生活経営論	後期	予栄関	山田 歩
	生活工学	前期	予教	越江 健二郎※
	生活造形基礎演習	前期	予	南 政宏, 高橋 仁美※
	生活素材論	前期	予	三宅 崇※
	生活デザイン学外演習	通年集中	予	学科教員
	生活デザイン論	後期	予	学科教員
	生活デザイン論演習Ⅰ	前期	予	学科教員
	生活デザイン論演習Ⅱ	後期	予	学科教員
	生活と教育〔生活哲学論〕	前期	関	原 未栄
	生活と健康	前期	全	学科教員
	生活の中にもみる力学	後期	全	呉 志強
	制御工学	前期	電	土谷 亮
	制御工学Ⅰ	前期	機	安田 寿彦
	制御工学Ⅱ	後期	機	安田 寿彦
	政策計画演習Ⅰ	前期	政	学科教員
政策計画演習Ⅱ	後期	政	学科教員	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
世	政策計画演習Ⅲ	前期	政	学科教員
	政策計画演習Ⅳ	後期	政	学科教員
	政策計画基礎演習Ⅰ	前期	政	学科教員
	政策計画基礎演習Ⅱ	後期	政	学科教員
	政策形成・施設演習	後期	政	学科教員
	生産工学	前期	機	奥村 進
	政治学Ⅰ	前期	政関	未定*
	政治学Ⅱ(国際政治を含む)	後期	政関	未定*
	政治経済学	後期	関国	梅澤 直樹※
	精神看護学	後期	看	牧野 精次,甘佐 京子
	成人看護学	前期	看	横井 和美,荒川 千登世,糸島 陽子
	精神看護学演習	前期	看	甘佐 京子,牧野 精次
	精神看護学概論	前期後半	看	甘佐 京子
	成人看護学概論	速期前半	看	糸島 陽子
	精神看護学実習[精神臨床看護学実習]	通年実習	看	牧野 精次,甘佐 京子
	成人クリティカルケア演習	前期	看	荒川 千登世,中川 美和,小野 あゆみ,生田 眞穂,高木下 麗愛
	成人クリティカルケア実習	通年実習	看	荒川 千登世,中川 美和,小野 あゆみ,高木下 麗愛,生田 眞穂
	成人クロニックケア演習	後期	看	中川 美和,横井 和美,小野 あゆみ,生田 眞穂,高木下 麗愛,生田 眞穂
	成人クロニックケア実習	通年実習	看	生田 眞穂,中川 美和,横井 和美,小野 あゆみ,荒川 千登世,高木下 麗愛
	精神保健論	後期	看	甘佐 京子,牧野 精次
	生体の構造と機能	後期	欠	矢野 仁康
	生体指導論	後期	教	胡田 裕教
	生物資源管理学演習Ⅰ	前期	資	学科教員
	生物資源管理学演習Ⅱ	後期	資	学科教員
	生物資源管理学概論	前期	資	学科教員
	生物資源管理学実験・実習Ⅰ	前期	資	泉 泰弘,上町 達也,原田 英美子,畑 直樹
	生物資源管理学実験・実習Ⅱ	後期	資	大久保 卓也,岩間 憲治,香川 明子
	生物資源管理学実験・実習Ⅲ	後期	資	増田 清敬,加藤 恵里
	生物資源管理学実験・実習Ⅳ	後期	資	上町 達也,清水 顕史,原田 英美子
	生物資源管理学実験・実習Ⅴ	前期	資	杉浦 春三,中川 敏夫
	生物資源管理学実験・実習Ⅵ	後期	資	泉津 弘佑,入江 俊一
	生物資源管理学実験・実習Ⅶ	後期	資	杉浦 春三,入江 俊一,清水 顕史
	生物資源管理学実験・実習Ⅷ	前期	資	高倉 精一,住田 卓也
	生物資源管理学実験・実習Ⅷ	前期	資	須戸 幹,飯村 謙夫
	生物資源管理学実験・実習Ⅸ	前期	資	大久保 卓也,岩間 憲治,香川 明子
	生物資源統計学Ⅰ[生物統計学]	後期	数資	泉津 弘佑
	生物資源統計学Ⅱ[農業統計利用論]	後期	資	増田 清敬
	生命・人間・倫理	後期	全	糸島 陽子,本田 可奈子
	生命科学と人間	後期	栄	福渡 努
	西洋建築・思潮史	前期	建	迫田 正美
	西洋史	後期	国	村上 司樹※
	西洋史概説	前期集中	地	北村 知之※
世界遺産学概論[東アジア考古学概論]	前期	地	金 宇大	
世界遺産学特論[比較文明論]	後期	地	金 宇大	
産学官工会議所寄附講義「世界遺産のまちづくり・人づくり」	後期	全	上田 洋平	
設計演習Ⅰ	前期	建	学科教員	
設計演習Ⅱ	後期	建	学科教員	
設計演習Ⅲ	前期	建	学科教員	
設計演習Ⅳ	後期集中	建	東福 大輔※,白井 宏昌,山崎 泰寛,森田 一弥※	
設計基礎演習	後期	建	学科教員	
セラミックス材料	前期	材	山田 明寛	
線形代数Ⅰ(材料)	前期	材	杉山 裕介	
線形代数Ⅰ(機械)	前期	機	杉山 裕介	
線形代数Ⅰ(電子)	前期	電	門盛 光輝	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
せ	線形代数Ⅱ(機械)	後期	機	小栗穂 修 峯 門脇 光輝	
	線形代数Ⅱ(材料)	後期	材	小栗穂 修 峯 門脇 光輝	
	線形代数Ⅱ(電子)	後期	電	杉山 裕介	
	先端材料科学	後期	材	学科教員	
	専門外書講義	後期	資	森原 頌治, 畑山 翔, 田中 大也	
	専門外書講読Ⅰ	前期	資	学科教員	
	専門外書講読Ⅱ	後期	資	学科教員	
	総合的な学習の時間の指導法	前期集中	教	胡田 裕教	
そ	測量学	後期	懸置	工藤 庸介 峯	
	ソーシヤル・ビジネス概論[コミュニケーションデザイン]	後期	全副	橋岡 修, 西岡 孝幸	
	卒業研究・制作/論文Ⅰ[生活デザイン][卒業研究・制作/論文]	前期研究	テ	学科教員	
	卒業研究・制作/論文Ⅱ[生活デザイン][卒業研究・制作/論文]	後期研究	テ	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅰ(地域文化)[卒業研究・論文]	前期研究	地	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅰ(生活栄養)[卒業研究・論文]	前期研究	栄	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅰ(人間関係)[卒業研究・論文]	前期研究	関	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅰ(国際コミュニケーション)	前期研究	国	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅱ(地域文化)[卒業研究・論文]	後期研究	地	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅱ(生活栄養)[卒業研究・論文]	後期研究	栄	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅱ(人間関係)[卒業研究・論文]	後期研究	関	学科教員	
	卒業研究・論文Ⅱ(国際コミュニケーション)	後期研究	国	学科教員	
	卒業研究Ⅰ(環境生態)	前期研究	態	学科教員	
	卒業研究Ⅱ(環境生態)	後期研究	態	学科教員	
	卒業研究Ⅰ(環境政策・計画)	前期研究	政	学科教員	
	卒業研究Ⅱ(環境政策・計画)	後期研究	政	学科教員	
	卒業研究・卒業制作Ⅰ(環境建築デザイン)	前期研究	建	学科教員	
	卒業研究・卒業制作Ⅱ(環境建築デザイン)	後期研究	建	学科教員	
	卒業研究Ⅰ(生物資源)	前期研究	資	学科教員	
	卒業研究Ⅱ(生物資源)	後期研究	資	学科教員	
	卒業研究Ⅰ(材料科学)[卒業研究(材料科学)]	前期研究	材	学科教員	
	卒業研究Ⅱ(材料科学)[卒業研究(材料科学)]	後期研究	材	学科教員	
	卒業研究(機械システム)	通年研究	機	学科教員	
	卒業研究(電子システム)	通年研究	電	学科教員	
	卒業研究(人間看護)	通年研究	看	学科教員	
	た	対外文化交流論A	前期	地	木下 博成 峯
		大気環境学	後期	態	工藤 慎治
		多文化共生論	前期	全	河 かのる
		多文化社会論A	前期	国	河 かのる
		多文化社会論B	後期	国	Borjigin Burensain
		ち	地域開発論	前期	政寛
	地域環境計画		後期	建	轟 慎一
地域環境政策論	前期		態政	香川 雄一, 藤 健太郎	
地域共生論[環境マネジメント総論]	前期		全	橋岡 修, 他学科教員	
地域計画概論	前期		地	萩原 和	
地域計画実習	後期後半		地	萩原 和	
地域経済史論	後期		地	伊藤 啓介 峯	
地域研究論	前期		地	萩原 和	
地域考古学C	前期集中		地	森島 康建 峯	
地域考古学D	後期集中		地	鈴木 良章 峯	
地域コミュニケーション論[地域探求学]	後期集中		全	上田 洋平, 橋岡 修	
地域産学連携実習Ⅰ[地域産学連携実習]	前期実習		建	学科教員	
地域産学連携実習Ⅱ	後期実習		建	学科教員	
地域産業・企業から学ぶ社長講義	後期		全	高松 徹, 倉茂 好匡	
地域資源管理学	後期		資	増田 清敬	
地域システム論	前期		政	和田 有朗	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
ち	地域社会調査実習[社会調査実習]	通年	地開	塚本 礼仁,櫻井 悟史
	地域社会福祉論[社会福祉論]	後期	全	富永 豊崇
	地域情報処理学	後期	全	若間 憲治
	地域診断法	後期	副	橋岡 修
	地域生活実習	前期実習	看	岡本 紀子,学科教員
	地域調査法	前期	政資	香川 雄一
	地域調査法演習	後期	政	香川 雄一
	地域づくり人材論	後期	全	上田 洋平
	地域デザインA[地域再生システム論]	前期集中	副	橋岡 修,上田 洋平
	地域デザインB	前期集中	副	橋岡 修
	地域デザインC	後期集中	副	橋岡 修
	地域デザインD	後期集中	副	西岡 孝幸
	地域と行政	後期	地	萩原 和
	地域と空間	後期	地	市川 秀之
	地域と経済	前期	地	秋山 通雄※
	地域と文化	前期	全	石川 慎治
	地域文化演習Ⅰ	通年	地	学科教員
	地域文化演習Ⅱ	通年	地	学科教員
	地域文化演習Ⅲ[地域文化演習Ⅲ]	前期	地	学科教員
	地域文化演習Ⅳ[地域文化演習Ⅲ]	後期	地	学科教員
	地域文化基礎演習	後期	地	学科教員
	地域文化財論A	前期	地	伊藤 裕久※
	地域文化財論B	後期	地	石川 慎治
	地域保健福祉地実習	前期実習	栄	今井 裕理
	地球科学Ⅰ[環境地球科学Ⅰ]	前期	態政資	堂満 華子
	地球科学Ⅱ[環境地球科学Ⅱ]	前期集中	態	重口 保文※
	地球科学実験(コンピュータ活用含む)[環境地球科学実験]	前期	態資	大久保 幸也,後藤 直紀,堂満 華子,藤井 将示,小泉 尚輔
	地球環境システム論	後期	態政資	上河原 献二
	地球学	前期	地	塚本 礼仁
	チベット語基礎Ⅰ	前期	国	棚瀬 慧郎
	チベット語基礎Ⅱ	後期	国	棚瀬 慧郎
	チャイルドライフケア論	前期	看	古株 ひろみ,川端 智子,玉川 あゆみ
	中国語ⅡB(国際)	後期	国	呉 凌非
	中国語ⅠA(国際)	前期	国	Borjigin Burensain
	中国語ⅠB(国際)	前期	国	呉 凌非
	中国語ⅠA(初級コース)(水4限)	前期	全	桜木 陽子※
	中国語ⅠA(初級コース)(水1限)	前期	全	林 虹※
	中国語ⅠA(初級コース)(水2限)	前期	全	唐 柔寧※
	中国語ⅠA(初級コース)(水3限)	前期	全	桜木 陽子※
	中国語ⅠB(初級コース)(水4限)	後期	全	桜木 陽子※
	中国語ⅠB(初級コース)(水1限)	後期	全	林 虹※
	中国語ⅠB(初級コース)(水2限)	後期	全	唐 柔寧※
	中国語ⅠB(初級コース)(水3限)	後期	全	桜木 陽子※
	中国語ⅡA(国際)	後期	国	Borjigin Burensain
	中国語ⅡA(中級コース)(火1限)	前期	全	林 虹※
	中国語ⅡA(中級コース)(火2限)	前期	全	林 虹※
	中国語ⅡA(中級コース)(火3限)	前期	全	林 虹※
中国語ⅡB(中級コース)(火1限)	後期	全	林 虹※	
中国語ⅡB(中級コース)(火2限)	後期	全	林 虹※	
中国語ⅡB(中級コース)(火3限)	後期	全	林 虹※	
中国語コミュニケーションⅠA	後期	国	Borjigin Burensain	
中国語コミュニケーションⅠB	後期	国	呉 凌非	
中国語コミュニケーションⅡA	前期	国	Borjigin Burensain	
中国語コミュニケーションⅡB	前期	国	呉 凌非	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
ち	中国語留学対策	前期	国	呉 凌非
	中国地域文化論	後期	地	権田 祥子
	中世近江論	後期	地	高木 純一
	朝鮮語ⅠA(国際)	前期	国	河 かおる
	朝鮮語ⅠB(国際)	前期	国	松井 聖一郎※
	朝鮮語ⅠA(初級コース)(水2限)	前期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅠA(初級コース)(水4限)	前期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅠB(初級コース)(水2限)	後期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅠB(初級コース)(水4限)	後期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅡA(国際)	後期	国	河 かおる
	朝鮮語ⅡB(国際)	後期	国	松井 聖一郎※
	朝鮮語ⅡA(中級コース)(火2限)	前期	全	崔 眞善※
	朝鮮語ⅠA(初級コース)(水3限)	前期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅡA(中級コース)(火3限)	前期	全	崔 眞善※
	朝鮮語ⅡB(中級コース)(火2限)	後期	全	崔 眞善※
	朝鮮語ⅠB(初級コース)(水3限)	後期	全	呉 賢欄※
	朝鮮語ⅡB(中級コース)(火3限)	後期	全	崔 眞善※
	朝鮮語コミュニケーションⅠA	後期	国	崔 眞善※
	朝鮮語コミュニケーションⅠB	後期	国	松井 聖一郎※
	朝鮮語コミュニケーションⅡA	前期	国	河 かおる
	朝鮮語コミュニケーションⅡB	前期	国	松井 聖一郎※
	朝鮮語留学対策	前期	国	崔 眞善※
	朝鮮地域文化特論	後期	地	安田 純也※
	地理学実習Ⅰ	前期	地	榎本 礼仁
	地理学実習Ⅱ	後期	地	榎本 礼仁
	つ	通信システム工学[マルチメディア]	後期	電
通信情報理論		前期	電	酒井 遼
通信ネットワーク工学		前期	電	酒井 遼、宮城 茂幸
て	通訳ガイド講座	前期後半	国	石井 隆之幸
	デジタル信号処理	後期	電	宮城 茂幸
	定量・機器分析および同実験	前期	材	山田 明憲、加藤 真一郎、宮村 弘、松岡 剛、竹下 聡樹
	テキストデザイン[テキストデザイン論]	後期	テ	内丸 もと子※
	デジタルデザイン演習A[デジタルデザイン演習]	前期	テ	徐 慧森、下 あおい、小杉 愛穂子※
	デジタルデザイン演習B[デジタルデザイン演習]	後期	テ	佐々木 一季、高杉 昭吾※
	哲学概論B	前期集中	地関	鈴木 真※
	デッサン法	前期	テ	富原 仁美※
	電気エネルギーシステム工学	前期	電	乾 義尚
	電気回路Ⅰ	前期	電	坂本 眞一
	電気回路Ⅱ	後期	電	乾 義尚、平山 智士
	電気化学	前期	材	秋山 毅
	電気関係法規・施設管理	後期	電	多山 洋文※、岩崎 慎也※
	電気機器	後期	電	乾 義尚
	電気電子計測Ⅰ	前期	電	作田 健
	電気電子計測Ⅱ	後期	電	作田 健
	電気電子設計製図	前期	電	坂本 眞一、土谷 亮
	電子回路Ⅰ	後期	電	土谷 亮
	電子回路Ⅱ	前期	電	岸樹 桂路
	電磁気学Ⅰ	前期	電	作田 健
	電磁気学Ⅱ	後期	電	未定*
	電子システム工学概論	前期	工	酒井 遼
	電子システム工学実験Ⅰ	前期	電	学科教員
	電子システム工学実験Ⅱ	後期	電	学科教員
	電子システム工学実験Ⅲ	前期	電	学科教員
	電子システム工学実験Ⅳ	後期	電	学科教員

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
て	電子システム工学セミナー	前期	電	学科教員	
	電子社会と人間	後期	全	柳澤 淳一	
	電子デバイス	後期	電	柳澤 淳一	
	電子と化学結合	後期	工	松岡 純	
	電磁波工学	後期	電	土谷 亮	
	伝熱学	後期	機	出島 一仁	
	天然物化学基礎	前期	榮	逸藤 弘史	
	電力工学 I	前期	電	坂本 眞一	
	電力工学 II	後期	電	坂本 眞一	
	と	ドイツ語 I A (国際)	前期	国	吉村 淳一
ドイツ語 I B (国際)		前期	国	Anja Sliwa※	
ドイツ語 I A (初級コース) (水2限)		前期	全	竹内 一高※	
ドイツ語 I A (初級コース) (水3限)		前期	全	和田 眞康※	
ドイツ語 I A (初級コース) (水4限)		前期	全	和田 眞康※	
ドイツ語 I B (初級コース) (水2限)		後期	全	竹内 一高※	
ドイツ語 I B (初級コース) (水3限)		後期	全	和田 眞康※	
ドイツ語 I B (初級コース) (水4限)		後期	全	和田 眞康※	
ドイツ語 II A (国際)		後期	国	吉村 淳一	
ドイツ語 II B (国際)		後期	国	Anja Sliwa※	
ドイツ語 II A (中級コース) (火2限)		前期	全	吉村 淳一	
ドイツ語 II A (中級コース) (火3限)		前期	全	大森 智子※	
ドイツ語 II B (中級コース) (火2限)		後期	全	吉村 淳一	
ドイツ語 II B (中級コース) (火3限)		後期	全	大森 智子※	
ドイツ語コミュニケーション I A		後期	国	吉村 淳一	
ドイツ語コミュニケーション I B		後期	国	Anja Sliwa※	
ドイツ語コミュニケーション II A		前期	国	吉村 淳一	
ドイツ語コミュニケーション II B		前期	国	Anja Sliwa※	
ドイツ語留学対策		前期	国	Anja Sliwa※	
道具計画論		前期	デ	印南 比呂志	
道具デザイン演習 I		前期	テ	南 政宏 佐藤 延弘※	
道具デザイン演習 II		後期	テ	南 政宏 佐々木 一泰	
道具デザイン演習 III		前期	デ	印南 比呂志 徐 慧	
統計学基礎		後期	地デ栄関	未定*	
道徳教育論		前期	開教	須永 哲思庵	
動物資源管理学		後期	畜	中川 敏法	
動物生態学		後期	應政資	高倉 橋一	
東洋史概説		後期	地	木村 可留子	
特殊加工学		前期	機	橋本 宣展	
特別活動論		後期	教	胡田 裕教	
特別支援教育概論		前期集中	教	窪島 務※	
都市・建築を考える[川の未来学]		前期	全	村上 修一	
都市・建築をつくる[比較都市論]		前期	全	川井 操	
都市・地域計画		前期	建	轟 慎一	
土壌環境化学		前期	農資	阪村 康夫	
土壌環境物理学		前期	資	岩間 善治	
内部空間論		後期	建	山崎 泰寛	
ナノテクノロジー特論		前期	電	柳澤 淳一・一宮 正義	
に		日本・地域交流特論	後期	地	京妻 真帆子
		日本建築史	前期	建	高屋 麻里子
	日本語 I A	前期	留	柴川 真由美	
	日本語 I B	後期	留	柴川 真由美	
	日本語 II A	前期	留	上野山 愛弥※	
	日本語 II B	後期	留	上野山 愛弥※	
	日本語 III A	前期	留	内田 孝※	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
に	日本語Ⅲ B	後期	留	内田 孝※
	日本語Ⅳ A	前期	留	メルビル ケイコ オオヤ※
	日本語Ⅳ B	後期	留	メルビル ケイコ オオヤ※
	日本語基礎(初級)Ⅰ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初級)Ⅰ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初級)Ⅱ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初級)Ⅱ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初級)Ⅲ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初級)Ⅲ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅰ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅰ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅱ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅱ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅲ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅲ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(初中級)Ⅳ A	前期	交	上野山 愛弥※
	日本語基礎(初中級)Ⅳ B	後期	交	上野山 愛弥※
	日本語基礎(中級)Ⅰ A	前期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(中級)Ⅰ B	後期	交	柴川 真由美
	日本語基礎(中級)Ⅱ A	前期	交	上野山 愛弥※
	日本語基礎(中級)Ⅱ B	後期	交	上野山 愛弥※
	日本語基礎(中級)Ⅲ A	前期	交	内田 孝※
	日本語基礎(中級)Ⅲ B	後期	交	内田 孝※
	日本語教育基礎	前期中	国	安本 博司※
	日本史概説	前期	地	高木 純一
	日本社会論	後期	地関	櫻井 悟史
	日本史料講読	通年	地	市川 秀之京楽 真帆子 栗 幸代高木 純一
	日本文化史論 A	前期	地	京楽 真帆子
	日本文化論	前期	地	京楽 真帆子
	人間関係論基礎演習	後期	関	学科教員
	人間関係の科学 A	前期	全	上野 有理
	人間関係の科学 B[こころのテクノロジー]	後期	全	未定*
	人間関係論演習Ⅰ	通年	関	学科教員
	人間関係論演習Ⅱ[人間関係論演習Ⅱ]	前期	関	学科教員
	人間関係論演習Ⅲ[人間関係論演習Ⅱ]	後期	関	学科教員
	人間看護学概論	前期	看	本田 可奈子
	人間形成論 A	後期	関	木村 裕
	人間工学	後期	予	中村 孝之※
	人間工学実習	前期	テ	森下 あおい宮本 雅子
	人間行動論	後期	関	未定*
	人間探求学(環境生態)	前期	應	学科教員
	人間探求学(環境政策・計画)	前期	政	学科教員
人間探求学(環境建築デザイン)	前期	建	学科教員	
人間探求学(生物資源管理)	前期	畜	学科教員	
人間探求学(材料科学)	前期	材	学科教員	
人間探求学(機械システム)	前期	機	学科教員	
人間探求学(電子システム)	前期	電	学科教員	
人間探求学(地域文化)	前期	地	学科教員	
人間探求学(生活デザイン)	前期	テ	学科教員	
人間探求学(生活栄養)	前期	栄	学科教員	
人間探求学(人間関係)	前期	関	学科教員	
人間探求学(国際コミュニケーション)	前期	国	学科教員	
人間探求学(人間看護)	前期	看	学科教員	
人間看護学統合実習	前期末	看	学科教員	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員	
に	人間と病気	前期	全	安原 治	
	人間文化論A	前期	人	学部教員	
	人間文化論B	後期	人	学部教員	
	人間文化論C	後期	人	学部教員	
ね	熱力学Ⅰ	後期	機	山根 浩二	
	熱力学Ⅱ	前期	機	山根 浩二	
の	農業経営学	後期	農	加藤 恵里	
	農業経済学	前期	農	加藤 恵里	
	農業と環境A[農業と環境]	後期	全	大久保 幸也	
	農業と環境B[植物の病気]	後期	全	未定*	
	農業環境学	前期	農	須戸 幹	
は	廃棄物管理論	前期	政	全谷 健	
	博物館学概論	前期	学	市川 秀之, 亀井 若菜	
	博物館教育論	前期集中	学	斎藤 修啓俊	
	博物館経営論	前期	地	未定*	
	博物館実習	前期	学	市川 秀之, 斎藤 修啓俊, 亀井 若菜, 大久保 幸也, 加藤 恵里, 須戸 幹, 藤田 尚美	
	博物館情報・メディア論	後期集中	学	市川 秀之	
	博物館資料保存論	後期	学	野間 直彦, 市川 秀之, 横田 尚美, 高木 純一	
	博物館資料論	前期	学	栗 幸代, 上町 達也, 浦部 要佐子, 未定*	
	博物館展示論	後期	地	亀井 若菜, 未定*	
	パーソナリティ心理学	後期	関	後藤 崇志	
	発達支援論(人間関係)	後期	関	原 未奈, 水野 友有, 川崎 敦子, 南出 吉祥, 荻	
	発達心理学[発達心理学Ⅰ]	前期	関	上野 有理	
	発展演習Ⅰ	前期	国	学科教員	
	発展演習Ⅱ	後期	国	学科教員	
	パワーエレクトロニクス	前期	電	乾 義尚	
	半導体基礎	後期	電	柳澤 淳一	
	半導体デバイス	前期	電	一宮 正義	
	反応速度論	後期	材	徳清 勝久	
	ひ	比較衣装論	前期	テ	横田 尚美
		比較住居論	前期	全テ関	藤木 庸介
比較道具論		後期	テ	面矢 慎介, 荻	
比較認知発達論		後期	関	上野 有理	
比較文化論(地域)		前期	地	横田 祥子, 市川 秀之	
光エレクトロニクス		前期	電	一宮 正義	
ビジネスプランニング[地域企業講座]		前期	副	西岡 孝幸	
美術史B		前期	地	亀井 若菜	
美術史実習		前期	地	亀井 若菜	
微生物学		前期	生	北川 善紀, 荻	
微生物機能論[水域物質循環論]		前期	生	細井 祥子	
微積分Ⅰ(材料)		前期	材	門脇 光輝	
微積分Ⅰ(機械)		前期	機	岩塚 明, 門脇 光輝	
微積分Ⅰ(電子)		前期	電	杉山 裕介	
微積分Ⅱ(材料)		後期	材	門脇 光輝	
微積分Ⅱ(機械)		後期	機	門脇 光輝	
微積分Ⅱ(電子)		後期	電	長谷川 武博, 荻	
微積分概論		前期	電	門脇 光輝	
被服学(被服製作実習を含む)		前期集中	教	森下 あおい, 横田 尚美, 法月 紀江, 荻	
微分方程式(材料)		前期	材	磯崎 洋, 門脇 光輝	
微分方程式(機械)	前期	機	磯崎 洋, 門脇 光輝		
微分方程式(電子)	前期	電	岩塚 明, 門脇 光輝		
病理生理学実習	後期実習	榮	矢野 仁康, 藤藤 弘史, 田中 大也		
病理学	後期	生	安原 治		
琵琶湖環境学	後期	生	伴 脩平		
びわこ環境行政論	後期	全	井手 慎司		

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
ふ	ファッションデザイン技法・演習	後期	政	平山 奈央子
	複合材料	後期	材	竹下 宏樹
	服飾心理学	後期	デ	横田 尚美
	服飾造形論	前期後半	デ	森下 あおい
	服飾文化論	前期	デ	横田 尚美
	服飾デザイン演習Ⅰ	前期	デ	森下 あおい
	服飾デザイン演習Ⅱ	後期	デ	横田 尚美
	服飾デザイン演習Ⅲ	前期	デ	森下 あおい、法月 紀江※
	服飾デザイン論	後期	デ	森下 あおい、長 保幸※
	物性デバイス基礎論	後期	電	一宮 正義
	物理化学総合および同演習	後期	材	竹下 宏樹、山田 明寛、秋山 毅、鈴木 一正
	物理学実験(材料)	後期	材	秋山 毅、鈴木 一正
	物理学実験(機械)	後期	機	眞 志强、西岡 晴貴
	物理学実験(電子)	後期	電	平山 智土、井上 敏之、榎本 流一郎
	ブラスマエ学	前期	電	一宮 正義
	フランス語ⅠA(国際)	前期	国	橋本 周子
	フランス語ⅠB(国際)	前期	国	Gilles Fernandez※
	フランス語ⅠA(初級コース)(水3限)	前期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅠA(初級コース)(水4限)	前期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅠA(初級コース)(水2限)	前期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅠB(初級コース)(水4限)	後期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅠB(初級コース)(水2限)	後期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅠB(初級コース)(水3限)	後期	全	辻村 咲子※
	フランス語ⅡA(国際)	後期	国	橋本 周子
	フランス語ⅡB(国際)	後期	国	Gilles Fernandez※
	フランス語ⅡA(中級コース)(火1限)	前期	全	桂川 久※
	フランス語ⅡA(中級コース)(火2限)	前期	全	桂川 久※
	フランス語ⅡA(中級コース)(火3限)	前期	全	桂川 久※
	フランス語ⅡB(中級コース)(火1限)	後期	全	桂川 久※
	フランス語ⅡB(中級コース)(火2限)	後期	全	桂川 久※
	フランス語ⅡB(中級コース)(火3限)	後期	全	桂川 久※
	フランス語コミュニケーションⅠA	後期	国	橋本 周子
	フランス語コミュニケーションⅠB	後期	国	Gilles Fernandez※
	フランス語コミュニケーションⅡA	前期	国	橋本 周子
	フランス語コミュニケーションⅡB	前期	国	Gilles Fernandez※
	フランス語留学対策	前期	国	Gilles Fernandez※
	プレゼンテーション技法	後期	デ	南 政宏
	プログラミング基礎(機械)	前期	機	奥村 進
	プログラミング基礎(電子)	前期	電	砂山 渡
	プログラミング言語	後期	電	砂山 渡
	文化財・保存修復論B	後期	地	未定*
文化時情報論	後期	地	石川 慎治	
文化社会学	前期	地関	櫻井 悟史	
文化人類学概論[文化人類学概論A]	後期	地関	朝瀨 慈郎	
文化人類学特論	前期	地関	朝瀨 慈郎	
分子・統計力学	後期	材	松岡 純	
分子生物学	後期	医資	入江 俊一	
分子生物学基礎	前期	栄	佐野 光枝	
分析・環境化学実験(材料科学)	前期	材	谷本 智史、鈴木 厚志、竹原 宗範、伊田 翔平	
分析・環境化学実験(機械システム)/	前期	機	谷本 智史、鈴木 厚志、竹原 宗範、伊田 翔平	
分析化学	前期	材	秋山 毅	
ほ	法学概論(国際法を含む)	前期	政関国	坂田 雅夫※
	母性看護学	前期	看	渡邊 友美子、越山 雅文、濱野 裕華、古川 洋子
	母性看護学演習	前期	看	藤平 麻理子、渡邊 友美子、板谷 裕美、濱野 裕華

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
ほ	母性看護学概論	後期後半	看	岩谷 久美子
	母性看護学実習	通年実習	看	岩谷 久美子, 山川 幸子, 津島 美智子, 藤田 昭美, 藤田 道子, 藤田 和香
	ボランティア活動(前期)	前期集中	キ	胡田 裕教, 鶴岡 修
	ボランティア活動(後期)	後期集中	キ	胡田 裕教, 鶴岡 修
	ボランティア実践演習	前期集中	看	関 恵子, 伊丹 君和, 米田 照美, 千田 美紀子
	ホリスティックケア論	前期	看	岩倉 麻子, 橋本 和美, 辻佐 浩子, 古川 洋子, 荒川 千景, 世間 恵子
	翻訳文化論	後期	国	呉 凌非
	マーケティング演習	前期	テ	山田 歩
ま	マーケティング論	後期	テ	山田 歩
	水環境政策論	前期	態政責	井手 慎司
み	水資源保全学	後期	資	須戸 幹
	水資源利用学	後期	資	皆川 明子
	民俗学	後期	地	市川 秀之
	民俗学実習	後期	地	市川 秀之
	民俗学特論	後期	地	市川 秀之
む	無機化学Ⅰ	前期	材	松岡 純
	無機化学Ⅱ	後期	材	Balachandran Jeyadevan
め	メカトロニクス	後期	機	安田 寿彦
	も	木匠塾(建築デザイン)	通年集中	建
木匠塾(生活デザイン)		通年集中	テ	佐々木 一豪
モンゴル語ⅠA		前期	全国	高橋 梢※
モンゴル語ⅠB		後期	全国	高橋 梢※
モンゴル語ⅡA		前期	全国	高橋 梢※
モンゴル語ⅡB		前期	全国	高橋 梢※
モンゴル語コミュニケーションA		後期	国	高橋 梢※
モンゴル語コミュニケーションB		前期	国	高橋 梢※
問題解決デザイン論[地域行動論]		後期	副	鶴岡 修
や		薬理学	前期前半	看
	ゆ	有機化学Ⅰ	後期	材
有機化学Ⅱ		前期	材	北村 千寿
有機化学Ⅲ		後期	材	北村 千寿
有機化学Ⅳ		前期	材	加藤 真一郎
有機化学総合および同演習		後期	材	谷本 智史, 鈴木 厚志, 伊田 翔平, 加藤 真一郎
有機化学総合および同演習		前期	材	谷本 智史, 鈴木 厚志, 伊田 翔平, 加藤 真一郎
養魚飼料学		後期	資	杉浦 省三
ら	ランドスケープデザイン	前期	建資	村上 修一
	り	リーディング(中級) a	後期	全国
リーディング(中級) b		後期	全国	Antonija Cavcic
陸域環境学・同実験		前期	態	野間 直彦, 藤谷 泰行, 西田 隆義, 吉山 浩平
陸域生態系保全修復論		後期	態責	野間 直彦
陸域物質循環論		後期	態	藤谷 泰行
リスニング(中級) a		前期	全国	Peter Sterlacci※
リスニング(中級) b		前期	全国	Peter Sterlacci※
流域環境管理学		後期	資	皆川 明子
流体力学Ⅰ		後期	機	南川 久人
流体力学Ⅱ		前期	機	南川 久人
量子力学概論		前期	電	柳澤 淳一
量のデータ解析論Ⅰ		前期	地関	未定*
量のデータ解析論Ⅱ		後期集中	地関	岡本 裕介※
理論生態学[陸域環境影響調査指針]		前期	態責	吉山 浩平
臨床栄養学Ⅰ		後期	栄	辰巳 佐和子
臨床栄養学Ⅱ	前期	栄	辰巳 佐和子	
臨床栄養学Ⅲ	後期	栄	辰巳 佐和子	
臨床栄養学実習Ⅰ	後期実習	栄	辰巳 佐和子, 桑原 靖治	
臨床栄養学実習Ⅱ	前期実習	栄	辰巳 佐和子, 桑原 靖治	

	講義科目名	開講期	対象	担当教員
リ	臨床栄養活動論	後期	栄	辰巳 佐和子, 未定*, 奥村 万寿美, 今井 絵理
	臨床栄養臨床地実習Ⅰ	前期実習	栄	辰巳 佐和子
	臨床栄養臨床地実習Ⅱ	前期実習	栄	辰巳 佐和子
	臨床心理学	後期	関	松嶋 秀明
	臨床実習事前事後指導	前期実習	栄	辰巳 佐和子, 奥村 万寿美, 今井 絵理
れ	歴史的地域論	前期	地	高木 純一
	歴史と文化[近江の歴史と文化][近江文化論]	後期	全	京樂 真帆子
ろ	労働・社会政策論[社会・経済政策論]	後期	関	橋口 昌治※
	老年看護学	後期	看	岡本 紀子
	老年看護学講習	前期	看	松井 宏樹, 岡崎 瑞生, 岡本 紀子
	老年看護学概論	前期後半	看	岡本 紀子
	老年看護学実習Ⅰ	通年実習	看	松井 宏樹, 岡崎 瑞生
	老年看護学実習Ⅱ	通年実習	看	岡崎 瑞生, 松井 宏樹
	ロボット工学(機械システム)	前期	機	山野 光裕
	ロボット工学(電子システム)	前期	電	作田 健

<2021年度に開講されない科目>

隔年開講（偶数年）科目

	講義科目名	対象
あ	アジア社会論	地
	アジア文化特論 A	国
い	移民社会論 A	国
か	学校栄養指導論	教
	教科教育法Ⅰ（農業科教育法Ⅰ）	教
き	教科教育法Ⅱ（農業科教育法Ⅱ）	教
	現代産業デザイン論	テ
こ	考古学特論 A	地
	高齢者行動論	関
	国際関係論	国
	コミュニケーション論	関
し	社会運動論	
	社会学史	地関
	社会心理学	関
	職業指導	教
せ	生活法	関
た	対外文化交流論 B	地
ち	地域考古学 A	地
	地域考古学 B	地
	地域社会論	関
	地球環境化学	態資
	中国地域文化特論	地
	朝鮮地域文化論	地
	て	哲学概論 A
と	土壌環境情報学	資
に	日本文化史論 B	地
	人間形成論 B	関
	認知心理学	関
ひ	美術史 A	地
	東アジア世界論	地
ふ	文化財・保存修景論 A	地
ほ	保育学	テ教
	ポストコロナル論	国

不開講科目

	講義科目名	対象
D	Debating Global Issues	国
い	Introduction to Japan（前期）	文
	Introduction to Japan（後期）	文
え	栄養教育論Ⅱ	栄
き	機材の役割と仕組み～身の回りの機材の役割と仕組み～	全
せ	生活の中にもみる力学	全
ひ	被服学（被服製作実習を含む）	栄教

注) 講義科目索引中の「対象」欄の略称は次のとおり

全：全学共通

環：環境科学部共通

態：環境生態学科

政：環境政策・計画学科

建：環境建築デザイン学科

資：生物資源管理学科

工：工学部共通

材：材料科学科

機：機械システム工学科

電：電子システム工学科

人：人間文化学部共通

地：地域文化学科

テ：生活デザイン学科

栄：生活栄養学科

関：人間関係学科

国：国際コミュニケーション学科

看：人間看護学部

留：留学生用科目

交：交換留学生用科目

副：地域学副専攻科目

教：教員免許取得関連

学：学芸員資格取得関連

保：保健師資格取得関連

キ：キャリア教育・ボランティア関連